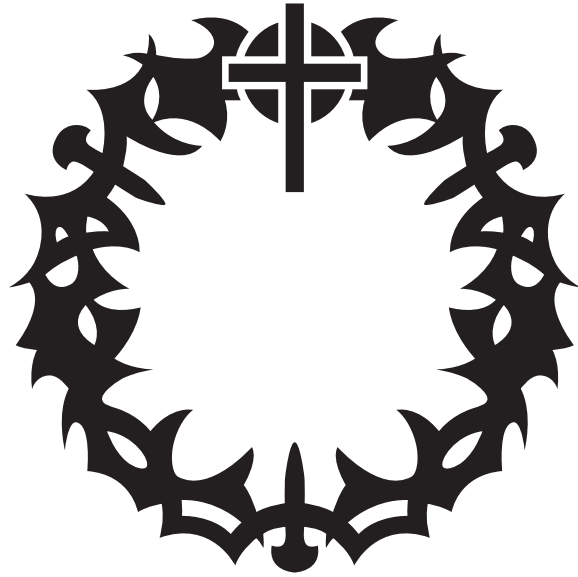




2017年度入学者用

履修ガイド

—大学での学修方法について—

- ◆『履修ガイド』は卒業するために必要な単位の修得方法や資格取得に必要な単位についてなど重要な項目が掲載されています。よく読んで履修計画を立ててください。
- ◆本ガイドは訂正される場合があります。訂正が生じた場合は、本学ウェブサイトに掲載しますので、随時確認してください。
桜美林大学ウェブサイトトップページ→在学生・保護者・卒業生の方へ→授業・履修情報→履修ガイド
- ◆本ガイドと共に『授業時間割表』『大学施設案内』『学生生活ガイド』『ネットワーク利用ガイド』が配布されます。大学生活を送るために必要な事柄が掲載されていますのでよく読んでください。
- ◆『授業時間割表』は毎年度始めに配布します。
- ◆教育支援課からのお知らせは、e-Campus の掲示板で行いますので、随時ログインして確認してください。

下記の情報については本学ウェブサイトから確認できます。

・休講 ・補講 ・教室変更 ・時間割変更 ・試験

桜美林大学ウェブサイトトップページ→在学生・保護者・卒業生の方へ→授業・履修情報

学籍 番号		氏名	
----------	--	----	--

目 次

はじめに	1
1. 本学の教育目標	1
2. 建学の精神	1
3. 大学生活を始めるにあたって	1
4. 「チャペル・アワー」について	2
5. アドバイザーについて	2
I 本学の教育課程	4
1. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）	4
2. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）	4
II 本学における履修	7
1. 本学の単位制と授業科目の区分 2. 授業期間・授業時間帯	7
3. 授業方法と授業時間、単位の計算方法	7
4. 欠席の取り扱い	8
5. 休講・補講 6. 履修条件 7. 履修制限 8. 授業の統合・閉講	8
9. 履修登録の手順 10. 単位の修得と成績評価	9
11. GPA制度	10
12. メジャーとマイナー 13. 卒業 14. 学生証	12
15. 科目コード	13
III 授業科目と履修方法	16
1. 基盤教育	16
1. 基盤教育について	16
2. コア科目	16
3. 基盤教育科目	17
4. 外国語科目	18
2. リベラルアーツ学群	21
1. リベラルアーツ学群について	21
2. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）	21
3. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）	22
4. 卒業要件	24
5. 専攻プログラム案内	25
6. 専攻科目と諸注意	94
3. 芸術文化学群	124
1. 芸術文化学群について	124
2. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）	124
3. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）	124
4. 卒業要件	131
5. 専攻コース案内	132
6. ガイダンス・専攻科目と諸注意	135
4. ビジネスマネジメント学群	142
1. ビジネスマネジメント学群について	142
ビジネスマネジメント学類	143
1. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）	143
2. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）	144
3. 卒業要件	145
4. プログラム案内	146
5. ガイダンス・専攻科目と諸注意	151
アビエーションマネジメント学類	156
1. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）	156
2. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）	156
3. 卒業要件	158
4. 専攻コース案内	159
5. ガイダンス・専攻科目と諸注意	162

5. 健康福祉学群	167
1. 健康福祉学群について	167
2. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）	167
3. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）	167
4. 卒業要件	173
5. 専攻コース案内	174
6. ガイダンス・専攻科目と諸注意	177
6. グローバル・コミュニケーション学群	183
1. グローバル・コミュニケーション学群について	183
2. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）	183
3. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）	183
4. 卒業要件	186
5. 専修等案内	187
6. 科目一覧と諸注意	192

Ⅳ 他大学等における履修 196

1. 海外留学による修得単位の認定	196
2. 特別聴講学習プログラム	196

Ⅴ 技能審査による単位認定 197

1. 英語	197
2. 中国語	198
3. 簿記	199

Ⅵ 資格等 200

本学で取得できる資格等一覧	200
1. 教育職員免許状（国家資格）	201
1. 教育職員免許状の取得について	201
2. 本学の教職課程	201
3. 教職課程履修上の注意事項	202
4. 教職課程の構成	203
5. 「教職に関する科目」の履修方法	204
6. 「教科に関する科目」の履修方法	208
7. 「教科又は教職に関する科目」の履修方法	225
8. 「教育職員免許法施行規則66条の6で定める科目」の履修方法	225
9. 「介護等体験」「教育実習」について	226
10. 教職課程の履修と事務手続きの日程	228
11. 教育職員免許状の申請	229
12. 各種証明書	229
2. 学校図書館司書教諭（国家資格）	230
3. 博物館学芸員（国家資格）	231
4. 社会福祉士（国家資格）	234
5. 精神保健福祉士（国家資格）	236
6. 認定心理士（公益社団法人日本心理学会認定資格）	238
7. 健康心理士（日本健康心理学会認定資格）	240
8. 健康運動実践指導者（公益財団法人健康・体力づくり事業団認定資格）	241
9. 公益財団法人日本体育協会公認スポーツ指導者養成講習会（共通科目Ⅰ＋Ⅱ）免除適応コース	242
10. 初級障がい者スポーツ指導員（公益財団法人日本障がい者スポーツ協会資格）	243
11. 保育士（国家資格）	244
12. 幼稚園教諭1種免許状（国家資格）	247
13. 社会福祉主事任用資格	250
14. 児童指導員任用資格	251
15. 操縦士（国家資格）	252
16. 社会調査士（一般社団法人社会調査協会認定資格）	253
17. ECO-TOP プログラム（東京都認証）	254

参考資料 256

1. 桜美林大学学則	256
2. 桜美林大学卒業規則	266
3. 科目コード【表4】	267

18. 日本語教員養成課程 276

19. 児童福祉司任用資格 279

20. 児童心理司任用資格 280

2024年9月16日
以降廃止

2024年9月16日施行

はじめに

1. 本学の教育目標

本学は、教育基本法及び学校教育法の定めるところに従い、豊かな人間性を涵養するため幅広い知識を授けるとともに、専門学芸の研究と教育を行い、キリスト教精神に基づいた教養豊かな識見の高い国際的人材を育成することを目的とする。

2. 建学の精神

キリスト教主義に基づくこと。そして語学を身につけた国際人を育成すること。

学園創設者・初代学長 清水 安三（1891～1988）

桜美林学園の「寄附行為」（学校法人の根本規則。会社などの「定款」に当たる）には、「本学園はキリスト教主義の教育によって、国際的人物を養成するをもって目的とする」とある。

本学園の理事だった故大原総一郎博士はそのご生前、「百年後の日本」と題する懸賞文を募ってはどうかと、政府に提案されたが、果たして百年後に日本なる国が、世界の地図の上になお存在しているであろうか、私はひそかに心配している。

日本国民は、世界にかつてない非攻非戦主義のパシフィックな憲法を持っているが、果たしてパシフィスト精神を持っているであろうか。

そこに、日本の存亡の問題が存している。日本国民が、軍備を用いずに祖国を護ろうと思うならば、少なくとも周囲の各国民の感情を害してはならぬ。常に、周囲の各国民との間に、意思の疎通を図るべく努めねばならぬ。

では誰が、周囲の国民に、本国民程に beloved nation “愛好すべき国民” はないと、思わせ得るであろうか。それは、語学の達人である。よって本学は、我が国の周囲の国々の言語を教えんと欲するのである。

更に、語学だけでは足りない。己を愛する如く隣人をも愛せよ、と教えるキリスト教を、みっちり教えるべきである。

かくてキリスト教主義と語学、この二つをよく体得した人材を能うだけ多数教育せんとするのが、本学の建学の趣旨である。

3. 大学生活を始めるにあたって

学長 三谷高康

「あなたたちは真理を知り、真理はあなた方を自由にする」という有名な言葉があります。これは新約聖書のヨハネによる福音書の一節ですが、聞くとおところによりますと、国会図書館の壁には、この言葉がギリシャ語で書かれています。おそらく、訪れる人に対して、沢山の本を読んで知識を広げれば、「真理」、つまり「本当のこと、まことの道理」（広辞苑）を知ることができる。そうすれば、根拠のない偏見や先入観、間違った判断から自由になれる。これが、真理はあなたたちを自由にするのだと伝えたかったのでしょう。

でも、頭の中の知識を増やすことだけでは十分ではありません。安曇野の「碌山美術館」には、「万巻の書を読み、千里の道を行く」という萩原守衛（碌山）の言葉が掲げてありますが、「万巻の書を読む」ことで得た知識を、「千里の道を行く」ことで身をもって確認する、という意味でしょう。そこには、実際に「旅行をして見聞を広げる」という意味もあるでしょうが、もう少し深い意味もこめられているように思われます。人生そのものが「千里の道」なのということです。その遙かな道をたゆまずに歩み、知識を実生活に生かして行くことによって初めて、人は真理を本当に「知る」ことができる。この彫刻家は、そう考えたのでしょう。

大学での学びは、学問と表現するのが適切だと思いますが、その学問とは真理の探究を目的にした知的営みです。そして、そこには二つの基本的な姿勢が求められます。一つは、継続的な姿勢です。碌山の言葉を借りれば、道をたゆまず歩むということです。つまり学問とは生涯にわたって学び続ける姿勢が重要だということです。大学とは、そうした向上心を培う教育の場です。21世紀は知識の量が飛躍的に増大し、グローバル化によりその知識は常に変化し続けています。そうした状況下ですので、学び続けることの重要性がますます問われるようになってきました。その為に、皆さん方はまず基礎的な学力を身につける必要があります。コミュニケーションスキルや語学力、或い

は特定の学問分野の基礎的な知識、さらには IT 機器の活用能力など、初年度の科目群をしっかりと履修する事が重要です。そして、そのうえで専攻する特定の学問分野を体系的に理解し、自己と歴史・社会・自然との関連付けを探ることへと進んでいきます。そうした学びの過程で、私たちは自分で考える主体的な能力を養い、課題を発見しそれを解決する、いわゆる考え抜く力が身についていきます。

二番目の姿勢は、真理への謙虚さです。「学問」の「学」は「学ぶ」ということですが、これは「まねぶ」すなわち「まねる」という意味を含んでいます。優れた教えや態度を吸収するという意味合いがあります。そのためには「優れたものに対する謙虚さ」が必要です。「私はもう足りています、十分です」と思ったら「学び」はストップしてしまいます。

「真理に対する謙虚さ」は人格を「陶冶」(bildung)する、即ち、道徳性を培うと言われてきました。これは19世紀のドイツの哲学者フンボルトの教えですが、今の時代に言いかえると、大学での学びを通して私たちは自己完結の人生観から解き放たれて、他者の立場に身を置く共感の姿勢を獲得するということです。国際社会に生きる私たちは、異文化を持つさまざまな人たちと相互の理解を深めていかねばなりません。更に、学ぶことは自分自身の為だけではなく、隣人や社会の為であるとする本学のモットー「学而事人」(学んで人に仕える)を体現する、そのような人になってほしいと願っています。

こうした学びのために、本学では2005年から学群制を導入し、隣接する科目を広く学ぶ事が出来るようにしています。芸術文化学群、ビジネスマネジメント学群、健康福祉学群、グローバル・コミュニケーション学群の4つの学群には、専門性の高い実践的な技能習得を目的として科目をそろえ、それぞれの教育目標に合わせて学ぶべき科目を履修出来るようにしています。またリベラルアーツ学群は、人文／社会／自然／学際・統合科学の学問領域を設定し、33の多彩な専攻プログラムから専門を選択するシステムを整えています。これらの学群の科目を通じて多様な価値観を理解し、自主的で幅広い思考力を養い、国際的な視野を持つことを目指してください。

4年間の学生生活は長いようで短いものです。貴重なこの時期ですから、学生生活のなかで多くの仲間と出会い友情を育て、また学業を通じて教員と信頼関係を築き、いろいろなことを学び取ってください。分からないことは積極的に問い、教員の知識や経験を媒介に一人ひとりが、自分の人間性を豊かに育ててください。

最後に、自由に伸び伸びと大学生活を過ごすことを期待しています。なぜなら、「真理はあなた方を自由にする」からです。

4. 「チャペル・アワー」について

本学には「チャペル・アワー」が設けられていますが、「チャペル」とは「学校・病院等、教会以外の施設にある礼拝堂」を指しています。本学のチャペル・アワーとは「大学で行われるキリスト教の礼拝の時間」を表しています。キリスト教の礼拝自体が教育的側面を持っていますが、特に、高等教育機関である大学の礼拝はそれが強く前面に出されています。「普遍的な真理」「究極的な存在」との出会いを通し、諸学問へのアプローチの土台が形成されると共に、自己を相対化し、真実なる自己との出会いが可能となります。その意味において、大学というアカデミックな機関における「チャペル・アワー」は大変重要な役割をもっています。大学の先生方や近隣の牧師の方など、それぞれの学問的領域や現場からの豊かな「メッセージ」を通し、多くの啓発を得ることが出来ます。自由参加のプログラムですが、自己探求、真理探求のための貴重な機会として受け止め、積極的に出席することを期待します。

チャペル・アワーの開催日時等は、明々館エントランス・太平館レクチャーホール前・崇貞館2階エレベーター前・栄光館2階教職センター前・サレンバーガー館1階ロビー・理化学館1階ロビー・徳望館1階エントランス・学而館1階エントランスロビー・一粒館1階インフォメーションセンター・PFC エントランスホール・其中館掲示コーナーおよび荊冠堂チャペル前掲示板、以上学内12ヶ所の案内ポスターをご覧ください。

5. アドバイザーについて

本学には、教員がアドバイザーとして学生一人ひとりを担当し、教学指導・学生指導を行う制度が設けられています。アドバイザーは、学生の履修登録と成績、学生生活をモニターし、1学期に最低1回は学生に指導や助言を行います。

学生は学群長に対して、アドバイザーの変更を願い出ることが出来ます。芸術文化学群、ビジネスマネジメント学群、健康福祉学群の学生が「専攻演習」を履修した場合は、その担当教員をアドバイザーにすることが出来ます。

(1) アドバイザーとの連絡の取り方

アドバイザーは授業の他に、オフィスアワーという時間を設けています。これは学生との相談に当てられる時間です。時間帯は e-Campus 及び教育支援課に掲示してあります。

オフィスアワーには基本的にアドバイザーが教員オフィスに在室していますが、学内の急用で席を外す場合もあります。アドバイザーとのすれ違いを無くすため、学生は可能な限り Eメール等でアドバイザーと面会時間の約束をしてください。

(2) アドバイザーとの関係について

① プライバシーの保護

相談や指導に際して、アドバイザーは必要に応じて家庭や個人的な事情にふれる場合があります。ただし、プライバシーに関わる事項の回答については、各学生の意志に任されます。

② 不服の申し立て

アドバイザーの指導について不服があるときは、学群長に申し出てください。学群長は、公平な立場で問題の解決にあたります。

桜美林大学は、公益財団法人日本高等教育評価機構の認証評価を2012（平成24）年度に受審し、「日本高等教育評価機構が定める大学評価基準に適合していると認定する。」という評価をいただきました。

そのなかで、特に『学士課程のすべての科目に「レベル」を設定し、段階的かつ系統的な学修が可能となる措置が講じられていることは高く評価できる。』『専任教員が「アドバイザー」として学生一人ひとりを担当していることや教職員及び上級生が学びについての相談に応じる「コーナーストーン・センター」を設置していることなど、学生に対する学修及び授業支援の体制が充実している点は高く評価できる。』として、「優れている点」として評価もされています。

I 本学の教育課程

1. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学は、「豊かな人間性を涵養するため幅広い知識を授けるとともに、専門学芸の研究と教育を行い、キリスト教精神に基づいた教養豊かな識見の高い国際的人材を育成することを目的とする」（学則第1条より抜粋）を基本理念とし、本学の各学位プログラムの課程を修め、定められた在学期間、及び124単位の修得と通算GPA1.5以上であることなどを卒業要件としています。

この基本理念を実現するため、本学では以下に記載した項目の能力・資質を高め、それらを総合的に活用できる者に対し、卒業を認定し学位を授与します。また、この「卒業認定・学位授与の方針」は、「教育課程編成・実施の方針」において具現化されており、本学の学びは全て学園の行動指針である「がくじしじん学而事人（学びて人に仕える）」に結びつくようになっています。

（1）専攻する各分野における知識・理解

専攻する分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、社会人としての常識やモラルといったジェネリックスキルについての理解も深め、社会にとって自らがどのように貢献できるのかを自覚することができる。

（2）コミュニケーション能力

諸外国（異文化）への理解も深め、グローバル社会の中でもしっかりとコミュニケーションが行えるようになるための語学力を身につけ、読み・書き・聞き・話すことができるようになるとともに、社会生活を営む上で必要な他者を思いやる豊かな人間性を身につけ、自分の思いや考えを的確に表現することができる。

（3）論理的思考能力

多種多様な情報をICTなどを用いて情報収集・分析し、さらに分析結果を複眼的、論理的に表現できる力を備えることができる。客観的・批判的・分析的能力、解決思考・コミュニケーション能力を備えることにより、論理的思考能力を高めることができる。

（4）問題発見・解決能力

学修や活動等へ主体的に取り組む際、自身の行動についての問題や課題を常に意識して発見する能力を養うことと、その問題や課題について何をどうすれば解決に導くことができるのかを考え、実行する行動力を高めることができる。

（5）自己管理能力と社会的倫理観

学園の行動指針である「学而事人」を実践するために、社会の規範やルールに従い自らを律して行動ができ、社会の発展のために積極的に関わることができる。また、学び続ける姿勢をもち、自分の役割を自覚することができる。本学での学びを座学のものに終わらせず、社会との関わりにまで視野を広げることによって自己管理能力と社会的倫理観を高めることができる。

（6）協調性とリーダーシップ

国内に留まらず、海外においても他者と協調・協働して行動することができる。また、コミュニケーション能力、知性と専門的な能力を活用して社会的に貢献できるリーダーシップをもって他者に対して方向性を示し、目標を実現するために自ら先頭に立つことができる。

2. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学は、「卒業認定・学位授与の方針」に掲げた学修成果を得るために、その具体的取組みとしての教育課程を「基礎教育科目」、「専攻科目」及び他学群や他大学、各種技能審査等を単位認定する「自由選択」という区分に分けて編成しています。授業は、講義、演習、実験、実習、実技のいずれかの方法、又はこれらの併用により行います。また、

カリキュラムの体系化のために「ナンバリング（科目ごとの関連性や難易度を示す）」を行い、科目の構造を明示し体系的な学修に役立つようにしています。このような教育課程の編成と、学修方法・学修過程、学修成果の評価の在り方を以下のように定めています。

（1）教育課程の編成

- ①「基礎教育科目」は、本学学生として「卒業認定・学位授与の方針」に則った学修成果をあげるための基礎知識と技能を身につけるための科目です。キリスト教科目や、口語表現、文章表現、コンピュータ、外国語、キャリアに関する科目などを中心に、学園の建学の精神、教育目標を具現化するための知識を修得します。したがって必ず修得しなくてはならない必修科目と、関連性をもたせて修得するための選択科目あるいは選択必修科目があります。これらは、難易度の高い専攻科目で行われる授業内容を理解できるだけの基礎学力を養成し、本学における学修が円滑かつ充実するように、各学群指定の基礎的な科目で構成しています。
- ②「専攻科目」は、基礎教育で得た知識・技能をさらに高めるために用意された科目です。したがって難易度もナンバリングに示すように、段階を追うごとに高くなるよう設定しています。自身の学ぶ専攻を基礎教育から関連性をもって能力・資質を引き上げられるように体系化しており、専門性を高めるために各学群や学類、専攻、コース等の所属ごとに必修科目や選択科目を設定しています。
- ③「自由選択」は、学生の多様な関心や目的を達成するために学生が自ら計画し、学内外の授業科目の中から自由に選択履修することができるよう設定しています。他学群の専攻科目や他大学（海外留学、単位互換協定校、放送大学、首都圏西部大学単位互換協定会加盟校など）の科目を修得することで、自身の知識の幅を広げることが可能になります。

（2）学修方法・学修過程

- ①「基礎教育科目」は、初年次教育を含め自身の学修の礎となる科目を学びます。特にキリスト教科目や、口語表現、文章表現、コンピュータ、外国語、キャリアに関する科目などは本学の学びのスタンダードとして位置づけられており、多くの学生が学修します。また、学生の主体的・能動的学び（アクティブ・ラーニング）を促進するためにサービス・ラーニング科目を設け、「大学での授業」と「フィールドでの授業」を併せ持った学修環境を用意しています。全学生を対象とした「地域社会参加」「国際理解教育」などのプログラムのほか、各学群のカリキュラムの特性を活かすための科目を配置し、「専攻科目」への履修に結びつけています。また、諸外国（異文化）への理解も深め、グローバル社会の中でもしっかりとコミュニケーションが行えるようになるため、「読み・書き・聞き・話す」の語学力を身につけるとともに、社会生活を営む上で必要な他者を思いやる豊かな人間性を身につけ、自分の思いや考えを的確に表現することができるようにします。
- ②語学教育は、学園の建学の精神にもあるように、語学を身につけた国際人を育てる本学に相応しく18言語を学ぶことができます。なかでも世界共通語である英語に主に力を注いでおり、日本語が母語の学生は全員が入学当初よりプレースメントテストなどによって習熟度別に編成されたクラスで授業を受けます。したがって、英語に抵抗のある学生も段階を踏んで学修することができます。また、授業時間外の学修として語学の正規授業と関連づけたカンパセーションサークルに参加することで、正規授業の予習復習効果を担っています。
- ③「専攻科目」は、基礎教育から関連性をもって専門分野を体系的に学べるように、必修科目や選択科目などの科目を配置しています。また、科目に難易度を示すナンバリングが結びついているので、学年や学期、自身の成長に合わせた学修ができます。
- ④本学では、「アドバイザー制度」を設け、学生一人ひとりの学修計画や履修登録に関する確認などを行っています。アドバイザーは、学生自身が専攻する分野での科目履修が適切かつ効果的となるような学修指導をしています。また、教育支援事務による履修・学修相談も随時行われ、教職員が一丸となった学修支援体制を整えています。
- ⑤学群・学類又はコース等で教育課程の編成や実施方法を可視化するためのカリキュラム・マップ（学修内容の順次性と科目間の関連性を同時に図示化したフローチャートなどであり、教員と学生の双方が、「見える化」されたカリキュラムを共有し、教育全体を俯瞰することにある）を用い、学生がどの科目を学修すれば「卒業認定・学位授与の方針」に掲げた項目の能力・資質を高めることが可能となるのかを把握できるようにします。

(3) 学修成果の評価の在り方

- ①学修成果は、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた項目と、学修方法・学修過程（カリキュラム・マップ等）により示された、科目が目標とする学修の到達度が学生自身にとってどの程度であったかを示すものです。したがって学修成果は科目それぞれで設定しています。
- ②学修成果の評価方法は、科目ごとのシラバスにおいて具体的に示します。また、ルーブリック評価など（成功の度合いを示すレベルや、それぞれのレベルに対応するパフォーマンス（プレゼン、協同作業など）の特徴を示した評価規準からなる表）を取り入れることによって、成績評価を分かりやすく可視化し、厳格に評価します。

Ⅱ 本学における履修

1. 本学の単位制と授業科目の区分

本学の授業科目は、「必修科目」「選択科目」の2種類に分かれます。

授業科目にはすべて所定の単位が設定され、授業を履修し、試験等に合格することによって、その科目及び単位を修得したことが認められます。

1. 必修科目 学群ごとに定められている必修科目は、すべて履修し、その単位を修得しなければなりません。
2. 選択科目 学群ごとに、いくつかの科目の中から選択して履修し、その単位を修得しなければなりません。

2. 授業期間・授業時間帯

本学の授業科目は、原則として週5日（月曜日～金曜日）の授業を組み、春学期14週、秋学期14週のセメスター制（2学期制）の授業を行っています。各学期末には、定期試験期間を1週間設けます。

<授業時間帯>

キャンパス	0時限	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限	7時限
町田キャンパス								
新宿キャンパス	7:00 ～	8:50 ～	10:40 ～	12:20 ～	13:10 ～	15:00 ～	16:50 ～	18:40 ～
多摩アカデミー ヒルズ（多摩AH）	8:40 ～	10:30 ～	12:20 ～	13:10 ～	14:50 ～	16:40 ～	18:30 ～	20:20 ～
プラネット淵野辺 キャンパス（PFC）	6:30 ～ 8:10	8:20 ～ 10:00	10:10 ～ 11:50	11:50 ～ 12:40	12:40 ～ 14:20	14:30 ～ 16:10	16:20 ～ 18:00	18:10 ～ 19:50
								20:00 ～ 21:40

3. 授業方法と授業時間、単位の計算方法

本学の卒業に必要な単位数は124単位です。

授業は、講義、演習、実験、実習及び実技のいずれかの方法またはこれらの併用により行うものとします。

『講義』：教員の解説を中心にして学ぶことを主とした授業。

『演習』：・研究・発表・討議・活動などを行うことを主とした授業。

・物事に習熟するために、繰り返し学ぶことや実際に想定し学ぶことを主とした授業。

『実験』：ある理論や仮説を確認するために、実際に経験することを主とした授業。

『実習』：知識や技術を、実際の現場で、または実物を用いて学ぶことを主とした授業。

『実技』：技術や演技などを実際に行うことを主とした授業。

いずれの方法においても、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とします（学則第38条）。なお、授業方法に応じ、当該授業による教育効果及び授業外に必要な学修（予習・復習等）を考慮して、標準的な授業時間数を次のとおり定めます。

1. 講義、演習…15時間の授業と30時間の授業外での学修（予習・復習等。以下同じ）をもって1単位とするものと、30時間の授業と15時間の授業外での学修をもって1単位とするものがあります。
2. 実験、実習、実技…30時間の授業と15時間の授業外での学修をもって1単位とします。ただし、授業科目によっては、45時間の授業をもって1単位とするものがあります。
3. 上記1及び2の併用により行う場合は、その組み合わせに応じ、規定する基準を考慮して定められた時間の授業と授業外の学修をもって1単位とします。
4. 卒業論文、卒業制作、卒業研究等の授業…学修の成果を評価して、適切な単位を定めます。

※各時限は正味90分で行われますが、2時間として計算します。

100

90分を

2019年度より一回あたりの授業時間は90分から100分に変更となりました。これにより、各時限は正味100分で行われますが、90分を2時間として計算します。

4. 欠席の取り扱い

- ・欠席回数と成績の関係
欠席回数が授業回数の3分の1を超えた場合（14回授業の場合は5回以上、教育探究科学群科目の7回授業の場合は3回以上）は、原則として成績は「F（不合格）」となります。（学則第41条）
なお、Drop & Add 期間（履修登録変更期間）に追加で履修登録した授業について、履修登録前の授業は原則として欠席とみなされるため、十分にご注意ください。
- ・欠席届
欠席する場合は、Moodleの『授業・履修の手引き』掲載の「欠席届」に必要事項を記入し、シラバス（要e-Campusログイン）掲載の「教員との連絡方法」を確認のうえ、授業担当教員に連絡してください。
- ・自己都合によらない欠席時の配慮について
本学に「公欠制度」はありませんが、自己都合による欠席でなく、次に掲げる場合は、所定の手続きをすることで、授業の欠席に関する配慮が適用されます。詳細な手続については、Moodleの『授業・履修の手引き』を確認してください。
 1. 大学が登校を禁止する「学校保健安全法で定められている感染症」
 2. 本学で取得できる資格に関わる各種実習
 3. 公認団体課外活動（公式戦、公式行事）及び左記活動と同等と認められる学外公認団体における全国、又は国際規模の公式戦、公式行事
 4. 忌引
- 【留意事項】
 - ・成績評価における欠席等の扱いは授業担当教員の判断に任せられています。
 - ・この配慮は適用期間の欠席について、欠席回数として加算しないことにより、適用期間の欠席による不合格を回避する配慮となります。
 - ・欠席配慮となった場合でも、適用期間に出席し、課題提出やテスト等を受けたことになるわけではありません。

5. 休講・補講

授業が休講になる場合は、事前に本学ウェブサイト（オペリンナーサイト）に掲示されます。授業時間数の不足を補う必要が生じた場合は、原則月曜日から金曜日の7時限目及び土曜日の1時限目から4時限目等に補講を行います。休講掲示が無いにも関わらず、授業開始時刻より20分以上経過しても担当教員が来ない場合には、教育支援課で指示を受けてください。

6. 履修条件

科目によっては先修条件、履修年次が定められているものがあります。それぞれの卒業要件に従って計画的に学修する必要があります。

先修条件

科目によっては先修条件が付いているものがあります。先修条件とは、「ある科目を履修するためには別の科目の単位を修得済みであることが条件となる」ということです。授業科目一覧表を確認し、十分注意してください。

履修年次

科目には履修することのできる年次が定められています。例えば、履修年次が「1」と示されている授業科目は1年次以上であれば履修することができます。「2～4」も同様です。

7. 履修制限

履修希望者があらかじめ定められた数より多い場合には、抽選によって履修者を決定する場合があります。各科目の抽選の有無、および詳細については『授業時間割表』『シラバス（e-Campus）』を参照してください。

また、科目によっては、所属する学群等の学生を優先させる場合や、所属する学群等の学生のみに制限する場合があります。他学群学生の履修欄が○の場合、他学群の学生も履修できます。△は担当教員の許可を得て履修できます。×は他学群の学生は履修できません。

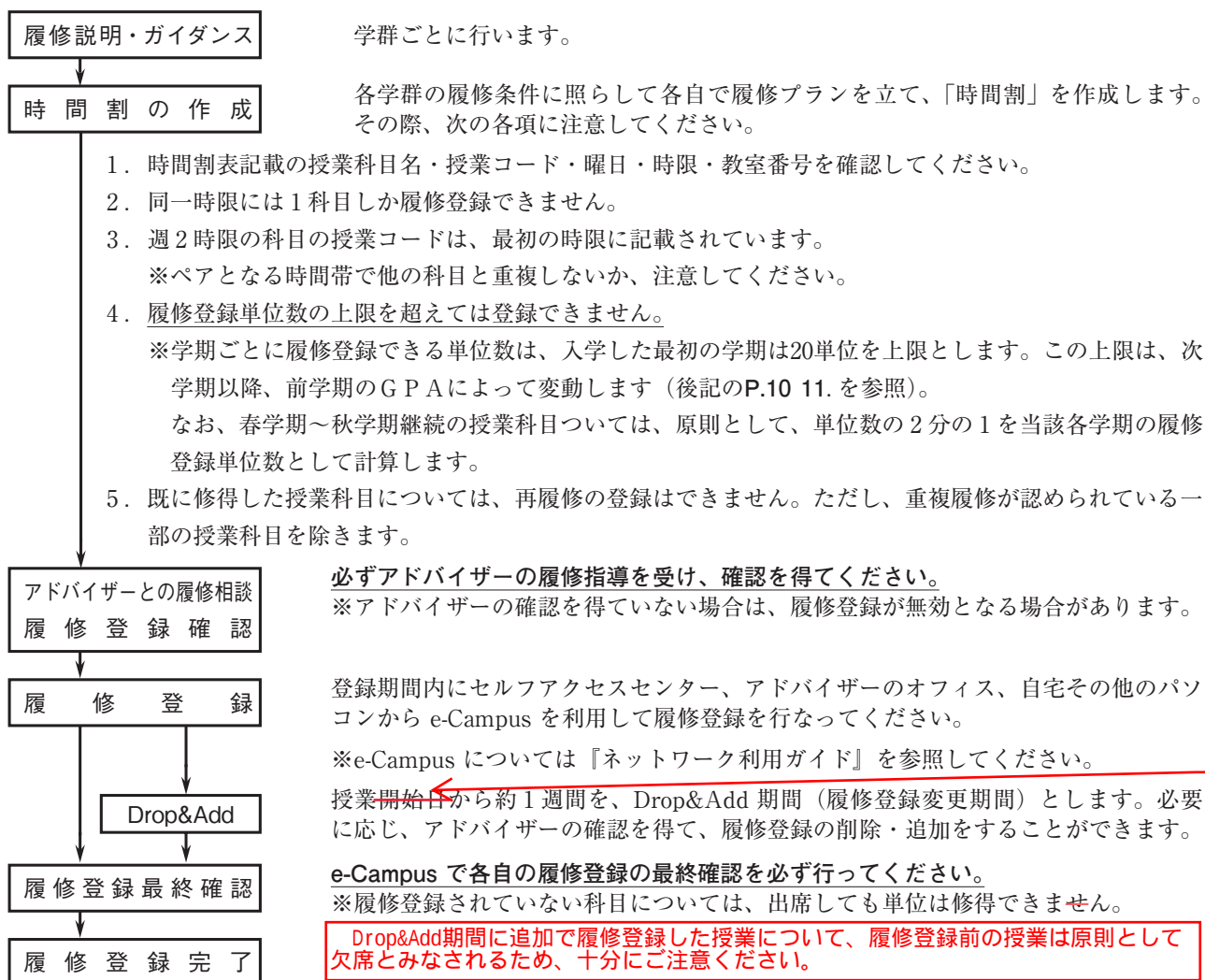
8. 授業の統合・閉講

履修登録者数が5名に満たないクラスについては、同一科目の別クラスと統合、または当該授業科目を閉講することがあります。

9. 履修登録の手順

各年度または学期に履修する科目については、当該年度または学期初めの指定期間内に、以下の手順に従って履修登録してください。

その際、『履修ガイド』『授業時間割表』『シラバス (e-Campus)』を必ず参照してください。



開始前日

「履修放棄」は、所定の期日までに手続きを行った場合に限り認めます。ただし、学期の期間内（定期試験期間を含みます。）において病気等正当な事由が確認できればこの限りではありません。

※必修科目の単位を修得できなかった場合は、次学期または次年度に再履修の登録をしてください。

・各科目における単位修得の諸条件

10. 単位の修得と成績評価

各科目の単位修得には、次の諸条件を満たす必要があります。

1. 年度または学期初めに履修登録をする
2. 登録した科目の授業に3分の2以上出席し、試験を受けること。試験はレポート提出等を含みます。
3. 授業料その他の学納金を所定の期日中に納入していること。未納者は試験を受けられません。
4. 成績評価が、A・B・C・D・Sのいずれかであること。FまたはUの場合は単位を与えません。

成績は、A・B・C・D・Fの5段階によって評価し、A～Dを合格として単位を与えます。Fは不合格とします。SまたはUでの評価が認められている場合は、Sを合格、Uを不合格とします（後記の11.を参照）。「成績・履修記録通知表」及び「学業成績単位修得証明書」には、A・B・C・D・F・S・U・TCの成績が記載されます。

ただし、学期の期間内（定期試験期間を含みます。）において、診断書の提出等で病気等正当な事由が確認できれば、当該学期の全履修削除または科目別履修削除ができる場合があります。また全履修削除した場合には、休学とはならず在学となるため、学納金は返還されませんので十分注意してください。詳細な手続きについては、各キャンパス事務室の教務担当にて確認してください。

なお、試験、レポート、平常点等に基づき、各授業の目標達成度を評価します。具体的な評価対象項目は各授業科目のシラバスに記載されます。
・成績評価などの評語と意味

成績評価等の評語と意味

- A Excellent：特に優秀な成績
 B Good：すぐれた成績
 C Fair：一応その科目の要求を満たす成績
 D Minimal Pass：合格と認められる最低の成績
 F Failure：不合格
 S Satisfactory：合格（合否のみで成績を評価する場合）
 U Unsatisfactory：不合格（合否のみで成績を評価する場合）
 T C Transferred Credit：他大学等で修得した単位等の認定
 I Incomplete：~~履修未完了または成績評価の一時保留（後記の11.を参照）~~

I Incomplete：履修未完了（後記の11.を参照）
 H Hold：成績評価の一時保留（同上）
 W Withdraw：履修放棄（前記の「履修放棄」を参照）

試験、レポート、平常点等に基づき、各授業の目標達成度を評価します。具体的な評価対象項目は各授業科目のシラバスに記載します。

成績評価に関する質問期間について

成績評価に質問がある場合は、直接担当教員に連絡をしてください。教員が不在等により連絡がつかない場合は、教育支援課にて「成績質問書」を受けとり、必要事項を記入の上提出してください。担当教員へは教育支援課より連絡します。成績質問の対象科目は直前の学期のみとします。

質問期間：成績開示日～次学期履修登録締切日（Drop&Add 期間を含みません。）

※卒業を希望する学期のみ：成績開示日から5日間。ただし、最終日が土・日・祝日の場合は、次の平日を締切とする。

他大学等で修得した科目の単位認定

本学に入学する以前、または在学中に他大学等で単位を修得した学生には、申請があればその科目を本学の単位として、60単位を上限に認定することがあります。認定は、当該学群の教授会の議を経て行われます（学則第34条、第44条、第45条）。

ただし、「他大学で修得した科目の単位」とは、以下①～④に示すいずれかに該当する科目を指します。その認定可能な単位数の上限である60単位は、それら全ての中から任意に認定されることになります。

したがって、以下①～④に該当する既修得科目等においては、その認定された科目の単位数が合計60単位に達した時点で、それ以上の単位認定がなされることはありません。

〈「他大学等」の科目の範囲〉

- ①「海外留学先（国外）の大学」の科目 _____
 ②「放送大学」の科目 _____
 ③上記以外の国内の他大学等（短期大学を含みます）の科目 _____
 ④その他（学則第34条、第45条） _____

※①～④のすべてをまとめて「他大学等」の科目と称され、認定はこの範囲すべてを含めて60単位に制限されます。

11. GPA 制度

本学では、各科目の成績の平均値（Grade Point Average＝以下「GPA」とする）を参照しながら、アドバイザーが履修指導を行っています。このGPA制度は、学修を効果的に進めてその質を高めるため、導入されました。GPAは学生の成績を数値化し、客観的にモニターするためのツールです。GPAにより、学生は学修効果を自分自身で把握することができるため、個人の能力や意欲に合わせて主体的かつ充実した履修を行い、学修効果をあげることができます。GPA制度のもとでは、学生は一度登録した科目は責任を持って確実に履修することが求められます。GPAは卒業判定にも用いられます。学生は各自のGPAを常に認識し、学修計画をたてる必要があります。

1. GPAの算出方法

「A」「B」「C」「D」「F」の5段階の成績評価に、次のとおりグレードポイント（Grade Point）を付します。

A = 4.00 B = 3.00 C = 2.00 D = 1.00 F = 0

履修した授業科目の単位数にグレードポイントを乗じ、その合計を履修単位数の合計で除して算出したものがGPAです。

【例】 授業科目名	(単位数)	評価	ポイント数
キリスト教入門	(2単位)	B	$2 \times 3.00 = 6.00$
政治経済学	(4単位)	C	$4 \times 2.00 = 8.00$
口語表現 I	(2単位)	A	$2 \times 4.00 = 8.00$
コンピュータリテラシー I	(2単位)	B	$2 \times 3.00 = 6.00$
英語コア I A	(2単位)	A	$2 \times 4.00 = 8.00$
英語コア I B	(2単位)	D	$2 \times 1.00 = 2.00$
英語エレクトイブ II-中級	(1単位)	A	$1 \times 4.00 = 4.00$
心理学	(4単位)	F	$4 \times 0 = 0$
スポーツ(ウィークリー)テニス I	(1単位)	B	$1 \times 3.00 = 3.00$
合 計	①20単位		②45.00
G P A = ② ÷ ① →			$45.00 \div 20 = 2.25$

※ G P A の算出は、小数点第 2 位までとし、第 3 位以下は切り捨てます（四捨五入はしません）。

※ 成績が「F」の科目は再履修することができます。再履修して A～D の評価を受けた場合、通算 G P A は再履修後の成績評価で算出されます。

2. G P A に基づく指導及び卒業要件等

(1) 履修登録単位数の上限の変動

入学した最初の学期は 20 単位を上限とします。この上限は、次学期以降、前学期の G P A により次のとおり変動します。

- ① 前学期の G P A が 3.0 以上 24 単位
- ② 前学期の G P A が 2.0 以上 3.0 未満 20 単位
- ③ 前学期の G P A が 2.0 未満 16 単位

休学や留学等で前学期の G P A がいない場合は、G P A 判定されている学期まで遡って適用されます。

また成績評価が保留となっている授業科目がある場合、「4. 成績評価の保留・履修未完了」を確認してください。

(2) G P A による指導等

- ① 前学期の G P A が 2.0 未満となった学生に対しては、アドバイザーによる注意と指導を行います。
- ② G P A 2.0 未満が 2 学期連続、または通算で 3 学期になった学生に対しては、本人及び保証人（保護者等）を呼び出し、アドバイザーによる注意と指導を行います。
- ③ G P A 2.0 未満が 3 学期連続、または通算で 4 学期となった学生に対しては、教授会の議を経て書面にて強く注意を喚起します。
- ④ 入学時から卒業時までの通算 G P A が 3.5 以上の学生は、卒業時に成績優秀者として表彰します。

(3) 卒業要件

卒業するには、本学において定められた期間の在学、定められた授業科目を含む 124 単位以上の修得のほか、入学時からの通算 G P A が 1.5 以上であることを要します。

※ 上記の卒業要件は本学としての最低基準です。詳細は、各学群の卒業要件を参照してください。

3. G P A が適用されない成績評価

(1) 「S」と「U」

履修者本人の希望がある場合には、可否のみで成績を評価することができます。これは、自分の専攻分野以外の授業科目について、G P A の変動を憂慮せずに挑戦できるようにとの趣旨で設けられた評価方法です。この方法で評価を受けるためには、各学期の履修登録期間中（Drop & Add 期間含む）に、~~アドバイザーの承認及び学群長の許可を得なければなりません。~~ **S / U 評価の申請を e-Campus の Web 申請から手続きを行ってください。**

評価は「S」または「U」をもって表し、「S」を合格、「U」を不合格とします。「S」、「U」とともに G P A の計算には含めません。

※ 次に該当する科目は適用外です。

- ① 所属する学群の専攻科目、マイナーの科目
- ② 基礎教育科目で必修となる科目

- ただし、他学群のマイナーを登録しようとする場合は、以下に注意してください。
1. マイナーの必修科目（または選択必修の全て）について、科目一覧ページの「他学群学生の履修」欄が「×」になっている専攻プログラム・専攻コース等の場合は、他学群生はそのマイナーを登録できません。
 2. 他学群生は、専攻プログラム・専攻コース等の抽選科目の優先順位によっては、マイナーの必修科目（または選択必修の全て）を履修できず、マイナーを修了できない場合があります。
 3. 他学群のマイナーの登録にあたっては、予め各キャンパス事務室教務担当に相談してください。

③教職課程、博物館学芸員課程等、本学で取得できるすべての資格に関わる授業科目

※履修できる単位数は、在学期間を通じて20単位（編入学者は10単位）を上限とします。

※数の基礎理解、キャリアデザイン A・B・C・D は、申請の有無に関わらず、「S」または「U」で成績評価します。履修した場合、上記の上限単位数に含まれます。

※一度成績評価Fを受けた科目を、S/U評価を申請して再履修しても成績は上書きされません（GPAは変動しません）。

- (2) 他大学等の授業科目の履修等

(3)「W」

履修の放棄を行った場合記録される「W」は、GPAの計算には含まれません。

他大学等において履修した授業科目について修得した単位や、各種資格等について単位認定する場合の評価は「TC」とし、GPAの計算には含まれません。

4. 成績評価の保留・履修未完了

授業期間外に行われる実習や集中講義などの場合、または天災地変、近親者の死亡、交通事故、疾病その他の正当な理由で試験やレポートの提出ができなかった場合など、やむを得ない事情で本人の申し出により担当教員が認めた場合には、成績表に「I」と表示され、当該授業科目はGPAの計算に含めません。次学期所定の期日までに担当教員の指定する方法（追試験・課題等）で必要な補足をすれば成績評価が確定され、GPAの再計算が行われます。ただし、期日までに必要な補足がなされない場合には、「I」は自動的に「F」となってGPAの再計算が行われます。

また、学期内に授業が完了できないと担当教員が判断した場合は、成績表に「H」と表示され、当該科目はGPAの計算に含めません。担当教員が成績採点可能と判断したタイミングで成績評価が確定され、GPAの再計算が行われます。

5. GPAの再計算

通常、履修登録単位数の上限は前学期のGPAによって決まります（P.11. 2（1）参照）。ただし「I」評価の再評価の確定により、前学期のGPAが再計算された場合、以下の時期によって再計算後のGPAが適用されるか否かが決定されます。

または「H」評価

①学期開始～Drop&Add（履修登録変更）期間内：再計算後のGPAは前学期分に適用されます

②Drop&Add（履修登録変更）期間終了後：再計算後のGPAは前学期分に適用されません

12. メジャーとマイナー

所属する学群の専攻科目で構成される専攻プログラム・専攻コース等を登録し、所定の単位を修得することによって、その専攻プログラム・専攻コース等の修了が認定されます。

メジャー：どの学群でもメジャーを修了することが卒業の要件となっています。ただし、所属の学群以外の専攻プログラム・専攻コース等をメジャーとして登録することはできません。

マイナー：マイナーを修了することは卒業要件ではありませんが、所属する学群の専攻プログラム・専攻コース等からだけでなく、他学群のものをマイナーとして登録することもできます。

メジャーとマイナーを変更（追加・削除）する場合は、以下期間に教育支援課で変更手続きを行ってください。

受付期間：オリエンテーション期間初日～定期試験期間最終日まで

13. 卒業

卒業するためには、原則として4年以上在学し、所属する学群において定められた教育課程を履修して、履修ガイドに定める基準を満たしたうえで124単位以上を修得し、かつ入学時からの通算GPAが1.50以上であることを必要とします（学則第58条、履修規程35条）。卒業した者には、所定の学位が授与されます（学則第59条）。卒業延期を希望する者は、「卒業延期届」を当該学期の所定の期日までに e-Campus で申請する必要があります（履修規程第37条）。

・8年を超えて在学することはできません（学則第26条第2項）。

・留学生については、在留資格の要件から「卒業延期届」の申請はできません。特別な事由により卒業の延期を希望する場合、国際部による事前の審査が必要となります。「卒業延期届」の提出期限の1か月前までに、必ず国際部又は各キャンパス国際担当へ相談を行ってください。

・延期の申請がない場合には、自動的に卒業審査の対象となり、卒業要件を満たし、卒業の認定を受けた者は、卒業となります。

なお必修となる授業科目、単位数その他の卒業要件は、入学時の規定が卒業まで適用されるので、履修にあたっては十分に注意してください。

早期卒業制度

本学に3年以上在学した者で（学則第26条の2）、所属する学群において定められた教育課程を履修して、履修ガイドに定める基準を満たしたうえで124単位以上を修得し、かつ入学時からの通算GPAが3.60以上の者には、本人の希望により、卒業を認めることがあります（履修規程第36条）。また、各学群において別に要件を付加することがあります。早期卒業を希望する者は「早期卒業希望届」を当該学期の所定の期日までに e-Campus で申請する必要があります。

ビジネスマネジメント学群においては、上記に加えて TOEIC®700点以上を有し、かつそのスコアを用いて技能審査による単位認定を受けていることを要件とします。

教育探究科学群においては、早期卒業制度は適用されません。

14. 学生証

1. 学生証は大学における履修と学生生活にとって重要なものです。紛失・盗難にあった場合は、ただちに警察に届け出るとともに、学生課・各キャンパス事務室にて、遺失物として届けられていないか確認してください。

2. 再発行の手続きについてはMoodleを参照してください。

3. 学生証は最長4年間有効であり、有効期限は学生証に記載されています。期限を超えて在籍する学生については、有効期限後に再発行しますので、2に基づき、手続きをしてください。

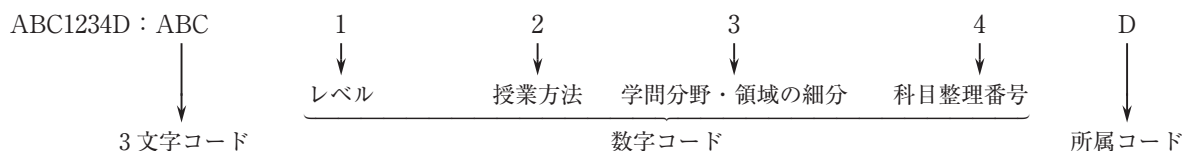
4. 試験を受験するときは、学生証を提示しなければなりません。

5. 学生証についての詳細は学生生活ガイドを参照してください。

15. 科目コード

科目コードは、学問分野の中で、その科目がどのような位置付けとなっているかを示す、学問分野中での住所のような役割を持っています。科目コードの示し方は大学により様々ですが、基本的に3文字か4文字からなる文字コード部と、3桁から5桁からなる数字コード部とで表す方式が一般的です。

桜美林大学では、3文字からなる文字コード（3文字コード）、4桁からなる数字コード（数字コード）、および学内での所属を示す1文字コード（所属コード）で表しています。



3文字コードは、その科目が主としてどのような学問分野に属しているのかを示しています。3文字コードと学問分野との関係を【表1】に示します。本学で開講している科目と関係する学問分野が【表1】に示されている点に注意してください。世の中にある全学問分野が【表1】で示されているわけではありません。

数字コードは、千の位にてその科目の難易度（レベル）を【表2】、百の位にて当該科目で主とする授業方法（講義主体なのか、実験主体なのかなど）を【表3】、十の位にて3文字コードで示す学問分野・領域を細分した場合の位置付けを【表4】（P.267参照）、一の位にて3文字コードと数字コードの千の位・百の位・十の位とが同じ科目中での、住所での番地に相当する当該科目の固有番号（科目を整理するための番号）を示しています。

所属コードは、本学での開講を担っている教育組織などを示しています。所属コードと教育組織との関係は次の通りです。

C：基盤教育、L：リベラルアーツ学群、A：芸術文化学群、B：ビジネスマネジメント学群、

H：健康福祉学群、X：グローバル・コミュニケーション学群、Q：学群横断資格関連科目

履修にあたっては、特に履修登録時、履修する科目全体のバランス（例えば、3年次であるが、レベルが1000や2000に偏っていないか）などを確認する場合の目安として活用してください。また、留学時や編入時など、他大学にて単位認定を受ける場合にも活用することができます。

【表1】 3文字コード：科目が属する学問分野

3文字コード	学問分野名称＜日本語＞	学問分野名称＜英語＞
CHR	キリスト教学	Christian Studies
ACG	アカデミック・キャリアガイダンス	Academic Guidance
HUM	人間理解	Understanding of Humanities
SSC	社会理解	Understanding of Social Sciences
NSC	自然理解	Understanding of Natural Sciences
ENG	英語（外国語）	English
JPN	日本語（外国語）	Japanese
CHN	中国語（外国語）	Chinese
ARA	アラビア語（外国語）	Arabic
BUR	ビルマ語（外国語）	Burmese
CAM	カンボジア語（外国語）	Cambodian
FRE	フランス語（外国語）	French
GER	ドイツ語（外国語）	German
IND	インドネシア語（外国語）	Indonesian
ITA	イタリア語（外国語）	Italian
KOR	韓国語（外国語）	Korean
LAT	ラテン語（外国語）	Latin
PRG	ポルトガル語（外国語）	Portuguese

（次のページに続く）

3文字コード	学問分野名称＜日本語＞	学問分野名称＜英語＞
RUS	ロシア語（外国語）	Russian
SPA	スペイン語（外国語）	Spanish
THA	タイ語（外国語）	Thai
VIE	ベトナム語（外国語）	Vietnamese
MON	モンゴル語	Mongolian
PHL	哲学	Philosophy
ETH	倫理学	Ethics
REL	宗教学	Religious Studies
ART	芸術学	Arts
THE	演劇学	Theater
DNC	舞踊学	Dance
MUS	音楽（作曲・指揮・音楽学）	Music
VOM	音楽（声楽）	Vocal Music
INM	音楽（器楽）	Instrumental Music
FNA	美術	Fine Arts
DES	デザイン	Design
CIN	映画	Cinematic Arts
LIT	文学	Literature
LIN	言語学	Linguistics
JLS	日本語	Japanese Language Studies
ELS	英語	English Language Studies
CLS	中国語	Chinese Language Studies
JPE	日本語教育	Japanese Education
HIS	歴史学	History
ANT	人類学	Anthropology
LAW	法学	Law
POL	政治学	Politics
INT	国際関係論	International Relations
ECO	経済学	Economics
MGM	経営学	Management
CMS	商学	Commercial Science
ACC	会計学	Accounting
SOC	社会学	Sociology
COM	コミュニケーション学	Communication Studies
MJS	メディア（ジャーナリズム）研究	Media and Journalism Studies
SWE	社会福祉学	Social Welfare
PSY	心理学	Psychology
EDU	教育学	Education
ECS	教科教育学（コア教科）	Education for Core Subjects
EOS	教科教育学（その他教科）	Education for Other Subjects
CCR	保育学	Childcare
MTH	数学	Mathematics
PHY	物理学	Physics
ESC	地球科学	Earth Sciences
CHM	化学	Chemistry
BIO	生物学	Biology

（次のページに続く）

3 文字コード	学問分野名称＜日本語＞	学問分野名称＜英語＞
MED	医歯薬学	Medical Science
IST	情報学	Information Studies
LIS	図書館学	Library and Information Science
MSO	博物館学	Museology
GEG	地理学	Geography
ENV	環境学	Environmental Science
SSS	社会安全システム	Social Security System
JPS	日本地域研究	Japanese Studies
ANS	アジア地域研究	Asian Studies
AMS	アメリカ地域研究	American Studies
JPF	日本学	Japanese Studies in Foreign Languages
HSS	健康・スポーツ科学	Health & Sports Science
SPE	スポーツ&エクササイズ (A 群)	Sports & Exercise (Group A)
	スポーツ&エクササイズ (B 群)	Sports & Exercise (Group B)
GTL	老年学	Gerontology
TOR	観光学	Tourism
AER	航空学	Aeronautics

【表 2】千の位：レベル

科目にはその内容に応じて、レベルが定められています。それぞれ1000、2000、3000、4000で設定されており、1000から4000へと段階的にレベルが高くなります。レベルに沿って学修を進めることにより、段階的かつ系統的な学修ができます。

千の位	レベル
1	1000
2	2000
3	3000
4	4000

【表 3】百の位：授業方法

百の位	授業方法	
0	講義	理論（基礎）
1		理論（応用）
2		理論（方法・実践）
3		各論
4	演習	
5	実験	
6	実習	
7	実技	
8		
9	ゼミ・論文・研究	

【表 4】P.267を参照してください。

Ⅲ 授業科目と履修方法

1. 基盤教育

1. 基盤教育について

桜美林大学では「本学の学生一人ひとりが自律的な学修者として主体的な学びを可能とする基盤を身に付けるための教育を施す」ことを目的として基盤教育科目を用意しています。つまり、学群制における学生の自主的な学びを可能とするために必要な知識の基礎を教授し、積極的な学びの姿勢を育成するのが基盤教育の役割です。

また、学生と教員とが十分なコミュニケーションを図れるよう少人数制を基本とし「主体的学びに必要な基礎的知識」と「積極的な学びの姿勢」を身につけられるように工夫しています。

桜美林大学ではこのような教育を入学後最初の1年から1年半の間に集中的に受けられるよう科目を配置しています。

2. コア科目（4学群必修（注1））

本学における建学の精神を具体化した授業科目である「キリスト教入門」、日本語・英語を用いたコミュニケーション能力を身につける授業科目、基礎的な情報機器の操作スキルを身につける「コンピュータリテラシー」からなり、原則として合計16単位をすべて修得しなければなりません。

科目コード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	先修条件ほか
CHR1000C	キリスト教入門	講義	2	1	
JLS1471C	口語表現Ⅰ	演習	2	1	
JLS1473C	文章表現Ⅰ	演習	2	1	(注2)
IST1401C	コンピュータリテラシーⅠ	演習	2	1	
ENG1401C	英語コアⅠA	演習	2	1	(注2)(注3)
ENG1402C	英語コアⅠB	演習	2	1	(注2)(注3)
ENG1403C	英語コアⅡA	演習	2	1	英語コアⅠA(注2)(注3)
ENG1404C	英語コアⅡB	演習	2	1	英語コアⅠB(注2)(注3)
JPN140*C	日本語専門基礎AⅠ	演習	2	1	外国人留学生等のみ履修可、重複して4単位を履修
JPN140*C	日本語専門基礎AⅡ	演習	2	1	外国人留学生等のみ履修可、重複して4単位を履修
JPN140*C	日本語専門基礎B	演習	1	1	外国人留学生等のみ履修可、重複して2単位を履修

グローバル・コミュニケーション学群の学生が「キリスト教入門」、「口語表現Ⅰ」、「文章表現Ⅰ」、「コンピュータリテラシーⅠ」を履修したい場合は教育支援課に申し出てください。

「*」:数字コードが複数存在する科目

<注意事項>

(注1) リベラルアーツ学群、ビジネスマネジメント学群、芸術文化学群、健康福祉学群の4学群です。

※グローバル・コミュニケーション学群の必修科目はP.186を参照してください。

(注2) 外国人留学生等（日本語を母語としない者）は、「文章表現Ⅰ」「英語コアⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB」に替えて「日本語専門基礎AⅠ・AⅡ・B」を各2回、合計10単位を修得しなければなりません。ただし、日本語の能力が一定以上であると認められた者は、履修を免除される場合があります。外国人留学生履修規定を参照し、規定のとおり修得してください。

(注3) 一定以上の能力を有すると認められた者は、履修を免除される場合があります。免除された単位数は他の科目を修得することで卒業要件単位数を満たしてください。

3. 基盤教育科目

基盤教育科目は、学群によって必要な科目・単位数が異なります。各学群の卒業要件もあわせて確認してください。

区 分	科目コード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	履修の可否 (※)					先修条件ほか
						LA	芸文	BM	健福	GC	
キリスト教理解	CHR1001C	聖書	講義	2	1	◎	○	○	○	○	
	CHR1002C	キリスト教と他宗教	講義	2	1	◎	○	○	○	○	
	CHR1003C	キリスト教と社会	講義	2	1	◎	○	○	○	○	
	CHR1004C	キリスト教と芸術	講義	2	1	◎	○	○	○	○	
アカデミック・リテラシー	IST1402C	コンピュータリテラシーⅡ	演習	2	1	◎	○	○	○	○	コンピュータリテラシーⅠ
	JLS1472C	口語表現Ⅱ	演習	2	1	◎	○	○	○	○	口語表現Ⅰ
	JLS1474C	文章表現Ⅱ	演習	2	1	◎	○	○	○	○	文章表現Ⅰ
	JLS2470C	文章構成法	演習	2	2	◎	○	○	○	○	
	ACG1401L	リベラルアーツセミナー	演習	2	1	◎	×	×	×	×	リベラルアーツ学群生のみ履修可 リベラルアーツ学群生は必修
学問基礎	主題別科目群	###10**L	人間理解	講義	2	1	◎	○	○	○	リベラルアーツ学群生は必修(注2)
		###10**L	社会理解	講義	2	1	◎	○	○	○	リベラルアーツ学群生は必修(注2)
		NSC10**L	自然理解	講義	2	1	◎	○	○	○	リベラルアーツ学群生は必修(注2)
	実践科目群	###16**L	プロジェクト	実習	2	1	◎	○	○	○	(注3)
		###160*C	国際理解教育	実習	2	1	◎	○	○	○	(注3)
		###16**C	地域社会参加	実習	2	1	◎	○	○	○	(注3)
アカデミックガイダンス	ACG1400C	大学での学びと経験	演習	2	1	○	○	○	○	○	(注4)
	ACG1050C	数の基礎理解	講義	2	1	○	○	○	○	○	「S」または「U」で成績評価(注4)
	ACG1002C	キャリアデザインA(注1)	講義	2	1	○	○	○	○	×	「S」または「U」で成績評価(注4)
	ACG1003C	キャリアデザインB	講義	2	2	○	○	○	○	○	「S」または「U」で成績評価(注4)
	ACG2003C	キャリアデザインC(注1)	講義	2	3	○	○	○	○	×	「S」または「U」で成績評価(注4)
	ACG2004C	キャリアデザインD(注1)	講義	2	3	○	○	○	○	×	「S」または「U」で成績評価(注4)
フィールドスタディーズ	###167*C	語学研修	実習	2	1	○	○	○	○	○	(注4)

※LA：リベラルアーツ学群、芸文：芸術文化学群、BM：ビジネスマネジメント学群、健福：健康福祉学群、GC：グローバル・コミュニケーション学群

◎：選択必修科目 ○：自由選択の科目 ×：履修できない科目

「###」：3文字コードが複数存在する科目

「*」：数字コードが複数存在する科目

＜注意事項＞

(注1) グローバル・コミュニケーション学群では、「キャリアデザインA」は「自己実現とキャリアデザイン」、「キャリアデザインC」は「キャリアデザインⅠ」、「キャリアデザインD」は「キャリアデザインⅡ」として学群共通科目区分の授業科目となります。

(注2) 学問基礎区分における授業科目は()内にサブタイトルが記載され、数種類開講されます。サブタイトルが異なれば複数の科目を履修することが可能です。

(注3) 「プロジェクト」「国際理解教育」「地域社会参加」は、それぞれ複数のプログラムが開講されており、プログラムが異なれば、複数のプログラムを履修することが可能です。ただし、同一学期に複数プログラムを履修できない場合があります。

(注4) アカデミックガイダンス区分の科目と「語学研修」はリベラルアーツ学群生におけるLA基礎科目(16単位必修)の単位には含まれず、自由選択の単位となります。

4. 外国語科目

外国語科目は、学群によって必要な科目・単位数が異なります。各学群の卒業要件もあわせて確認してください。

科目コード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	先修条件ほか
ENG14**C	英語エレクトイブⅠ-初級	演習	1	1	英語レベル1と2の者のみ履修可
ENG24**C	英語エレクトイブⅡ-中級	演習	1	1	英語レベル2と3の者のみ履修可
ENG34**C	英語エレクトイブⅢ-上級	演習	1	1	英語レベル3の者のみ履修可(注1)
ENG44**C	英語エレクトイブⅣ-特設	演習	1	1	英語レベル3の者のみ担当教員の許可を得て履修可
ENG44**C	英語エレクトイブⅤ-特設	演習	2	1	英語レベル3の者のみ担当教員の許可を得て履修可
ENG4435C	英語パスポート(Test PreparationⅠ)	演習	4	1	担当教員の許可を得て履修可(注2)
ENG4436C	英語パスポート(Test PreparationⅡ)	演習	4	1	担当教員の許可を得て履修可 先修条件:英語パスポート(Test PreparationⅠ)(注2)
JPN140*C	日本語Ⅰ	演習	6	1	短期留学生等のみ履修可
JPN140*C	日本語Ⅱ	演習	6	1	短期留学生等のみ履修可
JPN240*C	日本語Ⅲ	演習	4	1	短期留学生等のみ履修可
JPN240*C	日本語Ⅳ	演習	4	1	短期留学生等のみ履修可
JPN340*C	日本語Ⅴ	演習	2	1	短期留学生等のみ履修可
JPN340*C	日本語Ⅵ	演習	1	1	短期留学生等のみ履修可
JPN(1-3)4**C	日本語演習	演習	1	1	教員により指定されたレベルを履修すること (注2)(注3)
ARA1401C	アラビア語Ⅰ	演習	2	1	
ARA1402C	アラビア語Ⅱ	演習	2	1	
ARA2403C	アラビア語Ⅲ	演習	2	2	
ARA2404C	アラビア語Ⅳ	演習	2	2	
ITA1401C	イタリア語Ⅰ	演習	2	1	
ITA1402C	イタリア語Ⅱ	演習	2	1	
ITA2403C	イタリア語Ⅲ	演習	2	2	
ITA2404C	イタリア語Ⅳ	演習	2	2	
ITA3405C	イタリア語Ⅴ	演習	2	3	
ITA3406C	イタリア語Ⅵ	演習	2	3	
IND1401C	インドネシア語Ⅰ	演習	2	1	
IND1402C	インドネシア語Ⅱ	演習	2	1	
IND2403C	インドネシア語Ⅲ	演習	2	2	
IND2404C	インドネシア語Ⅳ	演習	2	2	
CAM1401C	カンボジア語Ⅰ	演習	2	1	
CAM1402C	カンボジア語Ⅱ	演習	2	1	
CAM2403C	カンボジア語Ⅲ	演習	2	2	
CAM2404C	カンボジア語Ⅳ	演習	2	2	
KOR1401C	コリア語Ⅰ	演習	2	1	
KOR1402C	コリア語Ⅱ	演習	2	1	
KOR2403C	コリア語Ⅲ	演習	2	2	
KOR2404C	コリア語Ⅳ	演習	2	2	
KOR3405C	コリア語Ⅴ	演習	2	3	
KOR3406C	コリア語Ⅵ	演習	2	3	
SPA1401C	スペイン語Ⅰ	演習	2	1	
SPA1402C	スペイン語Ⅱ	演習	2	1	
SPA2403C	スペイン語Ⅲ	演習	2	2	

【*】:数字コードが複数存在する科目

(次のページに続く)

(注1) グローバル・コミュニケーション学群生は一部の科目は履修できません。

(注2) グローバル・コミュニケーション学群生は履修できません。

(注3) 「日本語演習」は、複数開講されており、クラスによってレベルが異なります(1000～3000)。

科目コード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	先修条件ほか
SPA2404C	スペイン語Ⅳ	演習	2	2	
SPA3405C	スペイン語Ⅴ	演習	2	3	
SPA3406C	スペイン語Ⅵ	演習	2	3	
THA1401C	タイ語Ⅰ	演習	2	1	
THA1402C	タイ語Ⅱ	演習	2	1	
THA2403C	タイ語Ⅲ	演習	2	2	
THA2404C	タイ語Ⅳ	演習	2	2	
GER1401C	ドイツ語Ⅰ	演習	2	1	
GER1402C	ドイツ語Ⅱ	演習	2	1	
GER2403C	ドイツ語Ⅲ	演習	2	2	
GER2404C	ドイツ語Ⅳ	演習	2	2	
GER3405C	ドイツ語Ⅴ	演習	2	3	
GER3406C	ドイツ語Ⅵ	演習	2	3	
BUR1401C	ビルマ語Ⅰ	演習	2	1	
BUR1402C	ビルマ語Ⅱ	演習	2	1	
BUR2403C	ビルマ語Ⅲ	演習	2	2	
BUR2404C	ビルマ語Ⅳ	演習	2	2	
FRE1401C	フランス語Ⅰ	演習	2	1	
FRE1402C	フランス語Ⅱ	演習	2	1	
FRE2403C	フランス語Ⅲ	演習	2	2	
FRE2404C	フランス語Ⅳ	演習	2	2	
FRE3405C	フランス語Ⅴ	演習	2	3	
FRE3406C	フランス語Ⅵ	演習	2	3	
VIE1401C	ベトナム語Ⅰ	演習	2	1	
VIE1402C	ベトナム語Ⅱ	演習	2	1	
VIE2403C	ベトナム語Ⅲ	演習	2	2	
VIE2404C	ベトナム語Ⅳ	演習	2	2	
PRG1401C	ポルトガル語Ⅰ	演習	2	1	
PRG1402C	ポルトガル語Ⅱ	演習	2	1	
PRG2403C	ポルトガル語Ⅲ	演習	2	2	
PRG2404C	ポルトガル語Ⅳ	演習	2	2	
MON1401C	モンゴル語Ⅰ	演習	2	1	
MON1402C	モンゴル語Ⅱ	演習	2	1	
MON2403C	モンゴル語Ⅲ	演習	2	2	
MON2404C	モンゴル語Ⅳ	演習	2	2	
LAT1401C	ラテン語Ⅰ	演習	2	1	
LAT1402C	ラテン語Ⅱ	演習	2	1	
LAT2403C	ラテン語Ⅲ	演習	2	2	
LAT2404C	ラテン語Ⅳ	演習	2	2	
RUS1401C	ロシア語Ⅰ	演習	2	1	
RUS1402C	ロシア語Ⅱ	演習	2	1	
RUS2403C	ロシア語Ⅲ	演習	2	2	
RUS2404C	ロシア語Ⅳ	演習	2	2	

(次のページに続く)

科目コード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	先修条件ほか
CHN1401C	中国語Ⅰ	演習	2	1	
CHN1402C	中国語Ⅱ	演習	2	1	
CHN2403C	中国語Ⅲ	演習	2	2	
CHN2404C	中国語Ⅳ	演習	2	2	
CHN3405C	中国語Ⅴ	演習	2	3	
CHN3406C	中国語Ⅵ	演習	2	3	

<注意事項>

履修方法

- ① 母語または母語に準ずる言語は履修できません。
- ② 外国語科目（英語・日本語を除く）は、科目名の後に、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、（Ⅴ、Ⅵ）と数字がついていて、その数字が大きくなるにつれて、レベルが高くなっていきます。通常は「Ⅰ」の科目から順次履修していき、「Ⅱ」の科目は「Ⅰ」の科目の単位を履修した後でなければ履修できません。これを先修条件と言います。このように外国語科目は先修条件の科目を修得しないと、次のレベルの科目が履修できないルールになっています。

入学した時点で一定のレベル以上の語学力がある場合、または在学中に留学等で力が飛躍的に伸びた場合には、レベルを飛び越えた履修が必要です。これを飛び級と呼んでいます。

飛び級のための先修条件免除の手続き方法・期間は、e-Campus の掲示を参照してください。期間外の申請はできません。飛び級をする場合は、以下のことに注意してください。

- a. Ⅱ以上の授業科目から修得した場合は、それより低い授業科目を履修することはできません。

〔（例）先修条件の免除により、「スペイン語Ⅳ」を修得した学生
⇒「スペイン語Ⅰ～Ⅲ」は履修できません。〕

- b. 同時に同一言語の授業科目を、複数履修できません。

〔（例）「中国語Ⅲ」と「中国語Ⅳ」を同一学期に履修することはできません。〕

- ③ リベラルアーツ学群

日本語以外の同一言語 8 単位または同一言語 4 単位を 2 言語 8 単位必修。

〔（○の例）コリア語Ⅰ②、コリア語Ⅱ②、英語エレクトィブⅢ－上級①、英語エレクトィブⅣ－特設①、英語エレクトィブⅤ－特設② 計 8 単位
（×の例）コリア語Ⅰ②、コリア語Ⅱ②、コリア語Ⅲ②、英語エレクトィブⅤ－特設②計 8 単位
※ ○数字は科目の単位数を表します。〕

- ④ 「英語エレクトィブⅠ-初級」「英語エレクトィブⅡ-中級」「英語エレクトィブⅢ-上級」「英語エレクトィブⅣ-特設」「英語エレクトィブⅤ-特設」は、（ ）内にサブタイトルが記載され、数種類開講されます。サブタイトルが異なれば複数の科目を履修することが可能です。他の外国語のように、Ⅰ→Ⅱ→Ⅲ→Ⅳ→Ⅴの順に履修するのではなく、各自の英語レベルに合った科目のみ履修することができます。各自の英語レベルは、入学前の CASEC（英語力判定テスト）のスコアに基づいて決められ、入学時のオリエンテーション時に配布されます。その後、以下の a から d により再判定されます。

- a. 「英語コアⅡA」「英語コアⅡB」の履修後の CASEC のスコア（自動）
- b. 留学プログラムから帰国後の CASEC のスコア（自動）
- c. 実用英語技能検定、TOEFL[®]、TOEIC[®]、IELTS[™]のスコア（任意、2 年次以降毎学期）
- d. ELP 英語レベルアップチェック*（任意、2 年次以降毎学期）

*英語プログラム（ELP）が、各学期 1 回ずつ開催する英語レベルアップチェックを受けることで、各自の英語レベルを更新し、より上のクラスを履修することができます。日時や詳細については、e-Campus に掲示されます。

- ⑤ 「英語パスポートコース（Test Preparation Ⅰ）」および「英語パスポートコース（Test Preparation Ⅱ）」は、原則として英語パスポートコースの学生のみが履修可能です。英語パスポートコースについての詳細は、コーナーストーンセンター事務室に問い合わせてください。

2. リベラルアーツ学群

1. リベラルアーツ学群について

リベラルアーツ学群は、大学の教育課程で身につけておくべき基礎学術としての学問分野を幅広く用意しています。学生は、この学群で複合的かつ専門的に学ぶことを通して、社会で活躍するための総合的な知識だけでなく、主体的な行動力も獲得することができます。リベラルアーツ学群で用意されているプログラムは、「多様性」と「専門性」を同時に追求することをその特徴としており、学生を「自立した学習者：Independent Learner」として位置づけて、自らが学ぶものを自由かつ主体的に選択できるような仕組みになっています。

リベラルアーツ学群には人文科学、社会科学、自然科学、学際・統合科学という、4つの学問分野からなる幅広い領域の科目が用意されています。

リベラルアーツ学群の学生は、まず基礎教育科目の「コア科目」、「外国語科目」、「LA基礎」を重点的に学びます。特にLA基礎の「学問基礎」では、上記4分野の学問領域の基礎知識を人間理解、社会理解および自然理解という観点から学ぶとともに、「専攻科目」の履修を通して、各自の「メジャー（主専攻）」を何にするのか、時間をかけて選んでいきます。したがって、入学当初に考えていた自分の専門だけでなく、さまざまな分野を学ぶことを通して、学問のおもしろさや新しい発見に触れながら、自分で本当に学びたい専門を選択・決定することが可能です。学生は、4セメスター目に、自らが選択した専攻プログラムをメジャーとして登録し、その中で専門性を深めていきます。なお、メジャーの選択と登録においては、学生の自由な意志を尊重しますので、人数制限等はありません。

メジャーの選択後は、指定された履修方法にもとづき、本格的に専門的な知識を学んでいきます。少人数クラスによる「専攻演習」（ゼミ）も用意されていますので、是非、履修しましょう。学生には、各専攻プログラムで設定された、授業科目の修得および修得単位数にかかわるメジャー修了要件を満たすことと、学群専攻科目62単位以上の修得が求められます。また、各専攻プログラムには「マイナー（副専攻）」も用意されており、メジャーよりも少ない修得単位数で修了することができます。したがって、複数の専攻プログラムを組み合わせ、1つをメジャーで他をマイナーに、あるいは2つのメジャー（ダブル・メジャー）等の複合的な学修が可能です。これらすべてが、学生の選択に任されていますので、下記のアドバイザー等と相談しながら自分で決めてください。

さらに、リベラルアーツ学群の学びでは、広い国際的な視野を養うための外国語の修得や海外体験が重視されます。学群のために用意された海外語学研修プログラム（GO プログラム）や、他のさまざまな留学プログラムには、少なくとも1回は参加することが勧められています。

最後に、学生の学びをサポートするために用意されているのが、アドバイザー制度です。リベラルアーツ学群では、すべての学生一人ひとりに対して教員であるアドバイザーが付きます。アドバイザーは、必修のリベラルアーツセミナーや履修相談等を通して、この学群で学ぶことの意義や目標、必要な学修計画の立て方を指導します。なお、専攻プログラムの選択や専攻科目の履修上の相談については、各専攻プログラムで決められた相談員の教員もサポートします。

2. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学群は、学際的な幅広い教養を獲得し、問題に多角的なアプローチから対処できる能力を身につけたIndependent Learnerを育成することを基本理念とし、本学群の課程を修め、定められた期間在学すること、124単位を修得すること、通算GPAが1.5以上であること、33の専攻プログラムのうち最低1つのメジャー修了要件を満たすことなどを卒業要件としています。

この基本理念を実現するため、本学群では以下に記載した項目の能力・資質を高め、それらを総合的に活用できる者に対し、卒業を認定し学位を授与します。また、この「卒業認定・学位授与の方針」は、「教育課程編成・実施の方針」において具現化されており、本学群の学びは全て学園の行動指針である「^{がくしよじん}学而事人（学びて人に仕える）」に結びついています。

（1）専攻する各分野における知識・理解

専攻する分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その専攻の知識体系を他の分野と関連づけて理解することができる。

(2) コミュニケーション能力

本学群で学ぶ知識を踏まえながら、自分の思いや考えを的確に表現することができるようになるとともに、社会生活を営む上で必要な他者を思いやる豊かな人間性を身につけ、諸外国（異文化）への理解を深めることによって、他者の意見や考え方を尊重しながら意見を交わし、しっかりとしたコミュニケーションができる。

(3) 数量的スキル

それぞれの専門分野における自然現象や社会現象を、普遍的な尺度や数量的指標などを用いた数理的な手法を適用して分析し、理解し、表現することができる。

(4) 情報リテラシー

情報通信技術を用いて多種多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。

(5) 論理的思考能力

情報を収集・分析した結果を複眼的、論理的に表現できる力を備えることができる。客観的・批判的・分析的能力、解決思考・コミュニケーション能力を備えることにより、論理的思考能力を高めることができる。

(6) 問題発見・解決能力

学修や活動等へ主体的に取り組む際、自身の行動についての問題や課題を常に意識して発見する能力を養うことと、その問題や課題について何をどうすれば解決に導くことができるのかを考え、そのアイデアを実践する力を高めることができる。

(7) 自己管理能力と社会的倫理観

本学群での学びを単なる座学に終わらせず、学園の行動指針である「学而事人」を実践するために、社会における自分の役割を自覚し、社会の発展に積極的に関わることができる。また、社会の規範やルールに従い自らを律して行動できる。

(8) 生涯学習力

本学群で身につけた様々な能力を活用して、卒業後も生涯を通して自立的に学び、自己を研鑽していくことができる。

3. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学群は、「卒業認定・学位授与の方針」に掲げた学修成果を得るために、その具体的取組みとしての教育課程を「基礎教育科目」、「専攻科目」及び他学群や他大学、各種技能審査等を単位認定する「自由選択」という区分に分けて編成し、科目は講義、演習、実験、実習、実技といった授業方法を組み合わせた授業を開講しています。また、カリキュラムの体系化のために「ナンバリング（科目ごとの関連性や難易度を示す）」を行い、科目の構造を明示し体系的な学修に役立つようにしています。このような教育課程の編成と、学修方法・学修過程、学修成果の評価の在り方を以下のように定めています。

(1) 教育課程の編成

①「基礎教育科目」は、本学群生として「卒業認定・学位授与の方針」に則った学修成果をあげるための基礎知識と技能を身につけるための科目です。カリキュラム内容は「コア科目」「外国語科目」「基盤教育科目」に分かれ、「コア科目」では、キリスト教科目、口語表現、文章表現、コンピュータなどを中心に、学園の建学の精神、教育目標を具現化するための知識とスキルを修得します。「LA基礎」の「リベラルアーツセミナー」では、本学群の学びについての理解を深め、Independent Learnerとしての自覚を持つとともに、大学での学びのために必要な知識と学修技術を修得します。「学問基礎」では、専攻科目の学問領域の基礎知識を学ぶとともに、各学問領域の魅力や多角的アプローチの重要性を学びます。

②「専攻科目」は、基礎教育で得た知識・技能をさらに高めるために用意された科目です。本学群では、人文科学、社会科学、自然科学、学際・統合科学という4つの学問分野からなる幅広い領域の科目を用意しています。具体的には、言語学・外国語、コミュニケーション学、文学、哲学・思想、宗教学、歴史学、人類学、地域研究、法・政治学、心理学、教育学、経済学、数学、物理学、化学、生物学、地球科学、情報科学、環境学、メディアといった分野を網羅しており、高い専門性を修得するために必要な科目からなる33の「専攻プログラム」を用意しています。

③「自由選択」は、学生の多様な関心や目的を達成するために学生が自ら計画し、学内外の授業科目の中から自由に選択履修することができるようになっています。他学群の専攻科目や他大学（海外留学、単位互換協定校、

放送大学、首都圏西部大学単位互換協定会加盟校など）の科目を修得することで、自身の知識の幅を広げることが可能になります。

（2）学修方法・学修過程

- ①「基礎教育科目」は、主として1～2年次に履修し、大学の学びのための基礎的なスキルを修得します。また、学問基礎などの導入教育を通じて、専門分野を自ら選ぶための情報と理解力を身につけ、専攻科目への履修に結びつけています。さらに、学生の主体的・能動的学び（アクティブ・ラーニング）を促進するために「地域社会参加」「国際理解教育」などのサービス・ラーニング科目を設け、「大学での授業」と「フィールドでの授業」を併せ持った学修環境を用意しています。
- ②「語学教育」は、学園の建学の精神にもあるように、語学を身につけた国際人を育てる本学に相応しく18言語を学ぶことができます。なかでも世界共通語である英語に主に力を注いでおり、日本語が母語の学生は全員が入学当初よりプレースメントテストなどによって習熟度別に編成されたクラスで授業を受けます。したがって、英語に抵抗のある学生も無理なく活かせる英語を、段階を踏んで学修することができます。また、授業時間外の学修として語学の正規授業と関連づけたカンパセーションサークルに参加することで、正規授業の予習復習効果を担っています。
- ③「専攻科目」は、リベラルアーツ学群の教育の中核をなすものであり、33の専攻プログラムから、1つ以上のメジャー（主専攻）を選び、その学問分野の中で専門性の高い体系的な学修を行います。また、リベラルアーツ教育の特徴である幅広い教養を得るため、上記の専攻プログラムからマイナー（副専攻）を選択することができます。メジャー及びマイナーとして、それぞれ複数の専攻プログラムを選ぶことも可能です。
- ④本学では、「アドバイザー制度」を設け、学生一人ひとりの学修計画や履修登録に関する確認などを行っています。アドバイザーは、学生自身が専攻する分野での科目履修が適切かつ効果的となるような学修指導をしています。また、教育支援事務による履修・学修相談も随時行われ、教職員が一丸となった学修支援体制を整えています。
- ⑤学群で教育課程の編成や実施方法を可視化するためのカリキュラム・マップ（学修内容の順次性と科目間の関連性を同時に図示化したフローチャートなどであり、教員と学生の双方が、「見える化」されたカリキュラムを共有し、教育全体を俯瞰することにある）を用い、学生がどの科目を学修すれば「卒業認定・学位授与の方針」に掲げた項目の能力・資質を高めることが可能となるのかを把握できるようにします。

（3）学修成果の評価の在り方

- ①学修成果は「卒業認定・学位授与の方針」に定められた項目と、学修方法・学修過程（カリキュラム・マップ等）により示された、科目が目標とする学修の到達度が学生自身にとってどの程度であったかを示すものです。したがって学修成果は科目それぞれで設定されています。
- ②学修成果の評価方法は、科目ごとのシラバスにおいて具体的に示します。また、ルーブリック評価など（成功の度合いを示すレベルや、それぞれのレベルに対応するパフォーマンス（プレゼン、協同作業など）の特徴を示した評価規準からなる表）を取り入れることによって、成績評価を分かりやすく可視化し、厳格に評価します。

4. 卒業要件

リベラルアーツ学群の学生が卒業するために必要な単位は次のとおりです。

※○数字は科目の単位数を表します。

		リベラルアーツ学群	
基礎教育科目 (注2) 42単位 (最低必要単位)	コア科目 (注1) 16単位必修	キリスト教入門② 口語表現Ⅰ② 文章表現Ⅰ② 英語コアⅠA② 英語コアⅠB② 英語コアⅡA② 英語コアⅡB② コンピュータリテラシーⅠ②	
	外国語科目 (注1)(注2) 8単位必修	外国語 (※同一言語8単位、または 同一言語4単位を2言語8単位)	
	キリスト教 理 解 2単位必修	聖書② キリスト教と他宗教② キリスト教と社会② キリスト教と芸術② (※上記4科目から2単位必修)	
	LA 基礎 16単位必修	リベラルアーツセミナー② 必修	
		コンピュータリテラシーⅡ② 口語表現Ⅱ② 文章表現Ⅱ② 文章構成法②	
		主題別 科目群 6単位必修	人間理解② 社会理解② 自然理解② (※上記の3つの学問分野から各2単位必修)
		実践 科目群	プロジェクト② 国際理解教育② 地域社会参加②
専攻科目 62単位 (最低必要単位)	以下の2つの要件を満たすこと 1. 専攻プログラムを1つ選び、メジャーとして修了すること 合計32～36単位(専攻プログラムにより単位数は異なる) 2. メジャー修了のために修得した単位を含めて、リベラルアーツ学群専攻科目から62単位 を修得すること		
自由選択	・基礎教育科目、専攻科目で、最低必要単位を超えて修得した単位 ・他学群専攻科目 ・基盤教育の科目 ・他大学等(短期大学・海外留学の科目を含む) 認定単位(P.196) ・各種技能審査による認定単位(P.197～199)		
卒業要件単位合計 基礎教育科目、専攻科目、 自由選択、あわせて 124単位	【その他の要件】 入学時からの通算 GPA が1.5以上 ✕ 0		

基礎教育科目：コア科目16単位必修、外国語科目8単位必修、キリスト教理解2単位必修。LA基礎16単位必修、ただしアカデミック・リテラシーより「リベラルアーツセミナー」2単位必修、学問基礎12単位必修（主題別科目群より「人間理解」、「社会理解」、「自然理解」それぞれ2単位必修を含む）を満たすこと。合計42単位。

専攻科目：以下の2つの要件を満たすこと

- (1) 専攻プログラムを1つ選び、メジャーとして修了すること。合計32～36単位（専攻プログラムにより単位数は異なる）
- (2) メジャー修了のために修得した単位を含めて、リベラルアーツ学群専攻科目から62単位を修得すること。

基礎教育科目、専攻科目、自由選択、合計124単位

入学時からの通算GPAが1.5以上

<注意事項>

(注1) 一定以上の能力を有すると認められた者は、履修を免除される場合があります。免除された単位数は他の科目を修得することで卒業要件単位数を満たしてください。

外国人留学生等（日本語を母語としない者。以下同じ。）は、「文章表現Ⅰ」、「英語コアⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB」に替えて「日本語専門基礎AⅠ・AⅡ・B」を各2回、合計10単位を修得しなければなりません。ただし、日本語の能力が一定以上であると認められた者は、履修を免除される場合があります。外国人留学生履修規定を参照し、規定のとおり修得してください。

(注2) GOプログラム参加者は、審査の上、外国語科目8単位の履修が免除され、基礎教育科目単位数が34単位となります。

外国人留学生等は、外国語科目8単位の履修が免除されます。

免除された8単位は他の科目を修得することで卒業要件単位数を満たしてください。

(注3) 学問基礎科目は、それぞれ（ ）内のサブタイトルが異なれば複数の科目を履修することが可能です。

5. 専攻プログラム案内

本学には、専攻科目を中心として、学生各自の目的や関心に応じて専門的に学ぶための専攻プログラムが置かれています。リベラルアーツ学群の専攻科目で構成される専攻プログラムを登録すると、「学業成績単位修得証明書」に登録中のメジャーまたはマイナーの名称が記載されます。登録したメジャーまたはマイナーの修了要件を満たした上で卒業すると、卒業後の「学業成績単位修得証明書」には修了したメジャーまたはマイナーの名称が記載されます。

メジャー：メジャーを修了することは卒業の要件の1つとなっています。ただし、リベラルアーツ学群以外の学群の専攻コース等をメジャーとして登録することはできません。

マイナー：マイナーは、メジャーほどの深い専門性を要求されませんが、各専攻分野で体系的に学修することで、副次的な専攻として認められるプログラムです。他学群の専攻コース等もマイナーとして登録することもできますが、そこで修得した単位は自由選択の単位となります。

メジャー及びマイナーの登録は、4セメスター目に受け付けます。所定の期間に手続きを行ってください。その後、卒業を希望する学期の定期試験期間最終日までメジャー及びマイナーの変更もできます。メジャー及びマイナーの変更にはアドバイザーの承認が必要です。

専攻プログラムの種類は、次ページのとおりです。

また、他学群のマイナーを登録しようとする場合は、以下に注意してください。

1. マイナーの必修科目（または選択必修の全て）について、科目一覧ページの「他学群学生の履修」欄が「×」になっている専攻プログラム・専攻コース等の場合は、他学群生はそのマイナーを登録できません。
2. 他学群生は、専攻プログラム・専攻コース等の抽選科目の優先順位によっては、マイナーの必修科目（または選択必修の全て）を履修できず、マイナーを修了できない場合があります。
3. 他学群のマイナーの登録にあたっては、予め各キャンパス事務室教務担当に相談してください。

リベラルアーツ学群

専攻プログラム	メジャー	マイナー
英語学・英文学	○	○
中国言語文化	○	○
日本語日本文学	○	○
日本語教育	○	○
言語学	○	○
コミュニケーション学	○	○
現代・世界文学	○	○
キリスト教学	○	○
宗教学	○	○
哲学	○	○
倫理学	○	○
文化人類学	○	○
アメリカ地域研究	○	○
アジア地域研究	○	○
日本地域研究	○	○
歴史学	○	○
国際関係	○	○
国際協力	○	○
社会学	○	○
心理学	○	○
教育学（教職教育）	○	○
国際経済	○	○
ビジネスエコノミクス	○	○
公共政策	○	○
数学	○	○
物理学	○	○
化学	○	○
生物学	○	○
地球科学	○	○
情報科学	○	○
環境学	○	○
メディア（ジャーナリズム）	○	○
博物館学	○	○

英語学・英文学専攻プログラム

1. 教育目的

英語は今や、政治、ビジネス、メディアなど、様々な分野における主要な言語として位置づけられ、世界の英語人口は15億人に迫ろうとしています。英語を身につけることは、新たな可能性や出会いを生み出すきっかけとなります。

英語学・英文学専攻プログラムでは、1年次に身につけた4技能（話す・読む・書く・聴く）の力を基盤にして、2年次以降は「英語」を英語学・英語教育の観点から具体的かつ実践的に学び、また「英文学」の作品を読んで人間について考え、作品と分かちがたく結びついている英語圏の文化について学びます。さらに、それらの知識を生かし、表面的なやりとりにとどまらない奥深いコミュニケーションが取れるようになること―真の「使える英語」を習得すること―を目指します。

本専攻プログラムでは、英語圏社会・文化に関する知識や人間に対する豊かな洞察力を得ることにより、「複眼的な視点から世界を理解し、自ら判断し行動できる国際人」を養成したいと考えています。また、優れた英語教員の養成も目的のひとつにしていますが、そのような国際人としての資質は、英語教員を目指す者にとっても必要不可欠なものです。

2. カリキュラムの特徴

本専攻プログラムでは、ELP（English Language Program）で4技能の基礎を固め、さらに4つのカテゴリーから科目を選択、履修していきます。その4つのカテゴリーは、（1）英語の基礎力を鍛える＜基礎科目＞、（2）英語という言語を研究対象とし、英語教育の方法を実践的に学ぶ＜英語学・英語教育＞、（3）英文学と英語圏文化の相互関係を学ぶ＜英文学・英文化＞、（4）英語や英語圏文化の広い知識に基づいたコミュニケーションを学ぶ＜英語コミュニケーション＞から構成されており、自身のニーズや関心に沿った科目を選択していくことになります。

具体的な科目を一部紹介すると、＜基礎科目＞は、主に英語の読解力を養う「英語講読」、英語の文法力を高める「英文法」、＜英語学・英語教育＞は、英語の文のしくみを研究する「英語の構造」、英語教育を実践的に学ぶ「第二言語習得法」、＜英文学・英文化＞は、ある一つのテーマを扱った複数の文学作品を読む「テーマで読む英米文学」、イギリスの文化について幅広く学ぶ「イギリスの文化」、＜英語コミュニケーション＞は、英語でのコミュニケーション能力を高める「Speech Communication Skills」、「Written Communication Skills」などから構成されています。

本専攻プログラムの科目だけでなく、他の専攻プログラムの科目も自由に履修し、またはマイナーとして組みあわせることで、個々の興味にあわせた幅広い学修が可能です。

3. 修了要件

メジャー：合計36単位（最低必要単位）

マイナー：合計20単位（最低必要単位）

カテゴリー	科目コード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
基礎科目	ELS1413L	英語講読Ⅰ a	演習	2	1	×		2単位 選択必修 (注1)	2単位 選択必修 (注1)
	ELS1414L	英語講読Ⅰ b	演習	2	1	×			
	ELS2413L	英語講読Ⅱ a	演習	2	1	×	英語講読Ⅰ a 又はⅠ b (注1)	2単位 選択必修	2単位 選択必修
	ELS2414L	英語講読Ⅱ b	演習	2	1	×	英語講読Ⅰ a 又はⅠ b (注1)		
	ELS1001L	英文法Ⅰ	講義	2	1	△			
	ELS2002L	英文法Ⅱ	講義	2	1	△			
	ELS2050L	英語学入門	講義	4	1	△		必修	
	LIT2070L	英米文学入門	講義	4	1	△		必修	
英語学・英語教育	ELS1350L	英語の音声	講義	4	1	△		4単位 選択必修	20単位 選択必修
	ELS3350L	英語の意味	講義	4	2	△			
	ELS4350L	英語の構造	講義	4	3	△	英文法Ⅱ		
	ELS3352L	英語の歴史	講義	4	2	△			
	ELS2415L	英語学講読	演習	4	2	△			
	ELS4460L	第二言語習得法	演習	4	3	△			
	LIN3430L	応用言語学	演習	4	2	△			
英文学・英文化	LIT3370L	英米詩	講義	4	2	△		4単位 選択必修	20単位 選択必修
	LIT3371L	英米演劇	講義	4	2	△			
	LIT337*L	英米小説	講義	4	2	△	重複履修可		
	LIT2370L	英米児童文学	講義	4	2	△			
	LIT317*L	テーマで読む英米文学	講義	4	2	△	重複履修可		
	ELS2410L	英米文化講読	演習	4	2	△			
	ELS2373L	イギリスの文化	講義	4	2	△			
	AMS2140L	アメリカの文化	講義	4	1	○			
英語コミュニケーション	ELS3471L	翻訳 (英→日)	演習	4	3	△	英文法Ⅱ	4単位 選択必修	20単位 選択必修
	ELS4470L	翻訳 (日→英)	演習	4	3	△	英文法Ⅱ		
	ELS4480L	通訳	演習	4	3	△	Speech Communication Skills		
	ELS2440L	Speech Communication Skills	演習	4	2	△			
	ELS2420L	Written Communication Skills	演習	4	2	△			
「*」: 数字コードが複数存在する科目								上記必修・選択必修科目を含め、計 36単位	計 20単位

(注1) 各種英語資格試験のスコアが一定の基準以上である場合、英語講読Ⅰの履修免除が認められることがあります。詳細は、各学期のオリエンテーション期間開始時に e-Campus の掲示で確認してください。
メジャー・マイナー修了要件の合計単位数に変更はありません。

中国言語文化専攻プログラム

1. 教育目的

中国は、古代から近世までの長期間、世界の中心の一つで、その思想と文学は、日本にも大きな影響をあたえ続けてきました。また、近年は世界第二の経済大国に発展し、新たな文化圏を構築しようとしています。

本専攻プログラムは、このような中国について、文学・思想・芸術などの文化的側面を中心に言語・歴史・社会史などの多方面で知識を深め、総合的に分析・研究していくことを目指しています。プログラムの履修を進めていくことで、一見わかりにくく見える中国のありようについて、自分なりの見識を持つことが可能となるでしょう。

また、この専攻では西洋的価値観ではとらえきれない巨大で複雑な世界観にふれることで、モノゴトを複眼的に見る新たな視点を獲得することも目標としています。これらを合わせることで、みなさんが人生をより豊かに送るためのモノの見方と考える力を身につけることができるでしょう。

2. カリキュラムの特徴

このプログラムは、「語学」・「文学・思想・文化」・「歴史・社会」の3つのカテゴリーから構成されています。

「語学」カテゴリーは、現代中国語の基礎を固めると同時に、語彙・文法・音声など広く語学的な知識が身につけられるような構成となっています。「文学・思想・文化」カテゴリーは、本専攻の核となる部分で、文学・思想・芸術・文化についての多彩な科目が用意されています。「歴史・社会」カテゴリーは、共時的視点・通時的視点の双方から幅広く中国を理解するための科目が配置してあります。

履修の組み立てとしては、現代中国語の知識をベースに同時代の中国文化や言語について理解を深めていく方向性と、漢文（中国の古文）の学修を基礎として古典文学・思想・歴史について理解を深めていく方向性の二つが主に想定されています。

前者では、「語学」カテゴリーの現代中国語に関わる科目と「文学・思想・文化」カテゴリーの近現代文学・文化に関わる科目等を合わせて履修することで、単に中国語の実技的語学力を身につけるのみならず、広く深い中国理解に根ざした国際人になることを目指します。後者は、東アジア世界を規定してきた儒教思想を中心とする諸思想や、東アジアの共通言語であった漢文と共通の文学であった漢詩についての理解を深めることを目指すものです。

特に後者のケースでは現代中国語の知識が必須ではないため、日本文学に関心がある場合、国語科教員を目指す場合、世界各地の文学に関心がある場合などでも並行して学んでいくことが可能です。

3. 修了要件

メジャー：合計36単位（最低必要単位）

マイナー：合計20単位（最低必要単位）

カテゴリー	科目コード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
語学	CLS 1400 L	中国語基礎トレーニングⅠ	演習	2	1	○			
	CLS 2400 L	中国語基礎トレーニングⅡ	演習	2	1	○			
	CLS 2401 L	中国語応用トレーニングⅠ	演習	2	1	○	(注1)		
	CLS 2402 L	中国語応用トレーニングⅡ	演習	2	1	○	(注1)		
	CLS 3411 L	中国語講読	演習	2	2	○	(注2)		
	CLS 3423 L	中国語作文	演習	2	2	○	(注2)		
	CLS 3430 L	中国語リスニング	演習	2	2	○	(注2)		
	CLS 3410 L	時事中国語	演習	2	2	○	(注3)		
	CLS 3420 L	日中翻訳技法	演習	2	2	○	(注3)		
	CLS 3440 L	日中通訳技法	演習	2	2	○	(注3)		
	CLS 1050 L	中国語学概論	講義	2	1	○			
	CLS 2350 L	中国語音声学	講義	4	1	○			
	CLS 2130 L	中国語文法研究	講義	4	1	○			
	CLS 3350 L	日中対照言語研究	講義	4	2	○			
文学・思想・文化	LIT 1030 L	中国文学概論	講義	4	1	○			
	LIT 1430 L	中国文言文講読	演習	2	2	○			
	LIT 1330 L	中国古典文学史	講義	4	1	○			
	LIT 2330 L	中国近現代文学史	講義	4	1	○			
	LIT 3330 L	中国古典文学研究	講義	4	2	○			
	LIT 3331 L	中国近現代文学研究	講義	4	2	○			
	LIT 2030 L	中国思想史	講義	4	1	○			
	LIT 3332 L	中国古代思想研究	講義	4	2	○			
	LIT 3333 L	中国近現代思想研究	講義	4	2	○			
	LIT 1000 L	中国文化概論	講義	4	1	○			
	LIT 3230 L	中国芸術研究	講義	4	2	○			
	LIT 3130 L	中国文化研究	講義	4	2	○			
歴史・社会	CLS 2370 L	日中比較文化	講義	4	2	○			
	LIT 3334 L	中国のマスコミ	講義	4	2	○			
	LIT 3335 L	中国地域研究	講義	4	2	○			
	ANS1000L	アジア研究概論	講義	4	1	○			
	ANS3180L	東アジア研究	講義	4	2	○			
	ANS2131L	アジアの歴史Ⅰ	講義	4	2	○			
	ANS2132L	アジアの歴史Ⅱ	講義	4	2	○			
	ECO3322L	中国経済論	講義	4	2	○			
								上記選択必修科目を含め、計 36単位	上記選択必修科目を含め、計 20単位

(注1) 「中国語Ⅰ」、「中国語Ⅱ」、「中国語基礎トレーニングⅠ」、「中国語基礎トレーニングⅡ」から2単位修得していることを必要とします。

(注2) 「中国語Ⅰ」、「中国語Ⅱ」、「中国語Ⅲ」、「中国語Ⅳ」、「中国語Ⅴ」、「中国語Ⅵ」、「中国語基礎トレーニングⅠ」、「中国語基礎トレーニングⅡ」、「中国語応用トレーニングⅠ」、「中国語応用トレーニングⅡ」から4単位修得していることを必要とします。

(注3) 「中国語Ⅰ」、「中国語Ⅱ」、「中国語Ⅲ」、「中国語Ⅳ」、「中国語Ⅴ」、「中国語Ⅵ」、「中国語基礎トレーニングⅠ」、「中国語基礎トレーニングⅡ」、「中国語応用トレーニングⅠ」、「中国語応用トレーニングⅡ」、「中国語講読」、「中国語作文」、「中国語リスニング」から6単位修得していることを必要とします。

日本語日本文学専攻プログラム

1. 教育目的

日本語日本文学専攻プログラムは、日本語や日本文学についての知識・教養や専門的な研究方法を身に付けるとともに、日本語を通じた理解力・表現力・思考力を磨くことを目的としています。

国際化、情報化、価値観の多様化の進展する今日、しっかりとした自己を確立し、様々な価値観を持つ人々や異文化を背景とする人々と柔軟にコミュニケーションを図りながら活躍できる人材が求められます。我が国の言語や文化に対する造詣を持ち、日本語の優れた使い手であることは、これからの時代を生きる教養ある国際人に必要な条件と言ってよいでしょう。日本語や日本文学を深く学ぶことは、自己理解・自己確立のための大きな力となります。もちろん、それらの素養を活かして、国語の教員となったり、報道や出版の分野などに進んだりすることも考えられるでしょう。

2. カリキュラムの特徴

この専攻プログラムは〈言語〉〈文学〉〈技能〉の3つのカテゴリーから成っています。

〈言語〉は、日本語を中心とした言語に関する知識と研究方法に関するカテゴリーです。これらを学んで日本語を多面的に理解し、言語一般への目も広げることができます。

〈文学〉は、古代から現代に至る日本文学と、日本語・日本文学に大きな影響を与えてきた中国古典文学（漢文）に関するカテゴリーです。日本人の心性や教養の原点とも言える古典や、近現代の人間・社会を映した文学を、深く読み込み、学んでいきます。

〈技能〉は、文字言語・音声言語にわたる日本語の表現力を養うことを中心としたカテゴリーです。書道やコンピュータによる言語分析、漢字検定対応の科目もあります。

教職課程を登録し、上記科目群から指定された科目を履修することにより、中学・高校の「国語」教員免許状を取得することも可能です。

3. 修了要件

メジャー：合計36単位（最低必要単位）

マイナー：合計20単位（最低必要単位）

カテゴリー	科目コード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
言語	JLS1000L	日本語学概論	講義	2	1	○		必修	必修
	JPE2130L	言語習得法	講義	2	1	△			
	JPE2110L	日本語の表現	講義	4	1	○			
	JLS1050L	日本語の文字・表記	講義	2	1	○			
	LIN1440L	日本語の語彙・意味	演習	4	1	△		4単位 選択必修	
	LIN2440L	日本語の音声	演習	2	1	△	日本語の語彙・意味		
	JPE3110L	日本語の文法	講義	4	2	○			
	JPE2120L	言語と文化	講義	4	2	○			
	LIN2430L	談話分析	演習	4	2	○	言語学への招待	12単位 選択必修	
	JPE3140L	年少者日本語教育	講義	2	3	○			
	LIN3430L	応用言語学	演習	4	2	△			
	LIN3410L	プラグマティックス	演習	4	3	○	談話分析		
	JPE4120L	日本語史	講義	2	3	○			6単位 選択必修
文学	LIT1111L	日本文学史 A	講義	4	1	○		4単位 選択必修	4単位 選択必修
	LIT1112L	日本文学史 B	講義	4	1	○			
	LIT1430L	中国文言文講読	演習	2	2	○			
	LIT2410L	古代文学講読	演習	2	1	○		4単位 選択必修	
	LIT2411L	平安文学講読	演習	2	1	○			
	LIT2412L	中世文学講読	演習	2	1	○			
	LIT2413L	江戸文学講読	演習	2	1	○			
	LIT2414L	近代文学講読	演習	2	1	○		20単位 選択必修	10単位 選択必修
	LIT1330L	中国古典文学史	講義	4	1	○			
	LIT3110L	平安文学の世界	講義	4	2	○			
	LIT3111L	中世文学の世界	講義	4	2	○			
	LIT3112L	江戸文学の世界	講義	4	2	○		4単位 選択必修	
	LIT3113L	近代文学の世界	講義	4	2	○			
	LIT3114L	現代文学の世界	講義	4	2	○			
	LIT3115L	児童文学研究	講義	2	2	○			
	LIT3330L	中国古典文学研究	講義	4	2	○			
技能	JLS1660L	書写	実習	2	1	○			
	JLS1481L	国語・漢字検定Ⅰ	演習	2	1	○			
	JLS1482L	国語・漢字検定Ⅱ	演習	2	1	○			
	COM1004L	オーラルコミュニケーション(書く)	講義	2	1	○			
	COM1003L	オーラルコミュニケーション(話す)	講義	2	1	○			
	JLS2421L	言語表現 A	演習	2	1	○		2単位 選択必修	
	JLS2422L	言語表現 B	演習	2	1	○			4単位 選択必修
	JLS3470L	創作の技法	演習	2	2	○		4単位 選択必修	
	JLS3471L	編集の技法	演習	2	2	○			
	JLS2461L	書道研究Ⅰ	演習	2	2	○			
	JLS2462L	書道研究Ⅱ	演習	2	2	○			
	COM2120L	対人コミュニケーション	講義	4	2	○	現代コミュニケーション理論		
	JPE3450L	言語データ分析	演習	2	2	○			
								計 36単位	計 20単位

日本語教育専攻プログラム

1. 教育目的

日本語教育専攻プログラムは、日本語を通して多文化共生社会に貢献できる人材の育成を目的としています。

日本から海外へ、海外から日本へと、人の行き来が増えるにつれ、異言語や異文化との接触場面が多くなっています。相互理解のベースは「ことば」です。日本語を学びたい人の数も増え続けています。本専攻プログラムでは、多様化した日本語の学修目的に対応した手助けができるよう、日本語の仕組み、日本語の教育方法、日本語教育事情、異文化理解などについて学びます。

将来、国の内外で日本語教育や関連する仕事に携わりたいと思っている人、あるいは日本語や日本語教育を研究したいと思っている人は、そのための確かな基盤となる知識と技能を修得することができます。国際的な場で働きたいと考えている人にとっても、自らの言語・文化とともに他の言語・文化を理解するための力を養うことのできるプログラムです。

2. カリキュラムの特徴

本プログラムは以下の4つのカテゴリーから成っています。

〈言語知識〉文字、音声、語彙、文法など、さまざまな側面から、日本語の仕組みを客観的に学びます。さらに、人々はどうのように言語を運用しているのか、社会の中でどのような言語現象が起きているのかなど、多角的な視点から言語を観察します。

〈教育・習得〉日本語を、学ぶ立場と教える立場から考察し、日本語教育に携わる者として備えておくべき実践的な知識、技能の獲得を目指します。留学生を対象とした教壇実習も行ないます。

〈スキル〉人間関係の基本であるコミュニケーション能力を養うとともに、書写・漢字・表現・作品鑑賞など種々の側面から日本語の運用力を高めます。コンピュータを用いて言語を分析する手法を学ぶ科目もあります。

〈文化・共生〉多様な文化を学ぶことにより、自文化・他文化に対する意識を高め、相互理解の手だてを身につけます。

3. 修了要件

メジャー：合計36単位（最低必要単位）

マイナー：合計20単位（最低必要単位）

カテゴリー	科目コード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
言語知識	JPE2110L	日本語の表現	講義	4	1	○		8単位 選択必修	4単位 選択必修
	JLS1050L	日本語の文字・表記	講義	2	1	○			
	LIN2440L	日本語の音声	演習	2	1	△	日本語の語彙・意味		
	LIN1440L	日本語の語彙・意味	演習	4	1	△			
	JPE3110L	日本語の文法	講義	4	2	○			
	JPE2120L	言語と文化	講義	4	2	○		12単位 選択必修	8単位 選択必修
	JPE1100L	ことばの比較	講義	2	1	○			
	CLS3115L	日中対照言語学	講義	2	3	○			
	LIN3410L	プラグマティックス	演習	4	3	○	談話分析		
	LIN2430L	談話分析	演習	4	2	○	言語学への招待		
	JPE4120L	日本語史	講義	2	3	○			
教育・習得	JPE1111L	日本語教育学 A	講義	2	1	○		必修	必修
	JPE1112L	日本語教育学 B	講義	2	1	○		必修	必修
	JPE2130L	言語習得法	講義	2	1	△			
	JPE2131L	日本語教育文法	講義	2	2	○			
	JPE3240L	日本語教授法	講義	4	2	○		必修	必修
	JPE3451L	日本語教材開発	演習	2	3	○			
	JPE3140L	年少者日本語教育	講義	2	3	○		18単位 選択必修	12単位 選択必修
	JPE3452L	マルチメディア日本語教育	演習	2	3	○			
	JPE3440L	日本語教育実習	演習	4	3	✕	日本語教授法		
	JPE3241L	日本語の評価法	講義	2	2	○			
	JPE4140L	カリキュラムデザイン	講義	2	3	○			
	JPE364*L	海外教育実習	実習	2~4	✕3	✕			
	JPE4440L	海外教育実習事前研修	演習	4	3	×			
スキル	JLS1481L	国語・漢字検定 I	演習	2	1	○		4単位 選択必修	
	JLS1482L	国語・漢字検定 II	演習	2	1	○			
	JLS1660L	書写	実習	2	1	○			
	JLS2421L	言語表現 A	演習	2	1	○			
	JLS2422L	言語表現 B	演習	2	1	○			
	COM2120L	対人コミュニケーション	講義	4	2	○	現代コミュニケーション理論		
	JPE3450L	言語データ分析	演習	2	2	○			
文化・共生	JPE2470L	多言語交流演習	演習	2	1	○		2単位 選択必修	
	ANT1000L	文化人類学	講義	4	1	△			
	ANS2140L	韓国文化論	講義	4	2	○			
	LIT3114L	現代文学の世界	講義	4	2	○			
「*」：数字コードが複数存在する科目								計 36単位	計 20単位

言語学専攻プログラム

1. 教育目的

ことばは様々な側面を持つ多面体です。最初は動物学や論理学などできるだけ離れた専攻プログラムと言語学を組み合わせ、5セメスター目以降は興味を一つに集中させてください。しかし、最も効き目のある強い薬は一年間海外に出かけ、身をもって「外国人」になることの意味を知ることです。こうした経験を経た後に、ことばは以前とはまったく違った問題として意識されるようになります。地球上にことばは7000近く現存するといわれます。ことばに関わる職業もまた人間が活動するあらゆる分野に広がっています。四年間を通して、最低母国語で書いて思考することの意義と技術の体得を目標にしてください。

2. カリキュラムの特徴

一つのことばは移住によって広がりますが、その広がりには戦争によって分断されるかもしれません。こうした問題に興味がある人には歴史、地理、法律、国際関係についての知識が必要です。一方、せまい局面でもことばの実相をとらえることに興味がある人もいるでしょう。対極する例も挙げておきます。私たちはことばを使うと同時に、身体動作もそれに附随させます。この種の問題には人類学、プラグマティックス、コミュニケーション理論、心理学などが不可欠な知識を提供してくれるはずです。

3. 修了要件

メジャー：合計36単位（最低必要単位）

マイナー：合計20単位（最低必要単位）

カテゴリー	科目コード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
入門	LIN1100L	言語学への招待	講義	2	1	○		必修	必修
	LIN1440L	日本語の語彙・意味	演習	4	1	△			
	JPE2130L	言語習得法	講義	2	1	△			
	JPE2110L	日本語の表現	講義	4	1	○			
	MTH1100L	数学概論	講義	2	1	○			
	COM1000L	現代コミュニケーション理論	講義	4	1	○			
基礎	LIN2430L	談話分析	演習	4	2	○	言語学への招待	必修	必修
	LIN2440L	日本語の音声	演習	2	1	△	日本語の語彙・意味	4単位 選択必修	
	LIN2170L	社会言語学	講義	4	2	○			
	LIN2270L	言語政策論	講義	4	2	○	社会言語学		
	ELS1350L	英語の音声	講義	4	1	△			
	CLS2350L	中国語音声学	講義	4	1	○			
	BIO2021L	動物学Ⅰ	講義	2	2	○		36単位 選択必修	20単位 選択必修
	BIO2022L	動物学Ⅱ	講義	2	2	○	動物学Ⅰ		
	PHL3330L	論理学	講義	4	2	○			
	HIS3110L	世界史における日本	講義	4	2	○			
	SOC2021L	社会調査法	講義	4	2	○			
	IST2140L	認知の科学	講義	2	2	○	コンピュータリテラシーⅡ		
	LIN3410L	プラグマティックス	演習	4	3	○	談話分析		
	LIN3360L	対照言語学	講義	4	2	○	言語学への招待		
	LIN3110L	音韻論	講義	2	2	△	日本語の音声		
	LIN3310L	言語学隣接研究	講義	4	2	○	日本語の音声		
	LIN3350L	レトリックの歴史	講義	2	2	○			
理論	LIN3130L	テキスト研究理論	講義	4	2	○			
	COM3140L	言語とジェンダー	講義	4	2	○			
								計 36単位	計 20単位

コミュニケーション学専攻プログラム

1. 教育目的

21世紀を生き抜く現代の若者は、国際化が進み、多様化し複雑化する社会の中で、自分のもっている能力を十分に発揮して、これからの社会に貢献することが強く期待されています。そのためには、円滑な人間関係が築くことのできるコミュニケーション能力が、今まで以上に、ますます求められる時代になってきました。コミュニケーション学専攻プログラムの教育目的は、このような社会の中で、物事を深く理論的に捉えることができる知識を身につけ、その考えを自分の言葉で豊かに表現できる人材、そして日本人だけではなく、文化背景の異なる人でも、人と人とのつながりを大切にしながら、共感力あふれるコミュニケーション能力を身につけたリーダーシップの発揮できる人材の育成をめざしています。そのためには、思考力育成のための知識や理論を学ぶと同時にコミュニケーション能力養成のための実践教育が不可欠です。コミュニケーション・コースでは「表現内容」だけではなく「表現方法」にも重点をおいた教育を行います。

2. カリキュラムの特徴

コミュニケーション学専攻プログラムでは、話すことだけではなく、聴くこと的能力も兼ね備えた総合的なコミュニケーション能力のある優れた人材育成のために、多岐にわたる科目が用意されています。コミュニケーションの基礎概念を学ぶ「現代コミュニケーション理論」「オーラルコミュニケーション（話す）（きく）」から、「対人コミュニケーション」「集団コミュニケーション」「組織コミュニケーション」「異文化コミュニケーション」「国際コミュニケーション」「メディアコミュニケーション」「言語とジェンダー」「コミュニケーション学特論（きくことの科学）」「コミュニケーション調査研究」などの専門科目や、実践教育に重きをおいた「プレゼンテーション演習」「議論とディベート」「ミディエーション」「話し言葉の技法」など、将来自分が就きたい職業も視野に入れて、幅広い科目の中からコミュニケーションを学ぶことができます。

例えば、コミュニケーション教育や企業研修に携わる人には、集団でのリーダーシップのとり方や組織内での円滑なコミュニケーションのとり方を、国際的な場で活躍したい人には、国際的な視野に立って物事を考えると同時に文化背景の異なる人とよりよい人間関係を築くための異文化コミュニケーション能力や交渉力の養成が望まれます。さらに、上記のさまざまなコミュニケーション能力を総合的に支える「話す力」だけではなく、「きく力」を高めることや、日常生活の中の言語を性や差別語という視点から考え、言葉の使い方によって人が規定され束縛されてしまうといった現実を学ぶことも大切です。

3. 修了要件

メジャー：合計36単位（最低必要単位）

マイナー：合計20単位（最低必要単位）

カテゴリー	科目コード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群 学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
コミュニケーション理論	COM1000L	現代コミュニケーション理論	講義	4	1	○		必修	必修
	COM1130L	集団コミュニケーション	講義	2	1	○			
	COM2130L	組織コミュニケーション	講義	4	2	○	集団コミュニケーション		
	COM2120L	対人コミュニケーション	講義	4	2	○	現代コミュニケーション理論		
	COM2140L	異文化コミュニケーション	講義	4	2	○	現代コミュニケーション理論		
	COM3160L	コミュニケーション学特論(非言語)	講義	4	2	○			
	COM2050L	コミュニケーション学特論(きくことの科学)	講義	4	2	○	オーラルコミュニケーション(きく)	18単位 選択必修	8単位 選択必修
	COM3140L	言語とジェンダー	講義	4	2	○			
	COM3143L	異文化理解教育	講義	4	3	○	異文化コミュニケーション		
	COM2143L	国際コミュニケーション	講義	4	2	○			
	COM2170L	メディアコミュニケーション	講義	2	2	○			
	COM3210L	コミュニケーション調査研究	講義	4	2	×			
実践・演習	COM1004L	オーラルコミュニケーション(きく)	講義	2	1	○		2単位 選択必修	
	COM1003L	オーラルコミュニケーション(話す)	講義	2	1	○			
	COM2150L	話し言葉の技法	講義	2	2	×	オーラルコミュニケーション(話す)		
	IST2470L	プレゼンテーション演習	演習	2	2	○			
	COM3450L	議論とディベート	演習	2	2	○			
	COM3030L	ミディエーション	講義	2	2	○	集団コミュニケーション		
言語・レトリック	LIN2440L	日本語の音声	演習	2	1	△	日本語の語彙・意味		
	LIN3350L	レトリックの歴史	講義	2	2	○			
	COM3150L	現代レトリック論	講義	4	3	○			
	LIN2430L	談話分析	演習	4	2	○	言語学への招待		
	LIN3410L	プラグマティックス	演習	4	3	○	談話分析		
福祉社会学	PSY2140L	社会心理学	講義	4	2	○			
	SOC1000L	社会学概論	講義	4	1	○			
								上記必修・選択必修科目を含め、計 36単位	上記必修・選択必修科目を含め、計 20単位

現代・世界文学専攻プログラム

1. 教育目的

19世紀初め、ドイツの文豪ゲーテは、世界各国の国民文学が成立し各国間の通信連絡手段の発達した段階で、世界各国文学を人類共有の精神的財貨として積極的に相互交流する必要を感じて、「世界文学の時代を招致すべく急がねばならぬ」と主張しました。現代は、インターネットなどの普及によって、ゲーテの時代とは比べようもないほど諸国民間のコミュニケーションの機会が増加し、まさに文字通り「世界文学の時代」がやってきたと言えます。

現在世界各地で生じている敵意に満ちた民族間対立、宗派間対立を見るにつけ、異文化理解、異文化交流の必要を感じます。文学こそは各国の人々のありようを理解するもっとも有力な手段です。なぜなら優れた文学は作家の良心の結晶であり、人々の生活のこだまとなって、鏡のようにその国の現実と国民の心情を反映しているからです。日本と諸外国の優れた文学を学ぶことにより、自己のみならず他者をも認識することが条件とされる国際人として、必須の教養を身につけることが本専攻の目的です。

2. カリキュラムの特徴

入門科目として、「人間理解（世界文学に見る人間と文化）」が開講されており、以降は理論科目としての「比較文学」と、日本、イギリス、アメリカ、ロシア、韓国、中国、フランス、ドイツの8ヶ国の文学関係科目が置かれています。これらの科目で知識と方法論を身につけ、各専攻演習・卒業論文へと進むことになります。履修の組み立ては各自の選択にゆだねられていますが、少なくとも3ヶ国以上の文学を比較文学的に考察する視点を持つことが望ましいといえるでしょう。

本専攻の名称が「現代・世界文学」となっているのは、現代に力点が置かれているということであって、世界文学の古典的名作が度外視されているわけでは決してありません。現代に軸足を置きながら、幅広い時代を視野に入れて研究対象を選ぶことが可能です。

3. 修了要件

メジャー：合計36単位（最低必要単位）

マイナー：合計20単位（最低必要単位）

分野	科目コード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー	
導入	LIT2410L	古代文学講読	演習	2	1	○		4単位 選択必修	20単位 選択必修	
	LIT2411L	平安文学講読	演習	2	1	○				
	LIT2412L	中世文学講読	演習	2	1	○				
	LIT2413L	江戸文学講読	演習	2	1	○				
	LIT2414L	近代文学講読	演習	2	1	○				
歴史	LIT2070L	英米文学入門	講義	4	1	△				
	LIT2340L	ロシアの社会と文化	講義	4	2	○				
	HIS4350L	日露文化交流史	講義	4	2	○				
	LIT2330L	中国近現代文学史	講義	4	1	○				
理論	ANS2141L	中国文化論	講義	4	2	○				
	LIT3100L	比較文学	講義	4	2	○		必修	必修	
	LIT3333L	中国近現代思想研究	講義	4	2	○				
世界文学研究	LIT317*L	テーマで読む英米文学	講義	4	2	△	重複履修可			
	LIT3340L	ロシア文学研究	講義	4	2	○				
	ANS2140L	韓国文化論	講義	4	2	○				
	LIT2360L	フランス文学	講義	4	2	○				
	LIT2351L	ドイツ文学Ⅰ	講義	2	2	○				
	LIT2352L	ドイツ文学Ⅱ	講義	2	2	○				
	LIT3113L	近代文学の世界	講義	4	2	○				
	LIT3114L	現代文学の世界	講義	4	2	○				
「*」:数字コードが複数存在する科目								上記必修・選択必修科目を含め、計 36単位	計 20単位	

キリスト教学専攻プログラム

1. 教育目的

日本は近代化への道を歩み始めたころからキリスト教文化圏の国々との交流を重んじてきました。それ以来、教育と文化の面でキリスト教は日本に少なからぬ影響を与えてきました。たとえばキリスト教主義の学校は、本学も含めて大学・短大だけで120校以上あり、小学・中学・高校の数は約400校にもなります。世界を見渡すと、世界総人口約70億人のうち三分の一がキリスト教徒です。特に近年は中国、アフリカ各地で急速にキリスト教人口が増えつつあります。

キリスト教学専攻プログラムは、キリスト教研究を手掛かりにして世界を見る目、歴史を見る目を養い、諸文化の価値観・世界観を吟味することのできる知性と感性を養うことがその目的です。キリスト教にかかわる分野はもちろんのこと、人権尊重の感性や国際的な視野を必要とする分野で働きたいと考えている人に奨めます。どのような宗教上の立場の学生でも専攻することができます。

2. カリキュラムの特徴

キリスト教は二千年の歴史を歩んできました。その間にいろいろの変化や展開を見ていますが、この専攻プログラムでは、キリスト教に関する基本的知識を学問的な成果に基づいて学びます。そのために聖書について、キリスト教の歴史について、そして現代キリスト教の考え方について、大学にふさわしい学問的な方法によって探究します。専門科目の多くは少人数による授業となるので、ゼミナール(演習)に近い形態となり、密度の高い勉強ができるでしょう。

他方、「隣接」区分の科目や、政治や経済、文学、芸術さらには人権、平和、環境等に関する科目を選択的に履修し(他の専攻プログラム科目も可)、そのような分野とキリスト教を関連付けて学び、差別・紛争・貧困・環境破壊等、現代世界が抱えている諸問題の解決のためにキリスト教はどのような貢献ができるかをみずから探求することもできます。

卒業論文の提出は自由選択となりますが、大学で勉強した事をしっかりと自分のものにするためにぜひ論文にまとめることを奨めます。

3. 修了要件

メジャー：合計36単位 (最低必要単位)

マイナー：合計20単位 (最低必要単位)

カテゴリー	科目コード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
基礎	CHR1330L	キリスト教古典入門	講義	2	1	○			
	CHR1020L	キリスト教史	講義	2	1	○			
	CHR2031L	キリスト教神学概論	講義	2	2	○		10単位 選択必修	10単位 選択必修
	CHR2012L	聖書学概論	講義	2	2	○	聖書		
	REL1000L	宗教学概論	講義	4	2	○			
	CHR3150L	一神教研究	講義	2	2	○			
展開	CHR3111L	旧約聖書研究	講義	2	3	○			
	CHR3112L	新約聖書研究	講義	2	3	○			
	CHR3333L	キリスト教の理論	講義	4	3	○			
	CHR3140L	現代キリスト教の諸問題	講義	2	3	○			
	CHR1341L	キリスト教とジェンダー	講義	2	2	○		16単位 選択必修	10単位 選択必修
	CHR2340L	キリスト教と教育	講義	2	1	○			
	REL3340L	宗教と教育	講義	2	2	○			
	CHR3340L	キリスト教文化論	講義	4	2	△			
	REL2350L	西洋文明と思想	講義	4	2	○			
	CHR4400L	専門書講読	演習	4	3	×			
隣接	PSY3146L	宗教心理学	講義	2	2	△	リベラルアーツ学群生／健康福祉学群生のみ履修可		
	ANT2110L	宗教人類学	講義	4	2	○			
	ANT3110L	イスラーム文化論	講義	4	2	○			
	ANT3112L	仏教文化論	講義	4	2	○		10単位 選択必修	
	REL3130L	宗教学の諸問題	講義	2	3	△			
	ETH2000L	倫理学概論	講義	4	2	○			
	ETH3320L	社会思想史	講義	4	3	○			
	ANS3182L	西アジア研究	講義	4	2	○			
								計 36単位	計 20単位

宗教学専攻プログラム

1. 教育目的

人は皆、自己を根底から支える「偉大なるもの／Something Great」との関係において「生き、動き、存在し」、この世界の中に自己を位置づけようと願っています。ですから人は皆、「何処から来て何処へゆくのか」「なぜ生まれ死ぬのか」「愛とは何か」「救済とは何か」といったテーマに惹かれるのです。そして、これが宗教学の問題意識の始まりです。

どうしてこういう問題意識を持つのかといえば、人は皆、自己の存在のはかなさと同時に自己の魂の永遠性を意識しているからでしょう。「宗教的生のダイナミズム」は、自己の限界性と現実を見据えながらも、なお可能性と理想に向かって邁進する人の姿の中に見ることができます。またそれは、捉えたと思った途端に指の間をすり抜けてゆく「究極的な実在」に魅了され、追求して止まない真摯な人間の姿の中に見ることができます。

宗教学とは、世界中に見られる「宗教」という営みを人間の生活現象の一局面として捉え、それがどのように生起し、人間生活の中でどのような位置を占め、どのような役割を演じているのかを、事実即して客観的に整理して、体系的にまとめることです。こうした課題は、自己を理解すると同時に他者を理解することになり、風土・歴史・文化を超えた相互理解の基本形を産み出すことに繋がっていくのです。

宗教学専攻プログラムでは、他者の宗教的経験・信念・洞察から学び、尊び、より良い自己への変革を目指して、他者に対して寛容なる宗教的精神を身につけることを目的とします。従来の「排他的」あるいは「包括的」な宗教理解ではなく、新たな「多元的な」宗教理解を探究するのが宗教学専攻プログラムの教育目標です。

2. カリキュラムの特徴

宗教学は、それぞれの宗教の優劣を論じるものでも、ある特定の宗教の正当性を論じるものでもありません。世界に存在する諸宗教をあるがままに受け止め、比較し、整理することを基本的な作業とします。ですから、世界の諸宗教を学ぶための基本的な理論が、この専攻プログラムにはあります。しかし、各自が関心を持つ具体的な地域における諸宗教に関する学びについては、当学群の他分野から積極的に見つけて学修することをお勧めします。

また、生と死について、魂の永遠性について、愛について、救済について、等々の答えはすぐには見つけられないかもしれませんが、それでもこうした大きなテーマに真摯に取り組むことは無駄ではありません。問い続け、戸惑い、苦悩する中で「考える力」が身につきます。また、人間を根底から支える「大いなるもの」「聖なるもの」「究極的な実在」との関わりから、物事を客観的に見つめる視点も養われます。

宗教学専攻プログラムでは、「宗教多元主義」の理論を学び、諸宗教の実態を積極的に学び、理解することを特徴としています。それは同時に、自分の生まれ育った国、文化、宗教についてのより深い理解へと結びつき、他宗教に生きる人々への「寛容の精神」を養うことへと発展することでしょう。

3. 修了要件

メジャー：合計32単位（最低必要単位）

マイナー：合計20単位（最低必要単位）

カテゴリー	科目コード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
導入・基礎	GEG1100L	文化地理学	講義	4	1	○			
	ENV2350L	人と自然	講義	2	2	○			
	REL1000L	宗教学概論	講義	4	2	○		必修	必修
	CHR1020L	キリスト教史	講義	2	1	○			
	ANT2110L	宗教人類学	講義	4	2	○			
理論	PSY3146L	宗教心理学	講義	2	2	△	リベラルアーツ学群生／健康福祉学群生のみ履修可		
	ETH3370L	環境・生命・人権の哲学	講義	2	3	○			
	LIT2030L	中国思想史	講義	4	1	○			
	ETH2020L	日本思想史	講義	4	2	○			
	REL2300L	日本の宗教	講義	4	2	○		必修	
	ANS2380L	アジアの思想と宗教	講義	4	2	○			
	REL2350L	西洋文明と思想	講義	4	2	○			
	AMS3130L	アメリカ思想史	講義	4	2	○			
	ETH3320L	社会思想史	講義	4	3	○		32単位 選択必修	20単位 選択必修
	ANT3111L	儒教文化論	講義	4	2	○			
	ANS2140L	韓国文化論	講義	4	2	○			
	ANT3112L	仏教文化論	講義	4	2	○			
	CHR3340L	キリスト教文化論	講義	4	2	△			
	ANT3110L	イスラーム文化論	講義	4	2	○			
応用	REL3150L	宗教学研究特論	講義	2	2	○		必修	
	ETH2340L	倫理学研究特論 A	講義	2	2	△			
	PHL3371L	哲学研究特論 A	講義	2	2	○			
	PHL3372L	哲学研究特論 B	講義	2	2	△			
	REL3130L	宗教学の諸問題	講義	2	3	△		必修	
	CHR3150L	一神教研究	講義	2	2	○			
	ETH3150L	倫理学の諸問題 A	講義	4	3	△	倫理学概論		
	PHL2371L	哲学の諸問題 A	講義	4	2	○			
	PHL2372L	哲学の諸問題 B	講義	4	2	○			
								計 32単位	計 20単位

哲学専攻プログラム

1. 教育目的

本専攻プログラムの目的は、哲学の基本的問題・応用的問題の教授学修を通じて、多用で複雑な価値観がぶつかり合う現代社会において、より善い選択をし、より善く生きることができる人間を育成することです。

人間には善く生き、善く行動したい、そうした自分を取り巻く世界について知りたい、という自然な欲求が備わっています。哲学の語源である「ピロソピアー（知を愛し求めること）」とは元来、これらの欲求にもとづいた知の探究の活動を意味していました。現代において諸学問は扱う対象や方法論によって細分化し、哲学もまた派生的に様々な分野に分化しましたが、こうした哲学の本義は揺らぐべきではありません。哲学の扱う対象は、真、善、美、正義、存在、言語などから、科学、歴史、ジェンダー、ポップカルチャーにいたるまで多岐にわたります。そして哲学は、こうした対象をそれぞれ別個・独立したものとして扱うのではなく、個別の対象を含む全体や、対象相互の関係を念頭に置きながら探究を行っていきます。なぜなら、そうすることによってはじめて、哲学的考察は人間にとっての「意味」や「有効性」をもたらすことになるからです。

本専攻では、既存の問題枠組みを謙虚かつ粘り強く学び、そこに自らの興味関心から独自の考察を加えるという訓練を通じて、生涯にわたって善く生きようとする学修者を育てます。

2. カリキュラムの特徴

本専攻は、「理論」「宗教と思想」「思想史」「専門関連科目」「基礎関連科目」の科目群からなります。

本専攻には基幹となる4つの必修科目があり、全て「理論」科目群に属します。まず、哲学的思考力の鍛錬として「論理学」を学びます。そして「哲学概論」では哲学の伝統的な問題や哲学の歴史を学びます。「哲学の諸問題」では比較的新しい応用的な哲学の問題が扱われます。「哲学研究特論」では担当講師が専門とする課題にどのように取り組んでいるかを見て学び、卒業論文等を執筆するための参考モデルにしてもらいます。その他の「理論」科目群では近接する専攻である倫理学や宗教学の科目を複数用意してあります。

「宗教と思想」「思想史」では西洋に限らず、日本、中国、イスラム地域も含め、宗教や思想、文化を教養的に学びます。

「専門関連科目」では心理学、社会学、歴史学、教育学など、哲学にも応用できる他専攻の重要な知識やメソドロジー（学問の方法論）を学ぶことができます。

「基礎関連科目」では哲学の学生が自分のキャリアや社会について理解を深められるような科目を用意してあります。

また本専攻の学生には、「専攻演習」で独自の研究を深め、「卒業論文」でその成果を発表することを強く推奨します。

3. 修了要件

メジャー：合計32単位（最低必要単位）

マイナー：合計20単位（最低必要単位）

カテゴリー	科目コード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
基礎関連科目	MJS2030L	出版の世界	講義	2	1	○			
	MJS1001L	ジャーナリストへの道	講義	2	1	○			
	MJS3210L	新聞社説を読む	講義	2	2	○			
専門関連科目	PSY1002L	心理学	講義	4	1	○			
	PSY1001L	心理学概論	講義	4	1	○			
	SOC1000L	社会学概論	講義	4	1	○			
	HIS1000L	世界史概論	講義	4	1	○			
	POL3110L	国際関係思想	講義	4	2	○			
	EDU2010L	教育思想	講義	2	1	○			
	PSY3146L	宗教心理学	講義	2	2	△	リベラルアーツ学群生／健康福祉学群生のみ履修可		
	ETH3370L	環境・生命・人権の哲学	講義	2	3	○			
思想史	AMS3130L	アメリカ思想史	講義	4	2	○			
	ETH2020L	日本思想史	講義	4	2	○			
	LIT2030L	中国思想史	講義	4	1	○			
	LIT3332L	中国古代思想研究	講義	4	2	○			
	LIT3333L	中国近現代思想研究	講義	4	2	○			
	ETH3320L	社会思想史	講義	4	3	○			
宗教と思想	REL2350L	西洋文明と思想	講義	4	2	○			
	CHR3340L	キリスト教文化論	講義	4	2	△			
	ANT3112L	仏教文化論	講義	4	2	○			
	ANT3110L	イスラーム文化論	講義	4	2	○			
理論	PHL3000L	哲学概論	講義	4	2	○		必修	必修
	PHL3330L	論理学	講義	4	2	○		必修	必修
	PHL2371L	哲学の諸問題 A	講義	4	2	○		4単位 選択必修	4単位 選択必修
	PHL2372L	哲学の諸問題 B	講義	4	2	○			
	PHL3371L	哲学研究特論 A	講義	2	2	○		2単位 選択必修	2単位 選択必修
	PHL3372L	哲学研究特論 B	講義	2	2	△			
	REL1000L	宗教学概論	講義	4	2	○			
	ETH2000L	倫理学概論	講義	4	2	○			
	ETH2340L	倫理学研究特論 A	講義	2	2	△			
	ETH2330L	倫理学研究特論 B	講義	2	2	△			
	ETH3150L	倫理学の諸問題 A	講義	4	3	△	倫理学概論		
	ETH3130L	倫理学の諸問題 B	講義	4	3	△	倫理学概論		
	REL3130L	宗教学の諸問題	講義	2	3	△			
	REL3150L	宗教学研究特論	講義	2	2	○			
								上記必修・選択必修科目を含め、計 32単位	上記必修・選択必修科目を含め、計 20単位

倫理学専攻プログラム

1. 教育目的

倫理学専攻プログラムでは、人類社会の根源にある倫理や道德の世界から深く学びながら、私たちが人生や社会をより善く生き抜くための実践知を身につけていきます。そのためには、はじめに倫理学の基本となる考え方を学問の導入・基礎として学修します。また同時に、倫理や道德の世界を学説史や思想史などの学知に学びながら、バランスのとれた理論知を習得していきます。そして今日の世界が強く求めている現実社会の切実な問題群にとりくむ現代の社会倫理学を学修します。

このように今日の世界や社会にあって私たちが倫理学を学ぶのは、現実の社会問題を的確に分析し正しい解決へと導く力量が鋭く問われているからです。この倫理学専攻は、正義、善、自由、平等、幸福、生命、人権、自然、環境などの人間社会を支える基本的な諸価値をしっかりと理解した成熟社会にふさわしい善き市民の育成をめざしています。卒業後は、社会における有為な人材としての活躍が期待されます。

2. カリキュラムの特徴

倫理学専攻プログラムの第一の特徴は、倫理学だけではなく、隣接する他の3専攻（キリスト教学、宗教学、哲学の各専攻）やその他の諸専攻と密接に補い合いながら学修計画を立てられる点にあります。また、この間、哲学・思想系の学修にとって大切な言語（とくに英語、ドイツ語、フランス語、ラテン語その他の外国語）の学修にも積極的に取り組みます。

倫理学専攻の第二の特徴は、倫理学を基礎にして人権や生命・福祉（生老病死）、平和、開発、環境、歴史、政治、経済、社会、文化、科学・技術、暴力、権力などのテーマ群をも学修できる点にあります。この世界は実践倫理学の領域であり、今日、世界的に注目されています。倫理学専攻では、まず倫理学の主要な諸理論（例えば義務論や功利主義、正義論、討議倫理学など）や倫理学の諸課題（例えばハンセン病問題、水俣病問題、原発問題など）を視野に入れた「倫理学概論」（必修）を導入・基礎として学修し、次いで「倫理学研究特論」（必修）や「倫理学説史」をはじめ「社会思想史」や「環境倫理学」などの理論（選択必修）を学修し、さらに「倫理学の諸問題」（必修）や「応用倫理学」（選択必修）などの現代倫理学の応用領域を学びます。

3. 修了要件

メジャー：合計36単位（最低必要単位）

マイナー：合計20単位（最低必要単位）

カテゴリー	科目コード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
導入・基礎	ETH2000L	倫理学概論	講義	4	2	○		必修	必修
	PHL3000L	哲学概論	講義	4	2	○			
	REL1000L	宗教学概論	講義	4	2	○			
理論	PHL3371L	哲学研究特論 A	講義	2	2	○			
	PHL3372L	哲学研究特論 B	講義	2	2	△			
	REL3150L	宗教学研究特論	講義	2	2	○			
	ETH3320L	社会思想史	講義	4	3	○		12単位 選択必修	6単位 選択必修
	ETH2360L	環境倫理学	講義	2	2	○			
	POL3110L	国際関係思想	講義	4	2	○			
	INT3310L	平和論	講義	4	3	○			
	AMS3130L	アメリカ思想史	講義	4	2	○			
	LIT2030L	中国思想史	講義	4	1	○			
	ETH2020L	日本思想史	講義	4	2	○			
	ETH2340L	倫理学研究特論 A	講義	2	2	△			
	ETH2330L	倫理学研究特論 B	講義	2	2	△		4単位 選択必修	2単位 選択必修
	ETH2341L	倫理学研究特論 C	講義	2	2	△			
	ETH2010L	倫理学説史	講義	2	2	△			
応用	ETH2160L	応用倫理学	講義	2	2	○			
	ETH3370L	環境・生命・人権の哲学	講義	2	3	○			
	PHL2371L	哲学の諸問題 A	講義	4	2	○			
	PHL2372L	哲学の諸問題 B	講義	4	2	○			
	PHL3330L	論理学	講義	4	2	○		12単位 選択必修	4単位 選択必修
	LAW3230L	国際人権法	講義	4	2	○			
	INT2340L	人間の安全保障	講義	4	2	○			
	IST1181L	情報と倫理	講義	2	1	○			
	ENV1001L	環境と文明	講義	4	1	○			
	REL3130L	宗教学の諸問題	講義	2	3	△			
	ETH3150L	倫理学の諸問題 A	講義	4	3	△	倫理学概論	4単位 選択必修	4単位 選択必修
	ETH3130L	倫理学の諸問題 B	講義	4	3	△	倫理学概論		
								計 36単位	計 20単位

文化人類学専攻プログラム

1. 教育目的

文化人類学専攻プログラムでは、地球上のさまざまな異文化について学ぶことを通して自文化をも相対化して捉える鍛錬をし、より広い視野で人間社会や文化の諸現象への洞察力と理解力を深めることを目標とします。すなわち、異文化理解力をもった人材の育成を目差しますが、こうした人材は、特にグローバル化時代とよばれる今日、文化交流、教育分野、開発援助、ジャーナリズム、観光産業など、国際的業務と関わる分野でますます必要とされています。また地球市民の一人として現代社会で生きていくうえでも、重要な基本的価値と意味をもつものです。

2. カリキュラムの特徴

この専攻プログラムは、学修の流れとしては、まずは、導入的な「文化人類学」を必修科目として履修し、その後、より専門的な理論・方法論の科目を選択必修として履修しながら、アジア、アメリカ、日本など具体的な地域やさまざまな宗教に関わる科目とを交差させ組み合わせて学修していきます。加えて、現地で調査を行いながら調査研究の手法を身につける「文化人類学フィールドワーク」などの実習科目が用意されている点が、カリキュラムの特徴と言えます。そうした学修は演習の授業などでより深められ、最終学年において卒業論文として集大成されることが目標となります。

3. 修了要件

メジャー：合計32単位（最低必要単位）

マイナー：合計20単位（最低必要単位）

カテゴリー	科目コード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
導 入	ANT1000L	文化人類学	講義	4	1	△		必修	必修
	SOC1000L	社会学概論	講義	4	1	○			
	GEG1000L	地理学概論	講義	4	1	○			
	REL1000L	宗教学概論	講義	4	2	○			
理 論・方法論	ANT2120L	同時代の人類学	講義	4	2	○			
	ANT2130L	ジェンダーの人類学	講義	4	2	○			
	ANT2110L	宗教人類学	講義	4	2	○			
	ANT2230L	文化人類学特論(性の人類学)	講義	4	2	○		20単位 選択必修	12単位 選択必修
	ANT2220L	文化人類学特論(実践の人類学)	講義	4	2	○			
	ANT2240L	文化人類学特論(遊牧文化論)	講義	2	2	×			
	SOC2130L	比較社会学	講義	4	2	○			
	ANT3600L	文化人類学フィールドワーク	実習	2	2	×	文化人類学		
	INT36**L	国際協力フィールドワーク	実習	1～4	2	○	重複履修可		
社 会・宗教研究	ANS3180L	東アジア研究	講義	4	2	○			
	ANS2150L	東アジアの現代社会	講義	4	2	○			
	ANS2180L	東南アジア研究	講義	4	2	○			
	ANS2181L	東南アジアの現代社会	講義	4	2	○			
	ANS3380L	東北アジア研究	講義	4	2	○			
	ANS3181L	南アジア研究	講義	4	2	○			
	ANS3182L	西アジア研究	講義	4	2	○			
	LIT3335L	中国地域研究	講義	4	2	○			
	LIT1000L	中国文化概論	講義	4	1	○			
	ANS2141L	中国文化論	講義	4	2	○			
	ANS2140L	韓国文化論	講義	4	2	○			
	ANS3381L	アジア女性論	講義	4	2	○			
	AMS2140L	アメリカの文化	講義	4	1	○			
	AMS2131L	アメリカ社会史	講義	4	2	○			
	AMS2150L	アメリカ民族論	講義	4	2	○			
	AMS2151L	アメリカの社会	講義	4	2	○			
	AMS3150L	アメリカ女性論	講義	4	2	○			
	LIT2340L	ロシアの社会と文化	講義	4	2	○			
	JPS3140L	日本文化論	講義	4	2	○			
	ETH2020L	日本思想史	講義	4	2	○			
	REL2300L	日本の宗教	講義	4	2	○			
	ANT3110L	イスラーム文化論	講義	4	2	○			
	CHR3340L	キリスト教文化論	講義	4	2	△			
	ANT3111L	儒教文化論	講義	4	2	○			
	ANT3112L	仏教文化論	講義	4	2	○			
「*」: 数字コードが複数存在する科目								上記必修・選択必修科目を含め、計 32単位	上記必修・選択必修科目を含め、計 20単位

アメリカ地域研究専攻プログラム

1. 教育目的

アメリカ合衆国を主な対象として、多民族多文化社会アメリカの成立とその歴史的展開を跡付け、いまやグローバル化の核として存在している現代アメリカ社会の諸相を分析します。私たちが身近な文化を通して日常的に接しているアメリカと、軍事的・経済的覇権を通して日本にも大きな影響を及ぼしているアメリカという存在を、立体的かつ総合的にとらえることが、アメリカ地域研究の目的です。

アメリカという「地域」についてさまざまな知識を得るだけでなく、ものごとを歴史的に、そしてさまざまな関係性の中でとらえること。自分なりのアメリカ理解を通して、それを世界への認識にひろげ、同時に自らの生まれ育った社会を相対化してとらえること。そのような力をもって、人々とつながり、変化し続ける現実の世界に関与し、学び続けていける人。このプログラムを通して育てていきたいのはそういう人です。

2. カリキュラムの特徴

アメリカ地域研究専攻プログラムのカリキュラムは、専攻の諸領域をカバーする科目の多彩さを特徴としています。アメリカという存在を立体的かつ総合的にとらえるために、特定の学問分野に偏ることなく、幅広い分野からバランスよく科目が配置されています。

この専攻プログラムの科目は〈導入・概論〉〈歴史・民族・文化〉〈社会・政治・経済〉の3つのカテゴリーに分類されます。アメリカを理解するうえで基本となる幅広い教養を身につけるため、メジャー・マイナーとも各カテゴリーごとに選択必修（4単位～8単位）を課していますが、残りの単位数を各自の興味・関心に照らして自由に履修することで、特定の分野を深く学ぶこともできるしくみとなっています。

〈導入・概論〉では「アメリカ研究概論」「アメリカの歴史」「アメリカの文化」の3科目の中から1科目（4単位）が選択必修となっていますが、これらの科目は、この専攻プログラム全体の土台と位置づけられるため、その中から複数を履修することを強く勧めます。

3. 修了要件

メジャー：合計32単位（最低必要単位）

マイナー：合計20単位（最低必要単位）

カテゴリー	科目コード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群 学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
導入・概論	AMS2000L	アメリカ研究概論	講義	4	2	○		4単位 選択必修	4単位 選択必修
	AMS2130L	アメリカの歴史	講義	4	2	○			
	AMS2140L	アメリカの文化	講義	4	1	○			
	HIS1000L	世界史概論	講義	4	1	○		8単位 選択必修	8単位 選択必修
	GEG1000L	地理学概論	講義	4	1	○			
	POL1000L	政治学概論	講義	4	1	○			
	ECO1000L	経済学概論	講義	4	1	○			
	ANT1000L	文化人類学	講義	4	1	△			
	INT2111L	民族研究	講義	4	2	○			
	SOC2130L	比較社会学	講義	4	2	○			
歴史・民族・文化	AMS2131L	アメリカ社会史	講義	4	2	○		8単位 選択必修	4単位 選択必修
	AMS3130L	アメリカ思想史	講義	4	2	○			
	AMS2150L	アメリカ民族論	講義	4	2	○			
	AMS3150L	アメリカ女性論	講義	4	2	○			
	HIS3150L	日米交流史	講義	4	2	○			
	LIT3175L	英語圏の映画と文化	講義	4	3	△			
社会・政治・経済	AMS2151L	アメリカの社会	講義	4	2	○		8単位 選択必修	4単位 選択必修
	AMS3110L	アメリカの政治	講義	4	2	○			
	AMS3111L	アメリカの外交	講義	4	2	○			
	AMS3120L	アメリカの経済	講義	4	2	○			
	ECO3320L	アメリカ経済論	講義	4	2	○			
	MJS2201L	アメリカのジャーナリズム	講義	2	2	○			
	INT3130L	日米関係論	講義	4	2	○			
	AMS3380L	アメリカ研究特論	講義	2	2	○			
								上記選択必修科目を含め、計 32単位	上記選択必修科目を含め、計 20単位

アジア地域研究専攻プログラム

1. 教育目的

社会科学の研究手法に基づいて、アジアの社会事象を自分自身で構造化してとらえることができるようになることを目指します。アジア地域研究の専攻プログラムでは、多様なアジアの社会事象を、歴史学、政治学、経済学、社会学、文化人類学等の様々な観点から多面的に捉える能力を養います。偏見や一面的なものの見方でなく、複眼的な思考ができる学生の育成を重視し、最終的にはアジア諸国と積極的に国際交流ができる人材に育てることを目標とします。アジアの人々の価値観や歴史観、宗教に対する姿勢を学ぶ中で、日本人のものの考え方が実はかなり特殊なものであることを理解することが大切です。

2. カリキュラムの特徴

1年生は、「リベラルアーツセミナー」を通じて、学問の基礎となる読解・文章表現・プレゼンテーションの仕方の基礎を学び、同時に将来の専攻地域を見据えて、英語や地域言語を学びます。2年生からは、各自の問題関心に応じて、入門基礎科目（「世界史概論」「政治学概論」「宗教学概論」「文化人類学」「アジア研究概論」）をまず学びます。その後、「アジアの歴史と文化」科目群と、「世界の中のアジア」科目群の各科目を選択履修します。「アジアの歴史と文化」は歴史科目（「アジアの歴史Ⅰ、Ⅱ」「日韓交流史」等）、宗教を含むアジア文化研究科目（「儒教文化論」「イスラーム文化論」等）から成ります。「世界の中のアジア」は、地域科目（「東北アジア研究」「東南アジア研究」「南アジア研究」「西アジア研究」等）や、広域アジア科目（「オセアニアの政治と経済」等）のほか、横断的な科目（「発展途上国論」「アジアの政治」等）から成ります。学びの系統は、〈アジア歴史研究〉、〈東北アジア研究〉、〈東南アジア研究〉、〈広域アジア研究〉、〈アジア文化研究〉の5つです。科目の選択にあたっては、自分の学びの系統を意識しながら、なおかつバランスのとれた履修を心がけてください。なお、〈広域アジア研究〉は、南アジアやオセアニア等の他、東アジア共同体などもテーマとすることができます。

3. 修了要件

メジャー：合計32単位（最低必要単位）

マイナー：合計20単位（最低必要単位）

カテゴリー	科目コード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー	
入門基礎	HIS1000L	世界史概論	講義	4	1	○		4単位 選択必修	20単位 選択必修	
	POL1000L	政治学概論	講義	4	1	○				
	REL1000L	宗教学概論	講義	4	2	○				
	ANT1000L	文化人類学	講義	4	1	△				
	ANS1000L	アジア研究概論	講義	4	1	○				
アジアの歴史と文化	ANS2131L	アジアの歴史Ⅰ	講義	4	2	○		8単位 選択必修		
	ANS2132L	アジアの歴史Ⅱ	講義	4	2	○				
	HIS3250L	ユーラシア文化交流史	講義	4	2	○				
	HIS3220L	日韓交流史	講義	4	2	○				
	ANS2380L	アジアの思想と宗教	講義	4	2	○				
	ANT3111L	儒教文化論	講義	4	2	○				
	ANT3112L	仏教文化論	講義	4	2	○				
	ANS2140L	韓国文化論	講義	4	2	○				
	ANT3110L	イスラーム文化論	講義	4	2	○				
ANS2141L	中国文化論	講義	4	2	○					
世界の中のアジア	ANS2381L	発展途上国論	講義	4	2	○		8単位 選択必修		
	ANS3110L	アジアの政治	講義	4	2	○				
	ANS2120L	アジアの経済	講義	4	2	○				
	ANS3380L	東北アジア研究	講義	4	2	○				
	ANS3180L	東アジア研究	講義	4	2	○				
	ANS2150L	東アジアの現代社会	講義	4	2	○				
	ANS2180L	東南アジア研究	講義	4	2	○				
	ANS2181L	東南アジアの現代社会	講義	4	2	○				
	ANS3181L	南アジア研究	講義	4	2	○				
	ANS3182L	西アジア研究	講義	4	2	○				
	ANS2310L	オセアニアの政治と経済	講義	4	2	○				
	ANS3381L	アジア女性論	講義	4	2	○				
	ANS338*L	アジア研究特論	講義	4	2	○	重複履修可			
「*」: 数字コードが複数存在する科目								上記選択必修科目を含め、計 32単位		計 20単位

日本地域研究専攻プログラム

1. 教育目的

日本地域研究専攻プログラムは、日本をよく知ることを目指すものです。桜美林大学の教育目的である「国際人の育成」のためには、生きた外国語を学ぶことも必要です。また、急速に変化する世界の諸地域の政治や経済、文化についての知見も必要でしょう。しかし、日本のあり方、歴史や文化、政治や経済、社会の動向などを、国際的な視野からきちんと把握できる成熟した人間となることも、同時に重要ではないでしょうか。その「学び」の中で、各自の関心に応じて個別の問題を探究することも可能です。

このようにして日本のあり方を広い視野から知り、日本の抱えている問題点を考察することは、批判的思考能力を身につけることでもあります。こうした「学び」を重ねることは、日本社会においてであれ日本以外の社会においてであれ、各自の将来設計に関係を持つし、自分の将来を主体的に切りひらいていく際の力になるでしょう。

2. カリキュラムの特徴

日本地域研究専攻プログラムのカリキュラムは、多様な分野にわたるもので、大きく分けて〈歴史〉〈文化〉〈政治経済〉のカテゴリーの科目を用意しています。この3つのカテゴリーのいずれか1つを中心にする学部や学科は数多くありますが、桜美林大学リベラルアーツ学群の「日本地域研究」は、それらを組み合わせているのです。

ですから、学生各自の関心に応じて、日本を中心とする国際交流を勉強するとか、日本の政治を勉強するとか、日本文化を中心に勉強するとかが可能で、そういう勉強を組み合わせで「日本地域研究」の専攻ということになります。比較的概説的な科目を用意するとともに、上記3つのカテゴリーに沿った個別的なテーマに関する勉強ができるよう配慮しています。幅広い一般的な教養を得ることとともに、あるテーマに関しては、各人の問題意識に即した専門的知識を持つことが大事だと考えられるからです。

3. 修了要件

メジャー：合計32単位（最低必要単位）

マイナー：合計20単位（最低必要単位）

カテゴリー	科目コード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群 学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
歴史	HIS1001L	日本史概論	講義	4	2	○		必修	
	JPS2131L	日本の歴史Ⅰ	講義	4	2	○			
	JPS2132L	日本の歴史Ⅱ	講義	4	2	○			
	HIS3110L	世界史における日本	講義	4	2	○			
	JPS3130L	日本古代中世史	講義	2	2	○			
	JPS2130L	戦後日本史	講義	2	2	○			
	HIS3150L	日米交流史	講義	4	2	○			
	ETH2020L	日本思想史	講義	4	2	○			
	EDU2311L	日本教育史	講義	2	2	○			
文化	JPS2000L	日本研究概論	講義	4	2	○		必修	必修
	JPS3140L	日本文化論	講義	4	2	○		必修	必修
	GEG1010L	地誌学概論	講義	2	1	○			
	REL2300L	日本の宗教	講義	4	2	○			
	JPS1140L	日本の民俗	講義	2	1	○			
	LIT3113L	近代文学の世界	講義	4	2	○			
	LIT3114L	現代文学の世界	講義	4	2	○			
	HIS3220L	日韓交流史	講義	4	2	○			
	HIS4350L	日露文化交流史	講義	4	2	○			
	CLS2370L	日中比較文化	講義	4	2	○			
	ANS2133L	日中交流史	講義	2	2	○			
	ANS2182L	日中交流論	講義	2	2	○			
政治経済	INT3130L	日米関係論	講義	4	2	○			
	POL2120L	日本の政治	講義	4	2	○			
	POL2150L	現代日本の政治	講義	4	2	○			
	INT3321L	近代日本の外交	講義	4	2	○			
	LAW1020L	日本国憲法	講義	2	1	○			
	ECO2320L	日本経済論	講義	4	2	○			
	ECO2380L	日本経済史	講義	4	2	○			
	JPS2380L	日本研究特論(日米文化社会比較)	講義	4	2	○			
	MJS2200L	日本のジャーナリズム	講義	2	2	○			
								上記選択必修科目を含め、計32単位	計 20単位

歴史学専攻プログラム

1. 教育目的

「歴史とは過去について学ぶこと」ですが、「過去について学んでいる私たち自身は、現在を生きている」とも付け加えておきましょう。歴史を学ぶことは、実は、「現在」を考えることでもあるのです。私たちの周りで起きていることの原因や意味を、過去にさかのぼって探り、現在の私たちが「当たり前」と思っていることが、過去においてもそうだったのかを知ろうとする姿勢。歴史学専攻プログラムでは、その名前の通り、歴史について考える場を提供するとともに、過去や現在の社会状況に対する、そのような好奇心を育みたいと思っています。過去の人々が残した歴史史料に向かうと、自分の思い込みや価値観が崩されることもあれば、逆に、同じ史料を自分の視点から解釈することも出来ます。そのような史料との対話のなかから、一つの歴史イメージが作られ、それをめぐる議論が生じる。その議論こそが、現在の自分を見つめ直すという、歴史学の重要な作業なのです。

2. カリキュラムの特徴

歴史学専攻プログラムの科目は、〈導入と理論〉、〈歴史学の方法〉、〈グローバル社会と歴史〉という3つのカテゴリーに分類されており、基本的には、学年が進むとともに、これらのカテゴリーから科目を履修できるようになっています。まず、1年次は、他の専攻プログラムと同様に、「リベラルアーツセミナー」、語学、情報などの授業を受講するとともに、数多く用意されている専攻入門や学問基礎の講義を受けます。2年次からは、〈歴史学の方法〉の科目が履修できるようになり、各地域の歴史について学びます。それと同時に、〈グローバル社会と歴史〉から、より具体的なトピック（文化、思想など）に焦点を当てた科目や、複数の地域にまたがった歴史を学ぶ多彩な科目を履修します。さらに、専門的な歴史のトピックを追究したい人は、3年次からの演習を履修した後に、4年次には卒業論文として、自分の研究をまとめることができます。

3. 修了要件

メジャー：合計36単位（最低必要単位）

マイナー：合計20単位（最低必要単位）

カテゴリー	科目コード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群 学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
導入と理論	HIS1000L	世界史概論	講義	4	1	○		4単位 選択必修	4単位 選択必修
	HIS1001L	日本史概論	講義	4	2	○			
	ANT1000L	文化人類学	講義	4	1	△		4単位 選択必修	
	AMS2000L	アメリカ研究概論	講義	4	2	○			
	ANS1000L	アジア研究概論	講義	4	1	○			
	JPS2000L	日本研究概論	講義	4	2	○			
歴史学の方法	JPS2131L	日本の歴史Ⅰ	講義	4	2	○		8単位 選択必修	4単位 選択必修
	JPS2132L	日本の歴史Ⅱ	講義	4	2	○			
	AMS2130L	アメリカの歴史	講義	4	2	○			
	ANS2131L	アジアの歴史Ⅰ	講義	4	2	○			
	ANS2132L	アジアの歴史Ⅱ	講義	4	2	○			
	INT2121L	国際関係史Ⅰ	講義	4	2	○			
	INT2122L	国際関係史Ⅱ	講義	4	2	○			
グローバル社会と歴史	POL1000L	政治学概論	講義	4	1	○		20単位 選択必修	12単位 選択必修
	LIT2030L	中国思想史	講義	4	1	○			
	LIT1000L	中国文化概論	講義	4	1	○			
	AMS3130L	アメリカ思想史	講義	4	2	○			
	AMS2131L	アメリカ社会史	講義	4	2	○			
	AMS2140L	アメリカの文化	講義	4	1	○			
	ETH2020L	日本思想史	講義	4	2	○			
	HIS3220L	日韓交流史	講義	4	2	○			
	HIS3250L	ユーラシア文化交流史	講義	4	2	○			
	HIS3110L	世界史における日本	講義	4	2	○			
	INT2111L	民族研究	講義	4	2	○			
	HIS3150L	日米交流史	講義	4	2	○			
	HIS4350L	日露文化交流史	講義	4	2	○			
	INT3321L	近代日本の外交	講義	4	2	○			
	INT3320L	冷戦後の国際関係	講義	4	2	○			
	ETH3320L	社会思想史	講義	4	3	○			
								計 36単位	計 20単位

国際関係専攻プログラム

1. 教育目的

本学建学の精神である「教養豊かな識見の高い国際的人材の育成」のために国際関係プログラムでは、何よりもまず世界を知ること学びます。国際関係とは一体何でしょう。国と国との関係でしょうか。いえそれだけではありません。人と人との国境を越えた交流も国際関係の重要な要素です。国際関係での国や人の動きは複雑です。平和な時もあれば戦争になる時もあります。何故でしょうか。貿易や投資といった経済に原因があるのでしょうか。それとも民族や宗教などに原因があるのでしょうか。こうした疑問に自らが答えるために、国際政治、国際法を中心に、多分野にまたがる知識を身につけながら国際関係に関わるさまざまなトピックを通じて学びます。その知識をもとに、貧困や飢餓、戦争のない、自由、平等で平和な世界を構築するために私たちに何ができるのか、その手掛かりを一人ひとりがつかみ、平和に向けて実践できるよう皆と一緒に学んでいきます。

2. カリキュラムの特徴

国際関係を理解する上で基礎となる「国際関係基礎」、国際関係を学ぶ上で核となる「理論」、その理論を手がかりに、具体的な問題関心に沿って学ぶ「テーマ別」というカテゴリーから成り立っています。国際関係論においては政治学的理解が重要なので、基礎科目には「国際関係論」の他、「国際政治論」「政治学概論」が配置されています。「理論」の科目としては、国際関係の歴史、国際関係の基礎をなす国家や民族についての理論、戦争と平和についての理論・思想、国際法や国際機構、政治学関連の科目を学びます。さらに「テーマ別」としては、アメリカ、アジア、日本、ヨーロッパ各地域について具体的に学ぶとともに、国際関係論とつながりの深い国際協力の科目も配置しています。

国際関係論は、経済学を含む社会・人文科学の多様な学問分野とつながりのある学問ですから、関連が比較的深い国際協力、アメリカ・アジア・日本地域研究、あるいは社会学、文化人類学、歴史学、国際経済、倫理学といった専攻とのダブルメジャー、メジャー・マイナーの組み合わせを推奨しています。

3. 修了要件

メジャー：合計36単位（最低必要単位）

マイナー：合計20単位（最低必要単位）

カテゴリー	科目コード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
国際関係基礎	INT1001L	国際政治論	講義	4	1	○		4単位 選択必修	
	POL1000L	政治学概論	講義	4	1	○			
	INT1002L	国際関係論	講義	4	1	○			
理論	INT2121L	国際関係史Ⅰ	講義	4	2	○		4単位 選択必修	
	INT2122L	国際関係史Ⅱ	講義	4	2	○			
	POL2170L	国家論	講義	4	2	○			
	INT2110L	紛争論	講義	4	2	○			
	INT2111L	民族研究	講義	4	2	○			
	LAW2130L	国際法	講義	4	2	○			
	INT3310L	平和論	講義	4	3	○			
	POL3110L	国際関係思想	講義	4	2	○			
	LAW3330L	難民・移民の人権	講義	4	2	○			
	INT3110L	国際機構論	講義	4	2	○			
	LAW3230L	国際人権法	講義	4	2	○			
	LAW3231L	国際協力法	講義	4	2	○			
	POL3130L	比較政治学	講義	4	2	○			
	POL3180L	政治過程論	講義	4	2	○			
特別	INT1000L	国際協力入門(NGO論)	講義	4	1	○			
	INT2132L	国際交流論	講義	4	2	○			
	INT2340L	人間の安全保障	講義	4	2	○			
	ANS2381L	発展途上国論	講義	4	2	○			
	POL2120L	日本の政治	講義	4	2	○			
	POL2150L	現代日本の政治	講義	4	2	○			
	AMS3111L	アメリカの外交	講義	4	2	○			
	ANS3381L	アジア女性論	講義	4	2	○			
	ANS3110L	アジアの政治	講義	4	2	○			
	INT3320L	冷戦後の国際関係	講義	4	2	○			
	INT3330L	ヨーロッパの政治	講義	4	2	○			
	INT3321L	近代日本の外交	講義	4	2	○			
	INT4340L	国際協力特論(グローバル・ガバナンス)	講義	4	3	○			
								上記選択必修科目を含め、計 36単位	計 20単位

国際協力専攻プログラム

1. 教育目的

人類が直面する地球規模の課題（平和、貧困、難民、子ども、女性、マイノリティなどの人権、環境など）の解決には、国や文化背景の異なる多くの人々の相互理解と国境を越えた協力が必要です。国際協力専攻プログラムでは、これらの地球規模の現状やその原因を学び、同時に、問題解決にあたっている国際機関、政府機関、NGO などの支援活動や法政策、そして、課題を理解します。また、現状や活動を講義で理解するだけでは不十分であり、行動と実践を伴ってはじめて国際協力が動き出すため、実践的な学びや行動力も重視します。国際協力専攻の目的は、こうした理論と実践の学修によって、国際協力を職業とすることを目指す人の育成はもとより、学生が地球規模の課題についての幅広い知識と深い共感、そして行動力をもった市民となり、卒業後には、社会人として自立しながら地球規模の課題にも関心と関与を保ち続ける、そんな「地球市民の育成」を目指します。

2. カリキュラムの特徴

1 年次では、第3世界の貧困問題を中心に国際協力を概説する科目、移民や多文化・国際交流などの問題を概説する科目を学修します。語学は国際協力に必要な英語とさらにもう1言語の習得を期待します。2 年次以降は、国際法、国際協力法、国際人権法、国際機構論、現代倫理学などの国際協力の基礎的な学問、また、開発経済学、国際政治や平和論などの政治学分野の学問を学びます。さらに、難民・移民、子ども、ジェンダー、環境、平和構築、人間の安全保障など国際協力分野での個別の課題についての講義が用意されています。そして、実習を重視する立場から、国際協力フィールドワーク、JICA・JF・NGO 等の国際協力・国際交流機関でのインターンシップ、NGO や NPO で働くための実務実習、NGO/NPO 起業のための社会起業実習も用意されています。夏休みや春休み中にアジア・アフリカ等開発途上国での体験学修も行います。更に、3、4 年次では、自分が関心を持つ国際協力・国際交流のテーマを絞り深く研究するために専攻演習と卒業論文の作成を奨励し、そのためのゼミの履修を強く勧めます。その他、学修方法として、各自の興味にそって、教育、環境、経済などの他の専攻とのダブルメジャーや、また、実践の場としての学生の自主活動への参加も奨励します。

3. 修了要件

メジャー：合計36単位（最低必要単位）

マイナー：合計20単位（最低必要単位）

カテゴリー	科目コード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
導入	INT1000L	国際協力入門 (NGO論)	講義	4	1	○		4単位 選択必修	4単位 選択必修
	ANS2381L	発展途上国論	講義	4	2	○			
	LAW1000L	法律学概論 (国際法を含む)	講義	4	1	○			
基礎	ETH2000L	倫理学概論	講義	4	2	○		4単位 選択必修	
	SOC1000L	社会学概論	講義	4	1	○			
	INT1002L	国際関係論	講義	4	1	○			
	INT1001L	国際政治論	講義	4	1	○			
トピックス	INT2132L	国際交流論	講義	4	2	○		8単位 選択必修	
	LAW3330L	難民・移民の人権	講義	4	2	○			
	INT2340L	人間の安全保障	講義	4	2	○			
	ANS3381L	アジア女性論	講義	4	2	○			
	INT3341L	持続可能な開発	講義	4	2	○			
	INT3342L	子どもと開発	講義	4	2	○			
	INT3343L	ジェンダーと開発	講義	4	2	○			
	INT3344L	平和構築論	講義	4	2	○			
理論	ETH3370L	環境・生命・人権の哲学	講義	2	3	○		8単位 選択必修	12単位 選択必修
	INT2112L	国際協力論	講義	4	2	○			
	ECO3132L	経済開発論	講義	4	2	○			
	LAW2130L	国際法	講義	4	2	○			
	LAW3231L	国際協力法	講義	4	2	○			
	LAW3230L	国際人権法	講義	4	2	○			
	INT3110L	国際機構論	講義	4	2	○			
	POL3130L	比較政治学	講義	4	2	○			
	INT3310L	平和論	講義	4	3	○			
実習	INT4340L	国際協力特論 (グローバル・ガバナンス)	講義	4	3	○			
	INT2600L	国際学インターン A	実習	2	2	△		4単位 選択必修	4単位 選択必修
	INT2601L	国際学インターン B	実習	2	2	△			
	INT36**L	国際協力フィールドワーク	実習	1～4	2	○	重複履修可		
	INT260*L	NGO/NPO 実務実習 A	実習	1～4	2	△			
	INT360*L	NGO/NPO 実務実習 B	実習	1～4	2	△			
「*」: 数字コードが複数存在する科目								上記選択必修科目を含め、計 36単位	計 20単位

社会学専攻プログラム

1. 教育目的

社会学は経済学、政治学などと並ぶ社会科学の1つであり、社会と文化を研究対象とする学問です。私たちにとって、自分の社会・文化は、とても身近な「あたりまえ」のものとなっています。そのため、日常生活の中では、社会・文化に関する「常識」的なものの見方・考え方にとらわれることも少なくありません。社会学は、そうした「あたりまえ」の「常識」から一歩距離をとり、「常識」の背後に隠された世の中のしくみを解明しようとする学問なのです。

社会学専攻プログラムでは、社会と文化についての学びを通して、国際社会や地域社会において、自分の文化とは異なる多様な文化を理解し、互いの違いを認め合いながら共生していくことのできる、幅広い視野を備えた人材を育成します。

2. カリキュラムの特徴

社会学専攻プログラムは、以下の①～③のカテゴリーから成るカリキュラムです。

①〈導入〉カテゴリーとして、「社会学概論」が置かれています。「社会学概論」は1年生の段階から履修できますので、1年生のうちに履修しておくとい良いでしょう。

②〈理論・方法〉カテゴリーには、「社会学史」「比較社会学」といった理論系科目と同時に、「社会調査法」「社会統計学」といった調査系科目が配置されています。社会学において、理論と調査はどちらも欠かすことのできない重要なものであり、ぜひ両者をバランスよく身につけていただければと思います。

③〈トピックス〉カテゴリーには、「文化社会学」「家族社会学」「現代社会研究」「地域社会学」などをはじめとして、社会と文化に関するさまざまな応用科目が用意されており、基本から応用へとスムーズに展開していくことができるような科目構成になっています。

3. 修了要件

メジャー：合計36単位（最低必要単位）

マイナー：合計20単位（最低必要単位）

カテゴリー	科目コード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
導入	SOC1000L	社会学概論	講義	4	1	○		必修	必修
理論・方法	SOC2110L	社会学史	講義	4	2	○		必修	4単位 選択必修
	SOC2021L	社会調査法	講義	4	2	○		必修	
	SOC2130L	比較社会学	講義	4	2	○			
	SOC3020L	社会統計学	講義	2	2	△			
	ENV3230L	社会環境調査法	講義	2	2	○			
	SOC2140L	家族社会学	講義	4	2	○			
トピックス	SOC2131L	文化社会学	講義	4	2	○			
	SOC3150L	地域社会学	講義	4	2	○			
	SOC3130L	現代社会研究	講義	4	2	○			
	SOC3250L	社会学特講	講義	2	3	○			
	AMS2140L	アメリカの文化	講義	4	1	○		36単位 選択必修	20単位 選択必修
	INT1000L	国際協力入門 (NGO論)	講義	4	1	○			
	ANT1000L	文化人類学	講義	4	1	△			
	POL2170L	国家論	講義	4	2	○			
	AMS3150L	アメリカ女性論	講義	4	2	○			
	PSY2140L	社会心理学	講義	4	2	○			
	INT2111L	民族研究	講義	4	2	○			
	ANS3381L	アジア女性論	講義	4	2	○			
	INT3341L	持続可能な開発	講義	4	2	○			
	ETH3320L	社会思想史	講義	4	3	○			
	SOC3350L	環境社会学	講義	4	2	△			
	ECO3150L	社会政策	講義	4	2	○			
								計 36単位	計 20単位

心理学専攻プログラム

1. 教育目的

心理学専攻プログラムでは、心理学関連科目を幅広く、体系的に学ぶことができます。社会における価値観の多様化やIT化に代表されるような情報量の拡大は、人間理解をますます困難にしているだけでなく、新しいタイプのコミュニケーションの問題も生じさせています。また、いじめや不登校に代表される教育現場での心の問題、人間関係における心の問題、非行や犯罪・社会問題の背後にある心の問題、ストレス社会という言葉に代表されるように心身の健康の背後にある心の問題など、現代社会の病とも言うべき諸問題は身近なところに数多くみられます。こうした状況の中で、私たちはいかに心身の健康を維持・増進していくのか、社会が心理学に期待する事柄は実に無数にあるといえるでしょう。心理学専攻プログラムでの学びを通して、これらの諸問題への関心を深めるとともに、問題解決へ立ち向かえる人を育てたいと思います。

2. カリキュラムの特徴

まずは「人間理解（心を学ぶ）」（基礎教育科目）や、「心理学」（専攻科目）などの講義で心理学とはどのような学問であるかを学びます。次に、「心理測定法」や「心理学研究法」などの履修を通して心理学研究の方法について学びます。展開科目群では幅広い分野の科目を学修することができますが、心の問題や心の病について学ぶ臨床心理学関連の科目と心身の総合的な健康について学ぶ健康心理学関連の科目に注目してください。これらの分野には特に力が入れています。最後に実習・演習科目ですが、ここではより実践的な学修に取り組みます。さらに専門的な学修のために、専攻演習や卒業研究へ進む人も多いでしょう。本カリキュラムでは、認定心理士と健康心理士の資格取得に対応しています（P. 238～240参照）。より深く学びたい人は、大学院に臨床心理士の受験資格が取得できる臨床心理学専攻（第一種指定校）と専門健康心理士の資格が取得できる健康心理学専攻のコースを設置していますので、進学を目指すという道もあります。

3. 修了要件

メジャー：合計36単位（最低必要単位）

マイナー：合計20単位（最低必要単位）

カテゴリー	科目コード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
基礎・方法論	PSY1002L	心理学	講義	4	1	○		必修	
	PSY1160L	健康教育概論	講義	2	2	○			
	PSY1210L	心理測定法	講義	2	1	○		4単位 選択必修	
	PSY2210L	心理学研究法	講義	2	2	○	心理学		
	PSY2211L	心理統計法	講義	2	2	○	心理測定法		
展開科目	PSY2120L	生涯発達心理学	講義	4	1	○			
	PSY2123L	教育心理学（心理学）	講義	4	2	○			
	PSY2130L	学習心理学	講義	4	2	○			
	PSY3130L	認知心理学	講義	4	2	○			
	PSY2132L	生理心理学	講義	2	2	○			
	PSY2140L	社会心理学	講義	4	2	○			
	PSY3140L	家族心理学	講義	4	2	○			
	PSY3143L	産業・組織心理学	講義	4	2	○			
	PSY2143L	人間関係論	講義	4	2	○			
	PSY2150L	人格心理学	講義	4	2	○		26単位 選択必修	
	PSY2153L	臨床心理学	講義	4	2	○			12単位 選択必修
	PSY3153L	心理療法概論	講義	4	2	○			
	MED1340L	精神保健学	講義	4	2	○			
	PSY3155L	精神医学	講義	4	2	○			
	PSY2160L	健康心理学	講義	4	2	○			
	PSY3160L	健康心理カウンセリング概論	講義	2	3	○	健康心理学		
	PSY3161L	健康心理アセスメント概論	講義	2	3	○	健康心理学		
	PSY3157L	学校カウンセリング論	講義	2	3	△	リベラルアーツ学群生／健康福祉学群生のみ履修可		
	PSY3156L	人間性心理学	講義	2	2	△	リベラルアーツ学群生／健康福祉学群生のみ履修可		
	PSY3146L	宗教心理学	講義	2	2	△	リベラルアーツ学群生／健康福祉学群生のみ履修可		
実習・演習	PSY3640L	社会心理学調査実習	実習	2	2	△	心理測定法 リベラルアーツ学群生／健康福祉学群生のみ履修可		
	PSY3510L	心理学基礎実験	実験	2	2	△	心理学研究法、心理統計法 リベラルアーツ学群生／健康福祉学群生のみ履修可		
	PSY3610L	心理学実験実習	実習	2	3	△	心理学基礎実験 リベラルアーツ学群生／健康福祉学群生のみ履修可	2単位 選択必修	
	PSY3410L	心理統計法演習	演習	2	3	△	心理学研究法、心理統計法 リベラルアーツ学群生／健康福祉学群生のみ履修可		
	PSY3660L	健康心理学基礎実習	実習	2	3	△	健康心理カウンセリング概論、健康心理アセスメント概論 リベラルアーツ学群生／健康福祉学群生のみ履修可		
								計 36単位	計 20単位

教育学（教職教育）専攻プログラム

1. 教育目的

本専攻では、人間の成長と発達を教育という普遍的でかつ歴史的な現象からとらえます。教育という働きが人間と社会にどのように関係して作用しているかを研究します。教育の本質、教育思想、教育の歴史、諸外国の教育構造の比較などを通して教育を学びます。このような学修と研究をすることで、将来、人間社会の発展に貢献する資質を身につけ、教育関連の職業のみならずよりよい社会の形成をリードしていくことを目指しています。また、この専攻プログラムでは教職課程の科目とも一部相乗りしています。教員免許の取得をして教職を強く希望する学生は、教職課程に登録して、取得しようとする免許（教科）の必修科目はもとより法令上及び本学が指定する必要な単位を修得することになります。

2. カリキュラムの特徴

教職課程のカリキュラムとも一部連動します。「教職実践演習（中・高）」、教育実習に関する科目や各教科の指導法を除いた専門科目を最低36単位履修します。

本専攻プログラムでは、〈基礎・入門〉科目の「教育学概論」「教育思想」など4科目から6単位以上を選択必修としています。そして「教育哲学」「西洋教育史」「日本教育史」「比較教育学」などの〈理論〉科目、「家庭と教育」「宗教と教育」「現代アジアの教育と文化」などの〈トピックス〉科目から30単位以上を選択していきます。

なお、教職課程に登録して教職を目指す学生は、教職課程（P.201～）を参照してください。

3. 修了要件

メジャー：合計36単位（最低必要単位）

マイナー：合計20単位（最低必要単位）

カテゴリー	科目コード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
基礎・入門	EDU1000L	教育学概論	講義	2	1	○			選択必修
	EDU2010L	教育思想	講義	2	1	○			選択必修
	EDU1030Q	教職入門	講義	2	1	○		6単位 選択必修	
	LAW1020L	日本国憲法	講義	2	1	○			
理論	EDU2011L	教育哲学	講義	2	2	○			選択必修
	EDU2310L	西洋教育史	講義	2	2	○			選択必修
	EDU2311L	日本教育史	講義	2	2	○			選択必修
	EDU3310L	比較教育学	講義	2	2	○			選択必修
	EDU2300L	教育原理（教職課程）	講義	2	1	○			選択必修
	PSY2220L	教育心理学（教職課程）	講義	2	2	○	教職課程登録者のみ履修可		
	EDU2390L	教育制度論	講義	2	2	○			
	EDU2340L	教育課程論	講義	2	2	○			
	EDU3340L	道德教育論	講義	2	2	○			
	EDU3341L	特別活動論	講義	2	2	○			
	EDU3320L	教育方法論	講義	2	2	○			選択必修 の中から 20単位
	EDU3321L	生徒指導論（生徒理解と教育相談）	講義	2	2	○			
	EDU3322L	進路指導論	講義	2	2	○			
	PSY2130L	学習心理学	講義	4	2	○			
	PSY2120L	生涯発達心理学	講義	4	1	○			選択必修
	PSY3140L	家族心理学	講義	4	2	○			選択必修
	EDU2360L	生涯学習概論	講義	2	1	○			選択必修
トビックス	CHR2340L	キリスト教と教育	講義	2	1	○			選択必修
	EDU2080L	家庭と教育	講義	2	1	○			選択必修
	REL3340L	宗教と教育	講義	2	2	○			選択必修
	EDU3311L	現代アジアの教育と文化	講義	2	2	○			選択必修
	LIS3200L	読書と豊かな人間性	講義	2	3	○			
	LIS3270L	情報メディアの活用	講義	2	3	○			
								上記選択必修科目を含め、計 36単位	計 20単位

国際経済専攻プログラム

1. 教育目的

グローバル化した今日の国際経済においては、諸外国の経済や社会の動きは、互いに深い依存関係にあります。我々の日常生活や各国の景気や政策も、こうした国際経済の動きによって、さまざまなところで大きな影響を受けています。

国際経済専攻プログラムでは、こうした国際経済の動きに関して、貿易、国際資本移動、国際労働移動、国際通貨変動といった諸要因が動くメカニズムを理解するとともに、アジア、アメリカ、ヨーロッパその他各国、地域の経済に関する幅広い知識、教養を身につけることを目的としています。こうした学修を通じて、一般の製造、サービス業に加え、貿易や金融といった国際間の経済取引に関わるさまざまな仕事や、国・地方・国際公務員、あるいは近年、企業活動のグローバル化が進む中で重要性が増している、企業の国際展開に有用な人材を育成することを目指しています。

2. カリキュラムの特徴

本専攻プログラム科目は、「国際経済論」「国際貿易論」「国際金融論」「経済開発論」「国際投資論」「多国籍企業論」といった国際経済の一般的理論に関わる科目と、「アメリカ経済論」「中国経済論」「ヨーロッパ経済論」「アジアの経済」といった、世界の各国や地域の経済の実状に関する科目とに、分かれます。

また、国際経済についての理解を一層深めるため、メジャーの修了要件を満たしたうえで、それぞれの関心に応じて「金融論」「企業金融論」「財政学」「経済政策」「労働経済論」などといった経済関連の科目や、国際関係・地域研究などの他専攻プログラムの科目を学ぶことも有益です。

3. 修了要件

メジャー：合計36単位（最低必要単位）

マイナー：合計20単位（最低必要単位）

カテゴリー	科目コード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
基礎	ECO1010L	基礎ミクロ経済学	講義	2	1	○			
	ECO1011L	基礎マクロ経済学	講義	2	1	○		4単位 選択必修	4単位 選択必修
	ECO1012L	政治経済学	講義	4	1	○			
理論・歴史	ECO1080L	経済史	講義	4	1	○			
	ECO1001L	経済数学入門Ⅰ	講義	2	1	○			
	ECO1002L	経済数学入門Ⅱ	講義	2	1	○			
	ECO2010L	経済学史	講義	4	2	○			
	ECO2011L	マクロ経済学	講義	4	2	○			
	ECO2012L	ミクロ経済学	講義	4	2	○			
	ECO2300L	経済統計論	講義	4	2	○			
	ECO2380L	日本経済史	講義	4	2	○			
	ECO2320L	日本経済論	講義	4	2	○			
	ECO2140L	金融論	講義	4	2	○		16単位 選択必修	4単位 選択必修
	LAW2350L	労働法	講義	4	2	○			
	LAW3051L	経済法Ⅰ	講義	2	2	○			
	LAW3052L	経済法Ⅱ	講義	2	2	○			
	ECO3110L	計量経済学	講義	2	2	○			
	ECO3111L	経済変動論	講義	4	2	○			
	ECO2112L	現代資本主義論	講義	4	2	○			
	ECO3113L	ゲーム理論	講義	2	2	○			
	ECO2350L	社会経済学	講義	4	2	○			
	ECO2301L	経済学特殊講義	講義	2	2	○			
応用・その他	ECO3130L	国際経済論	講義	4	2	○			
	ECO3131L	国際金融論	講義	4	2	○			
	ECO3132L	経済開発論	講義	4	2	○			
	ECO3330L	多国籍企業論	講義	4	2	○			
	ECO3320L	アメリカ経済論	講義	4	2	○			
	ECO3321L	ヨーロッパ経済論	講義	4	2	○		16単位 選択必修	12単位 選択必修
	ECO3322L	中国経済論	講義	4	2	○			
	ECO3323L	ロシア東欧経済論	講義	4	2	○			
	ECO3133L	国際マクロ経済学	講義	4	2	○			
	ECO3331L	国際投資論	講義	4	2	○			
	ECO3332L	国際貿易論	講義	4	2	○			
	ANS2120L	アジアの経済	講義	4	2	○			
								計 36単位	計 20単位

ビジネスエコノミクス専攻プログラム

1. 教育目的

企業活動のグローバル化やインターネットを活用した新たなビジネスモデルの出現など、企業や産業をめぐる環境は複雑になり、企業組織や産業組織は従来とは異なる対応が求められています。

ビジネスエコノミクス専攻プログラムは、このように変化しつつある企業活動を経済学の観点から深く学ぶことを目的としています。個別産業を対象とする科目群や産業調査や経営分析などの科目を通じて、企業や産業についてその現状や問題点を学ぶことができます。

こうした「学び」を通じて、製造業、金融・保険業、卸売・小売業、情報通信業、サービス業など幅広い産業や企業で活躍するための基礎的な知識や能力を習得することができます。

2. カリキュラムの特徴

本専攻プログラムは、基礎科目から専門科目を無理なく積み上げていけるように、各科目群が有機的に配置されています。1年次から2年次春学期にかけて学ぶ基盤となる科目には、カテゴリー〈基礎〉に配置されている「基礎ミクロ経済学」「基礎マクロ経済学」「政治経済学」がありますので、これらを履修することを勧めます。その後経済学を本格的に学びたい人は、1年次秋学期から2年次にかけて、カテゴリー〈理論・歴史〉に配置されている経済3専攻プログラムの共通科目群を履修して下さい。2年次の秋学期頃から、カテゴリー〈応用・その他〉に配置されている「企業経済論」「産業組織論」「産業構造論」「企業金融論」「産業調査論」や「企業分析論」など、ビジネスエコノミクスに関する基礎的な科目の履修を始め、3年次で本格的に個別産業科目群などの専門科目を履修していきます。

3. 修了要件

メジャー：合計36単位（最低必要単位）

マイナー：合計20単位（最低必要単位）

カテゴリー	科目コード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
基礎	ECO1010L	基礎ミクロ経済学	講義	2	1	○			
	ECO1011L	基礎マクロ経済学	講義	2	1	○		4単位 選択必修	4単位 選択必修
	ECO1012L	政治経済学	講義	4	1	○			
理論・歴史	ECO1080L	経済史	講義	4	1	○			
	ECO1001L	経済数学入門Ⅰ	講義	2	1	○			
	ECO1002L	経済数学入門Ⅱ	講義	2	1	○			
	ECO2010L	経済学史	講義	4	2	○			
	ECO2011L	マクロ経済学	講義	4	2	○			
	ECO2012L	ミクロ経済学	講義	4	2	○			
	ECO2300L	経済統計論	講義	4	2	○			
	ECO2380L	日本経済史	講義	4	2	○			
	ECO2320L	日本経済論	講義	4	2	○			
	ECO2140L	金融論	講義	4	2	○		16単位 選択必修	4単位 選択必修
	LAW2350L	労働法	講義	4	2	○			
	LAW3051L	経済法Ⅰ	講義	2	2	○			
	LAW3052L	経済法Ⅱ	講義	2	2	○			
	ECO3110L	計量経済学	講義	2	2	○			
	ECO3111L	経済変動論	講義	4	2	○			
	ECO2112L	現代資本主義論	講義	4	2	○			
	ECO3113L	ゲーム理論	講義	2	2	○			
	ECO2350L	社会経済学	講義	4	2	○			
	ECO2301L	経済学特殊講義	講義	2	2	○			
応用・その他	ECO3170L	企業経済論	講義	4	2	○			
	ECO3370L	中小企業論	講義	4	2	○			
	ECO3371L	情報経済論	講義	4	2	○			
	ECO3372L	サービス経済論	講義	4	2	○			
	ECO3171L	産業組織論	講義	4	2	○			
	ECO3373L	工業経済論	講義	4	2	○			
	ECO3374L	農業経済論	講義	4	2	○		16単位 選択必修	12単位 選択必修
	ECO3375L	流通経済論	講義	4	2	○			
	MGM3310L	企業分析論	講義	4	2	○			
	ECO3376L	産業調査論	講義	4	2	○			
	ECO3340L	企業金融論	講義	4	2	○			
	ECO3172L	産業構造論	講義	4	2	○			
	ECO3360L	労働経済論	講義	4	2	○			
								計 36単位	計 20単位

公共政策専攻プログラム

1. 教育目的

私たちは、市場経済と政府活動が混合した経済システムの中で、消費者・生産者・労働者・住民・学生・主婦などの立場に立ちながら、生活しています。公共政策専攻プログラムは、市場経済と政府活動を貫く、市民・地域・保全・共生・発展などの「公共」という観点から、様々な公共政策の性格と問題点を分析していきます。

とくに本専攻プログラムは、環境汚染、格差社会、年金不安、雇用不安、資源・エネルギー問題などの重要な問題に取り組みます。これらの様々な諸問題を克服しようとする「公共政策」はどのようなものがあり、どのような効果があるのかを学修していきます。この学修を通して、仕事、生活、市民、国民、人間という様々な観点から、自らが人生で直面する問題を理解して解決策を提示しながら、人生をたくましく生き抜いていく学生を育成することが、公共政策専攻プログラムの目的です。

2. カリキュラムの特徴

＜基礎＞、＜理論・歴史＞の分野で、経済学を学修する上で必要な理論とツール（数学、統計）を学びます。そして、＜応用・その他＞の分野で、「公共経済学」、「経済政策」から全体的な視野を獲得し、環境に関する「環境経済論」、「資源・エネルギー論」、労働に関する「労働経済論」、「社会政策」、財政に関する「財政学」、「地方財政論」、社会保障に関する「社会保障論」、生活に関する「生活経済論」などを学修して、多様な公共政策の性格と問題点を学修していきます。

3. 修了要件

メジャー：合計36単位（最低必要単位）

マイナー：合計20単位（最低必要単位）

カテゴリー	科目コード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群 学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
基礎	ECO1010L	基礎ミクロ経済学	講義	2	1	○			
	ECO1011L	基礎マクロ経済学	講義	2	1	○		4単位 選択必修	4単位 選択必修
	ECO1012L	政治経済学	講義	4	1	○			
理論・歴史	ECO1080L	経済史	講義	4	1	○			
	ECO1001L	経済数学入門Ⅰ	講義	2	1	○			
	ECO1002L	経済数学入門Ⅱ	講義	2	1	○			
	ECO2010L	経済学史	講義	4	2	○			
	ECO2011L	マクロ経済学	講義	4	2	○			
	ECO2012L	ミクロ経済学	講義	4	2	○			
	ECO2300L	経済統計論	講義	4	2	○			
	ECO2380L	日本経済史	講義	4	2	○			
	ECO2320L	日本経済論	講義	4	2	○			
	ECO2140L	金融論	講義	4	2	○		16単位 選択必修	4単位 選択必修
	LAW2350L	労働法	講義	4	2	○			
	LAW3051L	経済法Ⅰ	講義	2	2	○			
	LAW3052L	経済法Ⅱ	講義	2	2	○			
	ECO3110L	計量経済学	講義	2	2	○			
	ECO3111L	経済変動論	講義	4	2	○			
	ECO2112L	現代資本主義論	講義	4	2	○			
	ECO3113L	ゲーム理論	講義	2	2	○			
	ECO2350L	社会経済学	講義	4	2	○			
	ECO2301L	経済学特殊講義	講義	2	2	○			
応用・その他	ECO3341L	金融政策	講義	4	2	○			
	ECO3140L	財政学	講義	4	2	○			
	ECO3150L	社会政策	講義	4	2	○			
	ECO3350L	生活経済論	講義	2	2	○			
	ECO3190L	環境経済論	講義	4	2	○			
	POL3360L	行政学	講義	4	2	○			
	ECO3351L	経済政策	講義	4	2	○		16単位 選択必修	12単位 選択必修
	ECO3352L	社会保障論	講義	2	2	○			
	ECO3360L	労働経済論	講義	4	2	○			
	ECO3342L	地方財政論	講義	4	2	○			
	ECO3353L	厚生経済学	講義	2	2	○			
	ECO3151L	公共経済学	講義	4	2	○			
	ECO3390L	資源・エネルギー論	講義	4	2	○			
								計 36単位	計 20単位

数学専攻プログラム

1. 教育目的

現代科学の基盤とも言える数学は代数的な分野、幾何的な分野、解析的な分野等、様々な分野に分かれているように見えながらも、渾然一体となって統一的な数学を形作っています。本専攻では、文明社会に貢献するために数学を体系的に学ぶことと、リベラルアーツの観点からも意義のある数学の力を培うことを目的とします。ややもすれば断片的知識の詰め込みであった入学前までの数学の知識を整理・統合し、現代も発展し続ける数学の一層高い知識と思考能力を身につけ、多様な自然・社会現象及び数学的現象を観察し、数学的な手法で分析し、解明することが出来るようになるための手助けをすることを数学専攻は目標としています。学修の過程で数学のいろいろな定理を理解できたときの喜びを味わうことは、人生にとって何事にも代え難い経験となることでしょう。情報通信・金融・保険・出版・教育といった各種の職場では、社会の高度化に伴って高い数学的素養を持って様々な出来事・対象を数理的に、かつ、独創的に分析できる人材がますます求められており、これらの職場で活躍できる人材の育成を目指します。

2. カリキュラムの特徴

数学専攻では〈導入〉(1000レベル)・〈基礎〉(2000レベル)で数理的思考の基礎を培います。〈専門〉(3000・4000レベル)では、数学の学修基盤を培うと同時に、数学の最新の話題なども扱う予定です。そして、リベラルアーツの観点から数学の知識に幅を持たせるための〈応用・総合〉には、他の専攻プログラムの中からも多くの選択必修科目が用意されています。このように本専攻では、数学に関する幅広い教養を培うことができるカリキュラムになっています。

本専攻では、コンピュータを利用した講義や実験も用意されており、体験を通して数理的思考を養うことも配慮されています。

さらには、数学を基礎から体系的に学び、大学院における専門的な数学の学びへと発展させることも可能なカリキュラムになっています。

3. 修了要件

メジャー：合計36単位（最低必要単位）

マイナー：合計20単位（最低必要単位）

カテゴリー	科目コード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー	
導入	MTH1100L	数学概論	講義	2	1	○		必修	4単位 選択必修 (注1)	2単位 選択必修 (注1)
	PHY1000L	物理学概論	講義	2	1	○				
	CHM1000L	化学概論	講義	2	1	○				
	BIO1000L	生物学概論	講義	2	1	○				
	ESC1000L	地学概論	講義	2	1	○				
基礎	MTH2010L	線形代数学	講義	4	2	○	数学概論(注2) 又は線形代数学入門と微分積分学入門	必修		必修
	MTH2030L	微分積分学	講義	4	2	○	数学概論(注2) 又は線形代数学入門と微分積分学入門	必修		必修
	MTH2400L	数学演習	演習	2	2	○	数学概論(注2) 又は線形代数学入門と微分積分学入門	必修		必修
専門	MTH3030L	解析学	講義	4	3	○	線形代数学、微分積分学	14単位 選択必修		8単位 選択必修
	MTH3070L	確率論と統計学	講義	4	3	○	微分積分学			
	MTH4060L	離散数学	講義	4	3	○	線形代数学			
	MTH3010L	代数学	講義	4	3	○	線形代数学、微分積分学			
	MTH4040L	幾何学	講義	4	3	○	線形代数学、微分積分学			
	MTH3280L	コンピュータとデータ解析	講義	2	3	○	確率論と統計学			
応用・総合	PHY2011L	力学Ⅰ	講義	2	2	○	物理学概論(注2)(注3)	4単位 選択必修		
	PHY2012L	力学Ⅱ	講義	2	2	○	力学Ⅰ			
	PHY2031L	電磁気学Ⅰ	講義	2	2	○	物理学概論(注2)(注3)			
	PHY2032L	電磁気学Ⅱ	講義	2	2	○	電磁気学Ⅰ			
	PHY2040L	熱力学	講義	2	2	○	物理学概論(注2)(注3)			
	PHY3040L	統計力学	講義	2	3	○	微分積分学、力学Ⅰ、熱力学			
	PHY3061L	量子力学Ⅰ	講義	2	3	○	力学Ⅰ、力学Ⅱ、電磁気学Ⅰ			
	PHY3062L	量子力学Ⅱ	講義	2	3	○	線形代数学、微分積分学 量子力学Ⅰ			
	PHY4301L	物理学特論Ⅰ	講義	2	3	○	物理学概論(注2)			
	PHY4302L	物理学特論Ⅱ	講義	2	3	○	物理学概論(注2)			
	PHY2501L	物理学実験Ⅰ	実験	2	2	×				
	PHY3502L	物理学実験Ⅱ	実験	2	3	×	物理学実験Ⅰ			
	CHM3130L	化学熱力学・反応速度	講義	2	2	○	化学概論(注2)(注4)			
	CHM3135L	量子化学	講義	2	2	○	化学概論(注2)(注4)			
	ESC3051L	地球物理学Ⅰ	講義	2	3	○	物理学概論(注2)(注3)			
	ESC3052L	地球物理学Ⅱ	講義	2	3	○	地球物理学Ⅰ			
	IST2130L	情報システム論	講義	4	2	○	コンピュータリテラシーⅡ			
	IST2450L	応用表計算	演習	2	2	○	コンピュータリテラシーⅡ			
	IST2411L	プログラミングⅠ	演習	2	2	○	コンピュータリテラシーⅡ			
	IST3412L	プログラミングⅡ	演習	2	2	○	プログラミングⅠ			
	IST3120L	ソフトウェア概論	講義	4	3	○	情報システム論			
								上記必修・選択必修科目を含め、計 36単位	計 20単位	

(注1) 高等学校における数学・理科の修得状況などによって必修・選択必修を免除される場合があります。免除された単位数は他のカテゴリーの中より科目を修得することで修了要件単位数を満たしてください。ただし、理科の教職課程登録者は免除になりません。(免除の申請は6セメスター終了以前に行ってください。)

(注2) 高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。

(注3) 物理学概論との同時履修を認める場合があります。

(注4) 化学概論との同時履修を認める場合があります。

物理学専攻プログラム

1. 教育目的

物理学は、自然科学の一分野であり、自然界に見られる現象において人間の恣意的な解釈に依らない普遍的な法則があると考えられる学問です。自然界の現象とその性質について、物質とその間に働く相互作用によって理解することの力学的理解、及び物質をより基本的な要素に還元して理解することの原子論的理解を目的とします。

物理学専攻プログラムでは、物理学を中心として、身の回りの「不思議」の発見から始め、問題と仮説を設定し、モデル化を行い、検証する科学的な営みを体験的に学びます。また、物理学の基礎ばかりではなく、リベラルアーツ学群の教育目標を踏まえて人格の幅を広げかつ広い視野から諸事象を俯瞰できる能力が養えるように考慮しています。

本専攻プログラムでは、自然科学及び科学技術に対する広い視野とともに論理的に思考する能力及びコミュニケーション能力を養い、科学技術の急速な発展に対処しうる人材の育成を目指します。また、大学院課程への緩やかな一貫性を考慮しています。卒業後に、大学院進学、教員、サイエンス・コミュニケーター、情報通信などの様々な分野で活躍できる人材の育成を目指します。

2. カリキュラムの特徴

物理学は積み上げの学問でもあります。物理学の知識・能力・技能を修得するため、〈導入〉、〈基礎〉、〈実験〉、〈応用・総合〉が設定されています。〈導入〉(1000レベル)では、高等学校で物理を履修していない学生にも対応した概論科目により、物理学に閉じることなく自然科学一般に通用する基礎学力を養成します。〈基礎〉(2000・3000レベル)では、物理学で使用する数学を含めて物理学を修得する上で重要な科目についての学修をします。〈実験〉(2000・3000レベル)では、実験を通して講義内容の理解をさらに深めます。〈応用・総合〉では、物理学の基礎を利用した学問分野について学修し、物理学の知識・能力・技能を深めます。

本専攻プログラムのメジャー修了要件では、一般企業を志望する学生はもちろんのこと、大学院進学、理科の教員免許取得を目指す学生にも対応するカリキュラムとなっています。また、マイナー修了要件でも、最低限の物理学の知識は身につけることができることから、文系を含めた他の専攻をメジャーとする学生が、科学・技術・社会の視点から社会の様々な問題を考察する上でとても有効な学びとなるはずです。

3. 修了要件

メジャー：合計36単位（最低必要単位）

マイナー：合計20単位（最低必要単位）

カテゴリー	科目コード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群 学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー	
導入	MTH1100L	数学概論	講義	2	1	○		必修	6単位 選択必修 (注1)	4単位 選択必修 (注1)
	PHY1000L	物理学概論	講義	2	1	○		必修		
	CHM1000L	化学概論	講義	2	1	○				
	BIO1000L	生物学概論	講義	2	1	○				
	ESC1000L	地学概論	講義	2	1	○				
基礎	MTH2010L	線形代数学	講義	4	2	○	数学概論(注2) 又は線形代数学入門と微分積分学入門	必修	20単位 選択必修	
	MTH2030L	微分積分学	講義	4	2	○	数学概論(注2) 又は線形代数学入門と微分積分学入門	必修		
	PHY2011L	力学Ⅰ	講義	2	2	○	物理学概論(注2)(注3)	必修		
	PHY2012L	力学Ⅱ	講義	2	2	○	力学Ⅰ	必修		
	PHY2031L	電磁気学Ⅰ	講義	2	2	○	物理学概論(注2)(注3)	必修		
	PHY2032L	電磁気学Ⅱ	講義	2	2	○	電磁気学Ⅰ	必修		
	PHY2040L	熱力学	講義	2	2	○	物理学概論(注2)(注3)			
	PHY3040L	統計力学	講義	2	3	○	微分積分学、力学Ⅰ、熱力学			
	PHY3061L	量子力学Ⅰ	講義	2	3	○	力学Ⅰ、力学Ⅱ、電磁気学Ⅰ			
	PHY3062L	量子力学Ⅱ	講義	2	3	○	線形代数学、微分積分学 量子力学Ⅰ			
実験	PHY2501L	物理学実験Ⅰ	実験	2	2	×		必修	6単位 選択必修	16単位 選択必修
	PHY3502L	物理学実験Ⅱ	実験	2	3	×	物理学実験Ⅰ	必修		
	CHM2501L	化学実験Ⅰ	実験	2	2	×	化学概論(注2)			
	CHM3502L	化学実験Ⅱ	実験	2	3	×	化学実験Ⅰ			
	BIO2501L	生物学実験Ⅰ	実験	2	2	×				
	BIO3502L	生物学実験Ⅱ	実験	2	3	×	生物学実験Ⅰ			
	ESC2501L	地学実験Ⅰ	実験	2	2	△				
	ESC3502L	地学実験Ⅱ	実験	2	3	△	地学実験Ⅰ			
応用・総合	MTH3030L	解析学	講義	4	3	○	線形代数学、微分積分学	2単位 選択必修	4単位 選択必修	
	PHY4301L	物理学特論Ⅰ	講義	2	3	○	物理学概論(注2)			
	PHY4302L	物理学特論Ⅱ	講義	2	3	○	物理学概論(注2)			
	CHM3130L	化学熱力学・反応速度	講義	2	2	○	化学概論(注2)(注4)			
	CHM3135L	量子化学	講義	2	2	○	化学概論(注2)(注4)			
	ESC3051L	地球物理学Ⅰ	講義	2	3	○	物理学概論(注2)(注3)			
	ESC3052L	地球物理学Ⅱ	講義	2	3	○	地球物理学Ⅰ			
	ESC3081L	気象学Ⅰ	講義	2	2	○	物理学概論(注2)(注3)			
	ESC3082L	気象学Ⅱ	講義	2	2	○	気象学Ⅰ			
	ESC3091L	天文学Ⅰ	講義	2	3	○	物理学概論(注2)			
	ESC3092L	天文学Ⅱ	講義	2	3	○	天文学Ⅰ			

(注1) 高等学校における数学・理科の修得状況などによって必修・選択必修を免除される場合があります。免除された単位数は他のカテゴリーの中より科目を修得することで修了要件単位数を満たしてください。ただし、理科の教職課程登録者は免除になりません。(免除の申請は6セメスター終了以前に行ってください。)

(注2) 高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。

(注3) 物理学概論との同時履修を認める場合があります。

(注4) 化学概論との同時履修を認める場合があります。

化学専攻プログラム

1. 教育目的

私たちが生きている世界は、物質によって構成されています。さまざまな物質が存在し、それが組み合わせられることによって人体のような高度な機能を持った組織が実現しているだけでなく、物質はたえず変化しており、それらの変化も私たちが生活する空間を特徴づける役割を果たしています。このように、私たちが私たちの住む世界や私たち自身のしくみを理解することが、これまでの人類の進歩に貢献してきましたし、これからも貢献していくことは間違いありません。

化学専攻プログラムは、身の回りに存在するさまざまな物質を切り口として、その化学構造や化学反応のしくみを理解することを通じて、自然科学の基礎を体系的に学ぶこととともに、科学的なものの見方や考え方を身につけることを目的としています。これらを学ぶことを通じて、身の回りや地球上の自然に対する理解を深め、新しい自然観を培うことをめざします。

本専攻プログラムでは、リベラルアーツの精神に沿って、化学だけに閉じることなく、幅広い自然科学の分野にふれつつも、化学を中心に学び、それを社会に活かせる人材を養成することを目的としています。高等学校で化学を履修してこなかった学生も受け入れるために、導入科目にも力を入れています。この専攻プログラムを選択することで、化学の基本的な知識とそれを活かす能力・技能を修得することができるようなプログラムになっています。また、さらに高度な知識を求めようとする学生に対しては、大学院課程に継続できるような配慮も行っています。具体的な進路としては、化学系を中心とする企業や、大学院進学、教員、サイエンス・コミュニケーターなどの様々な分野が考えられます。

2. カリキュラムの特徴

化学の学問体系は、積み上げの学問であると同時に複数分野が並列する学問でもあります。本専攻プログラムでは、化学の基本的な知識・能力・技能を修得するため、〈導入〉、〈基礎〉、〈実験〉、〈応用・総合〉が設定されています。〈導入〉（1000レベル）では、高等学校で理科をあまり履修してこなかった学生にも対応した概論科目により、化学に閉じることなく理学一般をカバーする基礎学力を養成します。〈基礎〉（2000・3000レベル）では、化学の代表的分野である「無機化学」、「有機化学」、「分析化学」、「物理化学」、「生化学」を学ぶほか、理科の他分野の科目の履修も奨励されます。〈実験〉（2000・3000レベル）では、実験をとおして講義の内容をさらに理解するとともに、実験の技術を身につけることを目標とします。〈応用・総合〉では、化学の基礎を利用した応用分野・関連分野について学ぶことで、より広い化学の知識を身につけることが出来ます。

本専攻プログラムのメジャー修了要件では、大学院進学希望者へのカリキュラム上の配慮を重視しており、理科の教員免許取得を目指す学生にも対応するカリキュラムとなっています。またマイナー修了要件でも、最低限の化学の知識は身につけることができることから、文系を含めた他の専攻をメジャーとする学生が知識の幅を広げる場としても有効です。

3. 修了要件

メジャー：合計36単位（最低必要単位）

マイナー：合計20単位（最低必要単位）

カテゴリー	科目コード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群 学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
導入	MTH1100L	数学概論	講義	2	1	○			
	PHY1000L	物理学概論	講義	2	1	○			
	CHM1000L	化学概論	講義	2	1	○		必修(注1)	4単位 選択必修 (注1)
	BIO1000L	生物学概論	講義	2	1	○			必修(注1)
	ESC1000L	地学概論	講義	2	1	○			4単位 選択必修 (注1)
基礎	CHM2011L	無機化学Ⅰ	講義	2	2	○	化学概論(注2)(注3)	必修	必修
	CHM2012L	無機化学Ⅱ	講義	2	2	○	無機化学Ⅰ		
	CHM2021L	基礎有機化学	講義	2	2	○	化学概論(注2)(注3)	必修	必修
	CHM2022L	有機合成化学	講義	2	2	○	基礎有機化学		
	CHM3140L	基礎分析化学	講義	2	2	○	化学概論(注2)(注3)	必修	必修
	CHM3145L	機器分析化学	講義	2	2	○	基礎分析化学		
	CHM3130L	化学熱力学・反応速度	講義	2	2	○	化学概論(注2)(注3)	必修	必修
	CHM3135L	量子化学	講義	2	2	○	化学概論(注2)(注3)	必修	必修
	BIO3050L	生化学	講義	2	3	○			
	CHM3150L	生物物質化学	講義	2	2	○	化学概論(注2)(注3)		
	MTH2030L	微分積分学	講義	4	2	○	数学概論(注2) 又は線形代数学入門と微分積分学入門		
	MTH2010L	線形代数学	講義	4	2	○	数学概論(注2) 又は線形代数学入門と微分積分学入門		
	MTH1030L	微分積分学入門	講義	2	1	○	微分積分学の既修得者は履修不可		
	MTH1010L	線形代数学入門	講義	2	1	○	線形代数学の既修得者は履修不可		
	PHY2011L	力学Ⅰ	講義	2	2	○	物理学概論(注2)(注4)		
	PHY2031L	電磁気学Ⅰ	講義	2	2	○	物理学概論(注2)(注4)		
実験	PHY2501L	物理学実験Ⅰ	実験	2	2	×			
	PHY3502L	物理学実験Ⅱ	実験	2	3	×	物理学実験Ⅰ		
	CHM2501L	化学実験Ⅰ	実験	2	2	×	化学概論(注2)	必修	必修
	CHM3502L	化学実験Ⅱ	実験	2	3	×	化学実験Ⅰ	必修	
	BIO2501L	生物学実験Ⅰ	実験	2	2	×			
	BIO3502L	生物学実験Ⅱ	実験	2	3	×	生物学実験Ⅰ		
	ESC2501L	地学実験Ⅰ	実験	2	2	△			
	ESC3502L	地学実験Ⅱ	実験	2	3	△	地学実験Ⅰ		
応用・総合	CHM4300L	化学特論	講義	2	3	○	化学概論(注2)	必修	
	CHM3160L	エネルギー化学	講義	2	3	○			
	CHM2270L	化学と人間社会	講義	2	2	○			
	CHM2260L	環境化学	講義	2	2	○			
	ECO3390L	資源・エネルギー論	講義	4	2	○			
	ENV2360L	環境リスク論	講義	2	2	○			
	ENV3330L	食品安全論	講義	2	3	○			
	PHY2040L	熱力学	講義	2	2	○	物理学概論(注2)(注4)		
	PHY3040L	統計力学	講義	2	3	○	微分積分学、力学Ⅰ、熱力学		
	PHY3061L	量子力学Ⅰ	講義	2	3	○	力学Ⅰ、力学Ⅱ、電磁気学Ⅰ		
	BIO3031L	生理学Ⅰ	講義	2	3	○			
	ESC2011L	地質学Ⅰ	講義	2	2	○			
	ESC3081L	気象学Ⅰ	講義	2	2	○	物理学概論(注2)(注4)		
								計 36単位	計 20単位

(注1) 高等学校における数学・理科の修得状況などによって必修・選択必修を免除される場合があります。免除された場合は導入カテゴリーの選択必修は2単位となります。減少した2単位分は他のカテゴリーの中より科目を修得することで修了要件単位数を満たしてください。ただし、理科の教職課程登録者は免除になりません。(免除の申請は6セメスター終了以前に行ってください。)

(注2) 高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。

(注3) 化学概論との同時履修を認める場合があります。

(注4) 物理学概論との同時履修を認める場合があります。

生物学専攻プログラム

1. 教育目的

生物学は分子・細胞から個体・集団・生態系にいたるまで、さまざまなレベルの生命現象を研究対象としています。また、医学、農学、環境学などに応用されて、医療、環境、食糧、エネルギーなどの諸問題の解決にも役立っている学問分野です。

生物学専攻プログラムでは生物学の専門分野について広く基本知識や技術を身につけるとともに科学的な見方や考え方を培うことを目標としています。とくに、マクロな生物学に強い、たとえば身近な生物の生態や多様性に目を向けるような人材を育てたいと考えています。

生物学を学ぶことをとおして、私たち人間も生物の一種であり、自然界を構成する一員であるという視点を持つことができます。このような視点を持つことは生命科学の技術の進歩が著しく、多くの環境問題が生じている現代に生きる私たちにとって極めて重要です。人格の幅を広げかつ広い視野から諸事情を俯瞰できる能力を養うというリベラルアーツ学群の教育目標とも合致します。卒業後は大学院進学、教員、公務員、生物や環境関連企業、サイエンス・コミュニケーターなどの様々な分野で活躍できる人材の育成を目指します。

2. カリキュラムの特徴

生物学専攻プログラムでは、生物学の知識・技能を修得するため、〈導入〉、〈基礎〉、〈実験〉、〈応用・総合〉の4つのカテゴリーが設定されています。〈導入〉では、高等学校で生物などの理科を履修していない学生にも対応した概論科目により、理学一般に通用する基礎学力を身につけます。〈基礎〉では、生物学の中心となる分野を10科目の中に集約し学ぶように設定してあり、また生物学を履修する上で重要な他分野の科目を学びます。〈実験〉では「生物学実験Ⅰ」で基本的な内容を「生物学実験Ⅱ」で応用的な内容を扱います。他分野の実験もいくつか履修し、理科の広い技能も身につけるようにします。〈応用・総合〉では生物学をより深め、環境科学、情報科学などの応用分野も学べます。

本専攻プログラムは、生物学ばかりでなく、関連分野を広く学べるように考慮されていますので、卒業後の大学院進学、教員、自然科学や環境科学分野の職業で役に立つ知識・技能が身につくように設計されています。

3. 修了要件

メジャー：合計36単位（最低必要単位）

マイナー：合計20単位（最低必要単位）

カテゴリー	科目コード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群 学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
導入	BIO1000L	生物学概論	講義	2	1	○			
	MTH1100L	数学概論	講義	2	1	○			
	PHY1000L	物理学概論	講義	2	1	○			
	CHM1000L	化学概論	講義	2	1	○			
	ESC1000L	地学概論	講義	2	1	○			
基礎	BIO2011L	植物学Ⅰ	講義	2	2	○		必修	必修
	BIO2012L	植物学Ⅱ	講義	2	2	○	植物学Ⅰ	必修	
	BIO2021L	動物学Ⅰ	講義	2	2	○		必修	必修
	BIO2022L	動物学Ⅱ	講義	2	2	○	動物学Ⅰ	必修	
	BIO3041L	生態学Ⅰ	講義	2	2	○			
	BIO3042L	生態学Ⅱ	講義	2	2	○	生態学Ⅰ		
	BIO3031L	生理学Ⅰ	講義	2	3	○			
	BIO3032L	生理学Ⅱ	講義	2	3	○	生理学Ⅰ		
	BIO3050L	生化学	講義	2	3	○			
	BIO3060L	遺伝と進化	講義	2	3	○			
	MTH2010L	線形代数学	講義	4	2	○	数学概論(注2) 又は線形代数学入門と微分積分学入門		
	MTH2030L	微分積分学	講義	4	2	○	数学概論(注2) 又は線形代数学入門と微分積分学入門		
	MTH1030L	微分積分学入門	講義	2	1	○	微分積分学の既修得者は履修不可		
	MTH1010L	線形代数学入門	講義	2	1	○	線形代数学の既修得者は履修不可		
	PHY2011L	力学Ⅰ	講義	2	2	○	物理学概論(注2)(注3)		
	PHY2012L	力学Ⅱ	講義	2	2	○	力学Ⅰ		
	CHM2011L	無機化学Ⅰ	講義	2	2	○	化学概論(注2)(注4)		
	CHM2012L	無機化学Ⅱ	講義	2	2	○	無機化学Ⅰ		
	CHM2021L	基礎有機化学	講義	2	2	○	化学概論(注2)(注4)		
	CHM2022L	有機合成化学	講義	2	2	○	基礎有機化学		
	ESC2011L	地質学Ⅰ	講義	2	2	○			
	ESC2012L	地質学Ⅱ	講義	2	2	○	地質学Ⅰ		
実験	BIO2501L	生物学実験Ⅰ	実験	2	2	×		必修	必修
	BIO3502L	生物学実験Ⅱ	実験	2	3	×	生物学実験Ⅰ	必修	
	PHY2501L	物理学実験Ⅰ	実験	2	2	×			
	PHY3502L	物理学実験Ⅱ	実験	2	3	×	物理学実験Ⅰ		
	CHM2501L	化学実験Ⅰ	実験	2	2	×	化学概論(注2)		
	CHM3502L	化学実験Ⅱ	実験	2	3	×	化学実験Ⅰ		
	ESC2501L	地学実験Ⅰ	実験	2	2	△			
	ESC3502L	地学実験Ⅱ	実験	2	3	△	地学実験Ⅰ		
応用・総合	BIO430*L	生物学特論	講義	2	3	○	重複履修可	4単位必修	
	CHM3150L	生体物質化学	講義	2	2	○	化学概論(注2)(注4)		
	CHM2270L	化学と人間社会	講義	2	2	○			
	CHM2260L	環境化学	講義	2	2	○			
	ENV2311L	エネルギーと環境	講義	2	2	○			
	ENV2350L	人と自然	講義	2	2	○			
	ENV2351L	環境生物学	講義	2	2	○			
	ENV3250L	自然環境調査法	講義	2	3	○			
	ETH3370L	環境・生命・人権の哲学	講義	2	3	○			
	IST2461L	データベースⅠ	演習	4	2	○	コンピュータリテラシーⅡ		
	IST2450L	応用表計算	演習	2	2	○	コンピュータリテラシーⅡ		
「*」:数字コードが複数存在する科目								計 36単位	計 20単位

(注1) 高等学校における数学・理科の修得状況などによって必修・選択必修を免除される場合があります。免除された単位数は他のカテゴリーの中より科目を修得することで修了要件単位数を満たしてください。ただし、理科の教職課程登録者は免除になりません。(免除の申請は6セメスター終了以前に行ってください。)

(注2) 高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。

(注3) 物理学概論との同時履修を認める場合があります。

(注4) 化学概論との同時履修を認める場合があります。

地球科学専攻プログラム

1. 教育目的

地球科学専攻プログラムで学べる分野には、地質学、地震学、気象学、天文学などがあります。これらの分野での学びを通して、自然科学の基礎を体系的に学ぶことを目的とします。また、地球の理解を通して自然に対する理解を深め、21世紀の自然観を培い、科学的な見方や考え方を培うことも目的とします。

自然と共生する持続可能な社会の構築には、科学・技術が重要な役割を果たし、様々な業種において地球科学的素養が要求されます。そこで、リベラルアーツ学群の教育目標を踏まえ、人格の幅を広げ、かつ広い視野から科学的に物事を見て考える能力を培い、論理的な判断力と行動力とを有する人材を育成します。本専攻プログラムでは、このような人材がこれからの社会を担うにふさわしい人とするからです。

2. カリキュラムの特徴

〈導入〉(1000レベル)、〈基礎〉(2000・3000レベル)、〈実験〉(2000・3000レベル)、〈応用・総合〉(2000・3000・4000レベル)が設定されています。〈導入〉では、大学入学までに高等学校での科目「理科総合B」や「地学Ⅰ」、「地学Ⅱ」、「地学基礎」、「地学」など、教科「理科」での地学領域を履修していない学生にも対応した「地学概論」から学びを始めます。〈基礎〉および〈応用・総合〉では、地球を理解するために重要な科目の学修を行います。〈実験〉では、地球科学分野における研究手法を体験するだけでなく、実験を通して講義の内容をさらに理解することを目標とします。

本専攻プログラムでは、講義科目でも実験やコンピュータを利用した演習など、具体物や体験を通して学修が進められます。また、博物館を利用した学修や、丹沢や多摩丘陵をフィールドとした学修も行われます。

卒業後、理科の教員、防災等に携わる公務員や NGO 職員など、様々な分野で活躍できる人材の育成を目指すカリキュラムとなっています。また、大学院進学や博物館学芸員、サイエンス・コミュニケーター、天気キャスターなどをを目指す学生にとっても、役に立つ知識・技能が身につく学修プログラムが組めるように設計されています。

3. 修了要件

メジャー：合計36単位（最低必要単位）

マイナー：合計20単位（最低必要単位）

カテゴリー	科目コード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー		マイナー	
導入	MTH1100L	数学概論	講義	2	1	○			6単位 選択必修 (注1)		6単位 選択必修 (注1)
	PHY1000L	物理学概論	講義	2	1	○					
	CHM1000L	化学概論	講義	2	1	○					
	BIO1000L	生物学概論	講義	2	1	○					
	ESC1000L	地学概論	講義	2	1	○		必修		必修	
基礎	MTH2010L	線形代数学	講義	4	2	○	数学概論（注2） 又は線形代数学入門と微分積分学入門		18単位 選択必修		8単位 選択必修
	MTH2030L	微分積分学	講義	4	2	○	数学概論（注2） 又は線形代数学入門と微分積分学入門				
	MTH2400L	数学演習	演習	2	2	○	数学概論（注2） 又は線形代数学入門と微分積分学入門				
	MTH1030L	微分積分学入門	講義	2	1	○	微分積分学の既修得者は履修不可				
	MTH1010L	線形代数学入門	講義	2	1	○	線形代数学の既修得者は履修不可				
	PHY2031L	電磁気学Ⅰ	講義	2	2	○	物理学概論（注2）（注3）				
	PHY2032L	電磁気学Ⅱ	講義	2	2	○	電磁気学Ⅰ				
	PHY2011L	力学Ⅰ	講義	2	2	○	物理学概論（注2）（注3）	Iのつく 科目から 8単位 選択必修			
	PHY2012L	力学Ⅱ	講義	2	2	○	力学Ⅰ				
	ESC3051L	地球物理学Ⅰ	講義	2	3	○	物理学概論（注2）（注3）				
	ESC3052L	地球物理学Ⅱ	講義	2	3	○	地球物理学Ⅰ				
	ESC3081L	気象学Ⅰ	講義	2	2	○	物理学概論（注2）（注3）				
	ESC3082L	気象学Ⅱ	講義	2	2	○	気象学Ⅰ				
	ESC3091L	天文学Ⅰ	講義	2	3	○	物理学概論（注2）				
	ESC3092L	天文学Ⅱ	講義	2	3	○	天文学Ⅰ				
	ESC2011L	地質学Ⅰ	講義	2	2	○					
	ESC2012L	地質学Ⅱ	講義	2	2	○	地質学Ⅰ				
実験	PHY2501L	物理学実験Ⅰ	実験	2	2	×				6単位 選択必修	
	PHY3502L	物理学実験Ⅱ	実験	2	3	×	物理学実験Ⅰ				
	CHM2501L	化学実験Ⅰ	実験	2	2	×	化学概論（注2）				
	CHM3502L	化学実験Ⅱ	実験	2	3	×	化学実験Ⅰ				
	BIO2501L	生物学実験Ⅰ	実験	2	2	×					
	BIO3502L	生物学実験Ⅱ	実験	2	3	×	生物学実験Ⅰ				
	ESC2501L	地学実験Ⅰ	実験	2	2	△		必修	必修		
	ESC3502L	地学実験Ⅱ	実験	2	3	△	地学実験Ⅰ	必修			
応用・総合	MTH3070L	確率論と統計学	講義	4	3	○	微分積分学		6単位 選択必修		4単位 選択必修
	PHY2040L	熱力学	講義	2	2	○	物理学概論（注2）（注3）				
	PHY3040L	統計力学	講義	2	3	○	微分積分学、力学Ⅰ、熱力学				
	CHM3130L	化学熱力学・反応速度	講義	2	2	○	化学概論（注2）（注4）				
	CHM3135L	量子化学	講義	2	2	○	化学概論（注2）（注4）				
	CHM3140L	基礎分析化学	講義	2	2	○	化学概論（注2）（注4）				
	CHM3145L	機器分析化学	講義	2	2	○	基礎分析化学				
	BIO3041L	生態学Ⅰ	講義	2	2	○					
	BIO3042L	生態学Ⅱ	講義	2	2	○	生態学Ⅰ				
	ESC4330L	古生物学	講義	2	3	○					
	ESC430*L	地球科学特論	講義	2	3	○	重複履修可				
	MTH3280L	コンピュータとデータ解析	講義	2	3	○	確率論と統計学				
	ESC4370L	海洋学	講義	2	3	○					
	ESC421*L	地球科学演習	講義	2	3	○	重複履修可				
	ENV2151L	地球規模環境論Ⅰ	講義	2	2	○					
	ENV2152L	地球規模環境論Ⅱ	講義	2	2	○	地球規模環境論Ⅰ				
	「*」：数字コードが複数存在する科目									計 36単位	

(注1) 高等学校における数学・理科の修得状況などによって必修・選択必修を免除される場合があります。免除された単位数は他のカテゴリーの中より科目を修得することで修了要件単位数を満たしてください。ただし、理科の教職課程登録者は免除になりません。(免除の申請は6セメスター終了以前に行ってください。)

(注2) 高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。

(注3) 物理学概論との同時履修を認める場合があります。

(注4) 化学概論との同時履修を認める場合があります。

情報科学専攻プログラム

1. 教育目的

ますます高度化する情報化の大きな波の中で、社会で活躍するためにはコンピュータの操作技法のみならず情報処理に関する知識の習得が不可欠になっています。本専攻プログラムは、「情報科学に関する広い知識と高度な専門性を修得し、情報化時代の社会で活躍できる人物の育成」を目的としています。

この専攻プログラムは、コンピュータ全般にかかわる様々な演習科目や講義科目で構成されています。演習科目では、コンピュータの基礎操作技術をマスターした後、マルチメディアやデータベースの扱い方、プログラミング技術等のコンピュータ操作技法を身につけます。これと同時に、情報の社会に与える影響、コンピュータの構造と仕組み、ネットワークの動作原理やデータベースの概念・操作法等、情報科学に関する知識の習得も講義科目を通して行います。

本プログラムで専門性を身につけた学生は、社会の様々な分野で活躍することが期待されます。特に情報関連企業の専門職（SE）や総合職（営業）、あるいは一般企業における情報システム部門の専門職等で活躍することができます。

2. カリキュラムの特徴

本専攻プログラムを構成する科目は、〈基礎〉、〈演習〉、〈応用〉の3つのカテゴリーで提供されています。さらに科目レベルが設定されていて、導入部分から高度な専門的分野に至るまで体系的に学ぶことができるように構成されています。

1年次では基盤科目の「コンピュータリテラシーⅠ／Ⅱ」を学びながら、「情報と社会」などの基礎科目を学びます。同時に自然科学分野についても関連する知識を習得します。2年次からは本格的に専攻科目が始まります。講義科目では「情報システム論」、「情報分析論」、「情報デザイン論」など、演習科目として「プログラミングⅠ／Ⅱ」、「マルチメディア表現Ⅰ」などを学びます。3年次からは「データベースⅡ」、「情報ネットワーク演習」、「ソフトウェア概論」など高度な専門を学びます。

科目にコンピュータの演習が多く取り入れられていることが情報科学専攻プログラムの特徴です。EXCELの高度な利用方法、PhotoshopやIllustratorの操作、Javaでのプログラミングなど多様な演習を行うことができます。

3. 修了要件

メジャー：合計36単位（最低必要単位）

マイナー：合計20単位（最低必要単位）

カテゴリー	科目コード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
基礎	MTH1100L	数学概論	講義	2	1	○			
	MTH1030L	微分積分学入門	講義	2	1	○	微分積分学の既修得者は履修不可		
	MTH1010L	線形代数学入門	講義	2	1	○	線形代数学の既修得者は履修不可		
	IST1180L	情報と社会	講義	2	1	○		必修	
	IST1181L	情報と倫理	講義	2	1	○			
	IST2130L	情報システム論	講義	4	2	○	コンピュータリテラシーⅡ	必修	必修
	IST2461L	データベースⅠ	演習	4	2	○	コンピュータリテラシーⅡ		
	IST2140L	認知の科学	講義	2	2	○	コンピュータリテラシーⅡ		
	IST3130L	情報ネットワーク	講義	2	3	○	情報システム論	必修	
演習	IST2450L	応用表計算	演習	2	2	○	コンピュータリテラシーⅡ		
	IST2411L	プログラミングⅠ	演習	2	2	○	コンピュータリテラシーⅡ	必修	
	IST3412L	プログラミングⅡ	演習	2	2	○	プログラミングⅠ		
	IST2470L	プレゼンテーション演習	演習	2	2	○			
	IST2471L	マルチメディア表現Ⅰ	演習	4	2	○	コンピュータリテラシーⅡ		
	IST2472L	Web ページプログラミング	演習	2	2	○	コンピュータリテラシーⅡ		
	IST3462L	データベースⅡ	演習	4	3	○	データベースⅠ		
	IST3472L	マルチメディア表現Ⅱ	演習	4	3	○	マルチメディア表現Ⅰ		
	IST3131L	情報ネットワーク演習	講義	2	3	○	情報ネットワーク		
応用	IST3250L	情報分析論	講義	4	2	○	コンピュータリテラシーⅡ		
	IST2240L	情報デザイン論	講義	2	2	○	コンピュータリテラシーⅡ		
	IST3380L	情報と職業	講義	2	3	○	情報システム論		
	IST3220L	システム設計論	講義	4	3	○	情報システム論		
	IST3120L	ソフトウェア概論	講義	4	3	○	情報システム論		
	IST3140L	ヒューマンコンピュータインターフェイス	講義	4	3	○	コンピュータリテラシーⅡ		
	IST4280L	情報セキュリティ論	講義	2	3	○	コンピュータリテラシーⅡ		
	IST4240L	知識表現とプログラミング	講義	2	3	○	情報システム論、プログラミングⅠ		
								計 36単位	計 20単位

環境学専攻プログラム

1. 教育目的

地球温暖化や生物多様性の劣化といった人類の生存基盤を脅かす環境問題には、すべての人が取り組むことが求められます。環境学は、環境問題を考え、解決を目指す実際の学問です。

環境学専攻プログラムは、環境や環境問題について基本的な知識を持ち、環境の保全に配慮できる技能や思考力、判断力を見につけ、持続可能な社会の構築を目指して主体的に行動できる人材の育成を目的としています。

環境学は、「総合の学」と位置づけられ、あらゆる学問分野と関連します。例えば、地球温暖化についてみると、その原因の理解には自然科学や歴史が必要であり、対策をめぐる途上国と先進国の立場の違いは国際関係や国際協力であり、炭素税は経済的手法であり、普及啓発はコミュニケーションです。その意味で、環境学は最もリベラルアーツ学群にふさわしい学問といえるでしょう。

また、環境問題は、あらゆる業種につながっています。例えば、食料品や衣料品は地球温暖化により価格が変動しますし、銀行や証券会社では環境に積極的に取り組む会社に優先的に投資しようという動きもあります。

さらに、環境学を学ぶことは、実際の問題について、原因と結果のつながりを見いだす、さまざまな対策手法を企画立案する、対立する意見を調整するといった能力を磨くことにつながります。このような力は、社会に出たときに、どんな立場であっても必要とされるものです。

近年発展の著しい環境関連ビジネスや、環境コンサルタント、公務員はもちろんのこと、さまざまな業種において環境学の学びは役に立つことでしょう。

2. カリキュラムの特徴

この専攻では人文科学、社会科学、自然科学の科目を揃え、幅広い分野を学ぶことができます。全体で30を超える科目から、社会系科目、自然系科目、人文科学を目的に合わせ選択することにより、環境問題へアプローチができます。カリキュラムは科目を学修内容の難易度のレベル別カテゴリーに分け、学修の目的に合わせ選択し易い構成にしています。なお、環境学の特徴として、各科目は縦に積み上げていくよりも、横に広がりを持っています。

また、環境問題を学ぶ上で重要な点は、「机上の学問だけではだめ」ということです。一部の講義科目や専攻演習では、フィールド調査や、環境問題の現場訪問など、実践的な経験の機会を提供しています。

科目の選択は自由ですが、環境学は総合的な学問ですから、ぜひ文系・理系の枠にとらわれず、幅広くさまざまな科目を履修しましょう。あえて例示するなら、将来の就職先として企業や官公庁を志望する方は、「環境法学」「文系のための環境科学」「環境マネジメント論」「環境と地域」「環境リスク論」などを、環境コンサルタントなど環境調査を志望する方は、「社会環境調査法」「自然環境調査法」「感覚公害論」「環境社会学」「環境化学」「生態学」などを学ぶとよいでしょう。

3. 修了要件

メジャー：合計32単位以上

マイナー：合計20単位以上

カテゴリー	科目コード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
基礎	ENV1001L	環境と文明	講義	4	1	○		4単位 選択必修	
	ENV2050L	文系のための環境科学	講義	2	2	○			
	ENV2040L	環境とまちづくり	講義	2	2	○			
	ENV2041L	環境と地域	講義	2	2	○			
	ENV2310L	環境とキリスト教	講義	2	2	○			
	SOC2020L	社会統計基礎	講義	2	2	○			
専門	ENV2311L	エネルギーと環境	講義	2	2	○		14単位 選択必修	
	ENV2350L	人と自然	講義	2	2	○			
	ENV2351L	環境生物学	講義	2	2	○			
	CHM2270L	化学と人間社会	講義	2	2	○			
	CHM2260L	環境化学	講義	2	2	○			
	ENV2151L	地球規模環境論Ⅰ	講義	2	2	○			
	ENV2152L	地球規模環境論Ⅱ	講義	2	2	○	地球規模環境論Ⅰ		
	ENV2352L	感覚公害論	講義	2	2	○			
	ENV2360L	環境リスク論	講義	2	2	○			
	ENV2030L	人間環境学	講義	4	2	○			
	ETH2360L	環境倫理学	講義	2	2	○			
	ENV2010L	環境思想概論	講義	2	2	○			
	ENV2331L	江戸から学ぶ環境	講義	2	2	○			
	ENV2300L	エコロジー・デザイン特殊講義	講義	2	2	○			
	ENV2330L	環境ビジネス論	講義	2	2	○			
	ENV2340L	国際環境交渉論	講義	2	2	○			
	SOC3020L	社会統計学	講義	2	2	△			
	ENV3400L	野外安全管理	演習	1	2	○	ECO-TOP 登録者のみ履修可		
	MED3400L	救急救命演習	演習	1	2	○	ECO-TOP 登録者のみ履修可		
	ENV2400L	ECO-TOP インターンシップ事前研修	演習	1	2	○	ECO-TOP 登録者のみ履修可		
	ENV2401L	ECO-TOP インターンシップ事後研修	演習	1	2	○	ECO-TOP 登録者のみ履修可		
	ENV2601L	ECO-TOP インターンシップⅠ	実習	2	2	○	ECO-TOP 登録者のみ履修可		
	ENV2602L	ECO-TOP インターンシップⅡ	実習	2	2	○	ECO-TOP インターンシップ事前研修 ECO-TOP インターンシップⅠ ECO-TOP 登録者のみ履修可		
発展	BIO3041L	生態学Ⅰ	講義	2	2	○		14単位 選択必修	
	BIO3042L	生態学Ⅱ	講義	2	2	○	生態学Ⅰ		
	CHM3150L	生体物質化学	講義	2	2	○	化学概論（注）		
	ECO3190L	環境経済論	講義	4	2	○			
	LAW3180L	環境法学	講義	4	3	○			
	ENV3141L	都市環境政策Ⅰ	講義	2	3	○			
	ENV3142L	都市環境政策Ⅱ	講義	2	3	○			
	ENV3120L	環境教育論	講義	2	2	○			
	ETH3370L	環境・生命・人権の哲学	講義	2	3	○			
	SOC3350L	環境社会学	講義	4	2	△			
	ENV3143L	環境マネジメント論	講義	2	2	○			
	ENV3380L	資源循環論	講義	4	3	○			
	ENV3230L	社会環境調査法	講義	2	2	○			
	ENV3250L	自然環境調査法	講義	2	3	○			
	ENV3330L	食品安全論	講義	2	3	○			
	ENV3331L	環境 NPO・NGO	講義	2	3	○			
	ENV3332L	社会環境と知的財産	講義	2	3	○			
	ECO3390L	資源・エネルギー論	講義	4	2	○			
	ESC4370L	海洋学	講義	2	3	○			
	ESC421*L	地球科学演習	講義	2	3	○	重複履修可		
	ENV4900L	環境科学総合演習	実験・実習	2	4	△	秋学期に履修登録すること		
[*]：数字コードが複数存在する科目								計 32単位	計 20単位

（注）化学概論との同時履修を認める場合があります。また、高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。

メディア（ジャーナリズム）専攻プログラム

1. 教育目的

起きてから寝るまで、私たちは1日中、新聞、テレビ、タブレット、スマホなどたくさんのメディアに囲まれて暮らしています。ときには布団に入ってまでツイッターやブログに触れているのではないのでしょうか。いまやメディアは空気のような存在です。

しかしそのメディアを通じて大量に流れてくる「ニュース」や「情報」に私たちは恐ろしいほど無頓着ではないのでしょうか。3.11東日本大震災や福島原発事故の、その後の状況は改善しているのか、いないのか。TPPは、アベノミクスは、日中・日韓の関係は…。混沌とした時代に私たちは何を頼りに、私たちの生き方や社会のあり方を考えていけばいいのでしょうか。

私たちの暮らしや将来に大きな影響を与える政治や経済、社会の動きを伝えてくれるのは新聞、テレビなどのマスメディアです。そのマスメディアはインターネットなどデジタルメディアの勢いに押されて、最近はずっと元気がありません。マスメディアは、もはや羅針盤の役割を果たさなくなってしまったのでしょうか。

このプログラムは、メディアの歴史や仕組み、社会的役割や影響について知るとともに、これから私たちがどうメディアと向き合っていけばいいのかを考えていくことを基本としています。

またメディアの歴史や理論、現場報告や検証、演習などを通して、将来、メディア（マスコミ）業界をめざす人材の育成にも注力します。しかしニュースを「読み解き、考え、そして伝える」ことのできる能力は、既存のメディア業界だけでなく、企業や行政の宣伝・広報活動の担い手にとって、教育や福祉、ボランティア活動や市民運動の担い手にとって、必須の資質であり今日的な能力とも言えます。その意味では、これからの時代に適合できる人材を、幅広く育成するカリキュラムと位置づけています。

2. カリキュラムの特徴

導入講座として「メディア ―きのう 今日 明日―」「ジャーナリストへの道」（各2単位）から始まり、その後に、「テレビ・放送の世界」をはじめ、新聞、出版、広告など各ジャンル別に、それぞれの歴史や現状の動向など、概括的にとらえる「世界シリーズ」が用意されます。ひと通りの基礎的な知識が身につくと、次はより専門的な「検証」科目へと進みます。「検証」科目は、「新聞社説を読む」「広告コピーを読む」「若者とメディア」などメディアの伝え方を検証する講座や、最新のメディアの動きについて考える「現代メディア研究」など幅広い科目群から選択できます。さらに上級クラスの「演習」科目では、「メディアと人権」「女性とメディア」などテーマを掘り下げて考察する講座や、マスコミ志望学生のための「マスコミ特訓講座」「雑誌をつくる（デジタル編集実践講座）」など実践的な科目が用意されているのもこのプログラムの特徴です。

3. 修了要件

メジャー：合計32単位（最低必要単位）

マイナー：合計20単位（最低必要単位）

カテゴリー	科目コード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
導入	MJS1000L	メディア -きのう 今日 明日-	講義	2	1	○		必修	必修
	MJS1001L	ジャーナリストへの道	講義	2	1	○		必修	必修
	MJS2020L	テレビ・放送の世界	講義	2	1	○		4単位 選択必修	2単位 選択必修
	MJS2010L	新聞の世界	講義	2	1	○			
	MJS2030L	出版の世界	講義	2	1	○			
	MJS2050L	広告の世界	講義	2	1	○			
	COM1000L	現代コミュニケーション理論	講義	4	1	○			
	IST1180L	情報と社会	講義	2	1	○			
	LAW1020L	日本国憲法	講義	2	1	○			
	IST2471L	マルチメディア表現 I	演習	4	2	○	コンピュータリテラシー II		
検証	MJS3210L	新聞社説を読む	講義	2	2	○		4単位 選択必修	2単位 選択必修
	MJS3211L	地方紙を読む	講義	2	2	○			
	MJS3280L	英字紙を読む	講義	2	2	○			
	MJS2250L	広告コピーを読む	講義	2	2	○			
	MJS2230L	出版ジャーナリズム	講義	2	2	○			
	MJS2460L	スポーツジャーナリズム	演習	2	2	○			
	MJS2200L	日本のジャーナリズム	講義	2	2	○			
	MJS2201L	アメリカのジャーナリズム	講義	2	2	○			
	MJS2270L	若者とメディア	講義	2	2	○			
	COM1130L	集団コミュニケーション	講義	2	1	○			
	POL2150L	現代日本の政治	講義	4	2	○			
	SOC2021L	社会調査法	講義	4	2	○			
	SOC3130L	現代社会研究	講義	4	2	○			
	LIT3334L	中国のマスコミ	講義	4	2	○			
	MJS347*L	現代メディア研究	演習	2	2	×	重複履修可		
	SOC3350L	環境社会学	講義	4	2	△			
演習	MJS3470L	メディアと人権	演習	4	2	×		8単位 選択必修	
	MJS3471L	環境とメディア	演習	4	2	×			
	MJS3472L	女性とメディア	演習	4	2	×			
	MJS3473L	子供とメディア	演習	4	2	×			
	MJS3460L	スポーツにんげん学	演習	4	2	×			
	MJS3490L	雑誌をつくる(デジタル編集実践講座)	演習	4	2	×			
	MJS349*L	マスコミ特訓講座	演習	2	3	×	文章表現Ⅱ 重複履修可		
「*」: 数字コードが複数存在する科目								上記必修・選択必修科目を含め、計 32単位	上記必修・選択必修科目を含め、計 20単位

博物館学専攻プログラム

1. 教育目的

博物館は、人類が生んだ最高の文化装置の一つと言われ、社会の近代化と国民文化や教育の振興のために、重要な貢献をしてきました。

本専攻プログラムは、博物館学芸員資格の取得のみにこだわらず、純粋に博物館研究を志す学生を対象としたものです。日本で博物館は社会教育のための機関と法律で定められていることから、社会教育学的観点を重視しつつ、歴史的・文化的・社会的・心理的・経済的観点など、さまざまな視点から、現代社会における博物館の機能や市民生活における博物館の役割を学び、追求することを目的とします。

「もの」をベースとした人類の知の集結場所としての博物館の研究を通して、社会とともに変化する博物館の地位や役割を知るとともに、博物館的ものの見方や考え方を身に付け、個性ある文化性豊かな暮らしを送る生活者、社会人を養成することを目標とします。

本専攻プログラムは、博物館を学問的に追求することを目的として設定された、全国でもユニークなコースです。資料、教育、経営から展示技術、保存科学、情報、メディア、コミュニケーションにいたるまで広い科学分野をカバーする博物館学の学びは、幅広い学問領域を学ぶ場であるリベラルアーツならではの特性を活かしたものとなっています。もちろん、実務的な「博物館学芸員資格」を取得する上でも有利な科目設定となっています。

2. カリキュラムの特徴

本学では、全学学生を対象として、東京国立博物館キャンパスメンバーズ及び、国立科学博物館パートナーシップに加入し、これら博物館常設展示の無料利用を実現しました。このような恵まれた博物館利用環境を活用して、1年次では「博物館概論」などの講義を設定し、まず博物館や学芸員とは何かを学びます。

2年次以降には、博物館の基本である資料（資料論）や、展示（展示論）、経営（経営論）などに関する専門的事項を学ぶ仕組みとなっています。また、博物館の専門的・技術的領域として「博物館資料保存論」「日本考古学」「日本民俗学」をはじめ、博物館学特論科目として、国内ではまだ開設講座の少ない文化遺産論、文化政策論などを学ぶほか、メディア関連の科目も履修します。

3. 修了要件

メジャー：合計32単位（最低必要単位）

マイナー：合計20単位（最低必要単位）

カテゴリー	科目コード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
導入	MSO1000L	博物館概論	講義	2	1	○		必修	必修
	EDU2360L	生涯学習概論	講義	2	1	○			
理論	MSO2140L	博物館教育論	講義	2	1	○		18単位 選択必修	14単位 選択必修
	MSO2150L	博物館経営論	講義	2	2	○	博物館概論		
	MSO2151L	博物館情報・メディア論	講義	2	2	○	博物館概論		
	MSO2110L	博物館資料論	講義	2	2	○	博物館概論		
	EDU2300L	教育原理（教職課程）	講義	2	1	○			
	PSY 2120 L	生涯発達心理学	講義	4	1	○			
	EDU2311L	日本教育史	講義	2	2	○			
	EDU3320L	教育方法論	講義	2	2	○			
	MSO3120L	博物館資料保存論	講義	2	2	○	博物館概論		
	MSO3140L	博物館展示論	講義	2	2	○	博物館概論		
	MSO3300L	博物館学特論（文化遺産論）	講義	2	3	○			
	MSO3301L	博物館学特論（文化政策論）	講義	2	3	○			
演習	MSO3660L	博物館実習	実習	3	3	○	博物館概論、生涯学習概論、博物館経営論、博物館情報・メディア論、博物館資料論、博物館教育論、博物館資料保存論、博物館展示論		
トピック	ANT1000L	文化人類学	講義	4	1	△		12単位 選択必修	4単位 選択必修
	GEG1100L	文化地理学	講義	4	1	○			
	JPS 2131 L	日本の歴史Ⅰ	講義	4	2	○			
	JPS 2132 L	日本の歴史Ⅱ	講義	4	2	○			
	BIO 2011 L	植物学Ⅰ	講義	2	2	○			
	BIO 2021 L	動物学Ⅰ	講義	2	2	○			
	ESC 2011 L	地質学Ⅰ	講義	2	2	○			
	JPS 3140 L	日本文化論	講義	4	2	○			
	ESC 3051 L	地球物理学Ⅰ	講義	2	3	○	物理学概論（注１）（注２）		
	ESC 3081 L	気象学Ⅰ	講義	2	2	○	物理学概論（注１）（注２）		
	ESC 3091 L	天文学Ⅰ	講義	2	3	○	物理学概論（注２）		
	BIO 3041 L	生態学Ⅰ	講義	2	2	○			
	JPS 3334 L	日本考古学	講義	2	3	○			
	JPS 3354 L	日本民俗学	講義	2	3	○			
	ECO3342L	地方財政論	講義	4	2	○			
	ECO3151L	公共経済学	講義	4	2	○			
	EDU3220L	学校図書館メディアの構成	講義	2	3	○			
	LIS 3270 L	情報メディアの活用	講義	2	3	○			
								計 32単位	計 20単位

（注１）物理学概論との同時履修を認める場合があります。

（注２）高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。

6. 専攻科目と諸注意

科目区分	科目コード	授 業 科 目	授 業 方法	単 位 数	履 修 年 次	学 生 の 履 修 群	先修条件ほか
人 文 科 学 系 科 目 群	ELS1413L	英語講読Ⅰ a	演習	2	1	×	
	ELS1414L	英語講読Ⅰ b	演習	2	1	×	
	ELS2413L	英語講読Ⅱ a	演習	2	1	×	英語講読Ⅰ a 又はⅠ b (各種英語資格試験のスコアが一定の基準以上である場合、英語講読Ⅰの履修免除が認められることがあります。詳細は、各学期のオリエンテーション期間開始時に e-Campus の掲示で確認してください。)
	ELS2414L	英語講読Ⅱ b	演習	2	1	×	英語講読Ⅰ a 又はⅠ b (各種英語資格試験のスコアが一定の基準以上である場合、英語講読Ⅰの履修免除が認められることがあります。詳細は、各学期のオリエンテーション期間開始時に e-Campus の掲示で確認してください。)
	ELS1001L	英文法Ⅰ	講義	2	1	△	
	ELS2002L	英文法Ⅱ	講義	2	1	△	
	ELS2050L	英語学入門	講義	4	1	△	
	LIT2070L	英米文学入門	講義	4	1	△	
	ELS1350L	英語の音声	講義	4	1	△	
	ELS3350L	英語の意味	講義	4	2	△	
	ELS4350L	英語の構造	講義	4	3	△	英文法Ⅱ
	ELS3352L	英語の歴史	講義	4	2	△	
	ELS2415L	英語学講読	演習	4	2	△	
	ELS4460L	第二言語習得法	演習	4	3	△	
	LIN3430L	応用言語学	演習	4	2	△	
	LIT3370L	英米詩	講義	4	2	△	
	LIT3371L	英米演劇	講義	4	2	△	
	LIT337*L	英米小説	講義	4	2	△	重複履修可
	LIT2370L	英米児童文学	講義	4	2	△	
	LIT317*L	テーマで読む英米文学	講義	4	2	△	重複履修可
	ELS2410L	英米文化講読	演習	4	2	△	
	ELS2373L	イギリスの文化	講義	4	2	△	
	ELS3471L	翻訳 (英→日)	演習	4	3	△	英文法Ⅱ
	ELS4470L	翻訳 (日→英)	演習	4	3	△	英文法Ⅱ
	ELS4480L	通訳	演習	4	3	△	Speech Communication Skills
	ELS2440L	Speech Communication Skills	演習	4	2	△	
	ELS2420L	Written Communication Skills	演習	4	2	△	
	CLS1400L	中国語基礎トレーニングⅠ	演習	2	1	○	
	CLS2400L	中国語基礎トレーニングⅡ	演習	2	1	○	
	CLS2401L	中国語応用トレーニングⅠ	演習	2	1	○	「中国語Ⅰ」、「中国語Ⅱ」、「中国語基礎トレーニングⅠ」、「中国語基礎トレーニングⅡ」から2単位
	CLS2402L	中国語応用トレーニングⅡ	演習	2	1	○	「中国語Ⅰ」、「中国語Ⅱ」、「中国語基礎トレーニングⅠ」、「中国語基礎トレーニングⅡ」から2単位
	CLS3411L	中国語講読	演習	2	2	○	「中国語Ⅰ」、「中国語Ⅱ」、「中国語Ⅲ」、「中国語Ⅳ」、「中国語Ⅴ」、「中国語Ⅵ」、「中国語基礎トレーニングⅠ」、「中国語基礎トレーニングⅡ」、「中国語応用トレーニングⅠ」、「中国語応用トレーニングⅡ」から4単位
	CLS3423L	中国語作文	演習	2	2	○	「中国語Ⅰ」、「中国語Ⅱ」、「中国語Ⅲ」、「中国語Ⅳ」、「中国語Ⅴ」、「中国語Ⅵ」、「中国語基礎トレーニングⅠ」、「中国語基礎トレーニングⅡ」、「中国語応用トレーニングⅠ」、「中国語応用トレーニングⅡ」から4単位
	CLS3430L	中国語リスニング	演習	2	2	○	「中国語Ⅰ」、「中国語Ⅱ」、「中国語Ⅲ」、「中国語Ⅳ」、「中国語Ⅴ」、「中国語Ⅵ」、「中国語基礎トレーニングⅠ」、「中国語基礎トレーニングⅡ」、「中国語応用トレーニングⅠ」、「中国語応用トレーニングⅡ」から4単位

「*」：数字コードが複数存在する科目

専攻プログラム欄に○がある場合、科目がその専攻プログラムのメジャーまたはマイナーの修了要件として指定されていることを表します。

専攻プログラム 授業科目	英語学・英文学	中国言語文化	日本語日本文学	日本語教育	言語学	コミュニケーション学	現代世界文学	キリスト教	宗 教	哲 学	倫 理	文化人類学	アメリカ地域研究	アジア地域研究	日本地域研究	歴史学	国際関係	国際協力	社会学	心理学	教育学(教職教育)	国際経済	ビジネスエコンミクス	公共政策	数学	物理学	化学	生物	地球科学	情報科学	環境学	メディア(ジャーナリズム)	博物館学
英語講読Ⅰ a	○																																
英語講読Ⅰ b	○																																
英語講読Ⅱ a	○																																
英語講読Ⅱ b	○																																
英文法Ⅰ	○																																
英文法Ⅱ	○																																
英語学入門	○																																
英米文学入門	○						○																										
英語の音声	○				○																												
英語の意味	○																																
英語の構造	○																																
英語の歴史	○																																
英語学講読	○																																
第二言語習得法	○																																
応用言語学	○	○																															
英米詩	○																																
英米演劇	○																																
英米小説	○																																
英米児童文学	○																																
テーマで読む英米文学	○						○																										
英米文化講読	○																																
イギリスの文化	○																																
翻訳（英→日）	○																																
翻訳（日→英）	○																																
通訳	○																																
Speech Communication Skills	○																																
Written Communication Skills	○																																
中国語基礎トレーニングⅠ	○																																
中国語基礎トレーニングⅡ	○																																
中国語応用トレーニングⅠ	○																																
中国語応用トレーニングⅡ	○																																
中国語講読	○																																
中国語作文	○																																
中国語リスニング	○																																

(次のページに続く)

科目区分	科目コード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学生の履修群	先修条件ほか
人文学科	CLS3410L	時事中国語	演習	2	2	○	「中国語Ⅰ」、「中国語Ⅱ」、「中国語Ⅲ」、「中国語Ⅳ」、「中国語Ⅴ」、「中国語Ⅵ」、「中国語基礎トレーニングⅠ」、「中国語基礎トレーニングⅡ」、「中国語応用トレーニングⅠ」、「中国語応用トレーニングⅡ」、「中国語講読」、「中国語作文」、「中国語リスニング」から6単位
	CLS3420L	日中翻訳技法	演習	2	2	○	「中国語Ⅰ」、「中国語Ⅱ」、「中国語Ⅲ」、「中国語Ⅳ」、「中国語Ⅴ」、「中国語Ⅵ」、「中国語基礎トレーニングⅠ」、「中国語基礎トレーニングⅡ」、「中国語応用トレーニングⅠ」、「中国語応用トレーニングⅡ」、「中国語講読」、「中国語作文」、「中国語リスニング」から6単位
	CLS3440L	日中通訳技法	演習	2	2	○	「中国語Ⅰ」、「中国語Ⅱ」、「中国語Ⅲ」、「中国語Ⅳ」、「中国語Ⅴ」、「中国語Ⅵ」、「中国語基礎トレーニングⅠ」、「中国語基礎トレーニングⅡ」、「中国語応用トレーニングⅠ」、「中国語応用トレーニングⅡ」、「中国語講読」、「中国語作文」、「中国語リスニング」から6単位
	CLS1050L	中国語学概論	講義	2	1	○	
	CLS2350L	中国語音声学	講義	4	1	○	
	CLS2130L	中国語文法研究	講義	4	1	○	
	CLS3350L	日中対照言語研究	講義	4	2	○	
	LIT1030L	中国文学概論	講義	4	1	○	
	LIT1430L	中国文言文講読	演習	2	2	○	
	LIT1330L	中国古典文学史	講義	4	1	○	
	LIT2330L	中国近現代文学史	講義	4	1	○	
	LIT3330L	中国古典文学研究	講義	4	2	○	
	LIT3331L	中国近現代文学研究	講義	4	2	○	
	LIT2030L	中国思想史	講義	4	1	○	
	LIT3332L	中国古代思想研究	講義	4	2	○	
	LIT3333L	中国近現代思想研究	講義	4	2	○	
	LIT1000L	中国文化概論	講義	4	1	○	
	LIT3230L	中国芸術研究	講義	4	2	○	
	LIT3130L	中国文化研究	講義	4	2	○	
	CLS2370L	日中比較文化	講義	4	2	○	
	LIT3334L	中国のマスコミ	講義	4	2	○	
	LIT3335L	中国地域研究	講義	4	2	○	
	JLS1000L	日本語学概論	講義	2	1	○	
	JLS1050L	日本語の文字・表記	講義	2	1	○	
	LIT1111L	日本文学史 A	講義	4	1	○	
	LIT1112L	日本文学史 B	講義	4	1	○	
	LIT2410L	古代文学講読	演習	2	1	○	
	LIT2411L	平安文学講読	演習	2	1	○	
	LIT2412L	中世文学講読	演習	2	1	○	
	LIT2413L	江戸文学講読	演習	2	1	○	
	LIT2414L	近代文学講読	演習	2	1	○	
	LIT3110L	平安文学の世界	講義	4	2	○	
	LIT3111L	中世文学の世界	講義	4	2	○	
	LIT3112L	江戸文学の世界	講義	4	2	○	
	LIT3113L	近代文学の世界	講義	4	2	○	
	LIT3114L	現代文学の世界	講義	4	2	○	

専攻プログラム 授業科目	英語学・英文学	中国言語文化	日本語日本文学	日本語教育	言語学	コミュニケーション学	現代世界文学	キリスト教学	宗教学	哲学	倫理学	文化人類学	アメリカ地域研究	アジア地域研究	日本地域研究	歴史学	国際関係	国際協力	社会学	心理学	教育学(教職教育)	国際経済	ビジネスエコンミクス	公共政策	数学	物理学	化学	生物学	地球科学	情報科学	環境学	メディアジャーナリズム	博物館学
時事中国語	○																																
日中翻訳技法	○																																
日中通訳技法	○																																
中国語学概論	○																																
中国語音声学	○			○																													
中国語文法研究	○																																
日中対照言語研究	○																																
中国文学概論	○																																
中国文言文講読	○	○																															
中国古典文学史	○	○																															
中国近現代文学史	○					○																											
中国古典文学研究	○	○																															
中国近現代文学研究	○																																
中国思想史	○							○	○	○					○																		
中国古代思想研究	○								○																								
中国近現代思想研究	○					○		○																									
中国文化概論	○											○			○																		
中国芸術研究	○																																
中国文化研究	○																																
日中比較文化	○													○																			
中国のマスコミ	○																																○
中国地域研究	○											○																					
日本語学概論		○																															
日本語の文字・表記		○	○																														
日本文学史 A		○																															
日本文学史 B		○																															
古代文学講読		○				○																											
平安文学講読		○				○																											
中世文学講読		○				○																											
江戸文学講読		○				○																											
近代文学講読		○				○																											
平安文学の世界		○																															
中世文学の世界		○																															
江戸文学の世界		○																															
近代文学の世界		○				○								○																			
現代文学の世界		○	○			○								○																			

(次のページに続く)

科目区分	科目コード	授 業 科 目	授 業 方 法	単 位 数	履 修 年 次	学 生 他 学 生 の 履 修 群	先修条件ほか
人 文 科 学 系 科 目 群	LIT3115L	児童文学研究	講義	2	2	○	
	JLS1660L	書写	実習	2	1	○	
	JLS1481L	国語・漢字検定Ⅰ	演習	2	1	○	
	JLS1482L	国語・漢字検定Ⅱ	演習	2	1	○	
	JLS2421L	言語表現 A	演習	2	1	○	
	JLS2422L	言語表現 B	演習	2	1	○	
	JLS2461L	書道研究Ⅰ	演習	2	2	○	
	JLS2462L	書道研究Ⅱ	演習	2	2	○	
	JLS3470L	創作の技法	演習	2	2	○	
	JLS3471L	編集の技法	演習	2	2	○	
	JPE2110L	日本語の表現	講義	4	1	○	
	JPE3110L	日本語の文法	講義	4	2	○	
	JPE2120L	言語と文化	講義	4	2	○	
	JPE1100L	ことばの比較	講義	2	1	○	
	CLS3115L	日中対照言語学	講義	2	3	○	
	JPE4120L	日本語史	講義	2	3	○	
	JPE1111L	日本語教育学 A	講義	2	1	○	
	JPE1112L	日本語教育学 B	講義	2	1	○	
	JPE2130L	言語習得法	講義	2	1	△	
	JPE2131L	日本語教育文法	講義	2	2	○	
	JPE3240L	日本語教授法	講義	4	2	○	
	JPE3451L	日本語教材開発	演習	2	3	○	
	JPE3140L	年少者日本語教育	講義	2	3	○	
	JPE3452L	マルチメディア日本語教育	演習	2	3	○	
	JPE3440L	日本語教育実習	演習	4	3	✕	日本語教授法
	JPE3241L	日本語の評価法	講義	2	2	○	
	JPE4140L	カリキュラムデザイン	講義	2	3	○	
	JPE364*L	海外教育実習	実習	2~4	2 3	✕	
	JPE4440L	海外教育実習事前研修	演習	4	3	×	
	JPE3450L	言語データ分析	演習	2	2	○	
	JPE2470L	多言語交流演習	演習	2	1	○	
	LIN3410L	プラグマティックス	演習	4	3	○	談話分析
	LIN1100L	言語学への招待	講義	2	1	○	
	LIN2430L	談話分析	演習	4	2	○	言語学への招待
	LIN3360L	対照言語学	講義	4	2	○	言語学への招待
	LIN2440L	日本語の音声	演習	2	1	△	日本語の語彙・意味
	LIN1440L	日本語の語彙・意味	演習	4	1	△	
	LIN3110L	音韻論	講義	2	2	△	日本語の音声
	LIN2170L	社会言語学	講義	4	2	○	
	LIN3310L	言語学隣接研究	講義	4	2	○	日本語の音声
	LIN2270L	言語政策論	講義	4	2	○	社会言語学

「*」：数字コードが複数存在する科目

専攻プログラム 授業科目	英語学・英文学	中国言語文化	日本語日本文学	日本語教育	言語学	コミュニケーション学	現代世界文学	キリスト教学	宗教学	哲学	倫理学	文化人類学	アメリカ地域研究	アジア地域研究	日本地域研究	歴史学	国際関係	国際協力	社会学	心理学	教育学(教職教育)	国際経済	ビジネスエノミクス	公共政策	数学	物理学	化学	生物	地球科学	情報科学	環境学	メディアジャーナリズム	博物館学	
児童文学研究			○																															
書写			○	○																														
国語・漢字検定Ⅰ			○	○																														
国語・漢字検定Ⅱ			○	○																														
言語表現 A			○	○																														
言語表現 B			○	○																														
書道研究Ⅰ			○																															
書道研究Ⅱ			○																															
創作の技法			○																															
編集の技法			○																															
日本語の表現			○	○	○																													
日本語の文法			○	○																														
言語と文化			○	○																														
ことばの比較				○																														
日中対照言語学				○																														
日本語史			○	○																														
日本語教育学 A				○																														
日本語教育学 B				○																														
言語習得法			○	○	○																													
日本語教育文法				○																														
日本語教授法				○																														
日本語教材開発				○																														
年少者日本語教育			○	○																														
マルチメディア日本語教育				○																														
日本語教育実習				○																														
日本語の評価法				○																														
カリキュラムデザイン				○																														
海外教育実習				○																														
海外教育実習事前研修				○																														
言語データ分析			○	○																														
多言語交流演習				○																														
プラグマティックス			○	○	○	○																												
言語学への招待					○																													
談話分析			○	○	○	○																												
対照言語学					○																													
日本語の音声			○	○	○	○																												
日本語の語彙・意味			○	○	○																													
音韻論					○																													
社会言語学					○																													
言語学隣接研究					○																													
言語政策論					○																													

(次のページに続く)

科目区分	科目コード	授 業 科 目	授 業 方 法	単 位 数	履 修 年 次	他 学 生 の 履 修 群	先修条件ほか
人 文 科 学 系 科 目 群	LIN3350L	レトリックの歴史	講義	2	2	○	
	LIN3130L	テキスト研究理論	講義	4	2	○	
	COM1000L	現代コミュニケーション理論	講義	4	1	○	
	COM1130L	集団コミュニケーション	講義	2	1	○	
	COM2130L	組織コミュニケーション	講義	4	2	○	集団コミュニケーション
	COM2120L	対人コミュニケーション	講義	4	2	○	現代コミュニケーション理論
	COM2140L	異文化コミュニケーション	講義	4	2	○	現代コミュニケーション理論
	COM3160L	コミュニケーション学特論(非言語)	講義	4	2	○	
	COM2050L	コミュニケーション学特論(きくことの科学)	講義	4	2	○	オーラルコミュニケーション(きく)
	COM3140L	言語とジェンダー	講義	4	2	○	
	COM3143L	異文化理解教育	講義	4	3	○	異文化コミュニケーション
	COM2143L	国際コミュニケーション	講義	4	2	○	
	COM2170L	メディアコミュニケーション	講義	2	2	○	
	COM3210L	コミュニケーション調査研究	講義	4	2	×	
	COM1004L	オーラルコミュニケーション(きく)	講義	2	1	○	
	COM1003L	オーラルコミュニケーション(話す)	講義	2	1	○	
	COM2150L	話し言葉の技法	講義	2	2	×	オーラルコミュニケーション(話す)
	COM3450L	議論とディベート	演習	2	2	○	
	COM3030L	ミディエーション	講義	2	2	○	集団コミュニケーション
	COM3150L	現代レトリック論	講義	4	3	○	
	LIT2340L	ロシアの社会と文化	講義	4	2	○	
	LIT3100L	比較文学	講義	4	2	○	
	LIT3340L	ロシア文学研究	講義	4	2	○	
	LIT2360L	フランス文学	講義	4	2	○	
	LIT2351L	ドイツ文学Ⅰ	講義	2	2	○	
	LIT2352L	ドイツ文学Ⅱ	講義	2	2	○	
	CHR1330L	キリスト教古典入門	講義	2	1	○	
	CHR1020L	キリスト教史	講義	2	1	○	
	CHR2031L	キリスト教神学概論	講義	2	2	○	
	CHR2012L	聖書学概論	講義	2	2	○	聖書
	CHR3150L	一神教研究	講義	2	2	○	
	CHR3111L	旧約聖書研究	講義	2	3	○	
	CHR3112L	新約聖書研究	講義	2	3	○	
	CHR3333L	キリスト教の理論	講義	4	3	○	
	CHR3140L	現代キリスト教の諸問題	講義	2	3	○	
	CHR1341L	キリスト教とジェンダー	講義	2	2	○	
	CHR4400L	専門書講読	演習	4	3	×	
	REL1000L	宗教学概論	講義	4	2	○	
	REL2300L	日本の宗教	講義	4	2	○	
	REL3150L	宗教学研究特論	講義	2	2	○	
	REL3130L	宗教学の諸問題	講義	2	3	△	

専攻プログラム 授業科目	英語学・英文学	中国言語文化	日本語日本文学	日本語教育	言語学	コミュニケーション学	現代世界文学	キリスト教	宗教学	哲学	倫理学	文化人類学	アメリカ地域研究	アジア地域研究	日本地域研究	歴史学	国際関係	国際協力	社会学	心理学	教育学(教職教育)	国際経済	ビジネスエコンミクス	公共政策	数学	物理学	化学	生物	地球科学	情報科学	環境学	メディア(ジャーナリズム)	博物館学
レトリックの歴史					○	○																											
テキスト研究理論					○																												
現代コミュニケーション理論					○	○																											○
集団コミュニケーション						○																											○
組織コミュニケーション						○																											
対人コミュニケーション			○	○		○																											
異文化コミュニケーション						○																											
コミュニケーション学特論(非言語)						○																											
コミュニケーション特論(きく)の科学						○																											
言語とジェンダー					○	○																											
異文化理解教育						○																											
国際コミュニケーション						○																											
メディアコミュニケーション						○																											
コミュニケーション調査研究						○																											
オーラルコミュニケーション(きく)			○			○																											
オーラルコミュニケーション(話す)			○			○																											
話し言葉の技法						○																											
議論とディベート						○																											
ミディエーション						○																											
現代レトリック論						○																											
ロシアの社会と文化							○					○																					
比較文学							○																										
ロシア文学研究							○																										
フランス文学							○																										
ドイツ文学 I							○																										
ドイツ文学 II							○																										
キリスト教古典入門								○																									
キリスト教史								○	○																								
キリスト教神学概論								○																									
聖書学概論								○																									
一神教研究								○	○																								
旧約聖書研究								○																									
新約聖書研究								○																									
キリスト教の理論								○																									
現代キリスト教の諸問題								○																									
キリスト教とジェンダー								○																									
専門書講読								○																									
宗教学概論								○	○	○	○	○		○																			
日本の宗教									○			○			○																		
宗教学研究特論									○	○	○																						
宗教学の諸問題								○	○	○	○																						

(次のページに続く)

科目区分	科目コード	授 業 科 目	授 業 方 法	単 位 数	履 修 年 次	他 学 生 の 履 修 群	先修条件ほか
人 文 科 学 系 科 目 群	REL2350L	西洋文明と思想	講義	4	2	○	
	CHR3340L	キリスト教文化論	講義	4	2	△	
	PHL3000L	哲学概論	講義	4	2	○	
	PHL3330L	論理学	講義	4	2	○	
	PHL2371L	哲学の諸問題 A	講義	4	2	○	
	PHL2372L	哲学の諸問題 B	講義	4	2	○	
	PHL3371L	哲学研究特論 A	講義	2	2	○	
	PHL3372L	哲学研究特論 B	講義	2	2	△	
	ETH2000L	倫理学概論	講義	4	2	○	
	ETH3320L	社会思想史	講義	4	3	○	
	ETH2360L	環境倫理学	講義	2	2	○	
	ETH2020L	日本思想史	講義	4	2	○	
	ETH2340L	倫理学研究特論 A	講義	2	2	△	
	ETH2330L	倫理学研究特論 B	講義	2	2	△	
	ETH2341L	倫理学研究特論 C	講義	2	2	△	
	ETH2010L	倫理学説史	講義	2	2	△	
	ETH2160L	応用倫理学	講義	2	2	○	
	ETH3370L	環境・生命・人権の哲学	講義	2	3	○	
	ETH3150L	倫理学の諸問題 A	講義	4	3	△	倫理学概論
	ETH3130L	倫理学の諸問題 B	講義	4	3	△	倫理学概論
	PSY1002L	心理学	講義	4	1	○	
	PSY1160L	健康教育概論	講義	2	2	○	
	PSY1210L	心理測定法	講義	2	1	○	
	PSY2210L	心理学研究法	講義	2	2	○	心理学
	PSY2211L	心理統計法	講義	2	2	○	心理測定法
	PSY2120L	生涯発達心理学	講義	4	1	○	
	PSY2123L	教育心理学（心理学）	講義	4	2	○	
	PSY2130L	学習心理学	講義	4	2	○	
	PSY3130L	認知心理学	講義	4	2	○	
	PSY2132L	生理心理学	講義	2	2	○	
	PSY2140L	社会心理学	講義	4	2	○	
	PSY3140L	家族心理学	講義	4	2	○	
	PSY3143L	産業・組織心理学	講義	4	2	○	
	PSY2143L	人間関係論	講義	4	2	○	
	PSY2150L	人格心理学	講義	4	2	○	
	PSY2153L	臨床心理学	講義	4	2	○	
	PSY3153L	心理療法概論	講義	4	2	○	
	MED1340L	精神保健学	講義	4	2	○	
	PSY3155L	精神医学	講義	4	2	○	
	PSY2160L	健康心理学	講義	4	2	○	
	PSY3160L	健康心理カウンセリング概論	講義	2	3	○	健康心理学

専攻プログラム 授業科目	英語学・英文学	中国言語文化	日本語日本文学	日本語教育	言語学	コミュニケーション学	現代世界文学	キリスト教 学	宗 教 学	哲 学	倫 理 学	文化人類学	アメリカ地域研究	アジア地域研究	日本地域研究	歴史学	国際関係	国際協力	社会学	心理学	教育学（教職教育）	国際経済	ビジネスエコノミクス	公共政策	数学	物理学	化学	生物学	地球科学	情報科学	環境学	メディアジャーナリズム	博物館学		
西洋文明と思想								○	○	○																									
キリスト教文化論								○	○	○		○																							
哲学概論										○	○																								
論理学				○						○	○																								
哲学の諸問題 A								○	○	○																									
哲学の諸問題 B								○	○	○																									
哲学研究特論 A								○	○	○																									
哲学研究特論 B								○	○	○																									
倫理学概論								○		○	○							○																	
社会思想史								○	○	○	○					○			○																
環境倫理学											○																					○			
日本思想史								○	○	○	○				○	○																			
倫理学研究特論 A								○	○	○																									
倫理学研究特論 B									○	○																									
倫理学研究特論 C										○																									
倫理学説史										○																									
応用倫理学										○																									
環境・生命・人権の哲学								○	○	○								○										○			○				
倫理学の諸問題 A								○	○	○																									
倫理学の諸問題 B									○	○																									
心理学									○											○															
健康教育概論																				○															
心理測定法																				○															
心理学研究法																				○															
心理統計法																				○															
生涯発達心理学																				○	○														○
教育心理学（心理学）																				○															
学習心理学																				○	○														
認知心理学																				○															
生理心理学																				○															
社会心理学					○														○	○															
家族心理学																				○	○														
産業・組織心理学																				○															
人間関係論																				○															
人格心理学																				○															
臨床心理学																				○															
心理療法概論																				○															
精神保健学																				○															
精神医学																				○															
健康心理学																				○															
健康心理カウンセリング概論																				○															

(次のページに続く)

科目区分	科目コード	授 業 科 目	授 業 方 法	単 位 数	履 修 年 次	他 学 生 の 履 修 群	先修条件ほか
人 文 科 学 系 科 目 群	PSY3161L	健康心理アセスメント概論	講義	2	3	○	健康心理学
	PSY3157L	学校カウンセリング論	講義	2	3	△	リベラルアーツ学群生／健康福祉学群生のみ履修可
	PSY3156L	人間性心理学	講義	2	2	△	リベラルアーツ学群生／健康福祉学群生のみ履修可
	PSY3146L	宗教心理学	講義	2	2	△	リベラルアーツ学群生／健康福祉学群生のみ履修可
	PSY3640L	社会心理学調査実習	実習	2	2	△	心理測定法 リベラルアーツ学群生／健康福祉学群生のみ履修可
	PSY3510L	心理学基礎実験	実験	2	2	△	心理学研究法、心理統計法 リベラルアーツ学群生／健康福祉学群生のみ履修可
	PSY3610L	心理学実験実習	実習	2	3	△	心理学基礎実験 リベラルアーツ学群生／健康福祉学群生のみ履修可
	PSY3410L	心理統計法演習	演習	2	3	△	心理学研究法、心理統計法 リベラルアーツ学群生／健康福祉学群生のみ履修可
	PSY3660L	健康心理学基礎実習	実習	2	3	△	健康心理カウンセリング概論、健康心理アセスメント概論 リベラルアーツ学群生／健康福祉学群生のみ履修可
	GEG1100L	文化地理学	講義	4	1	○	
	JPS3334L	日本考古学	講義	2	3	○	
	JPS3354L	日本民俗学	講義	2	3	○	
	PSY1001L	心理学概論	講義	4	1	○	
社 会 科 学 系 科 目 群	ANT1000L	文化人類学	講義	4	1	△	
	ANT2120L	同時代の人類学	講義	4	2	○	
	ANT2130L	ジェンダーの人類学	講義	4	2	○	
	ANT2110L	宗教人類学	講義	4	2	○	
	ANT2230L	文化人類学特論(性の人類学)	講義	4	2	○	
	ANT2220L	文化人類学特論(実践の人類学)	講義	4	2	○	
	ANT2240L	文化人類学特論(遊牧文化論)	講義	2	2	×	
	ANT3600L	文化人類学フィールドワーク	実習	2	2	×	文化人類学
	ANT3110L	イスラーム文化論	講義	4	2	○	
	ANT3111L	儒教文化論	講義	4	2	○	
	ANT3112L	仏教文化論	講義	4	2	○	
	AMS2000L	アメリカ研究概論	講義	4	2	○	
	AMS2130L	アメリカの歴史	講義	4	2	○	
	AMS2140L	アメリカの文化	講義	4	1	○	
	AMS2131L	アメリカ社会史	講義	4	2	○	
	AMS3130L	アメリカ思想史	講義	4	2	○	
	AMS2150L	アメリカ民族論	講義	4	2	○	
	AMS3150L	アメリカ女性論	講義	4	2	○	
	LIT3175L	英語圏の映画と文化	講義	4	3	△	
	AMS2151L	アメリカの社会	講義	4	2	○	
	AMS3110L	アメリカの政治	講義	4	2	○	
	AMS3111L	アメリカの外交	講義	4	2	○	
	AMS3120L	アメリカの経済	講義	4	2	○	
	INT3130L	日米関係論	講義	4	2	○	
	AMS3380L	アメリカ研究特論	講義	2	2	○	
	ANS1000L	アジア研究概論	講義	4	1	○	
	ANS2131L	アジアの歴史Ⅰ	講義	4	2	○	
	ANS2132L	アジアの歴史Ⅱ	講義	4	2	○	

専攻プログラム 授業科目	英語学・英文学	中国言語文化	日本語日本文学	日本語教育	言語学	コミュニケーション学	現代世界文学	キリスト教 学	宗 教 学	哲 学	倫 理 学	文化人類学	アメリカ地域研究	アジア地域研究	日本地域研究	歴史学	国際関係	国際協力	社会学	心理学	教育学(教職教育)	国際経済	ビジネスエノミクス	公共政策	数学	物理学	化学	生物	地球科学	情報科学	環境学	メディアジャーナリズム	博物館学
健康心理アセスメント概論																				○													
学校カウンセリング論																				○													
人間性心理学																				○													
宗教心理学								○	○	○										○													
社会心理学調査実習																				○													
心理学基礎実験																				○													
心理学実験実習																				○													
心理統計法演習																				○													
健康心理学基礎実習																				○													
文化地理学									○																								○
日本考古学																																	○
日本民俗学																																	○
心理学概論										○																							
文化人類学				○								○	○	○		○			○														○
同時代の人類学												○																					
ジェンダーの人類学												○																					
宗教人類学								○	○			○																					
文化人類学特論(性の人類学)												○																					
文化人類学特論(実践の人類学)												○																					
文化人類学特論(道徳文化論)												○																					
文化人類学フィールドワーク												○																					
イスラーム文化論								○	○	○		○		○																			
儒教文化論									○			○		○																			
仏教文化論								○	○	○		○		○																			
アメリカ研究概論													○			○																	
アメリカの歴史													○			○																	
アメリカの文化	○											○	○			○			○														
アメリカ社会史												○	○			○																	
アメリカ思想史									○	○	○		○			○																	
アメリカ民族論													○	○																			
アメリカ女性論													○	○					○														
英語圏の映画と文化													○																				
アメリカの社会												○	○																				
アメリカの政治													○																				
アメリカの外交													○				○																
アメリカの経済													○																				
日米関係論													○		○																		
アメリカ研究特論													○																				
アジア研究概論		○												○		○																	
アジアの歴史Ⅰ		○												○		○																	
アジアの歴史Ⅱ		○												○		○																	

(次のページに続く)

科目区分	科目コード	授 業 科 目	授 業 方 法	単 位 数	履 修 年 次	他 学 生 の 履 修 群	先修条件ほか
社 会 科 学 系 科 目 群	HIS3250L	ユーラシア文化交流史	講義	4	2	○	
	HIS3220L	日韓交流史	講義	4	2	○	
	ANS2380L	アジアの思想と宗教	講義	4	2	○	
	ANS2140L	韓国文化論	講義	4	2	○	
	ANS2141L	中国文化論	講義	4	2	○	
	ANS2381L	発展途上国論	講義	4	2	○	
	ANS3110L	アジアの政治	講義	4	2	○	
	ANS2120L	アジアの経済	講義	4	2	○	
	ANS3380L	東北アジア研究	講義	4	2	○	
	ANS3180L	東アジア研究	講義	4	2	○	
	ANS2150L	東アジアの現代社会	講義	4	2	○	
	ANS2180L	東南アジア研究	講義	4	2	○	
	ANS2181L	東南アジアの現代社会	講義	4	2	○	
	ANS3181L	南アジア研究	講義	4	2	○	
	ANS3182L	西アジア研究	講義	4	2	○	
	ANS2310L	オセアニアの政治と経済	講義	4	2	○	
	ANS3381L	アジア女性論	講義	4	2	○	
	ANS338*L	アジア研究特論	講義	4	2	○	重複履修可
	JPS2131L	日本の歴史Ⅰ	講義	4	2	○	
	JPS2132L	日本の歴史Ⅱ	講義	4	2	○	
	HIS3110L	世界史における日本	講義	4	2	○	
	JPS3130L	日本古代中世史	講義	2	2	○	
	JPS2130L	戦後日本史	講義	2	2	○	
	HIS3150L	日米交流史	講義	4	2	○	
	JPS2000L	日本研究概論	講義	4	2	○	
	JPS3140L	日本文化論	講義	4	2	○	
	GEG1010L	地誌学概論	講義	2	1	○	
	JPS1140L	日本の民俗	講義	2	1	○	
	HIS4350L	日露文化交流史	講義	4	2	○	
	ANS2133L	日中交流史	講義	2	2	○	
	ANS2182L	日中交流論	講義	2	2	○	
	JPS2380L	日本研究特論(日米文化社会比較)	講義	4	2	○	
	HIS1000L	世界史概論	講義	4	1	○	
	INT1001L	国際政治論	講義	4	1	○	
	POL1000L	政治学概論	講義	4	1	○	
	INT1002L	国際関係論	講義	4	1	○	
	INT2121L	国際関係史Ⅰ	講義	4	2	○	
	INT2122L	国際関係史Ⅱ	講義	4	2	○	
	POL2170L	国家論	講義	4	2	○	
	INT2110L	紛争論	講義	4	2	○	
	INT2111L	民族研究	講義	4	2	○	

「*」：数字コードが複数存在する科目

専攻プログラム 授業科目	英語学・英文学	中国言語文化	日本語日本文学	日本語教育	言語学	コミュニケーション学	現代世界文学	キリスト教学	宗教学	哲学	倫理学	文化人類学	アメリカ地域研究	アジア地域研究	日本地域研究	歴史学	国際関係	国際協力	社会学	心理学	教育学(教職教育)	国際経済	ビジネス・エコノミクス	公共政策	数学	物理学	化学	生物学	地球科学	情報科学	環境学	メディア・ジャーナリズム	博物館学
ユーラシア文化交流史														○	○																		
日韓交流史														○	○	○																	
アジアの思想と宗教								○						○																			
韓国文化論			○				○	○				○		○																			
中国文化論							○					○		○																			
発展途上国論														○			○	○															
アジアの政治														○			○																
アジアの経済														○								○											
東北アジア研究												○		○																			
東アジア研究		○										○		○																			
東アジアの現代社会												○		○																			
東南アジア研究												○		○																			
東南アジアの現代社会												○		○																			
南アジア研究												○		○																			
西アジア研究								○				○		○																			
オセアニアの政治と経済														○																			
アジア女性論												○		○			○	○	○														
アジア研究特論														○																			
日本の歴史Ⅰ															○	○																	○
日本の歴史Ⅱ															○	○																	○
世界史における日本				○											○	○																	
日本古代中世史															○																		
戦後日本史															○																		
日米交流史													○		○	○																	
日本研究概論															○	○																	
日本文化論												○			○																		○
地誌学概論															○																		
日本の民俗															○																		
日露文化交流史							○								○	○																	
日中交流史															○																		
日中交流論															○																		
日本研究特論(日米文化社会比較)															○																		
世界史概論									○				○	○		○																	
国際政治論																	○	○															
政治学概論													○	○		○	○																
国際関係論																	○	○															
国際関係史Ⅰ																○	○																
国際関係史Ⅱ																○	○																
国家論																	○		○														
紛争論																	○																
民族研究													○			○	○		○														

(次のページに続く)

科目区分	科目コード	授 業 科 目	授 業 方 法	単 位 数	履 修 年 次	他 学 生 の 履 修 群	先修条件ほか
社会科学系科目群	POL3110L	国際関係思想	講義	4	2	○	
	INT3110L	国際機構論	講義	4	2	○	
	LAW3230L	国際人権法	講義	4	2	○	
	POL3130L	比較政治学	講義	4	2	○	
	POL3180L	政治過程論	講義	4	2	○	
	POL2120L	日本の政治	講義	4	2	○	
	POL2150L	現代日本の政治	講義	4	2	○	
	INT3320L	冷戦後の国際関係	講義	4	2	○	
	INT3330L	ヨーロッパの政治	講義	4	2	○	
	INT3321L	近代日本の外交	講義	4	2	○	
	INT1000L	国際協力入門（NGO 論）	講義	4	1	○	
	INT2132L	国際交流論	講義	4	2	○	
	LAW3330L	難民・移民の人権	講義	4	2	○	
	INT2340L	人間の安全保障	講義	4	2	○	
	INT3341L	持続可能な開発	講義	4	2	○	
	INT3342L	子どもと開発	講義	4	2	○	
	INT3343L	ジェンダーと開発	講義	4	2	○	
	INT3344L	平和構築論	講義	4	2	○	
	INT2112L	国際協力論	講義	4	2	○	
	LAW2130L	国際法	講義	4	2	○	
	LAW3231L	国際協力法	講義	4	2	○	
	INT3310L	平和論	講義	4	3	○	
	INT4340L	国際協力特論（グローバル・ガバナンス）	講義	4	3	○	
	INT2600L	国際学インターン A	実習	2	2	△	
	INT2601L	国際学インターン B	実習	2	2	△	
	INT36**L	国際協力フィールドワーク	実習	1~4	2	○	重複履修可
	INT260*L	NGO/NPO 実務実習 A	実習	1~4	2	△	
	INT360*L	NGO/NPO 実務実習 B	実習	1~4	2	△	
	SOC1000L	社会学概論	講義	4	1	○	
	SOC2110L	社会学史	講義	4	2	○	
	SOC2021L	社会調査法	講義	4	2	○	
	SOC2130L	比較社会学	講義	4	2	○	
	SOC3020L	社会統計学	講義	2	2	△	
	SOC2140L	家族社会学	講義	4	2	○	
	SOC2131L	文化社会学	講義	4	2	○	
	SOC3150L	地域社会学	講義	4	2	○	
	SOC3130L	現代社会研究	講義	4	2	○	
	SOC3250L	社会学特講	講義	2	3	○	
	EDU1000L	教育学概論	講義	2	1	○	
	EDU2010L	教育思想	講義	2	1	○	
	EDU1030Q	教職入門	講義	2	1	○	

「*」：数字コードが複数存在する科目

専攻プログラム 授業科目	英語学・英文学	中国言語文化	日本語日本文学	日本語教育	言語学	コミュニケーション学	現代世界文学	キリスト教	宗教学	哲学	倫理学	文化人類学	アメリカ地域研究	アジア地域研究	日本地域研究	歴史学	国際関係	国際協力	社会学	心理学	教育学(教職教育)	国際経済	ビジネスエノミクス	公共政策	数学	物理学	化学	生物	地球科学	情報科学	環境学	メディア(ジャーナリズム)	博物館学
国際関係思想										○	○						○																
国際機構論																	○	○															
国際人権法											○						○	○															
比較政治学																	○	○															
政治過程論																	○																
日本の政治															○		○																
現代日本の政治															○		○																○
冷戦後の国際関係																○	○																
ヨーロッパの政治																	○																
近代日本の外交															○	○	○																
国際協力入門(NGO 論)																	○	○	○														
国際交流論																	○	○															
難民・移民の人権																	○	○															
人間の安全保障											○						○	○															
持続可能な開発																		○	○														
子どもと開発																		○															
ジェンダーと開発																		○															
平和構築論																		○															
国際協力論																		○															
国際法																	○	○															
国際協力法																	○	○															
平和論											○						○	○															
国際協力論(グローバル・ガバナンス)																	○	○															
国際学インターン A																		○															
国際学インターン B																		○															
国際協力フィールドワーク												○						○															
NGO/NPO 実務実習 A																		○															
NGO/NPO 実務実習 B																		○															
社会学概論					○				○		○							○	○														
社会学史																			○														
社会調査法				○															○													○	
比較社会学												○	○						○														
社会統計学																			○												○		
家族社会学																			○														
文化社会学																			○														
地域社会学																			○														
現代社会研究																			○													○	
社会学特講																			○														
教育学概論																					○												
教育思想									○												○												
教職入門																					○												

(次のページに続く)

科目区分	科目コード	授 業 科 目	授 業 方 法	単 位 数	履 修 年 次	他 学 生 の 履 修 群	先修条件ほか
社 会 科 学 系 科 目 群	LAW1020L	日本国憲法	講義	2	1	○	
	EDU2011L	教育哲学	講義	2	2	○	
	EDU2310L	西洋教育史	講義	2	2	○	
	EDU2311L	日本教育史	講義	2	2	○	
	EDU3310L	比較教育学	講義	2	2	○	
	EDU2300L	教育原理（教職課程）	講義	2	1	○	
	PSY2220L	教育心理学（教職課程）	講義	2	2	○	教職課程登録者のみ履修可
	EDU2390L	教育制度論	講義	2	2	○	
	EDU2340L	教育課程論	講義	2	2	○	
	EDU3340L	道德教育論	講義	2	2	○	
	EDU3341L	特別活動論	講義	2	2	○	
	EDU3320L	教育方法論	講義	2	2	○	
	EDU3321L	生徒指導論（生徒理解と教育相談）	講義	2	2	○	
	EDU3322L	進路指導論	講義	2	2	○	
	CHR2340L	キリスト教と教育	講義	2	1	○	
	EDU2080L	家庭と教育	講義	2	1	○	
	REL3340L	宗教と教育	講義	2	2	○	
	EDU3311L	現代アジアの教育と文化	講義	2	2	○	
	LIS3200L	読書と豊かな人間性	講義	2	3	○	
	LIS3270L	情報メディアの活用	講義	2	3	○	
	EDU3220L	学校図書館メディアの構成	講義	2	3	○	
	ECO1010L	基礎ミクロ経済学	講義	2	1	○	
	ECO1011L	基礎マクロ経済学	講義	2	1	○	
	ECO1012L	政治経済学	講義	4	1	○	
	ECO1080L	経済史	講義	4	1	○	
	ECO1001L	経済数学入門Ⅰ	講義	2	1	○	
	ECO1002L	経済数学入門Ⅱ	講義	2	1	○	
	ECO2010L	経済学史	講義	4	2	○	
	ECO2011L	マクロ経済学	講義	4	2	○	
	ECO2012L	ミクロ経済学	講義	4	2	○	
	ECO2300L	経済統計論	講義	4	2	○	
	ECO2380L	日本経済史	講義	4	2	○	
	ECO2320L	日本経済論	講義	4	2	○	
	ECO2140L	金融論	講義	4	2	○	
	LAW2350L	労働法	講義	4	2	○	
	LAW3051L	経済法Ⅰ	講義	2	2	○	
	LAW3052L	経済法Ⅱ	講義	2	2	○	
	ECO3110L	計量経済学	講義	2	2	○	
	ECO3111L	経済変動論	講義	4	2	○	
	ECO2112L	現代資本主義論	講義	4	2	○	
	ECO3113L	ゲーム理論	講義	2	2	○	

(次のページに続く)

科目区分	科目コード	授 業 科 目	授 業 方 法	単 位 数	履 修 年 次	他 学 生 の 履 修 群	先修条件ほか
社会科学部	ECO2350L	社会経済学	講義	4	2	○	
	ECO2301L	経済学特殊講義	講義	2	2	○	
	ECO3130L	国際経済論	講義	4	2	○	
	ECO3131L	国際金融論	講義	4	2	○	
	ECO3132L	経済開発論	講義	4	2	○	
	ECO3330L	多国籍企業論	講義	4	2	○	
	ECO3320L	アメリカ経済論	講義	4	2	○	
	ECO3321L	ヨーロッパ経済論	講義	4	2	○	
	ECO3322L	中国経済論	講義	4	2	○	
	ECO3323L	ロシア東欧経済論	講義	4	2	○	
	ECO3133L	国際マクロ経済学	講義	4	2	○	
	ECO3331L	国際投資論	講義	4	2	○	
	ECO3332L	国際貿易論	講義	4	2	○	
	ECO3170L	企業経済論	講義	4	2	○	
	ECO3370L	中小企業論	講義	4	2	○	
	ECO3371L	情報経済論	講義	4	2	○	
	ECO3372L	サービス経済論	講義	4	2	○	
	ECO3171L	産業組織論	講義	4	2	○	
	ECO3373L	工業経済論	講義	4	2	○	
	ECO3374L	農業経済論	講義	4	2	○	
	ECO3375L	流通経済論	講義	4	2	○	
	MGM3310L	企業分析論	講義	4	2	○	
	ECO3376L	産業調査論	講義	4	2	○	
	ECO3340L	企業金融論	講義	4	2	○	
	ECO3172L	産業構造論	講義	4	2	○	
	ECO3341L	金融政策	講義	4	2	○	
	ECO3140L	財政学	講義	4	2	○	
	ECO3150L	社会政策	講義	4	2	○	
	ECO3350L	生活経済論	講義	2	2	○	
	ECO3190L	環境経済論	講義	4	2	○	
	POL3360L	行政学	講義	4	2	○	
	ECO3351L	経済政策	講義	4	2	○	
	ECO3352L	社会保障論	講義	2	2	○	
	ECO3360L	労働経済論	講義	4	2	○	
	ECO3342L	地方財政論	講義	4	2	○	
	ECO3353L	厚生経済学	講義	2	2	○	
	ECO3151L	公共経済学	講義	4	2	○	
	ECO3390L	資源・エネルギー論	講義	4	2	○	
	MSO1000L	博物館概論	講義	2	1	○	
	EDU2360L	生涯学習概論	講義	2	1	○	
	MSO2140L	博物館教育論	講義	2	1	○	

専攻プログラム 授業科目	英語学・英文学	中国言語文化	日本語日本文学	日本語教育	言語学	コミュニケーション学	現代世界文学	キリスト教	宗 教 学	哲 学	倫 理 学	文化人類学	アメリカ地域研究	アジア地域研究	日本地域研究	歴 史 学	国 際 関 係	国 際 協 力 学	社 会 学	心 理 学	教育学（教職教育）	国 際 経 済	ビジネスエノミクス	公 共 政 策	数 学	物 理 学	化 学	生 物 学	地 球 科 学	情 報 科 学	環 境 学	メディアジャーナリズム	博 物 館 学
社会経済学																						○	○	○									
経済学特殊講義																						○	○	○									
国際経済論																						○											
国際金融論																						○											
経済開発論																		○				○											
多国籍企業論																						○											
アメリカ経済論													○									○											
ヨーロッパ経済論																						○											
中国経済論		○																				○											
ロシア東欧経済論																						○											
国際マクロ経済学																						○											
国際投資論																						○											
国際貿易論																						○											
企業経済論																							○										
中小企業論																							○										
情報経済論																							○										
サービス経済論																							○										
産業組織論																							○										
工業経済論																							○										
農業経済論																							○										
流通経済論																							○										
企業分析論																							○										
産業調査論																							○										
企業金融論																							○										
産業構造論																							○										
金融政策																								○									
財政学																								○									
社会政策																			○					○									
生活経済論																								○									
環境経済論																								○								○	
行政学																								○									
経済政策																								○									
社会保障論																								○									
労働経済論																							○	○									
地方財政論																								○									○
厚生経済学																								○									
公共経済学																								○									○
資源・エネルギー論																								○		○					○		
博物館概論																																	○
生涯学習概論																					○												○
博物館教育論																																	○

(次のページに続く)

科目区分	科目コード	授 業 科 目	授 業 方 法	単 位 数	履 修 年 次	学 生 他 学 生 の 履 修 群	先修条件ほか
社会科学系科目群	MSO2150L	博物館経営論	講義	2	2	○	博物館概論
	MSO2151L	博物館情報・メディア論	講義	2	2	○	博物館概論
	MSO2110L	博物館資料論	講義	2	2	○	博物館概論
	MSO3120L	博物館資料保存論	講義	2	2	○	博物館概論
	MSO3140L	博物館展示論	講義	2	2	○	博物館概論
	MSO3300L	博物館学特論（文化遺産論）	講義	2	3	○	
	MSO3301L	博物館学特論（文化政策論）	講義	2	3	○	
	MSO3660L	博物館実習	実習	3	3	○	博物館概論、生涯学習概論、博物館経営論、博物館情報・メディア論、博物館資料論、博物館教育論、博物館資料保存論、博物館展示論
	ECO1000L	経済学概論	講義	4	1	○	
	GEG1000L	地理学概論	講義	4	1	○	
	HIS1001L	日本史概論	講義	4	2	○	
	LAW1000L	法律学概論（国際法を含む）	講義	4	1	○	
	ESC1040L	自然地理学概論	講義	4	1	○	
自然科学系科目群	MTH1100L	数学概論	講義	2	1	○	
	MTH2010L	線形代数学	講義	4	2	○	数学概論（高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。）又は線形代数学入門と微分積分学入門
	MTH2030L	微分積分学	講義	4	2	○	数学概論（高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。）又は線形代数学入門と微分積分学入門
	MTH2400L	数学演習	演習	2	2	○	数学概論（高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。）又は線形代数学入門と微分積分学入門
	MTH3030L	解析学	講義	4	3	○	線形代数学、微分積分学
	MTH3070L	確率論と統計学	講義	4	3	○	微分積分学
	MTH4060L	離散数学	講義	4	3	○	線形代数学
	MTH3010L	代数学	講義	4	3	○	線形代数学、微分積分学
	MTH4040L	幾何学	講義	4	3	○	線形代数学、微分積分学
	MTH3280L	コンピュータとデータ解析	講義	2	3	○	確率論と統計学
	MTH1030L	微分積分学入門	講義	2	1	○	微分積分学の既修得者は履修不可
	MTH1010L	線形代数学入門	講義	2	1	○	線形代数学の既修得者は履修不可
	PHY1000L	物理学概論	講義	2	1	○	
	PHY2011L	力学Ⅰ	講義	2	2	○	物理学概論（同時履修を認める場合があります。また、高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。）
	PHY2012L	力学Ⅱ	講義	2	2	○	力学Ⅰ
	PHY2031L	電磁気学Ⅰ	講義	2	2	○	物理学概論（同時履修を認める場合があります。また、高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。）
	PHY2032L	電磁気学Ⅱ	講義	2	2	○	電磁気学Ⅰ
	PHY2040L	熱力学	講義	2	2	○	物理学概論（同時履修を認める場合があります。また、高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。）
	PHY3040L	統計力学	講義	2	3	○	微分積分学、力学Ⅰ、熱力学
	PHY3061L	量子力学Ⅰ	講義	2	3	○	力学Ⅰ、力学Ⅱ、電磁気学Ⅰ
	PHY3062L	量子力学Ⅱ	講義	2	3	○	線形代数学、微分積分学、量子力学Ⅰ
	PHY2501L	物理学実験Ⅰ	実験	2	2	×	
	PHY3502L	物理学実験Ⅱ	実験	2	3	×	物理学実験Ⅰ
	PHY4301L	物理学特論Ⅰ	講義	2	3	○	物理学概論（高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。）
	PHY4302L	物理学特論Ⅱ	講義	2	3	○	物理学概論（高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。）

専攻プログラム 授業科目	英語学・英文学	中国言語文化	日本語日本文学	日本語教育	言語学	コミュニケーション学	現代世界文学	キリスト教 学	宗 教 学	哲 学	倫 理 学	文化人類学	アメリカ地域研究	アジア地域研究	日本地域研究	歴 史 学	国 際 関 係	国 際 協 力	社 会 学	心 理 学	教育学（教職教育）	国 際 経 済	ビジネスエコノミクス	公 共 政 策	数 学	物 理 学	化 学	生 物 学	地 球 科 学	情 報 科 学	環 境 学	メディアジャーナリズム	博 物 館 学		
博物館経営論																																	○		
博物館情報・メディア論																																		○	
博物館資料論																																		○	
博物館資料保存論																																		○	
博物館展示論																																		○	
博物館学特論(文化遺産論)																																		○	
博物館学特論(文化政策論)																																		○	
博物館実習																																		○	
経済学概論													○																						
地理学概論												○	○																						
日本史概論															○	○																			
法学概論(国際法を含む)																		○																	
自然地理学概論																																			
数学概論					○																				○	○	○	○	○	○	○				
線形代数学																									○	○	○	○	○						
微分積分学																									○	○	○	○	○						
数学演習																									○				○						
解析学																									○	○									
確率論と統計学																									○				○						
離散数学																									○										
代数学																									○										
幾何学																									○										
コンピュータとデータ解析																									○				○						
微分積分学入門																											○	○	○	○	○				
線形代数学入門																											○	○	○	○	○				
物理学概論																									○	○	○	○	○						
力学Ⅰ																									○	○	○	○	○						
力学Ⅱ																									○	○		○	○						
電磁気学Ⅰ																									○	○	○		○						
電磁気学Ⅱ																									○	○			○						
熱力学																									○	○	○		○						
統計力学																									○	○	○		○						
量子力学Ⅰ																									○	○	○								
量子力学Ⅱ																									○	○									
物理学実験Ⅰ																									○	○	○	○	○						
物理学実験Ⅱ																									○	○	○	○	○						
物理学特論Ⅰ																									○	○									
物理学特論Ⅱ																									○	○									

(次のページに続く)

科目区分	科目コード	授 業 科 目	授 業 方 法	単 位 数	履 修 年 次	学 生 の 履 修 群	先修条件ほか
自然科学系科目群	CHM1000L	化学概論	講義	2	1	○	
	CHM2011L	無機化学Ⅰ	講義	2	2	○	化学概論（同時履修を認める場合があります。また、高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。）
	CHM2012L	無機化学Ⅱ	講義	2	2	○	無機化学Ⅰ
	CHM2021L	基礎有機化学	講義	2	2	○	化学概論（同時履修を認める場合があります。また、高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。）
	CHM2022L	有機合成化学	講義	2	2	○	基礎有機化学
	CHM3140L	基礎分析化学	講義	2	2	○	化学概論（同時履修を認める場合があります。また、高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。）
	CHM3145L	機器分析化学	講義	2	2	○	基礎分析化学
	CHM3130L	化学熱力学・反応速度	講義	2	2	○	化学概論（同時履修を認める場合があります。また、高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。）
	CHM3135L	量子化学	講義	2	2	○	化学概論（同時履修を認める場合があります。また、高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。）
	CHM3150L	生体物質化学	講義	2	2	○	化学概論（同時履修を認める場合があります。また、高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。）
	CHM2501L	化学実験Ⅰ	実験	2	2	×	化学概論（高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。）
	CHM3502L	化学実験Ⅱ	実験	2	3	×	化学実験Ⅰ
	CHM4300L	化学特論	講義	2	3	○	化学概論（高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。）
	CHM3160L	エネルギー化学	講義	2	3	○	
	BIO1000L	生物学概論	講義	2	1	○	
	BIO2011L	植物学Ⅰ	講義	2	2	○	
	BIO2012L	植物学Ⅱ	講義	2	2	○	植物学Ⅰ
	BIO2021L	動物学Ⅰ	講義	2	2	○	
	BIO2022L	動物学Ⅱ	講義	2	2	○	動物学Ⅰ
	BIO3041L	生態学Ⅰ	講義	2	2	○	
	BIO3042L	生態学Ⅱ	講義	2	2	○	生態学Ⅰ
	BIO3031L	生理学Ⅰ	講義	2	3	○	
	BIO3032L	生理学Ⅱ	講義	2	3	○	生理学Ⅰ
	BIO3050L	生化学	講義	2	3	○	
	BIO3060L	遺伝と進化	講義	2	3	○	
	BIO2501L	生物学実験Ⅰ	実験	2	2	×	
	BIO3502L	生物学実験Ⅱ	実験	2	3	×	生物学実験Ⅰ
	BIO430*L	生物学特論	講義	2	3	○	重複履修可
	ESC1000L	地学概論	講義	2	1	○	
	ESC3051L	地球物理学Ⅰ	講義	2	3	○	物理学概論（同時履修を認める場合があります。また、高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。）
	ESC3052L	地球物理学Ⅱ	講義	2	3	○	地球物理学Ⅰ
	ESC3081L	気象学Ⅰ	講義	2	2	○	物理学概論（同時履修を認める場合があります。また、高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。）
	ESC3082L	気象学Ⅱ	講義	2	2	○	気象学Ⅰ
	ESC3091L	天文学Ⅰ	講義	2	3	○	物理学概論（高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。）
	ESC3092L	天文学Ⅱ	講義	2	3	○	天文学Ⅰ
	ESC2011L	地質学Ⅰ	講義	2	2	○	
	ESC2012L	地質学Ⅱ	講義	2	2	○	地質学Ⅰ
	ESC2501L	地学実験Ⅰ	実験	2	2	△	

「*」：数字コードが複数存在する科目

専攻プログラム 授業科目	英語学・英文学	中国言語文化	日本語日本文学	日本語教育	言語学	コミュニケーション学	現代世界文学	キリスト教	宗教学	哲学	倫理学	文化人類学	アメリカ地域研究	アジア地域研究	日本地域研究	歴史学	国際関係	国際協力	社会学	心理学	教育学(教職教育)	国際経済	ビジネスエノミクス	公共政策	数学	物理学	化学	生物	地球科学	情報科学	環境学	メディア(ジャーナリズム)	博物館学
化学概論																									○	○	○	○	○				
無機化学Ⅰ																											○	○					
無機化学Ⅱ																											○	○					
基礎有機化学																											○	○					
有機合成化学																											○	○					
基礎分析化学																											○		○				
機器分析化学																											○		○				
化学熱力学・反応速度																									○	○	○		○				
量子化学																									○	○	○		○				
生体物質化学																											○	○			○		
化学実験Ⅰ																										○	○	○	○				
化学実験Ⅱ																										○	○	○	○				
化学特論																											○						
エネルギー化学																											○						
生物学概論																									○	○	○	○	○				
植物学Ⅰ																												○					○
植物学Ⅱ																												○					
動物学Ⅰ					○																							○					○
動物学Ⅱ					○																							○					
生態学Ⅰ																												○	○				○
生態学Ⅱ																												○	○			○	
生理学Ⅰ																											○	○					
生理学Ⅱ																												○					
生化学																											○	○					
遺伝と進化																												○					
生物学実験Ⅰ																										○	○	○	○				
生物学実験Ⅱ																										○	○	○	○				
生物学特論																												○					
地学概論																									○	○	○	○	○				
地球物理学Ⅰ																									○	○			○				○
地球物理学Ⅱ																									○	○			○				
気象学Ⅰ																										○	○		○				○
気象学Ⅱ																										○			○				
天文学Ⅰ																										○			○				○
天文学Ⅱ																										○			○				
地質学Ⅰ																											○	○	○				○
地質学Ⅱ																												○	○				
地学実験Ⅰ																									○	○	○	○					

(次のページに続く)

科目区分	科目コード	授 業 科 目	授 業 方 法	単 位 数	履 修 年 次	他 学 生 の 履 修 群	先修条件ほか
自然科学系科目群	ESC3502L	地学実験Ⅱ	実験	2	3	△	地学実験Ⅰ
	ESC4330L	古生物学	講義	2	3	○	
	ESC430*L	地球科学特論	講義	2	3	○	重複履修可
	ESC4370L	海洋学	講義	2	3	○	
	ESC421*L	地球科学演習	講義	2	3	○	重複履修可
	NSC1500L	自然科学実験	実験	2	1	×	
学 際 ・ 統 合 科 学 系 科 目 群	CHM2270L	化学と人間社会	講義	2	2	○	
	CHM2260L	環境化学	講義	2	2	○	
	IST1180L	情報と社会	講義	2	1	○	
	IST1181L	情報と倫理	講義	2	1	○	
	IST2130L	情報システム論	講義	4	2	○	コンピュータリテラシーⅡ
	IST2461L	データベースⅠ	演習	4	2	○	コンピュータリテラシーⅡ
	IST2140L	認知の科学	講義	2	2	○	コンピュータリテラシーⅡ
	IST3130L	情報ネットワーク	講義	2	3	○	情報システム論
	IST2450L	応用表計算	演習	2	2	○	コンピュータリテラシーⅡ
	IST2411L	プログラミングⅠ	演習	2	2	○	コンピュータリテラシーⅡ
	IST3412L	プログラミングⅡ	演習	2	2	○	プログラミングⅠ
	IST2470L	プレゼンテーション演習	演習	2	2	○	
	IST2471L	マルチメディア表現Ⅰ	演習	4	2	○	コンピュータリテラシーⅡ
	IST2472L	Web ページプログラミング	演習	2	2	○	コンピュータリテラシーⅡ
	IST3462L	データベースⅡ	演習	4	3	○	データベースⅠ
	IST3472L	マルチメディア表現Ⅱ	演習	4	3	○	マルチメディア表現Ⅰ
	IST3131L	情報ネットワーク演習	講義	2	3	○	情報ネットワーク
	IST3250L	情報分析論	講義	4	2	○	コンピュータリテラシーⅡ
	IST2240L	情報デザイン論	講義	2	2	○	コンピュータリテラシーⅡ
	IST3380L	情報と職業	講義	2	3	○	情報システム論
	IST3220L	システム設計論	講義	4	3	○	情報システム論
	IST3120L	ソフトウェア概論	講義	4	3	○	情報システム論
	IST3140L	ヒューマンコンピュータインターフェイス	講義	4	3	○	コンピュータリテラシーⅡ
	IST4280L	情報セキュリティ論	講義	2	3	○	コンピュータリテラシーⅡ
	IST4240L	知識表現とプログラミング	講義	2	3	○	情報システム論、プログラミングⅠ
	ENV1001L	環境と文明	講義	4	1	○	
	ENV2050L	文系のための環境科学	講義	2	2	○	
	ENV2040L	環境とまちづくり	講義	2	2	○	
	ENV2041L	環境と地域	講義	2	2	○	
	ENV2310L	環境とキリスト教	講義	2	2	○	
	SOC2020L	社会統計基礎	講義	2	2	○	
	ENV2311L	エネルギーと環境	講義	2	2	○	
	ENV2350L	人と自然	講義	2	2	○	
	ENV2351L	環境生物学	講義	2	2	○	
	ENV2151L	地球規模環境論Ⅰ	講義	2	2	○	

「*」：数字コードが複数存在する科目

専攻プログラム 授業科目	英語学・英文学	中国言語文化	日本語日本文学	日本語教育	言語学	コミュニケーション学	現代世界文学	キリスト教	宗教学	哲学	倫理学	文化人類学	アメリカ地域研究	アジア地域研究	日本地域研究	歴史学	国際関係	国際協力	社会学	心理学	教育学(教職教育)	国際経済	ビジネスエノミクス	公共政策	数学	物理学	化学	生物	地球科学	情報科学	環境学	メディア・ジャーナリズム	博物館学
地学実験Ⅱ																									○	○	○	○					
古生物学																												○					
地球科学特論																												○					
海洋学																												○		○			
地球科学演習																												○		○			
自然科学実験																																	
化学と人間社会																										○	○				○		
環境化学																										○	○				○		
情報と社会																													○		○		
情報と倫理											○																		○				
情報システム論																								○					○				
データベースⅠ																											○		○				
認知の科学					○																								○				
情報ネットワーク																													○				
応用表計算																								○			○		○				
プログラミングⅠ																								○					○				
プログラミングⅡ																								○					○				
プレゼンテーション演習						○																							○				
マルチメディア表現Ⅰ																													○		○		
Web ページプログラミング																													○				
データベースⅡ																													○				
マルチメディア表現Ⅱ																													○				
情報ネットワーク演習																													○				
情報分析論																													○				
情報デザイン論																													○				
情報と職業																													○				
システム設計論																													○				
ソフトウェア概論																								○				○					
ヒューマンコンピュータインターフェイス																													○				
情報セキュリティ論																													○				
知識表現とプログラミング																													○				
環境と文明											○																				○		
文系のための環境科学																															○		
環境とまちづくり																															○		
環境と地域																															○		
環境とキリスト教																															○		
社会統計基礎																															○		
エネルギーと環境																											○				○		
人と自然								○																				○			○		
環境生物学																												○			○		
地球規模環境論Ⅰ																												○		○			

(次のページに続く)

科目区分	科目コード	授 業 科 目	授 業 方 法	単 位 数	履 修 年 次	他 学 生 の 履 修 群	先修条件ほか
学 際 ・ 統 合 科 学 系 科 目 群	ENV2152L	地球規模環境論Ⅱ	講義	2	2	○	地球規模環境論Ⅰ
	ENV2352L	感覚公害論	講義	2	2	○	
	ENV2360L	環境リスク論	講義	2	2	○	
	ENV2030L	人間環境学	講義	4	2	○	
	ENV2010L	環境思想概論	講義	2	2	○	
	ENV2331L	江戸から学ぶ環境	講義	2	2	○	
	ENV2300L	エコロジー・デザイン特殊講義	講義	2	2	○	
	ENV2330L	環境ビジネス論	講義	2	2	○	
	ENV2340L	国際環境交渉論	講義	2	2	○	
	ENV3400L	野外安全管理	演習	1	2	○	ECO-TOP 登録者のみ履修可
	MED3400L	救急救命演習	演習	1	2	○	ECO-TOP 登録者のみ履修可
	ENV2400L	ECO-TOP インターンシップ事前研修	演習	1	2	○	ECO-TOP 登録者のみ履修可
	ENV2401L	ECO-TOP インターンシップ事後研修	演習	1	2	○	ECO-TOP 登録者のみ履修可
	ENV2601L	ECO-TOP インターンシップⅠ	実習	2	2	○	ECO-TOP 登録者のみ履修可
	ENV2602L	ECO-TOP インターンシップⅡ	実習	2	2	○	ECO-TOP インターンシップ事前研修、ECO-TOP インターンシップⅠ ECO-TOP 登録者のみ履修可
	LAW3180L	環境法学	講義	4	3	○	
	ENV3141L	都市環境政策Ⅰ	講義	2	3	○	
	ENV3142L	都市環境政策Ⅱ	講義	2	3	○	
	ENV3120L	環境教育論	講義	2	2	○	
	SOC3350L	環境社会学	講義	4	2	△	
	ENV3143L	環境マネジメント論	講義	2	2	○	
	ENV3380L	資源循環論	講義	4	3	○	
	ENV3230L	社会環境調査法	講義	2	2	○	
	ENV3250L	自然環境調査法	講義	2	3	○	
	ENV3330L	食品安全論	講義	2	3	○	
	ENV3331L	環境 NPO・NGO	講義	2	3	○	
	ENV3332L	社会環境と知的財産	講義	2	3	○	
	ENV4900L	環境科学総合演習	実験・実習	2	4	△	秋学期に履修登録すること
	MJS1000L	メディア -きのう 今日 明日-	講義	2	1	○	
	MJS1001L	ジャーナリストへの道	講義	2	1	○	
	MJS2020L	テレビ・放送の世界	講義	2	1	○	
	MJS2010L	新聞の世界	講義	2	1	○	
	MJS2030L	出版の世界	講義	2	1	○	
	MJS2050L	広告の世界	講義	2	1	○	
	MJS3210L	新聞社説を読む	講義	2	2	○	
	MJS3211L	地方紙を読む	講義	2	2	○	
	MJS3280L	英字紙を読む	講義	2	2	○	
	MJS2250L	広告コピーを読む	講義	2	2	○	
	MJS2230L	出版ジャーナリズム	講義	2	2	○	
	MJS2460L	スポーツジャーナリズム	演習	2	2	○	
	MJS2200L	日本のジャーナリズム	講義	2	2	○	

専攻プログラム 授業科目	英語学・英文学	中国言語文化	日本語日本文学	日本語教育	言語学	コミュニケーション学	現代世界文学	キリスト教 神学	哲学	倫理学	文化人類学	アメリカ地域研究	アジア地域研究	日本地域研究	歴史学	国際関係	国際協力	社会学	心理学	教育学（教職教育）	国際経済	ビジネスエコノミクス	公共政策	数学	物理学	化学	生物学	地球科学	情報科学	環境学	メディア・ジャーナリズム	博物館学
地球規模環境論Ⅱ																												○		○		
感覚公害論																														○		
環境リスク論																										○				○		
人間環境学																														○		
環境思想概論																														○		
江戸から学ぶ環境																														○		
エコロジー・デザイン特殊講義																														○		
環境ビジネス論																														○		
国際環境交渉論																														○		
野外安全管理																														○		
救急救命演習																														○		
ECO-TOP インターンシップ事前研修																														○		
ECO-TOP インターンシップ事後研修																														○		
ECO-TOP インターンシップⅠ																														○		
ECO-TOP インターンシップⅡ																														○		
環境法学																														○		
都市環境政策Ⅰ																														○		
都市環境政策Ⅱ																														○		
環境教育論																														○		
環境社会学																		○												○	○	
環境マネジメント論																														○		
資源循環論																														○		
社会環境調査法																		○												○		
自然環境調査法																											○			○		
食品安全論																										○				○		
環境 NPO-NGO																														○		
社会環境と知的財産																														○		
環境科学総合演習																														○		
メディア -きのう 今日 明日-																															○	
ジャーナリストへの道									○																						○	
テレビ・放送の世界																															○	
新聞の世界																															○	
出版の世界									○																						○	
広告の世界																															○	
新聞社説を読む									○																						○	
地方紙を読む																															○	
英字紙を読む																															○	
広告コピーを読む																															○	
出版ジャーナリズム																															○	
スポーツジャーナリズム																															○	
日本のジャーナリズム														○																	○	

(次のページに続く)

科目区分	科目コード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学生の履修群	先修条件ほか
学際・統合科学系科目群	MJS2201L	アメリカのジャーナリズム	講義	2	2	○	
	MJS2270L	若者とメディア	講義	2	2	○	
	MJS347*L	現代メディア研究	演習	2	2	×	重複履修可
	MJS3470L	メディアと人権	演習	4	2	×	
	MJS3471L	環境とメディア	演習	4	2	×	
	MJS3472L	女性とメディア	演習	4	2	×	
	MJS3473L	子供とメディア	演習	4	2	×	
	MJS3460L	スポーツにんげん学	演習	4	2	×	
	MJS3490L	雑誌をつくる(デジタル編集実践講座)	演習	4	2	×	
	MJS349*L	マスコミ特訓講座	演習	2	3	×	文章表現Ⅱ 重複履修可
学群共通	ACG2302L	学外研修事後学習	講義	2	2	○	
	ACG2301L	学外研修事前学習	講義	2	2	○	
	ACG2601L	インターンシップⅠ	実習	2	2	○	
	ACG2602L	インターンシップⅡ	実習	2	2	○	
	ACG2603L	インターンシップⅢ	実習	2	2	○	
	ACG2604L	インターンシップⅣ	実習	2	2	○	
	###39**L	専攻演習Ⅰ	演習	2	3	△	
	###39**L	専攻演習Ⅱ	演習	2	3	△	専攻演習Ⅰ
	###49**L	卒業研究	懇談	4	3	△	専攻演習Ⅱ
	###49**L	卒業論文	懇談	4	3	△	専攻演習Ⅱ

「###」：3文字コードが複数存在する科目

「*」：数字コードが複数存在する科目

諸注意

①専攻演習と卒業論文・卒業研究

(イ)「専攻演習」は4セメスター目に事前登録を行います。希望者が集中した場合は、選抜が行われることがあります。

(ロ)「卒業論文」または「卒業研究」の指導は原則として「専攻演習」担当教員が引き続き指導することになります。「卒業論文」または「卒業研究」を履修したい場合、「専攻演習Ⅰ」及び「専攻演習Ⅱ」を修得してください。

専攻プログラム 授業科目	英語学・英文学	中国言語文化	日本語日本文学	日本語教育	言語学	コミュニケーション学	現代世界文学	キリスト教	宗 教 学	哲 学	倫 理 学	文化人類学	アメリカ地域研究	アジア地域研究	日本地域研究	歴 史 学	国 際 関 係	国 際 協 力	社 会 学	心 理 学	教育学(教職教育)	国 際 経 済	ビジネスエノミクス	公 共 政 策	数 学	物 理 学	化 学	生 物 学	地 球 科 学	情 報 科 学	環 境 学	メディアジャーナリズム	博 物 館 学
アメリカのジャーナリズム													○																				○
若者とメディア																																	○
現代メディア研究																																	○
メディアと人権																																	○
環境とメディア																																	○
女性とメディア																																	○
子供とメディア																																	○
スポーツにんげん学																																	○
雑誌をつくる(デジタル編集実践講座)																																	○
マスコミ特訓講座																																	○
学外研修事後学習																																	
学外研修事前学習																																	
インターンシップⅠ																																	
インターンシップⅡ																																	
インターンシップⅢ																																	
インターンシップⅣ																																	
専攻演習Ⅰ																																	
専攻演習Ⅱ																																	
卒業研究																																	
卒業論文																																	

3. 芸術文化学群

1. 芸術文化学群について

芸術文化学群はキリスト教主義に基づき、教養豊かな識見の高い国際的人材を育成することを基本とし、芸術分野における専門知識と技能を身につけ、グローバルな視野を持って芸術文化の振興に貢献する人材を育成することを目的としています。

芸術文化学群は、より専門性を高めた芸術教育をおこなうため、2005年に文学部・総合文化学科から独立した学群へと発展しました。「演劇」「音楽」「造形デザイン」「映画」の4つの専修を置き、芸術を総合的に学ぶ環境を整えています。

本学群の授業科目は理論系の講義科目と実技・実習系の科目がバランスよく配置されています。特に実技・実習系の科目ではプロの第一線で活躍する教員による指導を受け、プロフェッショナルの世界を体験し、実践的な知識と技術を身につけることが可能です。一方、演劇・音楽・造形デザイン・映画の各分野の学びをより深く追求するためには、他分野の知識や技術が必要になることもあります。芸術文化学群では講義科目を中心に他のコースの科目を履修することも可能であり、幅広く芸術分野を学ぶことができます。

理論と実践の融合、他分野を取り込んだ総合的な学修により、芸術作品・パフォーマンスを生み出すアーティストを養成するだけでなく、芸術文化の普及と支援に貢献する人材を育成します。

2. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学群は、キリスト教精神に基づいた教養豊かな識見の高い国際的人材を育成することを基本理念とし、芸術分野における専門知識と技能を身につけ、グローバルな視野をもって芸術文化の振興に貢献することを目的としています。

そのため、本学群では目的実現のため編成されたカリキュラムのもと、定められた在学期間に通算GPA1.5以上、124単位を修得し、以下の知識、技能、能力を身につけた者に対し、卒業を認定し学士の学位を授与します。また、この「卒業認定・学位授与の方針」は、「教育課程編成・実施の方針」において具現化されており、本学群の学びは全て学園の行動指針である「^{がくじしじん}学而事人（学びて人に仕える）」に結びつくようになっています。

（1）専攻する各分野における知識・理解

芸術分野における幅広い知識と教養を修得し、専攻する分野において専門家として必要な知識・技能を修得し、幅広い視野と豊かな感性を以って積極的に活動することができる。

（2）コミュニケーション能力

国内外の芸術文化への理解を深め、語学力やプレゼンテーション能力を高め、グローバル社会の中で自分の思いや考えを的確に表現し、他者と協調・協同することができる。

（3）問題発見・解決能力

芸術の理論と実践を結合し、複雑多様化する社会の諸問題を発見する分析力、洞察力を養い、それらの問題や課題に対して、芸術活動を通じ専門的な能力を活用して適切な対応を模索し実行することができる。

（4）チームワーク、リーダーシップ

芸術を学ぶことで獲得した「表現力」「構築力」「創作力」を活かし、時には他の領域・分野と協同し、リーダーシップを発揮して社会に対してより良い方向性を示し、目標実現に向けて牽引することができる。

（5）市民としての社会的責任

芸術活動を通じて社会における芸術文化の発展に寄与する使命感を持ち、社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、新たな芸術的価値を創造することで社会の発展のために積極的に関与できる。

（6）生涯学習力

授業及び課外活動における芸術の探究や様々な学習体験を通して、豊かな人間性と学習に対する継続的な強い意欲を身につけ、卒業後も目標に向かってあきらめることなく、自律・自立して学習を継続することができる。

3. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学群は、「卒業認定・学位授与の方針」に掲げた学修成果を得るために、その具体的取組みとしての教育課程を「基礎教育科目」、「専攻科目」及び他学群や他大学、各種技能審査等を単位認定する「自由選択」という区分に分けて編成しています。授業は、講義、演習、実験、実習、実技のいずれかの方法、又はこれらの併用により行います。

また、カリキュラムの体系化のために「ナンバリング（科目ごとの関連性や難易度を示す）」を行い、科目の構造を明示し体系的な学修に役立つようにしています。このような教育課程の編成と、学修方法・学修過程、学修成果の評価の在り方を以下のように定めています。

（１）教育課程の編成

- ①「基礎教育科目」は、本学群生として「卒業認定・学位授与の方針」に則った学修成果をあげるための基礎的な知識と技能を身につけるための科目であり、「ガイダンス科目」と「コア科目」から編成されます。「ガイダンス科目」は各コースの入門科目で、「コア科目」は大学での学修に必要なリテラシーを修得するための科目です。
- ②「専攻科目」は、基礎教育科目で得た知識・技能を踏まえ、各コースの専門分野についてさらに理解を深めるために設置する科目で、「学群共通科目」と「専修科目」から編成しています。学生は学群共通科目から所定の単位数を履修することが義務付けられ、自コース以外の分野にも視野を広げることが求められています。「専修科目」はコース別に設置される科目で、専門的基礎理論や表現方法などを学びます。このように本学群のカリキュラムは基礎教育から専門教育へ、さらに３年次「専攻演習」、４年次「卒業研究」へと関連性をもって能力・資質を引き上げられるように体系化しています。
- ③「自由選択」は、学生の多様な関心や目的を達成するために学生が自ら計画し、学内外の授業科目の中から自由に選択履修することができます。自コース、他コース、他学群、他大学等の科目を修得することで、自らの専門性をさらに深める、あるいは自身の知識の幅を広げることが可能になります。このように本学群のカリキュラムは総合大学ならではの視野の広いプロフェッショナルを育成する構成となっています。

（２）学修方法・学修過程

- ①多様な入学者に対する初年次教育として「基礎教育科目」を設置しています。「基礎教育科目」には各コース別の「ガイダンス科目」と全員対象の「コア科目」があります。「ガイダンス科目」は専攻科目の授業内容を理解する上で必要な基礎知識を養成します。「コア科目」のキリスト教入門においては建学の精神、及びキリスト教に関する理解を深めます。また、「口語表現」「文章表現」「コンピュータリテラシー」「英語コア」の履修によって大学での学修に必要なリテラシーを修得します。このように基礎教育科目は本学群における学修が円滑かつ充実する目的で設置しており、全科目必修となっています。
- ②国際人を育てることが学園の建学の精神であり、「基礎教育科目」の英語コア４科目８単位を必修としています。学生は入学時のプレースメントテストによって習熟度別クラスに分かれ、各自のレベルに合わせて段階を踏んで英語を学修することができます。また、約４か月間の中期留学（GOプログラム）制度が設けられ、さらに語学能力を高めることもできます。
- ③本学群のような芸術分野では、創造的で主体的に学ぶことが求められるため、「専攻科目」では講義、演習、実習、実技といった多様な方式の授業を開講しています。必修科目は少なく学生が自由に履修計画を立てることができますが、科目の難易度をナンバリングで示し、先修条件を設けるなど基礎から応用へと、学生自身の成長に合わせ体系的、段階的に学べるよう設定しています。また、サービス・ラーニング科目（授業＋学外フィールド作業）、アウトリーチ、課外活動など能動的に取り組む地域社会参加プログラムも積極的に行っています。
- ④本学群では「アドバイザー制度」を設け、学生一人ひとりの学修計画や履修登録に関する確認などを行っています。アドバイザーは、学生自身が専攻する分野での科目履修が適切かつ効果的となるような学修指導をしています。また、教育支援事務による履修・学修相談も随時行われ、教職員が一丸となった学修支援体制を整えています。
- ⑤学群で開講する各科目の目的、到達目標、習得する知識・技能の関連性を図示したカリキュラム・マップにより、教員と学生が可視化されたカリキュラムを共有することができます。これにより教育全体を俯瞰することができ、学生がどの科目を学修すれば「卒業認定・学位授与の方針」に掲げた項目の能力・資質を高めることが可能となるのかを把握できるようにします。
- ⑥卒業後の進路指導として１年次から４年次までキャリア教育科目として「キャリアデザイン」を設置し、学生の意識を高めるよう配慮しています。また、３年次からは学生一人ひとりにキャリア・アドバイザーが付き、学生の相談を受けアドバイスをを行います。また、インターンシップも科目として設置しており、学外での研修が卒業後の進路を考える上で役立つだけでなく、社会での実体験が大学での学修成果向上にも役立っています。

（３）学修成果の評価の在り方

- ①学修成果は「卒業認定・学位授与の方針」に定められた項目と、学修方法・学修過程（カリキュラム・マップ等）により示された、科目が目標とする学修の到達度が学生自身にとってどの程度であったかを示すものです。

したがって学修成果は科目それぞれで設定されています。

- ②学修成果の評価方法は、科目ごとのシラバスにおいて具体的に示します。また、ルーブリック評価など（成功の度合いを示すレベルや、それぞれのレベルに対応するパフォーマンス（プレゼン、協同作業など）の特徴を示した評価規準からなる表）を取り入れることによって、成績評価を分かりやすく可視化し、厳格に評価します。

演劇専修の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本専修では、リアリズムを中心とする演劇だけでなく、日本舞踊や狂言の授業のほか、日本の大学で唯一、京劇の実技、舞台監督の実習も行っています。舞台技術に関する授業も基礎から応用まで舞台監督、舞台美術、照明、音響の専門家育成の実習科目を用意しています。ダンスもクラシックとコンテンポラリーが基礎から応用まであります。理論科目では、日本及び海外の古代から現代までの演劇の概要について専門的な授業のほか、戯曲、演出、劇場文化、舞踊、ミュージカルなどについての講義があります。また、本専修では年に数本のプロの演出家や振付家による本格的な舞台創作発表を行っています。一般観客の鑑賞にも堪える高いレベルの作品づくりを目指しており、本専修では、以上の目的を実現するため、学修の内容、学修方法、学修過程、学修成果の評価の在り方を以下のように定めています。

①教育課程の編成

- ア) 芸術文化学群の「教育課程編成・実施の方針」にしたがって、「コア科目」によるキリスト教の理解、日本語・外国語のコミュニケーション能力、コンピュータ操作能力を育成するとともに、演劇専修のガイダンス科目として「上演芸術入門」、さらに「舞台芸術基礎」を主に1年次の必修科目として履修します。
- イ) 本専修の「教育課程編成・実施の方針」における最大の特徴は、学生をコース別に囲い込むことなく、全方向の可能性に開いたまま育てていくことにあります。入学時の学生のほとんどは俳優を志望していますが、そうであっても、あるいはダンサーやテクニカルスタッフ、演出家、劇作家、プロデューサー等、他の志向であっても、さらに言えば、まだ何を志して良いか分からない状態でも、まずは舞台芸術を構成するさまざまな要素を広く浅く学ぶことからスタートします。そのことで自分がやりたいことと自分に向いていることの発見および再発見を促すようにします。この幅広い学びの機会を経験した後、学年が進むにつれ、見えてきた自分の志向性に沿って専門性の高い科目を中心に選択し、積み上げていくことができます。
- ウ) 実技・実践教育の充実に力を注いでいます。舞台芸術を理論的に学んでいくことに加えて、俳優やダンサー等の技術、及び照明、音響、舞台監督、舞台美術等の技術の実技・実践教育を行い、両者を有機的に連動させたプロフェッショナル教育プログラムとしています。優れた実技・実践教育を可能にするための施設として、「ブルヌスホール」、「徳望館小劇場」、「演劇スタジオ」、「ダンススタジオ」を用意しています。

②学修方法・学修過程

- ア) 演劇の枠組みの中でコンテンポラリーダンスも学びます。1年次の「ダンス基礎」は、主に自分の身体と向き合うことを目的とした科目であり、俳優志望、スタッフ志望の者にも有効です。演劇とダンスを共に学んでいくことで両領域にまたがる表現を獲得することができるのが大きな特徴です。
- イ) 総合大学の特徴を生かして他学群、他専修の科目も履修することで、教養の充実と総合的な人間力の向上を目指します。舞台芸術を学ぶ者は舞台芸術だけを学べばよいということはなく、音楽、美術、映画等、他ジャンルの芸術領域や哲学、社会学、心理学など人間と社会に対する理解が必要です。
- ウ) 実演家やスタッフとして実際に舞台を創り上げる過程や、不特定多数の観客の眼に晒されることから学ぶことも重要で、その機会としてOPAP（オパップ／桜美林大学パフォーミングアーツ・プログラム）とOPAL（オーパル／桜美林大学パフォーミングアーツ・レッスンズ）を用意しています。共に第一線で活躍する演出家や振付家（主に教員）が指導にあたり、単なる発表会レベルではない高水準の作品づくりを行い、本格的な劇場で公演します。OPALは単位認定します。この他にも、学生自らが創作活動をする場と機会が多くあり、「学生研究活動支援金制度」等の奨励のもと、学生達は自由な環境の中で、互いを磨き合い、仲間作りをしながら才能を伸ばすことができます。
- エ) 「芸術文化学群GO（グローバルアウトリーチ）プログラム」や「ロンドン研修」を用いて、短期から長期まで海外研修ができるプログラムを用意しています。さらに演劇専修は日本の大学で唯一、京劇の実践教育を行っており、京劇俳優でもある専任教員の指導の下、中国の古典芸能を学んで舞台公演を行います。この公演は中国に招聘される機会も多く、数年に一度は北京や上海で公演を行っています。身体で中国文化に触れることで、日中間の相互理解と平和に貢献することができます。

オ) 地域の文化芸術に貢献する視点を持ち、その観点からアウトリーチ活動やワークショップを実践的に学ぶ場を用意しています。小学校や福祉施設等で行う様々な分野のプロのアーティストの現場を見学し、あるいは自ら参加して活動を行うことも可能です。キャンパスのある町田、淵野辺地域はもとより、遠方の地域で、いわゆる「旅公演」を行うことも、学生はこの活動を通して、「少子高齢化社会」や「地域格差」に向き合う姿勢を学ぶことができます。

カ) 舞台公演に触れる機会が少なかった学生にむけて、古典から前衛まで、エンターテインメントから実験作まで、さらに国際的な作品も含めて、多様な演劇、ダンス作品を観る機会を提供するために、教員が「優待公演」を定め、希望学生はこれを鑑賞することが出来る。また、レポート提出等、授業とも連動して、より考察を深めることもできます。

キ) 演劇専修の持つ優れた劇場施設の運営の一端を学生が担うことが可能で、「表現の場」のあり方や安全管理について実践的に学びます。さらに、「舞台芸術祭」の運営を自らの手で行う機会を用意し、企画制作についても実践的に学んでいくことができます。

③学修成果の評価の在り方

ア) 学修成果は「卒業認定・学位授与の方針」に定められた項目と、学修方法・学修過程（カリキュラム・マップ等）により示された、科目が目標とする学修の到達度が学生自身にとってどの程度であったかを示すものです。したがって学修成果は科目それぞれで設定されています。

イ) 学修成果の評価方法は、科目ごとのシラバスにおいて具体的に示します。また、ループリック評価など（成功の度合いを示すレベルや、それぞれのレベルに対応するパフォーマンス（プレゼン、協同作業など）の特徴を示した評価規準からなる表）を取り入れることによって、成績評価を分かりやすく可視化し、厳格に評価します。

音楽専修の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本専修では、芸術文化学群の「卒業認定・学位授与の方針」に掲げた学修成果を得るために、教育課程を「基礎教育科目」「専修科目」「自由選択」の三つの区分に分けて編成しています。これにより基礎から高度な専門課程へと展開するカリキュラムが体系化されるとともに、音楽についての総合的な学識及び各専門領域の知識・技能の修得を兼ね備えた学修ができます。この学修は音楽家への進路だけではなく、社会人として必要な発想力、忍耐力、計画性、協調性を持った人材になる事を目標としています。

①教育課程の編成

ア) 本専修では、基礎から音楽を学ぶことができ、最終的に十分な専門的基礎と応用力を持った音楽人の育成を目指しています。音楽入門、ソルフェージュなどの基礎科目によって、学修者はその後の専門性に耐えうる音楽の基本を身につけることができます。

イ) 「専攻科目」は「基礎教育科目」で得た知識・技能を踏まえ、実技、演習、講義科目の履修により、日々の自習とともに音楽技能、音楽表現、音楽理論を身につけてゆくものです。分野は、作曲、ピアノ、声楽、器楽、キリスト教音楽にまたがり、本専修学生は分野に関わらず履修可能です。学生は常に自身の適性を多くの分野で試す時間を与えられています。また、3年次「専攻演習」、4年次「卒業研究」へと、専門性を引き上げられるように体系化されています。

ウ) 「自由選択」では、より専門性を深める学修の他に、多様な関心や目的を達成するために学生が自ら計画し、学内外の授業科目の中から自由に選択履修することができます。

②学修方法・学修過程

ア) 多様な入学者に対する初年次教育として「音楽入門」「ソルフェージュ」の基礎教育科目を設置しています。入学前に音楽の専門教育を受ける機会がなかった学生にも、これからの音楽学修が無理なく受けられるよう配慮しています。

イ) 1年次から実技科目の個人レッスンを履修でき、専門教育にあたる「実技主科レッスン」は2科目履修（1～2年次）できます。これにより学生は自分自身の適性、専門性を時間をかけて見定めることができます。また、入学後に新たな分野を学ぶ学生のために、副科実技も設けられています。学生は4年間を通して一番有意義な履修プログラムを選択することができます。

ウ) グローバルな人材を育成するため、海外研修のプログラムを毎年実施しています。イギリス、フランス、イタリア、ドイツ、ポーランド、オランダ、アイルランドなどでの研修により、学生は海外の芸術、文化に触れあい視野を広めます。また、海外の演奏家の公開レッスン、音楽鑑賞プログラムを年間15回行っており、学修の励

みになっています。

エ) 演奏系の専攻演習はサービ斯拉ーニング科目になっており、実践的演習を地域との結びつきの中で行うことで、日々の学修の成果を確認するようにしています。

オ) 卒業後、様々な分野に就職してゆく学生のため、インターンシップを実施しています。音楽を支えていく仕事を体験することで、社会の中での仕事の役割を体験します。

③学修成果の評価の在り方

ア) 学修成果は「卒業認定・学位授与の方針」に定められた項目と、学修方法・学修過程（カリキュラム・マップ等）により示された、科目が目標とする学修の到達度が学生自身にとってどの程度であったかを示すものです。したがって学修成果は科目それぞれで設定されています。

イ) 学修成果の評価方法は、科目ごとのシラバスにおいて具体的に示します。また、ルーブリック評価など（成功の度合いを示すレベルや、それぞれのレベルに対応するパフォーマンス（プレゼン、協同作業など）の特徴を示した評価規準からなる表）を取り入れることによって、成績評価を分かりやすく可視化し、厳格に評価します。

造形デザイン専修の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本専修では、芸術文化学群の「卒業認定・学位授与の方針」に掲げた学修成果を得るために、教育課程を「基礎教育科目」「専攻科目」「自由選択」の三つの区分に分けて編成されています。これにより基礎から高度な専門課程へと展開するカリキュラムが体系化されるとともに、「造形美術」「造形デザイン」についての総合的な学識及び各専門領域の知識・技能の修得を兼ね備える学修ができます。「人にやさしいヴィジュアルカルチャーの創造」を基本コンセプトとして制作活動を行います。本専修では、以上の目的を実現するため、学修の内容、学修方法、学修過程、学修成果の評価の在り方を以下のように定めています。

①教育課程の編成

ア) 「基礎教育科目」は本専修の学生として「卒業認定・学位授与の方針」に則した学修成果を上げるための基礎的な知識と技能を身につけるための科目であり、「コア科目」としてキリスト教科目、口語表現、文章表現、コンピュータ、外国語、キャリアに関する科目が中心になっています。また、「ガイダンス科目」として、「造形芸術入門」をはじめとする造形基礎技術を徹底的に学修します。

イ) 「専攻科目」は、芸術文化学群共通科目から他専修に関係する科目を学ぶことにより、他の芸術領域の知識を修得します。2年次以降は少人数指導の「専攻演習」により専門知識の理解を深め、多岐にわたるデザイン分野の技能を高めることを目指します。また、学外のプロフェッショナルな現場実習が体験できるインターンシップも行えます。4年次には主に卒業制作に取り組み、学びの集大成とします。

ウ) 「自由選択」は、より専門性を深める学修の他に、多様な関心や目的を達成するために学生が自ら計画し、学内外の授業科目の中から自由に選択履修することができます。

②学修方法・学修過程

ア) 本専修では、絵画・グラフィックデザイン・工芸というようなコース別に学ぶのではなく造形美術の多様な表現を様々な授業から体験し自分にふさわしい表現方法を探しだすところからスタートします。高校までに経験してきた「美術」から、多種多様な表現の「造形美術」「造形デザイン」に展開していきます。

イ) 1年次は「基礎演習課程」として造形基礎技術を修得し、将来の自分のビジョンを確立させ、2年次以降は各専攻演習プログラムを組み合わせることで個々の創造性を育成します。「ファインアート」「グラフィックデザイン」「メディアアート」「生活環境デザイン」の4つのジャンルを中心に専門性を深化させます。

ウ) 制作された作品は学内のギャラリースペースや学生ラウンジなどで「ゼミ」あるいは「グループ」展示という形で発表し、多くの人の目に触れることで制作に対する刺激を得て次の制作に活かすようにします。また、発表は学外の公共施設等を活用し、卒業制作の選抜展も開催します。

③学修成果の評価の在り方

ア) 学修成果は「卒業認定・学位授与の方針」に定められた項目と、学修方法・学修過程（カリキュラム・マップ等）により示された、科目が目標とする学修の到達度が学生自身にとってどの程度であったかを示すものです。したがって学修成果は科目それぞれで設定されています。

イ) 学修成果の評価方法は、科目ごとのシラバスにおいて具体的に示します。また、ルーブリック評価など（成功の度合いを示すレベルや、それぞれのレベルです。対応するパフォーマンス（プレゼン、協同作業など）の特徴を示した評価規準からなる表）を取り入れることによって、成績評価を分かりやすく可視化し、厳格に評価します。

映画専修の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本専修では、芸術文化学群の「卒業認定・学位授与の方針」に掲げた学修成果を得るために、教育課程を「基礎教育科目」「専修科目」「自由選択」の三つの区分に分けて編成されています。これにより基礎から高度な専門課程へと展開するカリキュラムが体系化されるとともに、映像についての総合的な学識及び各専門領域の知識・技能の修得を兼ね備える学修ができます。本専修では、以上の目的を実現するため、学修の内容、学修方法、学修過程、学修成果の評価の在り方を以下のように定めています。

①教育課程の編成

- ア)「基礎教育科目」は本専修の学生として「卒業認定・学位授与の方針」に則した学修成果を上げるための基礎的な知識と技能を身につけるための科目であり、「コア科目」としてキリスト教科目、口語表現、文章表現、コンピュータ、英語、キャリアに関する科目が中心になっています。また「ガイダンス科目」として、映画専修では「映像入門」という映像全般の基礎知識を修得する科目があります。
- イ)「専攻科目」は、映画の専門分野についてさらに理解を高めるために設置する科目で、専修として1年次に学修する「フィールドワーク」、「映画演出原論」、「脚本入門」、「映画撮影技術論」といった基礎知識の科目と、「制作Ⅰ」という実習科目があります。2年次には「西洋文化論」、「アジア文化論」、「映画史」、「映像ビジネス論」、「メディア論」、「演出論」といった映像文化科目に加え、「映像演技と演出」、「脚本演習」、「映画撮影実習」、「編集演習」、「映画音響デザイン論」など、より高度な専門知識の修得を目指します。さらに3年次には、「専攻演習」、「整音演習」、「映画演出研究」、「映画理論研究」などの映像の各分野の高度な知識を修得する科目と、その能力を「制作Ⅱ」という制作実習で発揮する機会となる科目も設置されています。そして4年次では、「卒業研究」へと関連性をもって能力・資質を引き上げられるように体系化されています。
- ウ)「自由選択」では、学生の多様な関心や目的を達成するために学生が自ら計画し、学内外の授業科目から自由に選択履修することができます。自身の専修、他専修、他学群、他大学などの科目を修得し、自らの専門性を深め知識の幅を広げることで、本学の総合大学ならではの視野の広いプロフェッショナルを育成します。

②学修方法・学修過程

- ア) 多様な入学者に対する初年度教育として「基礎教育科目」を設置しています。本専修の「基礎教育科目」には、「ガイダンス科目」と全員対象の「コア科目」があり、「ガイダンス科目」である「映像入門」は、専攻科目の授業内容を理解する上で必要な基礎知識を修得します。コア科目の「キリスト教入門」においては、建学の精神およびキリスト教に関する理解を深めます。また「口語表現」や「文章表現」、「コンピュータリテラシー」、「英語コア」の履修によって大学での学修に必要なリテラシーを修得します。このような「基礎教育科目」は、専修における学修が円滑かつ充実する目的で設置されていて、全科目必修となっています。また、国際人を育てることが建学の精神であり、「基礎教育科目」の英語コア4科目8単位を必修としています。学生は、入学時のプレースメントテストによって習熟度別クラスに分かれ、各自のレベルに合わせて段階を踏んで英語を学修することができます。また、4ヶ月間の留学（芸術文化学群GO（グローバルアウトリーチ）プログラム）制度が設けられ、さらに語学能力を高めることもできます。
- イ) 本専修では、創造的で主体的に学ぶことが求められ、専攻科目では、社会的な視野を学修する「フィールドワーク」や企画力や創造性、また、協調性も要求される「制作Ⅰ」「制作Ⅱ」などのグループ制作の作品実習科目の授業が設けられています。講義科目としては、「映画史」はもとより「メディア論」や「映像ビジネス論」「西洋文化論」「アジア文化論」など、映像メディアへのアプローチである講義科目も広く開講されています。一方、映像技術分野の科目として、脚本演習・実習、ワークショップ形式で演技と演出を学修する映像演技と演出、機材などを駆使して学修する撮影・照明の実習科目や編集演習、整音演習など映像技術の専門科目も開講されています。本専修は、分野別のコース別けがされていないことに加え、必修科目が少なく学生が自由に履修計画を立てることができますが、科目の難易度をナンバリングで示し、先修条件を設けるなど基礎から応用へと、学生自身の成長に合わせて体系的、段階的に学べるように設定されています。また、能動的に取り組む地域社会参加プログラムも積極的に行われています。
- ウ) 学生と教員との関係では、アドバイザー制度を設け、学生一人ひとりの学修計画や履修登録に関する確認などを行っています。アドバイザーは、学生自身が専攻する分野での科目履修が適切かつ効果的となるような履修・学修指導も随時行われ、教員一丸となった学修支援体制を整えています。
- エ) 専修で開講する各科目の目的、到達目標、修得する知識・技能の関連性を示したカリキュラム・マップやフローチャートにより、教員と学生が可視化されたカリキュラムを共有することができます。これにより、教育

全体を俯瞰することができ、学生がどの科目を学修すれば卒業認定・学位授与の方針に掲げた項目の能力を高めることが可能となるのかを把握できるようにしています。さらに卒業後の進路指導として1年次から4年次までキャリア教育科目として「キャリアデザイン」を設置し、学生の意識を高めるよう配慮しています。また、インターシップも科目として設置しており、学外での研修が卒業後の進路を考える上で役立つだけでなく、社会での実体験が大学での学修成果の向上にも役立っています。

③学修成果の評価の在り方

- ア) 学修成果は卒業認定・学位授与の方針に定められた項目と、学修方法・学修過程（カリキュラム・マップ等）により示された、科目が目標とする学修の到達度が学生自身にとってどの程度であったかを示すものです。したがって学修成果は科目それぞれで設定されています。
- イ) 学修成果がどのように評価されるのかは、シラバスにおいて具体的に評価方法を科目ごとに記載しております。また、ルーブリック評価など（成功の度合いを示すレベルや、それぞれのレベルに対応するパフォーマンス（プレゼン、協同作業など）の特徴を示した評価規準からなる表）を取り入れることによって、成績評価を分かりやすく可視化することと厳格に評価するようにします。

芸術文化学群の学生が卒業するために必要な単位は次のとおりです。

(1) 演劇専修

演劇専修の学生が卒業するために必要な単位は次のとおりです。

基礎教育科目：コア科目16単位、ガイダンス科目「上演芸術入門」2単位、合計18単位

専攻科目：学群共通科目から16単位、演劇専修科目区分より科目を選んで40単位、合計56単位

基礎教育科目、専攻科目、自由選択、合計124単位

入学時からの通算GPAが1.5以上

(2) 音楽専修

音楽専修の学生が卒業するために必要な単位は次のとおりです。

基礎教育科目：コア科目16単位、ガイダンス科目「音楽入門」2単位、合計18単位

専攻科目：学群共通科目から16単位、音楽専修科目区分より科目を選んで40単位、合計56単位

基礎教育科目、専攻科目、自由選択、合計124単位

入学時からの通算GPAが1.5以上

(3) 造形デザイン専修

造形デザイン専修の学生が卒業するために必要な単位は次のとおりです。

基礎教育科目：コア科目16単位、ガイダンス科目「造形芸術入門」2単位、合計18単位

専攻科目：学群共通科目から16単位、造形デザイン専修科目区分より科目を選んで40単位、合計56単位

基礎教育科目、専攻科目、自由選択、合計124単位

入学時からの通算GPAが1.5以上

(4) 映画専修

映画専修の学生が卒業するために必要な単位は次のとおりです。

基礎教育科目：コア科目16単位、ガイダンス科目「映像入門」2単位、合計18単位

専攻科目：学群共通科目から16単位、映画専修科目区分より科目を選んで40単位、合計56単位

基礎教育科目、専攻科目、自由選択、合計124単位

入学時からの通算GPAが1.5以上

4. 卒業要件

※○数字は科目の単位数を表します。

		芸術文化学群			
		演劇専修	音楽専修	造形デザイン専修	映画専修
基礎教育科目 18単位 (最低必要単位)	コア科目 16単位必修 (注)	キリスト教入門② 口語表現Ⅰ② 文章表現Ⅰ② 英語コアⅠA② 英語コアⅠB② 英語コアⅡA② 英語コアⅡB② コンピュータリテラシーⅠ②			
	ガイダンス 科目 2単位必修	上演芸術入門②	音楽入門②	造形芸術入門②	映像入門②
専攻科目 56単位 (最低必要単位)	学群共通科目 16単位必修	学群共通科目より選択16単位			
	専修科目 40単位必修	演劇専修科目より 選択40単位（以下の 必修科目8単位 含む） ----- 必修 舞台芸術基礎A④ 舞台芸術基礎B④	音楽専修科目より 選択40単位	造形デザイン 専修科目より 選択40単位	映画専修科目より 選択40単位
自由選択		・基礎教育科目、専攻科目で、最低必要単位を超えて履修した単位 ・自学群他専修科目 ・他学群専攻科目 ・基盤教育の科目（外国語科目を含む） ・他大学等（短期大学・海外留学の科目を含む）認定単位（P.196） ・各種技能審査による認定単位（P.197～199）			
卒業要件単位合計 基礎教育科目、専攻科目、 自由選択、あわせて 124単位		【その他の要件】 1. 入学時からの通算GPAが1.5 ₀ 以上 2. 各自所属のコースをメジャーとして必ず修了すること			

(注) 一定以上の能力を有すると認められた者は、履修を免除される場合があります。免除された単位数は他の科目を修得することで卒業要件単位数を満たしてください。

外国人留学生等（日本語を母語としない者）は、「文章表現Ⅰ」「英語コアⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB」に替えて「日本語専門基礎AⅠ・AⅡ・B」を各2回、合計10単位を修得しなければなりません。ただし、日本語の能力が一定以上であると認められた者は、履修を免除される場合があります。

外国人留学生履修規定を参照し、規定のとおり修得してください。

5. 専攻コース案内

本学には、専攻科目を中心として、学生各自の目的や関心に応じて専門的に学ぶための専攻コースが置かれています。芸術文化学群の専攻科目で構成される専攻コースを登録すると、「学業成績単位修得証明書」に、登録中のメジャーまたはマイナーの名称が記載されます。登録したメジャーまたはマイナーの修了要件を満たした上で卒業すると「学業成績単位修得証明書」に修了したメジャーまたはマイナーの名称が記載されます。

メジャー：メジャーを修了することは卒業の要件となっています。ただし、芸術文化学群以外の専攻プログラム・専攻コース等をメジャーとして登録することはできません。

マイナー：マイナーを修了することは卒業要件ではありませんが、芸術文化学群の専攻コースからだけでなく、他学群のものをマイナーとして登録することもできます。

メジャーについては、入学時に専修に基づき、登録されています。

マイナーの登録は、5セメスター目より受け付けます。アドバイザーの承認を得て、所定の期間に手続きを行ってください。その後、卒業を希望する学期の定期試験期間最終日までマイナーの変更もできます。

専攻コースの種類は、以下のとおりです。

芸術文化学群

専攻コース	メジャー	マイナー
演劇	○	○
音楽	○	○
造形デザイン	○	○
映画	○	○
カルチャー管理		○※

※カルチャー管理コースのみ他学群登録可

演劇コース

1. 教育目的

実技と理論の両面から、総合芸術といわれる演劇を広く学び、日本の地域文化の中核を担える人材・実社会で通用する演劇人を育成します。俳優教育だけではなく、コンテンポラリーを中心としたダンス、劇作、演出から、舞台監督、舞台美術、照明、音響などのスタッフワーク、さらにプロデューサーとしての実務やアートマネジメントに至るまで、実際の演劇上演に関するあらゆる要素を学びます。理論面では、歌舞伎から新劇までの近代劇、アンゲラ演劇から始まる日本現代演劇、ギリシア悲劇、シェイクスピア、イブセン、チエホフ、ベケットなど海外演劇の歴史と概要を幅広く網羅しています。国際的な視野を身につけるため、英語劇のクラスを設け、短期間の海外研修、海外演劇学校への留学も推進しています。

2. カリキュラムの特徴

リアリズムを中心とする演劇だけでなく、日本舞踊や狂言の授業のほか、日本の大学で唯一、京劇の実技、舞台監督の実習も行っています。舞台技術に関する授業も基礎から応用まで舞台監督、舞台美術、照明、音響の専門教育の実習科目が用意されています。ダンスもクラシックとコンテンポラリーが基礎から応用まであります。理論科目では、日本及び海外の古代から現代までの演劇の概要について専門的な授業のほか、戯曲、演出、劇場文化、舞踊、ミュージカルなどについての講義があります。また演劇専修では、年に数本の、プロの演出家や振付家による本格的な舞台創作発表を行っています。桜美林大学パフォーミング・アーツプログラム（OPAP）、桜美林大学パフォーミング・アーツ・レッスンズ（OPAL）と呼ばれるこの二つのプログラムは、一般観客の鑑賞にも堪える高いレベルの作品づくりを目指しています。

メジャー：学群共通科目から16単位。演劇専修科目区分の中から40単位、合計56単位以上修得してください。

マイナー：「上演芸術入門」を含む、演劇マイナー指定科目の中から24単位以上修得してください。

ただし、他学群のマイナーを登録しようとする場合は、以下に注意してください。

1. マイナーの必修科目（または選択必修の全て）について、科目一覧ページの「他学群学生の履修」欄が「×」になっている専攻プログラム・専攻コース等の場合は、他学群生はそのマイナーを登録できません。
2. 他学群生は、専攻プログラム・専攻コース等の抽選科目の優先順位によっては、マイナーの必修科目（または選択必修の全て）を履修できず、マイナーを修了できない場合があります。
3. 他学群のマイナーの登録にあたっては、予め各キャンパス事務室教務担当に相談してください。

音楽コース

1. 教育目的

音楽コースは、音楽を深く学び、音楽に関する知識やスキルを磨くことにより、芸術の真髄に触れ、時代に流されない真の人間性を発見し、社会に貢献できる人材を育成することを目標とします。

分野としては演奏分野（声楽、ピアノ、管弦打楽器）、音楽学分野（歴史、理論）が設けられており、学生は自分の選択した分野を専攻しながら、他分野の科目を履修することができます。実技指導においては徹底した少人数制を取り入れ、学生個々に応じた丁寧な教育を行います。また、教員を目指す学生は教職必修科目を履修する必要があります。

そのほか本学建学の精神に基づき、キリスト教音楽の歴史科目と実技（オルガン、オラトリオ、ハンドベル、ゴスペル）を、いずれの分野を専攻する学生も履修することができます。また作曲を学びたい学生には音楽制作のための演習が設けられています。

複数の専門実技を学ぶことができ、分野をまたいで履修することにより、自分に合ったプログラムを組み立てていくことができます。

2. カリキュラムの特徴

声楽、ピアノ、器楽実技は主科と副科のいずれかを選択します。全て個人レッスンです。声楽主科「声楽AⅠ～Ⅳ」は1回30分、「声楽AⅤ～Ⅷ」は1回45分、副科「声楽BⅠ～Ⅷ」は1回15分のレッスンです。ピアノ主科「ピアノAⅠ～Ⅷ」は1回45分、副科「ピアノBⅠ～Ⅷ」は1回15分のレッスンです。器楽主科「器楽実技AⅠ～Ⅷ」は各学期60分レッスンが11回あります。弦楽器はヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスより、管打楽器はフルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、サクソフォン、トランペット、ホルン、トロンボーン、ユーフォニアム、チューバ、打楽器より選択できます。器楽副科「器楽実技BⅠ～Ⅷ」は各学期20分レッスンが11回、初心者対象にヴァイオリンと打楽器より選択できます。また、教会音楽実技の「パイプオルガン」は1回30分のレッスンです。講義科目としては「音楽学」「和声学」「対位法」「西洋音楽史」「東洋音楽史」「音楽マネジメント論」「ヨーロッパの大衆音楽」「宗教音楽史」「民族音楽研究」などがあり、基礎的な知識習得から高度な専門性へと積み上げていくよう、履修年次に従って受講していきます。

メジャー：学群共通科目から16単位。音楽専修科目区分の中から40単位、合計56単位以上を修得してください。

マイナー：「音楽入門」を含む音楽マイナー指定科目の中から24単位以上修得してください。

造形デザインコース

1. 教育目的

造形デザインコースは、“人にやさしいヴィジュアルカルチャーの創造”をコンセプトにしています。多様化し、加速化する情報社会の中で、アートやデザインが果たす役割は、生きていくことが楽しくなるようなことを提案することです。人びとがそれぞれの生の意味を理解し、確認し、創造的に行動することによって社会の活性化の一助となることを目指しています。

本コースでは、あなたの心の中にあるメッセージを具体的な形にするために、従来の画材別コースの美術教育の枠にとどまらず、コンピュータを利用したアート・テクノロジーにも力をいれています。徹底した手づくりの基礎技術を磨くカリキュラムに加えて、未来を予感する情報テクノロジーのスキルを複合的に取り入れ、個々の表現の可能性を最大限に引き出す専攻コースで、多様化する社会に真に応えるクリエイターを育成します。

2. カリキュラムの特徴

[基礎演習課程]

1年次は徹底して造形基礎技術を学びます。2年次以降の専攻の基礎となるものを多角的に学修することによって将来の自分のビジョンを確立することを目的としています。

- 基礎演習プログラム（平面デザイン演習・素描・デジタル編集・色彩構成）（学外美術鑑賞）

[専攻演習課程]

2年次からは、各専攻演習プログラムを組み合わせることで個々の創造性を育成します。以下の4つのジャンルを中心に専門性を深化させます。

- ファインアート（洋画／日本画／彫塑）

- グラフィックデザイン（広告デザイン／出版印刷デザイン／Web デザイン／イラストレーション）
- メディアアート（2D・3D デジタル&映像アート／フォトアート）
- 生活環境デザイン（ファッション／テキスタイルデザイン／建築・空間デザイン／陶芸）

メジャー：学群共通科目から16単位。造形デザイン専修科目区分の中から40単位、合計56単位以上修得してください。

マイナー：「造形芸術入門」を含む造形マイナー指定科目の中から24単位以上修得してください。

映画コース

1. 教育目的

20世紀は「映像の世紀」だったといわれますが、21世紀に入りますます私たちの映像依存は強まっています。にもかかわらず、これまでは映像を学問として考察したり、映像がどのように作られているのかを学んだりする場や機会が十分用意されているとはいえませんでした。映画（映像）は芸術作品であり商品でもあります。それと同時に人と人、国と国を結ぶ大切なメディアでもあるのです。その証拠に、世界の国々が自国の映画産業の支援や人材の育成に力を入れ始めていますし、わが国でもその動きが活発になってきました。

この映画コースでは映像文化を広く学び、映像に関する見識を深め、映画づくりの全過程を学ぶことで映像による表現力や人に夢をあたえる創造力を養って、映像を主なコミュニケーション手段として国内外で活躍できる人材の育成を目指しています。

2. カリキュラムの特徴

映画コースのカリキュラムは、映画表現や演出、映画技術の理論や歴史、文化、シナリオを学ぶ講義科目と、映画制作実習や映画技術演習などの実習（演習）科目から成っています。

講義科目も実習科目も、1年次の入門から始め、2年次、3年次と順次練成と経験を重ねて、4年次には学生たちの力だけで質の高い卒業研究を完成させることができるよう、配置されています。その際、2年次では、演出中心か脚本中心かそれとも映画技術中心に学んでいくのか、1年次のビデオ実習の経験を参考に、学生は各自の資質、適性、希望などによって、2年次以降の専門科目の履修計画を立てることになります。

映画制作実習は、映画制作の現状と将来を想定して、これまでのフィルムによる映画制作を基本に、最新のデジタル技術（撮影、録音、編集、整音）を学ぶことができます。

メジャー：学群共通科目から16単位。映画専修科目区分の中から40単位、合計56単位以上修得してください。

マイナー：「映像入門」を含む映画マイナー指定科目の中から24単位以上修得してください。

カルチャー管理コース ※マイナーのみ

マイナー：「社会文化・メセナ論」「知的財産権通論」「シアターマネジメント論」「音楽マネジメント論」「アートマネジメント論」を含め、カルチャー管理マイナー指定科目の中から24単位以上修得してください。

6. ガイダンス・専攻科目と諸注意

専修	科目区分	マイナー指定科目 (◎印はマイナー必修科目)					科目コード	授業科目	授業方法	単位数	履年	修次	他学群 学生の履修	自学群内 他専修学 生の履修	先修条件ほか
		演劇	音楽	造形 デザイン	映画	マンガ									
科	ガイ ダンス 目	◎					THE1000A	上演芸術入門	講義	2	1	×	○		
			◎				MUS1000A	音楽入門	講義	2	1	×	○		
				◎			FNA1000A	造形芸術入門	講義	2	1	×	○		
					◎		CIN1000A	映像入門	講義	2	1	×	○		
学 群 共 通 科 目				○		○	ART2003A	美学A	講義	2	2	○	○		
				○		○	ART2004A	美学B	講義	2	2	○	○		
		○				○	THE1403A	演劇の世界	演習	2	1	○	○		
		○				○	DNC1700A	ダンスの世界	実技	2	1	○	○		
				○		○	ART2005A	芸術概論A	講義	2	2	○	○		
				○		○	ART2006A	芸術概論B	講義	2	2	○	○		
				○		○	ART2007A	芸術と人間A	講義	2	2	○	○		
				○		○	ART2008A	芸術と人間B	講義	2	2	○	○		
				○		○	ART3003A	芸術と社会	講義	4	2	○	○		
						○	ART3004A	日本文化論	講義	4	2	○	○		
						○	ART3005A	西洋文化論	講義	4	2	○	○		
						○	ART3006A	アジア文化論	講義	4	2	○	○		
			○	○	○	◎	SOC2000A	社会文化・メセナ論	講義	2	2	○	○		
			○	○	○	◎	LAW3301A	知的財産権通論	講義	2	3	○	○		
		○				◎	THE3004A	シアターマネジメント論	講義	2	3	○	○		
			○			◎	MUS3003A	音楽マネジメント論	講義	2	3	○	○		
				○		◎	ART3308A	アートマネジメント論	講義	2	3	○	○		
					○		MJS2000A	メディア論	講義	4	2	○	○		
					○	○	CIN2001A	映像ビジネス論	講義	4	2	○	○		
							ART16**A	芸術文化研修	実習	1～4	1	△	○	重複して8単位まで履修可	
							###20**A	芸術文化特講	講義	2～4	2	○	○	重複履修可	
							###2**A	芸術文化基礎	実習	1～2	2	×	○		講義・演習
							ACG16**A	インターンシップ	実習	1～4	1	×	○	年間4単位上限 重複して8単位まで履修可	
		○	○	○	○		###39**A	専攻演習Ⅰ	演習	2	3	×	○		
		○	○	○	○		###39**A	専攻演習Ⅱ	演習	2	3	×	○	専攻演習Ⅰ	
		○	○	○	○		###49**A	卒業研究Ⅰ	演習	3	4	×	○		
		○	○	○	○		###49**A	卒業研究Ⅱ	演習	3	4	×	○	卒業研究Ⅰ	
演 劇 専 修	上 演 芸 術 ・ 基 礎	○				○	THE1005A	劇場文化史	講義	4	1	○	○		
		○				○	THE2000A	海外演劇特殊研究A	講義	2	2	○	○		
		○				○	THE2101A	海外演劇特殊研究B	講義	2	2	○	○		
		○				○	THE1003A	日本演劇史	講義	2	1	○	○		
		○				○	THE1006A	古典演劇作品研究A	講義	2	1	○	○		
		○				○	THE1007A	古典演劇作品研究B	講義	2	1	○	○		
		○				○	LIT1010A	日本の文字文化	講義	2	1	○	○		
							THE1735A	日本古典劇研究A(狂言)	実技	2	1	×	×		
							DNC1703A	日本古典劇研究A(日本舞踊)	実技	2	1	×	×		

「###」：3文字コードが複数存在する科目

(次のページに続く)

「*」：数字コードが複数存在する科目

「芸術文化基礎」は、履修するクラスにより授業の方法が実技または実習のいずれかになります。

専修	科目 区分	マイナー指定科目 (◎印はマイナー必修科目)					科目コード	授業科目	授 業 方 法	単位数	履 年	修 次	他学 群の 履修	自学 群内 他専 修学 生の履修	先修条件ほか
		演劇	音楽	造形 デザイン	映画	カルチャー									
演	上演芸術・基礎	○				○	THE2036A	日本古典劇研究B	講義	2	2	○	○		
		○				○	THE1010A	日本近代劇研究	講義	2	1	○	○		
		○				○	THE2011A	日本現代劇研究	講義	2	2	○	○		
		○				○	THE1001A	宗教劇研究	講義	2	1	○	○		
		○				○	THE1002A	演劇論	講義	2	1	○	○		
		○				○	THE2112A	戯曲基礎	講義	2	2	×	○		
		○				○	THE2413A	戯曲演習	演習	2	2	×	○	戯曲基礎	
		○				○	THE2020A	演出論A	講義	2	2	×	○		
							THE3121A	演出研究	講義	2	3	×	×	演出論A	
		○				○	DNC1004A	舞踊論A	講義	2	1	○	○		
		○				○	DNC1005A	舞踊論B	講義	2	1	○	○		
							DNC2406A	身体原理入門	演習	2	2	×	×	ダンス基礎	
		○				○	THE2006A	ミュージカル論	講義	2	2	×	○		
		○				○	THE140*A	舞台芸術研究	演習	2	1	×	○	重複して8単位まで履修可	
		○				○	THE1014A	分析批評入門	講義	2	1	○	○		
							THE1408A	舞台芸術基礎A	演習	4	1	×	△	演劇専修必修科目 「舞台芸術基礎B」と同時履修	
							THE1409A	舞台芸術基礎B	演習	4	1	×	△	演劇専修必修科目 「舞台芸術基礎A」と同時履修	
劇	上演芸術・専修	○					THE2431A	上演実技Ⅰ	演習	4	2	×	△		
		○					THE2432A	上演実技Ⅱ	演習	4	2	×	△	上演実技Ⅰ	
		○					THE3433A	上演実技Ⅲ	演習	4	3	×	△	上演実技Ⅱ	
		○					THE3434A	上演実技Ⅳ	演習	4	3	×	△	上演実技Ⅲ	
		○					THE1437A	身体訓練基礎	演習	4	1	×	△		
		○					THE2438A	身体訓練演習	演習	4	2	×	△		
		○					THE2090A	制作基礎Ⅰ	講義	4	2	×	△	技術スタッフ入門	
		○					THE2191A	制作基礎Ⅱ	講義	4	2	×	△	制作基礎Ⅰ	
		○					THE3492A	制作実地演習	演習	2	3	×	△	制作基礎Ⅱ	
		○					THE2473A	技術スタッフ基礎	演習	4	2	×	△	技術スタッフ入門	
		○					DNC2407A	前衛の世界	演習	4	2	×	△		
		○					THE2439A	ミュージカル演習	演習	4	2	×	△		
		○					THE1474A	技術スタッフ入門	演習	4	1	×	△	舞台芸術基礎 A、B	
		○					THE2475A	照明・音響演習	演習	4	2	×	△	技術スタッフ基礎	
		○					THE2476A	舞台美術と舞台運営	演習	4	2	×	△	技術スタッフ基礎	
	実技	○					THE3471A	技術スタッフ応用Ⅰ	演習	2	3	×	△		
		○					THE3472A	技術スタッフ応用Ⅱ	演習	2	3	×	△	技術スタッフ応用Ⅰ	
		○					DNC1701A	ダンス基礎	実技	2	1	×	△		
		○					DNC1702A	ダンス基礎Ⅱ	実技	1	1	×	△	ダンス基礎	
		○					DNC2711A	ダンス クラシックⅠ	実技	2	2	×	△		
		○					DNC2712A	ダンス クラシックⅡ	実技	2	2	×	△	ダンス クラシックⅠ	
		○					DNC3713A	ダンス クラシックⅢ	実技	2	3	×	△	ダンス クラシックⅡ	
修	演技	○					DNC1731A	ダンス コンテンポラリーⅠ	実技	2	1	×	△	ダンス基礎	
		○					DNC2732A	ダンス コンテンポラリーⅡ	実技	2	2	×	△	ダンス コンテンポラリーⅠ	
							DNC2733A	ダンス コンテンポラリーⅢ	実技	2	2	×	×	ダンス コンテンポラリーⅡ	

「*」:数字コードが複数存在する科目

(次のページに続く)

専修	科目区分	マイナー指定科目 (○印はマイナー必修科目)					科目コード	授業科目	授業方法	単位数	履年	修次	他学群 学生の履修	自学群内 他専修学生 の履修	先修条件ほか
		演劇	音楽	造形 デザイン	映画	カルチャー									
演劇専修	上演芸術演習・実技	○					THE2415A	Reading Drama in English A	演習	4	2	○	○		
		○					THE2416A	Reading Drama in English B	演習	4	2	○	○		
		○					THE2417A	Drama in Education	演習	4	2	○	○		
		○					THE1418A	Drama in English	演習	4	1	×	△		
		○					THE174*A	東洋演劇演習 A	実技	2	1	×	△	重複して8単位まで履修可	
		○					THE2444A	東洋演劇演習 B	演習	2	2	×	△		
		○					THE2451A	発声朗読法 I	演習	4	2	×	△		
		○					THE3452A	発声朗読法 II	演習	4	3	×	△	発声朗読法 I	
		○					THE3670A	上演美術研究	実習	2	3	×	△		
		○					THE1481A	舞台監督の仕事 I	演習	2	2	×	△		
		○					THE2482A	舞台監督の仕事 II	演習	2	2	×	△	舞台監督の仕事 I	
							THE2408A	詩と朗読	演習	1	2	×	△		
音楽専修	音楽基礎						MUS1701A	ソルフェージュ I	実技	1	1	×	×		
							MUS1702A	ソルフェージュ II	実技	1	1	×	×	ソルフェージュ I	
			○			○	MUS1030A	東洋音楽史	講義	2	1	○	○		
			○			○	MUS1031A	西洋音楽史	講義	4	1	○	○		
			○			○	MUS3032A	民族音楽研究	講義	2	3	○	○		
			○			○	MUS1033A	音楽学	講義	4	1	○	○		
			○			○	INM1000A	器楽概論	講義	2	1	○	○		
			○				MUS2410A	和声学	演習	4	2	○	○	音楽学	
			○				MUS2411A	対位法	演習	4	2	○	○	和声学	
			○			○	MUS1034A	ヨーロッパの大衆音楽	講義	4	1	○	○		
			○				INM2001A	管弦楽概論	講義	2	2	○	○		
	音楽演習・実技						VOM2410A	舞台音楽演習	演習	2	2	×	×		
							INM2711A	器楽実技 A I	実技	2	1	×	×	器楽主科 I～Ⅷの順で履修 各学期60分個人レッスン 11回	
							INM2712A	器楽実技 A II	実技	2	1	×	×		
							INM3713A	器楽実技 A III	実技	2	2	×	×		
							INM3714A	器楽実技 A IV	実技	2	2	×	×		
							INM4715A	器楽実技 A V	実技	2	3	×	×		
							INM4716A	器楽実技 A VI	実技	2	3	×	×		
							INM4717A	器楽実技 A VII	実技	2	4	×	×		
							INM4718A	器楽実技 A VIII	実技	2	4	×	×		
							INM1721A	器楽実技 B I	実技	1	1	×	×	器楽副科 I～Ⅷの順で履修 各学期20分個人レッスン 11回	
							INM1722A	器楽実技 B II	実技	1	1	×	×		
							INM2723A	器楽実技 B III	実技	1	2	×	×		
							INM2724A	器楽実技 B IV	実技	1	2	×	×		
							INM3725A	器楽実技 B V	実技	1	3	×	×		
							INM3726A	器楽実技 B VI	実技	1	3	×	×		
							INM4727A	器楽実技 B VII	実技	1	4	×	×		
							INM4728A	器楽実技 B VIII	実技	1	4	×	×		
	ピアノ実技						INM2731A	ピアノ A I	実技	2	1	×	×	ピアノ主科 I～Ⅷの順で履修 45分の個人レッスン	
							INM2732A	ピアノ A II	実技	2	1	×	×		
							INM3733A	ピアノ A III	実技	2	2	×	×		

[*]: 数字コードが複数存在する科目

(次のページに続く)

専修	科目区分	マイナー指定科目 (◎印はマイナー必修科目)					科目コード	授業科目	授業方法	単位数	履年	修次	他学群 学生の履修	自学群内 他専修学 生の履修	先修条件ほか
		演劇	音楽	造形 デザイン	映画	カルチャー									
専修	音楽						INM3734A	ピアノAⅣ	実技	2	2	×	×		ピアノ主科 Ⅰ～Ⅷの順で履修 45分の個人レッスン
							INM4735A	ピアノAⅤ	実技	2	3	×	×		
							INM4736A	ピアノAⅥ	実技	2	3	×	×		
							INM4737A	ピアノAⅦ	実技	2	4	×	×		
							INM4738A	ピアノAⅧ	実技	2	4	×	×		
			○				INM1741A	ピアノBⅠ	実技	1	1	×	△		ピアノ副科 Ⅰ～Ⅷの順で履修 15分の個人レッスン
			○				INM1742A	ピアノBⅡ	実技	1	1	×	△		
			○				INM2743A	ピアノBⅢ	実技	1	2	×	△		
			○				INM2744A	ピアノBⅣ	実技	1	2	×	△		
			○				INM3745A	ピアノBⅤ	実技	1	3	×	△		
			○				INM3746A	ピアノBⅥ	実技	1	3	×	△		
			○				INM4747A	ピアノBⅦ	実技	1	4	×	△		
			○				INM4748A	ピアノBⅧ	実技	1	4	×	△		
	音楽						VOM2711A	声楽AⅠ	実技	2	1	×	×		声楽主科 Ⅰ～Ⅷの順で履修 Ⅰ～Ⅳ／30分の個人レッスン Ⅴ～Ⅷ／45分の個人レッスン
							VOM2712A	声楽AⅡ	実技	2	1	×	×		
							VOM3713A	声楽AⅢ	実技	2	2	×	×		
							VOM3714A	声楽AⅣ	実技	2	2	×	×		
							VOM4715A	声楽AⅤ	実技	2	3	×	×		
							VOM4716A	声楽AⅥ	実技	2	3	×	×		
							VOM4717A	声楽AⅦ	実技	2	4	×	×		
							VOM4718A	声楽AⅧ	実技	2	4	×	×		
	音楽		○				VOM1721A	声楽BⅠ	実技	1	1	×	△		声楽副科 Ⅰ～Ⅷの順で履修 15分の個人レッスン
			○				VOM1722A	声楽BⅡ	実技	1	1	×	△		
			○				VOM2723A	声楽BⅢ	実技	1	2	×	△		
			○				VOM2724A	声楽BⅣ	実技	1	2	×	△		
			○				VOM3725A	声楽BⅤ	実技	1	3	×	△		
			○				VOM3726A	声楽BⅥ	実技	1	3	×	△		
			○				VOM4727A	声楽BⅦ	実技	1	4	×	△		
			○				VOM4728A	声楽BⅧ	実技	1	4	×	△		
	専修						INM2751A	管楽合奏Ⅰ	実技	1	1	×	×		Ⅰ～Ⅷの順で履修
							INM2752A	管楽合奏Ⅱ	実技	1	1	×	×		
							INM3753A	管楽合奏Ⅲ	実技	1	2	×	×		
							INM3754A	管楽合奏Ⅳ	実技	1	2	×	×		
							INM4755A	管楽合奏Ⅴ	実技	1	3	×	×		
							INM4756A	管楽合奏Ⅵ	実技	1	3	×	×		
							INM4757A	管楽合奏Ⅶ	実技	1	4	×	×		
							INM4758A	管楽合奏Ⅷ	実技	1	4	×	×		
	専修						INM2761A	弦楽合奏Ⅰ	実技	1	1	×	×		Ⅰ～Ⅷの順で履修
							INM2762A	弦楽合奏Ⅱ	実技	1	1	×	×		
							INM3763A	弦楽合奏Ⅲ	実技	1	2	×	×		
							INM3764A	弦楽合奏Ⅳ	実技	1	2	×	×		
							INM4765A	弦楽合奏Ⅴ	実技	1	3	×	×		
							INM4766A	弦楽合奏Ⅵ	実技	1	3	×	×		

(次のページに続く)

専修	科目区分	マイナー指定科目 (◎印はマイナー必修科目)					科目コード	授業科目	授業方法	単位数	履年	修次	他学群 学生の履修	自学群内 他専修学 生の履修	先修条件ほか
		演劇	音楽	造形 デザイン	映画	カルチャー									
音楽	音楽						INM4767A	弦楽合奏Ⅶ	実技	1	4	×	×		I～Ⅷの順で履修
							INM4768A	弦楽合奏Ⅷ	実技	1	4	×	×		
							INM2771A	管弦楽合奏Ⅰ	実技	2	1	×	△		I～Ⅷの順で履修
							INM2772A	管弦楽合奏Ⅱ	実技	2	1	×	△		
							INM3773A	管弦楽合奏Ⅲ	実技	2	2	×	△		
							INM3774A	管弦楽合奏Ⅳ	実技	2	2	×	△		
							INM4775A	管弦楽合奏Ⅴ	実技	2	3	×	△		
							INM4776A	管弦楽合奏Ⅵ	実技	2	3	×	△		
							INM4777A	管弦楽合奏Ⅶ	実技	2	4	×	△		
							INM4778A	管弦楽合奏Ⅷ	実技	2	4	×	△		
	演習・実技						INM2410A	伴奏法Ⅰ	演習	2	2	×	×		ピアノAまたはピアノBを4単位以上 修得済みであること
							INM2419A	伴奏法Ⅱ	演習	2	2	×	×		伴奏法Ⅰ
			○				VOM173*A	合唱A	実技	1	1	×	○		重複して8単位まで履修可
			○				VOM274*A	合唱B	実技	1	2	×	○		重複して6単位まで履修可
							MUS2420A	指揮法	演習	2	2	×	×		
							MUS2412A	音楽制作演習	演習	2	2	×	×		
							MUS2413A	キーボードハーモニー演習	演習	2	2	×	×		音楽制作演習
							MUS3415A	作曲演習Ⅰ	演習	2	3	×	×		対位法、 またはキーボードハーモニー演習
							MUS3416A	作曲演習Ⅱ	演習	2	3	×	×		作曲演習Ⅰ
							MUS4717A	作曲実技Ⅰ	実技	2	4	×	×		作曲演習Ⅱ 30分の個人レッスンと30分の見学
							MUS4718A	作曲実技Ⅱ	実技	2	4	×	×		作曲実技Ⅰ 30分の個人レッスンと30分の見学
造形デザイン基礎専修	教会音楽		○			○	CHR2340A	礼拝学	講義	4	1	○	○		
			○			○	CHR2341A	賛美歌学	講義	4	1	○	○		
			○			○	MUS2035A	宗教音楽史	講義	4	2	○	○		
							INM178*A	ハンドベル	実技	1	1	×	△		重複して8単位まで履修可
							INM279*A	パイプオルガン	実技	1	1	×	×		重複して8単位まで履修可
							VOM175*A	ゴスペル	実技	1	1	×	△		重複して8単位まで履修可
							VOM176*A	オラトリオ	実技	1	1	×	×		重複して8単位まで履修可
	造形デザイン基礎		○			○	FNA1005A	西洋美術史概論A	講義	2	1	○	○		
			○			○	FNA1006A	西洋美術史概論B	講義	2	1	○	○		
			○			○	FNA1007A	西洋美術文化史A	講義	2	1	○	○		
			○			○	FNA1008A	西洋美術文化史B	講義	2	1	○	○		
			○			○	FNA1003A	日本美術史	講義	4	1	○	○		
			○			○	FNA1004A	東洋美術史	講義	4	1	○	○		
			○			○	FNA2080A	西洋建築史A	講義	2	2	○	○		
			○			○	FNA2081A	西洋建築史B	講義	2	2	○	○		
			○			○	DES1088A	日本建築史	講義	2	2	○	○		
			○			○	DES1086A	建築概論A	講義	2	2	○	○		
	基礎		○			○	DES1087A	建築概論B	講義	2	2	○	○		
			○			○	DES1089A	建築文化論	講義	2	2	○	○		
			○			○	DES1000A	服飾文化史	講義	2	1	○	○		
			○			○	FNA3105A	現代美術論A	講義	2	3	○	○		
			○			○	FNA3106A	現代美術論B	講義	2	3	○	○		

「*」：数字コードが複数存在する科目

(次のページに続く)

専修	科目区分	マイナー指定科目 (◎印はマイナー必修科目)					科目コード	授業科目	授業方法	単位数	履年	修次	他学群 学生の履修	自学群内 他専修学 生の履修	先修条件ほか
		演劇	音楽	造形 デザイン	映画	カルチャー									
造形デザイン演習専修	造形基礎			○		○	DES3180A	ランドスケープ文化論	講義	2	3	○	○		
				○		○	DES2100A	ファッション文化論	講義	2	2	○	○		
				○		○	FNA1106A	工芸概論	講義	2	1	△	△		
				○		○	DES3101A	デザイン論	講義	4	3	○	○		
				○		○	DES3102A	表現論A(メディア表現論)	講義	4	3	○	○		
				○		○	DES3403A	表現論B(広告表現研究)	演習	4	3	○	○		
				○		○	DES2160A	テキスタイル・マテリアル論	講義	2	2	○	○		
	造形デザイン演習専修						DES170*A	造形実技入門A(平面デザイン基礎)	実技	2	1	×	×	重複して4単位まで履修可	
							FNA170*A	造形実技入門B(素描)	実技	2	1	×	×	重複して4単位まで履修可	
							DES170*A	造形実技入門C(デジタル編集基礎)	実技	2	1	×	×	重複して4単位まで履修可	
							FNA171*A	美術演習A(洋画-技法A)	実技	2	1	×	×	重複して8単位まで履修可	
							FNA171*A	美術演習A(洋画-技法B)	実技	2	1	×	×	重複して8単位まで履修可	
							FNA172*A	美術演習A(洋画-油彩)	実技	2	1	×	×	重複して8単位まで履修可	
				○			FNA173*A	美術演習A(洋画-コンテンポラリー)	実技	2	1	×	△	重複して8単位まで履修可	
							FNA174*A	美術演習B(日本画)	実技	2	1	×	×	重複して8単位まで履修可	
				○			FNA275*A	美術演習C(陶芸)	実技	2	2	×	△	重複して8単位まで履修可	
							FNA276*A	美術演習D(彫塑)	実技	2	2	×	×	重複して8単位まで履修可	
							DES170*A	色彩構成演習	実技	1	1	×	×	重複して4単位まで履修可	
				○			DES275*A	フォトアート演習	実技	2	2	×	△	重複して8単位まで履修可	
							DES243*A	デザイン演習A(ドローイング)	演習	4	2	×	×	重複して8単位まで履修可	
							DES244*A	デザイン演習B(イラストレーション)	演習	4	2	×	×	重複して8単位まで履修可	
							DES241*A	デザイン演習C(グラフィックデザイン)	演習	4	2	×	×	重複して8単位まで履修可	
							DES241*A	デザイン演習C(グラフィック広告表現)	演習	4	2	×	×	重複して8単位まで履修可	
							DES241*A	デザイン演習D(グラフィック編集)	演習	4	2	×	×	重複して8単位まで履修可	
							DES242*A	デザイン演習E(ヴィジュアルアート)	演習	4	2	×	×	重複して8単位まで履修可	
				○			DES2481A	デザイン演習FⅠ(建築製図)	演習	4	2	×	△		
				○			DES248*A	デザイン演習FⅡ(建築・空間デザイン)	演習	4	2	×	△	デザイン演習FⅠ 重複して8単位まで履修可	
							DES249*A	デザイン演習G(メディアアート)	演習	4	2	×	×	重複して8単位まで履修可	
							DES276*A	テキスタイル演習A(染織)	実技	2	2	×	×	重複して8単位まで履修可	
							DES276*A	テキスタイル演習B(染色)	実技	2	2	×	×	重複して8単位まで履修可	
							DES277*A	テキスタイル演習C(染織表現)	実技	2	2	×	×	重複して8単位まで履修可	
				○			DES277*A	テキスタイル演習D(服飾表現)	実技	2	2	×	△	重複して8単位まで履修可	
							DES249*A	コンピュータ造形Ⅰ(CG&アート技法)	演習	4	2	×	×	重複して8単位まで履修可	
							DES349*A	コンピュータ造形Ⅱ(3次元CG・動画)	演習	4	3	×	×	コンピュータ造形Ⅰ 重複して8単位まで履修可	
映画専修	映画基礎				○	○	CIN1040A	脚本入門	講義	2	1	○	○		
					○	○	CIN1030A	映画演出原論	講義	2	1	○	○		
							CIN1050A	映画撮影技術論	講義	2	1	×	×		
							CIN14**A	映画特別研究	演習	1~2	1	×	×	重複して8単位まで履修可	
	映画基礎			○	○		CIN2002A	演出論B	講義	2	2	○	○		
				○	○		CIN2012A	映画史A	講義	4	2	○	○		
				○	○		CIN2013A	映画史B	講義	4	2	○	○		
				○	○		CIN2014A	映像論	講義	4	2	○	○		
				○	○		CIN2312A	ドキュメンタリー	講義	2	2	○	○		

[*]: 数字コードが複数存在する科目

(次のページに続く)

専修	科目区分	マイナー指定科目 (◎印はマイナー必修科目)					科目コード	授業科目	授業方法	単位数	履年	修次	他学群 学生の履修	自学群内 他専修学 生の履修	先修条件ほか
		演劇	音楽	造形 デザイン	映画	カルチャー									
映画 専修	映画基礎						CIN3313A	ドキュメンタリー企画	講義	2	3	×	×		フィールドワーク
							CIN2070A	映画音響デザイン論	講義	2	2	×	×		
							CIN3032A	映画演出研究	講義	2	3	×	×		
					○	○	CIN3015A	映画理論研究	講義	2	3	○	○		
	映画演習・実技						CIN161*A	フィールドワーク	実習	4	1	×	×		
							CIN2614A	ドキュメンタリー実習	実習	3	2	×	×		フィールドワーク、ドキュメンタリー
							CIN1690A	制作Ⅰ	実習	6	1	×	×		
							CIN3691A	制作Ⅱ	実習	6	3	×	×		制作Ⅰ
							CIN2441A	脚本演習	演習	2	2	×	×		脚本入門
							CIN2642A	脚本実習 A	実習	1	2	×	×		脚本入門
							CIN3643A	脚本実習 B	実習	1	3	×	×		脚本入門
							CIN2651A	映画撮影実習Ⅰ	実習	3	2	×	×		映画撮影技術論
							CIN2652A	映画撮影実習Ⅱ	実習	3	2	×	×		映画撮影実習Ⅰ
							CIN3653A	映画撮影実習Ⅲ	実習	2	3	×	×		映画撮影実習Ⅱ
							CIN2471A	編集演習Ⅰ	演習	4	2	×	×		
							CIN2472A	編集演習Ⅱ	演習	4	2	×	×		編集演習Ⅰ
							CIN3473A	整音演習Ⅰ	演習	4	3	×	×		
							CIN3474A	整音演習Ⅱ	演習	4	3	×	×		整音演習Ⅰ
					○		CIN2731A	映像演技と演出	実習	3	2	×	○		

【*】：数字コードが複数存在する科目

諸注意

①専攻演習と卒業研究

- (イ) 3年次から「専攻演習」を履修することができます。4セメスター目（2年次秋学期）に事前申請を行いますが、希望者が集中した場合は選抜が行われることがあります。その際はそれまでに履修した科目の内容・成績が考慮されます。
- (ロ) 4年次に「卒業研究」を履修することができます。指導は原則として「専攻演習Ⅰ」及び「専攻演習Ⅱ」担当教員が引き続き行います。4年次に「卒業研究」を履修したい場合、「専攻演習Ⅰ」及び「専攻演習Ⅱ」を修得してください。「卒業研究」の複数回履修はできません。

②音楽専修実技科目について

音楽専修では、「声楽」「ピアノ」「器楽実技」において主科及び副科を選択することができます。科目名にAとあるのが主科、Bとあるのが副科となります。

1・2年次は主科を2種類まで、3年次以降は1種類のみ選択することができます。

各授業とも、Ⅰ～Ⅷの順番で履修してください。

4. ビジネスマネジメント学群

1. ビジネスマネジメント学群について

ビジネスマネジメント学群では、「国際社会で必要なビジネス感覚を養い、広範な知識から発想し、意思決定の行える、新しい経営マインドを備えた人材の育成」を目標として、「職業に直接結びつく」教育を行います。学群にはビジネスマネジメント学類（8プログラム構成）とアビエーションマネジメント学類（3コース構成）の2つの学類がありますが、共通の学修・研究テーマは「マネジメント」です。マネジメントとは、簡単に言うと、ビジネスの現場で生ずるさまざまな問題を上手に解決することです。皆さんがどちらの学類で学んでも、「マネジメント」能力が身につくように、きめ細かなカリキュラムを用意しています。

2. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学群は、「国際性」に優れ、「奉仕の精神」と「おもてなしの心」、「コミュニケーション能力」と「情報リテラシー」を兼ね備え、ビジネス実務において優れた「マネジメント能力」を有し、社会の問題を他人事として放置しない“高度なビジネスパーソン”を育成します。

そのため、本学群では、本学の「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえた上で、定められた課程において以下の能力・資質を修得し、建学の精神である「^{がく}学^し而^{して}事^を人^に（学びて人に仕える）」にしたがって、体得した知識を総合的に活用できる学生に対し、卒業を認定し学位を授与します。

（1）コミュニケーション能力と多文化・異文化に関する知識の理解：国際感覚

急速にグローバル化するビジネス社会において強く求められるところの、円滑なコミュニケーションをとることができる「語学力」、とりわけビジネスの国際共通語である英語力と、これを活用するために不可欠な国際性、共感力を兼ね備えること。

（2）倫理観・奉仕の精神とおもてなしの心

ビジネスパーソンとしての「奉仕の精神」に、我が国の文化として注目される「おもてなしの心」を織り交ぜ、社会の問題を他人事として放置しない、より高度な職業感覚を備えること。

（3）コミュニケーション能力と情報リテラシー

ビジネスにおいて必要なコミュニケーション能力を備えるとともに、ビジネス組織におけるリーダーシップとフォロワーシップを理解し実行することができる。また、加速し続ける社会の情報化に対応する「情報リテラシー」、先見力を備えること。

（4）理論と実践のバランスのとれたマネジメント能力

ビジネス実務において、現場に即したビジネス理論の知識と、実践的なマネジメント能力の両方をバランスよく備えること。

3. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学群は、「卒業認定・学位授与の方針」に掲げた学修成果を得るために、その具体的取組みとしての教育課程を「基礎教育科目」、「専攻科目」及び他学群や他大学、各種技能審査等を単位認定する「自由選択」という区分に分けて編成し、科目は講義、演習、実験、実習、実技といった授業方法を組み合わせた授業を開講しています。また、カリキュラムの体系化のために「ナンバリング（科目ごとの関連性や難易度を示す）」を行い、科目の構造を明示し体系的な学修に役立つようにしています。本学群では、様々な業種・職種で活躍できる“高度なビジネスパーソン”を育成するため、以下の基本方針をもとに、高度な学力と専門的能力の修得に向けた科目を効果的に配置しています。

（1）教育課程の編成

- ①国際性豊かな人材の養成に向けて、本学群独自の4ヵ月間の留学やテーマ別の短期の海外ビジネス研修により、海外に出て学ぶ機会を設けるとともに、キャンパスライフを通して国際感覚を身につけることができる学修環境を整えています。同時に、自分の将来設計に合わせた語学力、とりわけビジネスの国際共通語である英語力の修得に向けた多様な学修機会を提供します。
- ②奉仕の精神に、おもてなしの心を織り交ぜた、高度な職業感覚を修得するため、多数の講義科目によって理論のベースを構築し、そのうえで、豊富に取り揃えている実習・演習、専攻演習によって実践を通して学んでいきます。
- ③授業科目は、教員の一方的な講義に留まらず、課題レポート作成、学生の発言やプレゼンテーション、グループ

ワークなどのアクティブ・ラーニング、反転授業の要素を積極的に取り入れています。「専攻演習」は、学生主体の様々な活動のなかで、リーダーシップとフォロワーシップを理解し実践する機会となり、コミュニケーション能力を醸成します。同時に、学びのなかで、各種の情報機器を駆使しながら、情報の収集・分析・活用・発信などの情報リテラシーを修得することができます。

- ④ビジネスの現場に即した理論と、実践的なマネジメント能力の両方をバランスよく学べるようカリキュラムを構成しています。特に、学生の多様な将来設計にあわせて、それぞれ独自の科目履修ができるよう体系化しています。

(2) 学修方法・学修過程

- ①1年次には、「ガイダンス科目」を通じて社会人基礎力（前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）や専門分野の授業内容を十分に吸収できる基礎学力を身につけます。
- ②外国語科目を通じてビジネスの現場で必要とされる実践的な語学力を身につけ、英語については、学類・コースで定められたTOEIC®目標スコア達成を目指します。
- ③ビジネスマネジメント学類・アビエーションマネジメント学類共通の学修・研究テーマとして、ビジネスの現場で生ずる様々な問題を解決するための「マネジメント」能力を身につけていきます。

(3) 学修成果の評価の在り方

- ①学修成果は「卒業認定・学位授与の方針」に定められた項目と、学修方法・学修過程（カリキュラム・マップ等）により示された、科目が目標とする学修の到達度が学生自身にとってどの程度であったかを示すものです。したがって学修成果は科目それぞれで設定されています。
- ②学修成果の評価方法は、科目ごとのシラバスにおいて具体的に示します。また、ループリック評価など（成功の度合いを示すレベルや、それぞれのレベルに対応するパフォーマンス（プレゼン、協同作業など）の特徴を示した評価規準からなる表）を取り入れることによって、成績評価を分かりやすく可視化し、厳格に評価します。

ビジネスマネジメント学類

1. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学類は、以下の基本要件を満たす学生に対し、「学士（経営政策学）」を授与します。

(1) 倫理観

“高度なビジネスパーソン”としての常識とマナー、倫理観とモラルを備えていること。

(2) 論理的思考力・自己管理能力

ビジネス実務の基本とマネジメント能力を備え、論理的な思考と意思決定ができ、自らのキャリアについて明確なビジョンを持つとともに、絶えず学修して専門性を高める努力することができること。

(3) チームワーク

自分とは異なる様々な背景を持つ人々との相互理解に努めることが可能で、相手の気持ちを思いやる豊かな人間性を持ち、組織のなかで協力しながら最後まで仕事を進めることができること。

(4) 問題解決能力

ビジネス現場において日々生ずる様々な問題を感知し、失敗をおそれず解決のための行動を起こすことができ、たとえ困難が生じたとしても、あきらめず最後までやり抜くことができること。

(5) コミュニケーション能力と情報リテラシー

国際的ビジネスで使いこなすことのできる語学力と、様々な情報を有効活用できる能力を備えること。

本学類のカリキュラムに基づく卒業要件は以下の通りです。

- ①「基礎教育科目」28単位を修得していること。
- ②「専攻科目」の外国語科目8単位、「専攻基礎科目」14単位以上、「実習・演習科目」2単位以上を修得していること。
- ③「専門応用科目」のビジネス系、マネジメント系の各4種類、計8種類のプログラムの中から1つを選択し、その科目群から自由に選択した20単位、そして選択したプログラムが属するものとは別の系統に属する科目全体より自由に選択した10単位を修得すること。
- ④「基礎教育科目」及び「専攻科目」については、必要な単位及びこれに学生が自由に選択した単位を加え合計124単位を修得し、かつ通算GPAが1.5以上であること。

2. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

様々な業種・職種で活躍できる“高度なビジネスパーソン”を育成するため、本学類では、以下のようにカリキュラムを構成しています。

（1）教育課程の編成

①「基礎教育科目」は下記の通り構成しています。

ア)「コア科目」：本学の建学の精神や大学における学修の基礎を学びます。

イ)「ガイダンス科目」：学類の授業内容を十分に吸収できる基礎学力を養成します。

②「専攻科目」は下記の通り構成しています。

ア)「学群共通科目」：ビジネスマネジメント学類とアビエーションマネジメント学類に共通する科目（「専攻演習」、「特別講義」、留学準備用の科目など）です。

イ)「外国語科目」：ビジネスの現場で必要な実践的な語学力（英語・中国語）の修得を目指す科目です。英語については「TOEIC[®]」600点を卒業時の達成目標とします。

ウ)「実習・演習科目」：ビジネス現場の実務能力の修得を目指す科目です。

エ)「専門基礎科目」：専門的技能の修得に向けた経営の基礎学力向上を目指す科目です。

オ)「専門応用科目」：ビジネスパーソンに必要な特定範囲の専門的学力・能力をバランスよく修得できるよう、科目全体をまず知識・技能、業種・業界（ビジネス）そして職種・機能（マネジメント）の視点から、ビジネス系科目群とマネジメント系科目群に大別し、それぞれをさらに各4種類に分けた、合計8種類の科目群（プログラム）を設定しています。

（2）学修方法・学修過程

①本学類では、「専門応用科目」における「ビジネス系科目群」と「マネジメント系科目群」を履修する方法をプログラムと呼んでいます。「ビジネス系プログラム」は、特定の業種・業界に焦点をあてて「専門応用科目」を学ぶため、将来、特定の業種・業界で働いているイメージを強く持っている学生に適しています。これに対して「マネジメント系プログラム」は、経営における特定の機能や職種に焦点をあてて「専門応用科目」を学ぶため、将来、企業の特定の部署で働いているイメージを持っている学生や、まだ自分の将来の職業像を確立していない学生に適しています。

②学生の多様な将来目標に応えるために、科目履修の仕方を多数の「学修ストーリー」にまとめて提示しています。

（3）学修成果の評価の在り方

①学修成果は「卒業認定・学位授与の方針」に定められた項目と、学修方法・学修過程（カリキュラム・マップ等）により示された、科目が目標とする学修の到達度が学生自身にとってどの程度であったかを示すものです。したがって学修成果は科目それぞれで設定されています。

②学修成果がどのように評価されるのかは、シラバスにおいて具体的に評価方法を科目ごとに記載しています。また、ルーブリック評価など（成功の度合いを示すレベルや、それぞれのレベルに対応するパフォーマンス（プレゼン、協同作業など）の特徴を示した評価規準からなる表）を取り入れることによって、成績評価を分かりやすく可視化することと厳格に評価するようにします。

3. 卒業要件

※○数字は科目の単位数を表します。

		ビジネスマネジメント学類	
基礎教育科目 28単位 (最低必要単位)	コア科目 (注1) 16単位必修	キリスト教入門② 口語表現Ⅰ② 英語コアⅠA② 英語コアⅡA② コンピュータリテラシーⅠ②	文章表現Ⅰ② 英語コアⅠB② 英語コアⅡB②
	基盤教育科目 2単位必修	コンピュータリテラシーⅡ②	
	ガイダンス 科目 10単位必修	社会人基礎Ⅰ② 現代経営入門② 現代法入門②	社会人基礎Ⅱ② 現代会計入門②
専攻科目 54単位 (最低必要単位)	外国語科目 (注1)、(注2) 8単位必修	BM TOEIC®ⅠA② BM TOEIC®ⅡA②	BM TOEIC®ⅠB② BM TOEIC®ⅡB②
	専門基礎科目 14単位必修	選択14単位	
	専門応用科目 30単位必修 (注4)	「ビジネス系」「マネジメント系」の中から、プログラムを一つ選択しその科目群から選択20単位、選択したプログラムとは別の系統より自由に選択10単位、合計30単位	
	実習・演習科目 2単位必修	インターンシップ②～⑥ 国内ビジネス研修②～⑥ ビジネス演習②～⑥	海外ビジネス研修 ②～⑥ フィールドトリップ①～④
自由選択		・学群共通科目 ・基礎教育科目、専攻科目で最低必要単位数を超えて修得した単位 ・自学群他学類専攻科目 ・他学群専攻科目 ・基盤教育の科目 ・他大学等（短期大学・海外留学の科目を含む）認定単位（P.196） ・各種技能審査による認定単位（P.197～199）	
卒業要件単位合計		【その他の要件】 1. 入学時からの通算GPAが1.5以上 2. プログラムを1つ選び、メジャーとして必ず修了すること	
基礎教育科目、専攻科目、自由選択、あわせて 124単位		【早期卒業の要件】 1. 本学に3年以上在学し、卒業に必要な124単位以上を修得し、かつ入学時からの通算GPAが3.6以上 2. TOEIC®700点以上を有し、かつそのスコアを用いて技能審査による単位認定を受けていること（注3）	

(注1) 一定以上の能力を有すると認められた者、もしくはその他要件を満たした者は、履修を免除される場合があります。免除された単位数は他の科目を修得することで卒業要件単位数を満たしてください。（卒業要件単位数124単位から免除科目分の単位は差し引かれませんが）

外国人留学生等（日本語を母語としない者。以下同じ。）は、「文章表現Ⅰ」「英語コアⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB」に替えて「日本語専門基礎AⅠ・AⅡ・B」を各2回、合計10単位を修得しなければなりません。ただし、日本語の能力が一定以上であると認められた者は、履修を免除される場合があります。外国人留学生履修規定を参照し、規定のとおり修得してください。

(注2) 外国人留学生等は、外国人留学生履修規定のとおり修得してください。

(注3) 技能審査による単位認定の申請方法についてはP.197を参照してください。

(注4) ビジネス系とマネジメント系に所属する科目が以下の通りあります。

- ・国際経済入門
- ・国際会計Ⅰ
- ・国際会計Ⅱ
- ・グローバル・コーポレートファイナンスⅠ
- ・グローバル・コーポレートファイナンスⅡ

上記科目は、ビジネス系とマネジメント系で重複して単位を加算しないよう注意してください。

※上記科目を除いて、各自が選択しているプログラム20単位を満たすことが出来る場合は、別系統で加算することは可能です。

- 他学群のマイナーを登録しようとする場合は、以下に注意してください。
1. マイナーの必修科目（または選択必修の全て）について、科目一覧ページの「他学群学生の履修」欄が「×」になっている専攻プログラム・専攻コース等の場合は、他学群生はそのマイナーを登録できません。
 2. 他学群生は、専攻プログラム・専攻コース等の抽選科目の優先順位によっては、マイナーの必修科目（または選択必修の全て）を履修できず、マイナーを修了できない場合があります。
 3. 他学群のマイナーの登録にあたっては、予め各キャンパス事務室教務担当に相談してください。

4. プログラム案内

本学には、専攻科目を中心として、学生各自の目的や関心に応じて専門的に学ぶためのプログラムが置かれています。ビジネスマネジメント学類の専攻科目で構成されるプログラムを登録すると、「学業成績単位修得証明書」にメジャーまたはマイナーを「登録中」であることが記載されます。修了要件を満たすと、卒業後の「学業成績単位修得証明書」にメジャーまたはマイナーを「修了」したことが記載されます。

メジャー：メジャーを修了することは卒業要件となっています。ただし、ビジネスマネジメント学類以外の専攻プログラム・専攻コース等をメジャーとして登録することはできません。

マイナー：マイナーを修了することは卒業要件ではありませんが、ビジネスマネジメント学類のプログラムからだけでなく、他学群のものをマイナーとして登録することもできます。ただし、メジャーとして修得した科目については、マイナーの修了要件科目として認定することはできません。

メジャーはビジネスマネジメント学類のプログラムより選択してください。メジャーの登録は、2セメスター目に受け付けます。詳細については別途掲示します。

マイナーの登録は、5セメスター目に受け付けます。アドバイザーの承認を得て、所定の期間に手続きを行ってください。その後、卒業を希望する学期の定期試験期間最終日までメジャー及びマイナーの変更もできます。

プログラムの種類は、以下のとおりです。

ビジネスマネジメント学類

ビジネス系プログラム	メジャー	マイナー
国際・金融ビジネス	○	○
流通・マーケティングビジネス	○	○
ICT ビジネス	○	○
観光・ホスピタリティ・エンターテインメントビジネス	○	○

マネジメント系プログラム	メジャー	マイナー
経営戦略・管理	○	○
会計・財務	○	○
経済・法律	○	○
情報・環境	○	○

(1) ビジネス系プログラム

国際・金融ビジネス

1. 教育目的

企業の海外部門、総合商社、貿易会社、外資系企業、金融機関などへの就職を目指す学生向けのプログラムです。近年、国際的な資金や資材の調達、製造拠点・販売拠点の海外移転など、企業経営は最適を求め国境を越え、ますますグローバル化が加速しています。このプログラムでは、企業を取り巻くグローバルな経営環境の変化を分析し、重要度を増しつつある中国をはじめとする新興国でのビジネスを中心に、企業のグローバル経営全般について体系的に学修します。また、経済体制、文化や言語の違う異文化環境でのビジネス、グローバルなモノや資金の流れなどの視点を加え、理論と実践の両面においてバランスの取れた知識の形成を目指します。

2. カリキュラムの特徴

このプログラムでは、国際・金融ビジネス科目群に置かれた専門応用科目を重点的に学びますが、ビジネスとマネジメント双方の知識・技能をバランスよく習得するため、マネジメント系科目群に置かれた専門応用科目も履修しなければいけません。国際ビジネスに関連する科目には、「グローバル経営入門」「アジア企業経営論」「総合商社論」などがあります。金融ビジネスに関連する科目には、「外国為替入門」「金融リスク管理」などがあります。

メジャー：「国際・金融ビジネス科目群」の中から20単位、マネジメント系にある4つの科目群（「経営戦略・管理」「会計・財務」「経済・法律」および「情報・環境」）の中から、自由に選択10単位、合計30単位以上修得してください。

マイナー：「国際・金融ビジネス科目群」から20単位以上修得してください。

流通・マーケティングビジネス

1. 教育目的

商品は生産者が作り、この商品の小分け機能をもつ商社・卸業者が活躍し、小売業が色々な知恵を絞って消費者に提供されていきます。最近ではユニクロや ZARA・GAP に代表されるように SPA（製販一体型）方式が進み、安

くてファッショナブルな商品が流通しています。一方、モノが市場に溢れ、消費者の消費志向が多様化すると、より消費者にマーケティング＝「売れる仕組みづくり」などと言われるような販売促進・立地条件の開拓・商品の研究が求められます。紙媒体（新聞・雑誌）や電波媒体（テレビ・ラジオ）による露出如何によってまるで売上が変わってきます。最近ではネットによる取引が10兆円にも上るといわれ、ますますこの分野の研究から目が離せません。

2. カリキュラムの特徴

このプログラムでは、流通・マーケティングビジネス科目群に置かれた専門応用科目を重点的に学びますが、ビジネスとマネジメント双方の知識・技能をバランスよく習得するため、マネジメント系科目群に置かれた専門応用科目も履修しなければいけません。流通ビジネスに関連する科目には、「物流入門」「流通入門」「国際ロジスティクス」などがあります。マーケティングビジネスに関連する科目には、「ブランド論入門」「マーケティング論Ⅰ・Ⅱ」「顧客心理」などがあります。

メジャー：「流通・マーケティングビジネス科目群」の中から20単位、マネジメント系にある4つの科目群（「経営戦略・管理」「会計・財務」「経済・法律」および「情報・環境」）の中から、自由に選択10単位、合計30単位以上修得してください。

マイナー：「流通・マーケティングビジネス科目群」から20単位以上修得してください。

ICTビジネス

1. 教育目的

産業社会が持続可能な成長をめざす時代へと変化しつつある中、ICT（情報通信技術）は、あらゆるビジネス、あらゆる企業活動において、もはや不可欠なマネジメントツールとなっています。ICTビジネスプログラムでは、ICTに関する基礎的な知識の習得からスタートし、ICTを用いていかに優れたビジネスモデルを構築するか、ICTでいかに企業経営を進化させるかについて学び、新しいビジネスを創出できる人材を育成することをめざします。ICTをビジネスマネジメントの場で役立てるため、あるいはICTが生み出す新しいビジネスチャンスをしっかりとつかむために必要な知識・ノウハウを着実に学んでいきます。

2. カリキュラムの特徴

このプログラムでは、ICTビジネス科目群に置かれた専門応用科目を重点的に学びますが、ビジネスとマネジメント双方の知識・技能をバランスよく習得するため、マネジメント系科目群に置かれた専門応用科目も履修しなければいけません。ICTビジネスに関連する科目には、「情報通信技術と社会」「インターネットビジネス」「コンテンツビジネス」などがあります。

メジャー：「ICTビジネス科目群」の中から20単位、マネジメント系にある4つの科目群（「経営戦略・管理」「会計・財務」「経済・法律」および「情報・環境」）の中から、自由に選択10単位、合計30単位以上修得してください。

マイナー：「ICTビジネス科目群」から20単位以上修得してください。

観光・ホスピタリティ・エンターテインメントビジネス

1. 教育目的

物質的な豊かさより心の豊かさが強く求められるようになり、癒し、楽しさ、感動、幸福感を与える観光・ホスピタリティ・エンターテインメントビジネスの経済的・文化的影響力は年々向上し、21世紀の成長産業といわれています。

本プログラムは、卒業後、旅行、ホテル、ブライダル、外食、テーマパーク、映画、音楽、ゲーム、スポーツ、航空、鉄道、バス、クルーズなどの分野に進みたい人、接客サービスに携わりたい人を対象にしています。

旅行、ホテル・ブライダル、レジャーの3部門を柱に、それぞれのビジネスに求められる専門知識や管理技法、企画プロデュース力を、講義やインターンシップ、海外ビジネス研修などを通じて実践的に身につけます。

2. カリキュラムの特徴

このプログラムでは、観光・ホスピタリティ・エンターテインメントビジネス科目群に置かれた専門応用科目を重点的に学びますが、ビジネスとマネジメント双方の知識・技能をバランスよく習得するため、マネジメント系科目群に置かれた専門応用科目も履修しなければいけません。観光関連の科目には「レジャー論」「観光学概論」などが、ホ

スピタリティ関連の科目には「ホテルビジネス」「ブライダルビジネス」などが、エンターテインメント関連の科目には「テーマパーク論」「レジャー産業論」などがあります。

メジャー：「観光・ホスピタリティ・エンターテインメントビジネス科目群」の中から20単位、マネジメント系にある4つの科目群（「経営戦略・管理」「会計・財務」「経済・法律」および「情報・環境」）の中から、自由に選択10単位、合計30単位以上修得してください。

マイナー：「観光・ホスピタリティ・エンターテインメントビジネス科目群」から20単位以上修得してください。

(2) マネジメント系プログラム

経営戦略・管理

1. 教育目的

企業経営に関する幅広い分野に関心をもち、将来のビジネスリーダーを目指す学生向けのプログラムです。近年の激変する経営環境のもと、企業は持続的発展を目標に、経営資源（ヒト、モノ、カネ、情報等）を有効に活用し、戦略を構築していく必要があります。このプログラムでは、経営学を中心に企業の運営や管理に関する様々な分野を取り上げ、企業の経営管理や組織のあり方、経営戦略などについて専門的に学びます。学修にあたっては、理論だけでなく、ケーススタディなどの手法も取り入れ、企業活動の実践的側面についても理解を深めていきます。また、中小企業やベンチャービジネス、地域振興などの分野も加え、幅広い知識の形成を目指します。

2. カリキュラムの特徴

このプログラムでは、経営戦略・管理科目群に置かれた専門応用科目を重点的に学びますが、ビジネスとマネジメント双方の知識・技能をバランスよく習得するため、ビジネス系科目群に置かれた専門応用科目も履修しなければいけません。経営戦略関連の科目には「経営戦略論Ⅰ・Ⅱ」などが、経営管理関連の科目には「経営管理論Ⅰ・Ⅱ」などがあります。

メジャー：「経営戦略・管理科目群」の中から20単位、ビジネス系にある4つの科目群（「国際・金融ビジネス」「流通・マーケティングビジネス」「ICTビジネス」および「観光・ホスピタリティ・エンターテインメントビジネス」）の中から、自由に選択10単位、合計30単位以上修得してください。

マイナー：「経営戦略・管理科目群」から20単位以上修得してください。

会計・財務

1. 教育目的

「経営数値」は、会社のみならず学校、病院などの公益法人を含むあらゆる企業の経営活動に関わっています。「経営数値」を表すものとして財務諸表がよく知られているところです。ビジネスを行うにあたって「経営数値」を理解していなければ、精度の高い経営分析や正しい意思決定を行うことはできません。「経営数値」に関係する分野には「会計・財務・簿記・税務」など広範囲の内容が含まれており、会計・財務プログラムではそれらの内容や企業活動との関係を明らかにしていきます。本プログラムを通じて「経営数値」を理解し、評価しながら的確な意思決定を行うことができるビジネスパーソンの育成を目指しています。

2. カリキュラムの特徴

このプログラムでは、会計・財務科目群に置かれた専門応用科目を重点的に学びますが、ビジネスとマネジメント双方の知識・技能をバランスよく習得するため、ビジネス系科目群に置かれた専門応用科目も履修しなければいけません。会計関連の科目には「財務会計論Ⅰ・Ⅱ」「国際会計Ⅰ・Ⅱ」などが、財務関連の科目には「財務管理論Ⅰ・Ⅱ」「グローバル・コーポレート・ファイナンスⅠ・Ⅱ」などがあります。

メジャー：「会計・財務科目群」の中から20単位、ビジネス系にある4つの科目群（「国際・金融ビジネス」「流通・マーケティングビジネス」「ICTビジネス」および「観光・ホスピタリティ・エンターテインメントビジネス」）の中から、自由に選択10単位、合計30単位以上修得してください。

マイナー：「会計・財務科目群」から20単位以上修得してください。

経済・法律

1. 教育目的

経済・法律プログラムは、文字通り経済と法律を学ぶプログラムです。経済学や法律学は、となく普段のビジネス現場にあまり関係がないように思われがちです。しかし、これらはビジネスをするために重要な基礎知識で、例えば、企業が経営方針を決めたり投資する際に欠かせない景気予測などには経済学の知識が必要です。また法律学は、社会・生活のルールを学ぶことで、取引相手とのトラブルの生じない契約の結び方や紛争の解決方法、また株式会社の仕組みや売買代金の回収方法などを知ることができます。特に企業の管理部門で活躍したい諸君に、欠かせない知識を学んでもらいたいプログラムだといえます。

2. カリキュラムの特徴

このプログラムでは、経済・法律科目群に置かれた専門応用科目を重点的に学びますが、ビジネスとマネジメント双方の知識・技能をバランスよく習得するため、ビジネス系科目群に置かれた専門応用科目も履修しなければいけません。経済関連の科目には「ミクロ経済学」「マクロ経済学」などが、法律関連の科目には「民法Ⅰ・Ⅱ」「企業法Ⅰ・Ⅱ」などがあります。

メジャー：「経済・法律科目群」の中から20単位、ビジネス系にある4つの科目群（「国際・金融ビジネス」「流通・マーケティングビジネス」「ICTビジネス」および「観光・ホスピタリティ・エンターテインメントビジネス」）の中から、自由に選択10単位、合計30単位以上修得してください。

マイナー：「経済・法律科目群」から20単位以上修得してください。

情報・環境

1. 教育目的

情報・環境プログラムでは、現代の経営において不可欠な概念となっている「情報」と「環境」について専門的に取り扱っています。「情報」と「環境」とは、突き詰めて考えれば、「状態」と「論理」であり、人間あるいは全ての動物の活動を包含する概念です。観察して判断して実行することは、人間であればだれもが必要とする能力であって、組織の経営においても同様に必要な能力です。ある状況をどのように捉えるのか、その結果それをどのように処理するのか。このようなことについて、学び・考えることができるような専門科目がそろっているプログラムです。

2. カリキュラムの特徴

このプログラムでは、情報・環境科目群に置かれた専門応用科目を重点的に学びますが、ビジネスとマネジメント双方の知識・技能をバランスよく習得するため、ビジネス系科目群に置かれた専門応用科目も履修しなければいけません。情報関連の科目には「経営情報リテラシー」「企業の数量的意思決定」などが、環境関連の科目には「企業と環境」「企業とエネルギー」などがあります。

メジャー：「情報・環境科目群」の中から20単位、ビジネス系にある4つの科目群（「国際・金融ビジネス」「流通・マーケティングビジネス」「ICTビジネス」および「観光・ホスピタリティ・エンターテインメントビジネス」）の中から、自由に選択10単位、合計30単位以上修得してください。

マイナー：「情報・環境科目群」から20単位以上修得してください。

5. ガイダンス・専攻科目と諸注意

科目区分	科目コード	授 業 科 目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	自学群他メジャー生の履修	先修条件ほか
科 ガイダンス	MGM1400B	社会人基礎Ⅰ	演習	2	1	×		
	MGM1401B	社会人基礎Ⅱ	演習	2	1	×		社会人基礎Ⅰ
	MGM1000B	現代経営入門	講義	2	1	○		
	ACC1000B	現代会計入門	講義	2	1	○		
	LAW1000B	現代法入門	講義	2	1	○		
外国語科目	ENG2480B	BM TOEIC®ⅠA	演習	2	2	×		英語コアⅡA、ⅡB
	ENG2481B	BM TOEIC®ⅠB	演習	2	2	×		英語コアⅡA、ⅡB
	ENG3482B	BM TOEIC®ⅡA	演習	2	3	×		BM TOEIC®ⅠA
	ENG3483B	BM TOEIC®ⅡB	演習	2	3	×		BM TOEIC®ⅠB
	ENG2460B	ビジネスコミュニケーション(英語)ⅠA	演習	2	2	○		
	ENG2461B	ビジネスコミュニケーション(英語)ⅠB	演習	2	2	○		
	ENG3462B	ビジネスコミュニケーション(英語)ⅡA	演習	2	2	○		
	ENG3463B	ビジネスコミュニケーション(英語)ⅡB	演習	2	2	○		
	CHN2470B	ビジネスコミュニケーション(中国語)ⅠA	演習	2	2	○		
	CHN2471B	ビジネスコミュニケーション(中国語)ⅠB	演習	2	2	○		
	CHN3472B	ビジネスコミュニケーション(中国語)ⅡA	演習	2	2	○		
	CHN3473B	ビジネスコミュニケーション(中国語)ⅡB	演習	2	2	○		
専門基礎科目	ECO1000B	経済学入門	講義	2	1	○		
	MGM1090B	日本の経営者	講義	2	1	○		
	ACC1001B	ビジネス数字の読み方	講義	2	1	○		
	ECO1042B	金融入門	講義	2	1	○		
	TOR1000B	現代ホスピタリティ	講義	2	1	○		
	MGM1091B	ビジネスマナー	講義	2	1	○		
	MGM1004B	企業経営と情報	講義	2	1	○		
	ECO2000B	日本経済入門	講義	2	2	○		
	MGM2050B	経営戦略入門	講義	2	2	○		
	CMS2010B	マーケティング入門	講義	2	2	○		
	CMS2020B	消費者心理入門	講義	2	2	○		
	MGM2001B	ビジネス統計	講義	2	2	○		
	LAW2050B	ビジネス法務	講義	2	2	○		
	ACC2020B	管理会計入門	講義	2	2	○		
	MGM2020B	組織と心理	講義	2	2	○		
	MGM2021B	ビジネス倫理	講義	2	2	○		
	MGM2000B	職業指導Ⅰ	講義	2	2	○	○	
	MGM2201B	職業指導Ⅱ	講義	2	2	○	○	職業指導Ⅰ
科 実習・演習	###36**B	インターンシップ	実習	2～6	2	△		
	###36**B	国内ビジネス研修	実習	2～6	2	△		
	###3**B	海外ビジネス研修	実習・演習	2～6	2	△		
	#####B	ビジネス演習	演習	2～6	2	△		
	###*6**B	フィールドトリップ	実習	1～4	2	△		
学群共通科目	ENG1470B	海外留学研修準備学習	演習	2	1	○		
	ENG2482B	留学のための英語 TOEFL®	演習	2	1	○		
	MGM1002B	留学生のためのビジネス書講読Ⅰ	講義	2	1	○		
	MGM2003B	留学生のためのビジネス書講読Ⅱ	講義	2	2	○		
	###20**B	特別講義Ⅰ	講義	2	2	○		

「###」：3文字コードが複数存在する科目

(次のページに続く)

「*」：数字コードが複数存在する科目

「海外ビジネス研修」は、履修するクラスにより授業の方法が実習または演習のいずれかになります。

TOEFL® is a registered trademark of Educational Testing Service (ETS). This publication (or product) is not endorsed or approved by ETS.

科目 区分	科目コード	授 業 科 目	授業 方法	単位数	履修 年次	他学群学 生の履修	自学群他 メジャー 生の履修	先修条件ほか
学 群 共 通 科 目	###20**B	特別講義Ⅱ	講義	2	2	○	△	
	###20**B	特別講義Ⅲ	講義	2	2	○	△	
	###20**B	特別講義Ⅳ	講義	2	2	○	△	
	###0**B	特別講義Ⅴ	講義	2	2	○	△	
	###29**B	専攻演習Ⅰ	演習	2	2	○	△	
	###39**B	専攻演習Ⅱ	演習	2	3	○	△	
	###39**B	専攻演習Ⅲ	演習	2	3	○	△	
	###39**B	専攻演習Ⅳ	演習	2	4	○	△	
	###49**B	卒業論文	演習	2	4	○	△	
ビ ジ ネ ス 科 目 群	MGM2060B	異文化経営論	講義	2	2	○	○	
	MGM2061B	グローバル経営入門	講義	2	2	○	○	
	ECO2041B	外国為替入門	講義	2	2	○	○	
	ECO2044B	金融論	講義	2	2	○	○	
	CMS2050B	貿易論	講義	2	2	○	○	
	CMS2051B	貿易実務	講義	2	2	○	○	
	ECO2030B	国際経済入門	講義	2	2	○	○	
	MGM3062B	アジア企業経営論	講義	2	2	○	○	
	MGM3063B	中国企業経営論	講義	2	2	○	○	
	MGM3060B	グローバル企業戦略論Ⅰ	講義	2	2	○	○	
	MGM3061B	グローバル企業戦略論Ⅱ	講義	2	2	○	○	
	ACC3050B	国際会計Ⅰ	講義	2	3	○	○	
	ACC3051B	国際会計Ⅱ	講義	2	3	○	○	
	MGM3013B	日本企業経営論（英語）	講義	2	2	○	○	
	ECO3040B	グローバル・コーポレートファイナンスⅠ	講義	2	2	○	○	
	ECO3041B	グローバル・コーポレートファイナンスⅡ	講義	2	2	○	○	
	ECO3042B	金融リスク管理	講義	2	2	○	○	
	CMS3010B	国際マーケティング	講義	2	2	○	○	
	CMS3030B	国際ロジスティクス	講義	2	2	○	○	
	CMS3050B	総合商社論	講義	2	2	○	○	
	CMS1030B	物流入門	講義	2	1	○	○	
	CMS1031B	流通入門	講義	2	1	○	○	
	CMS1011B	ブランド論入門	講義	2	1	○	○	
	CMS1010B	広告論Ⅰ（広告の基本）	講義	2	1	○	○	
	CMS2111B	広告論Ⅱ（広告の理論と計画）	講義	2	2	○	○	
	CMS1012B	マーケティング論Ⅰ（マーケティングの基礎理論）	講義	2	2	○	○	
	CMS2113B	マーケティング論Ⅱ（マーケット戦略の実践）	講義	2	2	○	○	
	CMS3030B	国際ロジスティクス	講義	2	2	○	○	
	CMS2052B	ファッションビジネス	講義	2	2	○	○	
	MGM2010B	ベンチャー起業論	講義	2	2	○	○	
	CMS2011B	サービスマーケティング論	講義	2	2	○	○	
	CMS2012B	Web マーケティング	講義	2	2	○	○	
	CMS2014B	市場調査入門	講義	2	2	○	○	
	CMS2015B	商品企画の実践	講義	2	2	○	○	
	MGM2011B	小売店舗経営論	講義	2	2	○	○	
	CMS2016B	ブランドと商品	講義	2	2	○	○	
	CMS2021B	顧客心理	講義	2	2	○	○	
	MGM3041B	サービスマネジメント	講義	2	2	○	○	

「###」：3文字コードが複数存在する科目

（次のページに続く）

「*」：数字コードが複数存在する科目

注意「卒業論文」は、卒業を希望するセメスターに登録してください。

科目区分	科目コード	授 業 科 目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	自学群他メジャー生の履修	先修条件ほか
グ流通・ビジネス科目群 I C T ビ ジ ネ ス 科 目 群 ネ ス 系 観 光 ・ ホ ス ピ タ リ テ ィ ・ エ ン タ ー テ ィ メ ン ト ビ ジ ネ ス 科 目 群	CMS3011B	環境マーケティング	講義	2	2	○	○	
	CMS3410B	市場調査フィールドワーク	演習	2	2	○	○	
	CMS3020B	消費者行動論	講義	2	2	○	○	
	MGM3090B	まちづくり論	講義	2	2	○	○	
	IST1020B	情報通信技術と社会	講義	2	1	○	○	
	IST2480B	経営情報システム演習Ⅰ	演習	2	2	×	○	
	IST2481B	経営情報システム演習Ⅱ	演習	2	2	×	○	
	IST2482B	パソコン利用のグラフ意思決定	演習	2	2	○	○	
	IST2483B	パソコン利用の管理シミュレーション	演習	2	2	○	○	
	IST2040B	ネットワーク管理	講義	2	2	○	○	
	ACC2000B	SE・プログラマーのための会計知識	講義	2	2	○	○	
	IST2490B	ビジネス表計算演習	演習	2	2	○	○	
	IST2450B	ビジネスプログラミング	演習	2	2	○	○	
	IST2090B	インターネット・ビジネス	講義	2	2	○	○	
	IST2470B	ビジネスウェブデザイン	演習	2	2	○	○	
	IST2091B	コンテンツビジネス	講義	2	2	○	○	
	IST2092B	モバイルビジネス	講義	2	2	○	○	
	IST2093B	エコビジネス	講義	2	2	○	○	
	MGM2002B	航空と ICT	講義	2	2	○	○	
	MGM2004B	観光と ICT	講義	2	2	○	○	
	MGM2005B	物流と ICT	講義	2	2	○	○	
	IST3090B	ICT ベンチャービジネス	講義	2	2	○	○	
	IST3460B	経営データベース管理	演習	2	2	○	○	
	IST3091B	データ処理の理論と手法	講義	2	2	○	○	
	TOR1001B	レジャー論	講義	2	1	○	○	
	TOR1002B	観光学概論	講義	2	1	○	○	
	TOR1003B	観光地理	講義	2	1	○	○	
	TOR2010B	旅行業経営論Ⅰ（経営の基礎）	講義	2	2	○	○	
	TOR3011B	旅行業経営論Ⅱ（ニューツーリズムの経営）	講義	2	2	○	○	
	TOR3012B	旅行マーケティング	講義	2	2	○	○	
	TOR3010B	観光交通論	講義	2	2	○	○	
	TOR2022B	ホテルビジネスⅠ（営業）	講義	2	2	○	○	
	TOR3023B	ホテルビジネスⅡ（管理）	講義	2	2	○	○	
	TOR3024B	ホテルマネジメント	講義	2	2	○	○	
	TOR2020B	ブライダルビジネス	講義	2	2	○	○	
	TOR3025B	イベント・コンベンション(MICE)	講義	2	2	○	○	
	TOR3022B	フードサービス産業論	講義	2	2	○	○	
	TOR2030B	テーマパーク論	講義	2	2	○	○	
	TOR3030B	ホスピタリティ空間デザイン	講義	2	2	○	○	
	TOR3031B	観光リゾート開発論	講義	2	2	○	○	
	TOR3000B	観光安全システム論	講義	2	2	○	○	
	TOR2031B	レジャー産業論	講義	2	2	○	○	
	TOR2032B	カルチャー・エンターテインメント産業論	講義	2	2	○	○	
	TOR2034B	スポーツ産業論	講義	2	2	○	○	
	AER3020B	航空輸送概論	講義	2	2	○	○	
	AER3022B	航空マーケティング	講義	2	2	○	○	

（次のページに続く）

科目 区分	科目コード	授 業 科 目	授業 方法	単位数	履修 年次	他学群学 生の履修	自学群他 メジャー 生の履修	先修条件ほか
マ ネ ジ メ ン ト 系 目 群	MGM2040B	リスクマネジメント入門	講義	2	2	○	○	
	MGM2047B	経営史	講義	2	2	○	○	
	MGM2012B	中小企業経営論	講義	2	2	○	○	
	MGM3010B	ベンチャービジネス	講義	2	2	○	○	
	MGM2042B	保険と経営	講義	2	2	○	○	
	MGM3040B	経営管理論Ⅰ	講義	2	2	○	○	
	MGM3241B	経営管理論Ⅱ	講義	2	2	○	○	
	MGM2051B	経営戦略論Ⅰ	講義	2	2	○	○	
	MGM3252B	経営戦略論Ⅱ	講義	2	2	○	○	
	MGM3070B	人事管理論Ⅰ	講義	2	2	○	○	
	MGM3271B	人事管理論Ⅱ	講義	2	2	○	○	
	MGM3080B	生産管理論Ⅰ	講義	2	2	○	○	
	MGM3281B	生産管理論Ⅱ	講義	2	2	○	○	
	MGM2023B	組織と集団	講義	2	2	○	○	組織と心理
	MGM2013B	ホスピタリティ経営論	講義	2	2	○	○	現代ホスピタリティ
	MGM3011B	ビジネス立地論	講義	2	2	○	○	
	MGM3091B	地域振興論	講義	2	2	○	○	
	MGM3092B	地域ブランド論	講義	2	2	○	○	
	MGM3000B	経営と環境	講義	2	2	○	○	
	MGM3030B	ナレッジマネジメント	講義	2	2	○	○	
	ACC1240B	簿記Ⅰ	講義	2	1	○	○	
	ACC2240B	簿記Ⅱ	講義	2	1	○	○	
	ACC2030B	現代社会と監査	講義	2	2	○	○	
	ACC2031B	内部統制とリスクマネジメント	講義	2	2	○	○	
	ACC2241B	簿記Ⅲ	講義	2	2	○	○	
	ACC3240B	簿記Ⅳ	講義	2	2	○	○	
	ACC3241B	簿記Ⅴ	講義	2	2	○	○	
	ACC2010B	財務会計論Ⅰ	講義	2	2	○	○	
	ACC2011B	財務会計論Ⅱ	講義	2	2	○	○	
	LAW2020B	税法概説	講義	2	2	○	○	
	ACC2012B	財務管理論Ⅰ	講義	2	2	○	○	
	ACC2013B	財務管理論Ⅱ	講義	2	2	○	○	
	ECO3040B	グローバル・コーポレートファイナンスⅠ	講義	2	2	○	○	
	ECO3041B	グローバル・コーポレートファイナンスⅡ	講義	2	2	○	○	
	ACC3020B	意思決定のための管理会計	講義	2	2	○	○	
	ACC3021B	業績管理会計	講義	2	2	○	○	
	ACC3050B	国際会計Ⅰ	講義	2	3	○	○	
	ACC3051B	国際会計Ⅱ	講義	2	3	○	○	
	ACC3060B	税務会計Ⅰ	講義	2	2	○	○	
	ACC3061B	税務会計Ⅱ	講義	2	2	○	○	
経 済 ・ 法 律 科 目 群	ECO2001B	ミクロ経済学	講義	2	2	○	○	
	ECO2002B	マクロ経済学	講義	2	2	○	○	
	ECO2030B	国際経済入門	講義	2	2	○	○	
	ECO3090B	環境と経済	講義	2	2	○	○	
	LAW2040B	民法Ⅰ（財産・取引）	講義	2	2	○	○	
	LAW2041B	民法Ⅱ（契約・不法行為・家族）	講義	2	2	○	○	
	LAW3050B	企業法Ⅰ（会社法）	講義	2	2	○	○	

(次のページに続く)

科目 区分	科目コード	授 業 科 目	授業 方法	単位数	履修 年次	他学群学 生の履修	自学群他 メジャー 生の履修	先修条件ほか
マ ネ ジ メ ン ト 系	LAW3051B	企業法Ⅱ(商法・金融商品取引法)	講義	2	2	○	○	
	LAW3040B	国際取引法	講義	2	2	○	○	
	LAW3001B	不動産ビジネスと法律	講義	2	2	○	○	民法Ⅰ
	LAW2042B	民事紛争解決手続	講義	2	2	○	○	
	LAW2043B	登記と手続	講義	2	2	○	○	
	LAW3053B	自由な競争の法律(経済法Ⅰ)	講義	2	2	○	○	
	LAW3054B	公正な競争の法律(経済法Ⅱ)	講義	2	2	○	○	
	LAW3080B	ブランドと名称の法律(知的財産権法Ⅰ)	講義	2	2	○	○	
	LAW3081B	著作権ビジネスと法律(知的財産権法Ⅱ)	講義	2	2	○	○	
	LAW2044B	消費者法	講義	2	2	○	○	
	LAW3002B	情報ネットワークと法律	講義	2	2	○	○	
	LAW2000B	ホスピタリティと法律	講義	2	2	○	○	
	IST1080B	経営情報リテラシー	講義	2	1	○	○	
	IST2080B	経営情報システム論Ⅰ	講義	2	2	○	○	
	IST2281B	経営情報システム論Ⅱ	講義	2	2	○	○	
	IST2014B	情報科学基礎論Ⅰ(戦略・管理)	講義	2	2	○	○	
	IST2015B	情報科学基礎論Ⅱ(テクノロジー)	講義	2	2	○	○	
	IST2082B	経営情報論	講義	2	2	○	○	
	IST2083B	情報戦略論	講義	2	2	○	○	
	MGM2030B	イノベーション経営	講義	2	2	○	○	
	MGM2082B	技術経営論	講義	2	2	○	○	
	MGM2009B	企業と環境	講義	2	2	○	○	
	MGM3000B	経営と環境	講義	2	2	○	○	
	IST3040B	情報セキュリティ	講義	2	2	○	○	
	MGM2031B	プロジェクト・マネジメント	講義	2	2	○	○	
	MGM3031B	企業の数量的意思決定	講義	2	2	○	○	
	MGM3032B	非営利組織の数量的意思決定	講義	2	2	○	○	
	ENV3041B	企業とエネルギー	講義	2	2	○	○	
	MGM3030B	ナレッジマネジメント	講義	2	2	○	○	
	LAW3002B	情報ネットワークと法律	講義	2	2	○	○	

【注意】
 新宿キャンパス移転以降は、「○」や「」の場合であっても年度や学期によって履修条件が付
 加されたり、履修不可となる場合があります。
 詳細は別途掲示等でお知らせしますのでご確認ください。

アビエーションマネジメント学類

1. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学類は、以下の基本要件を満たす学生に対し、「学士（アビエーションマネジメント）」を授与します。

（1）倫理観

“高度なビジネスパーソン”としての常識とモラル、倫理観、マナーを備えること。

（2）専攻する各分野における知識・理解と論理的思考力

ビジネス実務の基本とマネジメント能力を備え、論理的な思考と意思決定ができ、自らのキャリアについて明確なビジョンを持つとともに、特に、エアラインビジネスに関わる専門的な知識・技倆を身につけ、航空分野での有用な人財となりうる能力を有すること。

（3）チームワーク

自分とは異なる様々な背景を持つ人々との相互理解に努めることが可能で、相手の気持ちを思いやる豊かな人間性を持ち、組織のなかで協力しながら最後まで仕事を進めることができること。

（4）問題解決能力

ビジネス現場において日々生ずる様々な問題を感じ、失敗をおそれず解決のための行動を起こすことができ、たとえ困難が生じたとしても、あきらめず最後までやり抜くことができること。

（5）コミュニケーション能力と多文化・異文化に関する知識の理解

エアラインビジネスで求められる語学力を有すること。そのコミュニケーション能力を駆使して異文化を理解し、より広い視野に立ち、国際的ビジネスセンスを持って行動できるよう努力を続け得ること。

本学類のカリキュラムに基づく卒業要件は以下の通りです。

①「基礎教育科目」24単位を修得していること。

②「専攻科目」の外国語科目8単位、所属する「専攻コース科目群」から各自が選択した24単位、及び「実習・演習科目」「学群共通科目」「学類共通科目」「学類内各コース専攻科目群」の中から各自が選択した24単位、計56単位を修得していること。

③「基礎教育科目」及び「専攻科目」については、必要な単位及びこれに各自が自由に選択した自由選択の単位を加え、計124単位を修得し、かつ通算GPAが1.5以上であること。

2. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

様々な業種・職種、わけてもエアラインビジネスの分野で活躍できる“高度なビジネスパーソン”を育成するため、本学類では、以下のようにカリキュラムを構成しています。

（1）教育課程の編成

①「基礎教育科目」は下記の通り構成しています。

ア)「コア科目」：本学の建学の精神や大学における学修の基礎を学びます。

イ)「ガイダンス科目」：学類の授業内容を十分に吸収できる基礎学力を養成します。

②「専攻科目」は下記の通り構成されています。

ア)「外国語科目」：ビジネスの現場で必要な実践的な語学力の習得を目指す科目です。

「TOEIC®」600点を卒業時の達成目標とします。なお、「フライト・オペレーションコース」においては「TOEIC®」650点を操縦実技科目履修の要件としています。

イ)「専門科目」

1)「専攻コース科目群」：コースごとの専門的知識・技倆の修得を目指す科目です。

2)「実習・演習科目」：ビジネス現場の実務能力の修得を目指す科目です。

3)「学群及び学類共通科目」：学群内、学類内に共通する科目です。

（2）学修方法・学修過程

①本学類には、「エアライン・ビジネスコース」「エアライン・ホスピタリティコース」「フライト・オペレーションコース」の3つの専攻コースを置いています。「エアライン・ビジネスコース」では、航空関連企業のマネジメント分野で必要とされる理論や知識を修得します。空港、航空会社など航空輸送に関わる分野での1～2週間の実習が専攻科目となっています。

「エアライン・ホスピタリティコース」では、空港・機内でのサービスを担うグランドスタッフや客室乗務員の

分野に必要な理論やスキルを修得します。2年次秋学期 にビジネスマネジメント学群GO（グローバルアウトリーチ）プログラムの一環として予定される約4か月の留学が組みこまれています。

「フライト・オペレーションコース」では航空機の操縦を担うパイロットになるために必要な専門知識と技倆を修得します。2年次秋学期より4年次春学期まで、約1年半、海外のフライト訓練学校での飛行訓練を経て操縦資格取得を目指します。なお、飛行訓練のための渡航要件は、「TOEIC®650点以上」「航空無線通信士資格取得」「事業用操縦士技能証明」「計器飛行証明」の学科試験合格及び「GPA2.5以上」です。

- ②学生の多様な将来目標に応えるために、「エアライン・ビジネスコース」「エアライン・ホスピタリティコース」では、科目履修の仕方を「学修ストーリー」にまとめて提示しています。

（3）学修成果の評価の在り方

- ①学修成果は「卒業認定・学位授与の方針」に定められた項目と、学修方法・学修過程（カリキュラム・マップ等）により示された、科目が目標とする学修の到達度が学生自身にとってどの程度であったかを示すものです。したがって学修成果は科目それぞれで設定されています。
- ②学修成果の評価方法は、科目ごとのシラバスにおいて具体的に示します。また、ルーブリック評価など（成功の度合いを示すレベルや、それぞれのレベルに対応するパフォーマンス（プレゼン、協同作業など）の特徴を示した評価規準からなる表）を取り入れることによって、成績評価を分かりやすく可視化し、厳格に評価します。

3. 卒業要件

※○数字は科目の単位数を表します。

		アビエーションマネジメント学類	
基礎教育科目 24単位 (最低必要単位)	コア科目 (注1) 16単位必修	キリスト教入門② 口語表現Ⅰ② 英語コアⅠA② 英語コアⅡA② コンピュータリテラシーⅠ②	文章表現Ⅰ② 英語コアⅠB② 英語コアⅡB②
	ガイダンス 科目 8単位必修	社会人基礎Ⅰ② 現代経営入門②	社会人基礎Ⅱ② 現代会計入門②
専攻科目 56単位 (最低必要単位)	外国語科目 (注1)、(注2) 8単位必修	BM TOEIC®ⅠA② BM TOEIC®ⅡA② (エアライン・ビジネスおよびホスピタリティコース生) アビエーション英語ⅠA② アビエーション英語ⅡA② (フライト・オペレーションコース生)	BM TOEIC®ⅠB② BM TOEIC®ⅡB② アビエーション英語ⅠB② アビエーション英語ⅡB②
	専門科目 48単位必修 (注4)	各自が所属するコースより選択24単位 実習・演習科目、学群共通科目、学類共通科目、各コース専攻科目より選択24単位、合計48単位	
自由選択		・基礎教育科目、専攻科目で最低必要単位数を超えて修得した単位 ・自学群他学類専攻科目 ・他学群専攻科目 ・基盤教育科目 ・他大学等（短期大学・海外留学の科目を含む）認定単位（P.196） ・各種技能審査による認定単位（P.197～199）	
卒業要件単位合計		【その他の要件】 1. 入学時からの通算GPAが1.5以上 2. 専攻コースを1つ選び、メジャーとして必ず修了すること	
基礎教育科目、専攻科目、自由選択、あわせて 124単位		【早期卒業の要件】 1. 本学に3年以上在学し、卒業に必要な124単位以上を修得し、かつ入学時からの通算GPAが3.6以上 2. TOEIC®700点以上を有し、かつそのスコアを用いて技能審査による単位認定を受けていること（注3）	

（注1）一定以上の能力を有すると認められた者、もしくはその他要件を満たした者は、履修を免除される場合があります。免除された単位数は他の科目を修得することで卒業要件単位数を満たしてください。（卒業要件単位数124単位から免除科目分の単位は差し引かれませんが）

外国人留学生等（日本語を母語としない者。以下同じ。）は、「文章表現Ⅰ」「英語コアⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB」に替えて「日本語専門基礎AⅠ・AⅡ・B」を各2回、合計10単位を修得しなければなりません。ただし、日本語の能力が一定以上であると認められた者は、履修を免除される場合があります。外国人留学生履修規定を参照し、規定のとおり修得してください。

（注2）外国人留学生等は、外国人留学生履修規定のとおり修得してください。

（注3）技能審査による単位認定の申請方法についてはP.197を参照してください。

（注4）ビジネスマネジメント学類のプログラムをマイナー登録している場合、アビエーションマネジメント学類とビジネスマネジメント学類の両学類に所属している科目の取り扱いに注意してください。

両学類に所属している科目を、「専門科目」と「マイナー登録しているビジネスマネジメント学類プログラム」の両方で重複して加算することはできません。

- ただし、他学群のマイナーを登録しようとする場合は、以下に注意してください。
1. マイナーの必修科目（または選択必修の全て）について、科目一覧ページの「他学群学生の履修」欄が「×」になっている専攻プログラム・専攻コース等の場合は、他学群生はそのマイナーを登録できません。
 2. 他学群生は、専攻プログラム・専攻コース等の抽選科目の優先順位によっては、マイナーの必修科目（または選択必修の全て）を履修できず、マイナーを修了できない場合があります。
 3. 他学群のマイナーの登録にあたっては、予め各キャンパス事務室教務担当に相談してください。

4. 専攻コース案内

本学には、専攻科目を中心として、学生各自の目的や関心に応じて専門的に学ぶための専攻コースが置かれています。アビエーションマネジメント学類の専攻科目で構成される専攻コースを登録すると、「学業成績単位修得証明書」にメジャーまたはマイナーを「登録中」であることが記載されます。修了要件を満たすと、卒業後の「学業成績単位修得証明書」にメジャーまたはマイナーを「修了」したことが記載されます。

メジャー：メジャーを修了することは卒業要件となっています。ただし、アビエーションマネジメント学類以外の専攻プログラム・専攻コース等をメジャーとして登録することはできません。

マイナー：マイナーを修了することは卒業要件ではありませんが、他学類・他学群のものをマイナーとして登録することもできます。

アビエーションマネジメント学類の専攻コースは人数制限があるため2セメスター目に選考試験があります（フライト・オペレーションコースの選考は入学時に終了しています）。詳細については別途掲示します。

マイナーの登録は、5セメスター目に受け付けます。アドバイザーの承認を得て、所定の期間に手続きを行ってください。その後、卒業を希望する学期の定期試験期間最終日まで、変更もできます。

アビエーションマネジメント学類

専攻コース	メジャー	マイナー
エアライン・ビジネス	○	
エアライン・ホスピタリティ	○	
フライト・オペレーション	○	

エアライン・ビジネスコース

1. 教育目的

航空輸送産業は近年、本格的な変革と競争の時代を迎えています。わが国では2007年に航空分野の発展が日本の経済活性化のための最優先事項と位置付けられて以来、オープンスカイの積極的推進、発着枠増加による首都圏空港競争力改善、そして格安航空会社（LCC）参入積極推進などの諸政策が市場拡大の追風となっています。特に LCC 元年と呼ばれた2012年からは国産 LCC が参入を開始し、新規需要を開拓しています。海外では中国および東南アジア航空市場の急成長、および LCC の路線網拡大など、国内外共に長期的な拡大成長が期待されています。

こうした状況を背景に、本コースでは航空会社旅客・貨物・運航部門、航空関連企業や航空関連商社、航空会社代理店などの分野において、時代の要請に応える「国際的センスとコミュニケーション力」「価値創造力」と「豊かな人間性と教養」をもった人財育成を目標としています。

2. カリキュラムの特徴

エアライン・ビジネスコースのカリキュラムは、単に航空業界での「専門知識」を学ぶだけでなく、「幅広い教養」「国際的センスとコミュニケーション力」の修得を目的とすることから、航空ビジネス専門分野としての安全管理、営業、旅客・貨物、運航、整備、航空関連法規などの専門知識の修得とビジネスの広い視野と国際センスの修得を目指すカリキュラムとなっています。

具体的には、「航空輸送概論」「航空特論」「エアラインの営業戦略」「エアラインの整備事業」「航空貨物輸送論」「航空実務概論」「航空関連法規基礎」「航空法入門」などの科目や「異文化経営論」「グローバル経営入門」「貿易論」などがあります。この他、航空関連会社でのインターンシップ、航空業界関係者による特別講義、企業訪問などが織り込まれている講義科目も設定されています。

メジャー：「エアライン・ビジネス科目群」から24単位、実習・演習科目、学群共通科目、学類共通科目、各コース専攻科目群の中から自由に選択24単位、合計48単位以上修得してください。

マイナー：なし

エアライン・ホスピタリティコース

1. 教育目的

航空会社が政府の厳しい規制と保護下におかれ、競争が抑制されていた時代には、企業の経営にとって重要な要件

は制度によって定められていました。しかし、1980年代以降の世界的な規制緩和・競争促進政策の流れのもと、現代の航空会社は、政府に頼ることなく、自身の経営政策によって市場を切り開き、生き残っていくことを求められています。

このような中であって、現代に求められる航空輸送におけるサービス分野の人財とは、相手の気持ちを思うホスピタリティ・マインドと実践力に加え、時々刻々変化するグローバルな市場におけるさまざまな変化要因に対して、自分の頭で考え、行動することのできる経営的なセンスも身につけた人財でなければなりません。

当コースは、そのような時代要請に基づいて、単に実用的な知識の修得だけではなく、航空市場とサービス業務についての基本を学び、そのあとは自らの頭で考えることのできる「経営センスとホスピタリティ・マインドにあふれたキャビン・アテンダントやグランド・スタッフ」を育てることを目的としています。

2. カリキュラムの特徴

エアライン・ホスピタリティコースの特徴は、上記の考え方に基づき、航空業界の基本的な経済・経営の基本を理解できるよう、「交通経済論」「国際社会論」「国際交通論」など、経済学・経営学の方法論に基づいたアカデミックな科目や、「国際ツーリズム論」「グローバル教養論」「国際ビジネス戦略論」など、国際的な視点を養う科目を用意していることです。航空輸送事業の採用は安定的ではなく、必ずしも希望どおりの就職が常に可能とは限りませんが、この基本的な理論や知識を修得しておけば、広範な他のビジネス分野への方向転換も容易です。

むろん、コンピュータ・リザベーション・システムを実際に扱って情報戦略を実践的に学ぶ「観光情報戦略論Ⅰ、Ⅱ」をはじめ、自己表現方法やホスピタリティの提供方法を学ぶ科目や、航空業界の実態を経験・見学する「海外航空実務概論」、インターンシップ科目など、実用的な科目も多彩に用意されています。そして、英語力と国際感覚を磨くために、2年次の秋に「海外留学」が組み込まれていることも、当コースのカリキュラムの大きな特徴です。

メジャー：「エアライン・ホスピタリティ科目群」から24単位、実習・演習科目、学群共通科目、学類共通科目、各コース専攻科目群の中から自由に選択24単位、合計48単位以上修得してください。

マイナー：なし

フライト・オペレーションコース

1. 教育目的

経済、文化、芸術などあらゆる面でグローバル化が進む現代の社会においては、国境を越えた人の行き来を支える航空業界の役割がますます重要になっています。日本の航空産業も例外ではなく、新規航空会社の参入や空港の拡充、新空港の開設が相次ぎ、航空機の保有数も増加するなど、飛躍的な発展を遂げてきました。また、国土交通省もアジアゲートウェイ構想や30ミリオンプラン等のキャンペーンを通して航空需要の喚起を行なっています。加えて、LCC 3社の本格参入や団塊世代の退役が重なり、今後アジアだけでも19万人のパイロットが必要とされ、日本では2040年に深刻なパイロット不足に直面すると言われています。いまや航空業界はパイロットを確保するため、航空大学校や自社養成だけでなく、幅広い分野から人材を採用する必要に直面しています。多くの人命を預かるパイロットの養成には、厳しい訓練と強靱な精神力が求められることは言うまでもなく、近年、特に必要とされてきているのが、英語能力とマネジメント能力の向上です。

このような時代の要請に応え、本コースでは、ただ単に資格を持ったパイロットを育てるというのではなく、国際的な舞台で活躍し、社会に役立つ人を育てるという桜美林大学の建学の精神に則って、洗練された教養と豊かな知性、そして強い使命感とマネジメント能力を兼ね備えたパイロットの養成を目指しています。

2. カリキュラムの特徴

フライト・オペレーションコースでは、上記の考え方にに基づき、まずビジネスマネジメント学群の基礎教育科目である「現代経営入門」や「現代会計入門」等を学び、同時に海外で行われる飛行訓練とその間の生活の基盤となる英語力とコミュニケーションスキルを磨くことに取り組み、ネイティブスピーカーの指導下で、TOEIC®650点を目指します。

これらに加えて各操縦士免許の取得を目的として、航空機の操縦に必要な知識と技術を養う科目を配置しています。専門領域として航空無線通信、航空法、航空施設、航空交通官制、空中航法、航空気象、航空機システム、航空機用エンジン、航空力学、航空生理、基本操縦法、航空安全等の科目を系統立てて学び、本学の提携先である CTC (Crew Training Center) で約2年に渡って行われる飛行訓練課程で操縦技術を修得します。

【取得可能な資格】

国土交通省航空局 : 事業用操縦士技能証明 (多発)、計器飛行証明、ICAO 航空英語検定 Level 4

アメリカ連邦航空局 : 自家用操縦士技能証明、事業用操縦士技能証明 (単発・多発)、計器飛行証明

総務省 : 航空無線通信士

※詳細は、P. 252を参照してください。

メジャー : 「フライト・オペレーション科目群」から24単位、実習・演習科目、学群共通科目、学類共通科目、各
コース専攻科目群の中から自由に選択24単位、合計48単位以上修得してください。

マイナー : なし

5. ガイダンス・専攻科目と諸注意

科目 区分	科目コード	授 業 科 目	授 業 方 法	単位数	履 年	修 次	他学群学 生の履修	自学群他 メジャー 生の履修	先修条件ほか
ガイ ダ ン ス 科 目	MGM1400B	社会人基礎Ⅰ	演習	2	1	×	△	△	
	MGM1401B	社会人基礎Ⅱ	演習	2	1	×	△	△	社会人基礎Ⅰ
	MGM1000B	現代経営入門	講義	2	1	○	△	△	
	ACC1000B	現代会計入門	講義	2	1	○	△	△	
	LAW1000B	現代法入門	講義	2	1	○	△	△	
外 国 語 科 目	ENG2480B	BM TOEIC®ⅠA	演習	2	2	×	△	△	英語コアⅡA、ⅡB
	ENG2481B	BM TOEIC®ⅠB	演習	2	2	×	△	△	英語コアⅡA、ⅡB
	ENG3482B	BM TOEIC®ⅡA	演習	2	3	×	△	△	BM TOEIC®ⅠA
	ENG3483B	BM TOEIC®ⅡB	演習	2	3	×	△	△	BM TOEIC®ⅠB
	ENG1460B	アビエーション英語ⅠA	演習	2	1	×	△	△	
	ENG1461B	アビエーション英語ⅠB	演習	2	1	×	△	△	
	ENG1462B	アビエーション英語ⅡA	演習	2	1	×	△	△	
	ENG1463B	アビエーション英語ⅡB	演習	2	1	×	△	△	
	ENG2460B	ビジネスコミュニケーション(英語)ⅠA	演習	2	2	○	△	△	
	ENG2461B	ビジネスコミュニケーション(英語)ⅠB	演習	2	2	○	△	△	
	ENG3462B	ビジネスコミュニケーション(英語)ⅡA	演習	2	2	○	△	△	
	ENG3463B	ビジネスコミュニケーション(英語)ⅡB	演習	2	2	○	△	△	
	CHN2470B	ビジネスコミュニケーション(中国語)ⅠA	演習	2	2	○	△	△	
	CHN2471B	ビジネスコミュニケーション(中国語)ⅠB	演習	2	2	○	△	△	
	CHN3472B	ビジネスコミュニケーション(中国語)ⅡA	演習	2	2	○	△	△	
	CHN3473B	ビジネスコミュニケーション(中国語)ⅡB	演習	2	2	○	△	△	
実 習 ・ 演 習 目	###36**B	インターンシップ	実習	2～6	2	△	△	△	
	###36**B	国内ビジネス研修	実習	2～6	2	△	△	△	
	###3***B	海外ビジネス研修	実習・演習	2～6	2	△	△	△	
	###****B	ビジネス演習	演習	2～6	2	△	△	△	
	###*6**B	フィールドトリップ	実習	1～4	2	△	△	△	
学 群 共 通 科 目	ENG1470B	海外留学研修準備学習	演習	2	1	○	△	△	
	ENG2482B	留学のための英語 TOEFL®	演習	2	1	○	△	△	
	MGM1002B	留学生のためのビジネス書講読Ⅰ	講義	2	1	○	△	△	
	MGM2003B	留学生のためのビジネス書講読Ⅱ	講義	2	2	○	△	△	
	###20**B	特別講義Ⅰ	講義	2	2	○	△	△	
	###20**B	特別講義Ⅱ	講義	2	2	○	△	△	
	###20**B	特別講義Ⅲ	講義	2	2	○	△	△	
	###20**B	特別講義Ⅳ	講義	2	2	○	△	△	
	###*0**B	特別講義Ⅴ	講義	2	2	○	△	△	
	###29**B	専攻演習Ⅰ	演習	2	2	○	△	△	
	###39**B	専攻演習Ⅱ	演習	2	3	○	△	△	
	###39**B	専攻演習Ⅲ	演習	2	3	○	△	△	
	###39**B	専攻演習Ⅳ	演習	2	4	○	△	△	
	###49**B	卒業論文	実習	2	4	○	△	△	
学 類 共 通 科 目	ECO1000B	経済学入門	講義	2	1	○	△	△	
	MGM1090B	日本の経営者	講義	2	1	○	△	△	
	ACC1001B	ビジネス数字の読み方	講義	2	1	○	△	△	
	ECO1043B	金融入門	講義	2	1	○	△	△	
	TOR1000B	現代ホスピタリティ	講義	2	1	○	△	△	

「###」：3文字コードが複数存在する科目

「*」：数字コードが複数存在する科目

「海外ビジネス研修」は、履修するクラスにより授業の方法が実習または演習のいずれかになります。

注意「卒業論文」は、卒業を希望するセメスターに登録してください。

科目 区分	科目コード	授 業 科 目	授 業 方 法	単位数	履 年	修 次	他学群学 生の履修	自学群他 メジャー 生の履修	先修条件ほか
学 類 共 通 科 目	MGM1091B	ビジネスマナー	講義	2	1	○	○	○	
	MGM1005B	企業経営と情報	講義	2	1	○	○	○	
	ECO2000B	日本経済入門	講義	2	2	○	○	○	
	MGM2050B	経営戦略入門	講義	2	2	○	○	○	
	CMS2010B	マーケティング入門	講義	2	2	○	○	○	
	CMS2020B	消費者心理入門	講義	2	2	○	○	○	
	MGM2001B	ビジネス統計	講義	2	2	○	○	○	
	LAW2050B	ビジネス法務	講義	2	2	○	○	○	
	ACC2020B	管理会計入門	講義	2	2	○	○	○	
	MGM2020B	組織と心理	講義	2	2	○	○	○	
	MGM2021B	ビジネス倫理	講義	2	2	○	○	○	
	LAW3050B	企業法Ⅰ（会社法）	講義	2	2	○	○	○	
	LAW3051B	企業法Ⅱ（商法・金融商品取引法）	講義	2	2	○	○	○	
	MGM2048B	経営史	講義	2	2	○	○	○	
	LAW2040B	民法Ⅰ（財産・取引）	講義	2	2	○	○	○	
	LAW2041B	民法Ⅱ（契約・不法行為・家族）	講義	2	2	○	○	○	
	MGM2040B	リスクマネジメント入門	講義	2	2	○	○	○	
	MGM3040B	経営管理論Ⅰ	講義	2	2	○	○	○	
	MGM3241B	経営管理論Ⅱ	講義	2	2	○	○	○	
	IST2082B	経営情報論	講義	2	2	○	○	○	
	MGM2051B	経営戦略論Ⅰ	講義	2	2	○	○	○	
	MGM3252B	経営戦略論Ⅱ	講義	2	2	○	○	○	
	ACC2012B	財務管理論Ⅰ	講義	2	2	○	○	○	
	ACC2013B	財務管理論Ⅱ	講義	2	2	○	○	○	
	MGM3070B	人事管理論Ⅰ	講義	2	2	○	○	○	
	MGM3271B	人事管理論Ⅱ	講義	2	2	○	○	○	
	MGM3080B	生産管理論Ⅰ	講義	2	2	○	○	○	
	MGM3281B	生産管理論Ⅱ	講義	2	2	○	○	○	
	MGM2012B	中小企業経営論	講義	2	2	○	○	○	
	MGM3010B	ベンチャービジネス	講義	2	2	○	○	○	
	MGM2042B	保険と経営	講義	2	2	○	○	○	
	ACC2030B	現代社会と監査	講義	2	2	○	○	○	
	ACC2031B	内部統制とリスクマネジメント	講義	2	2	○	○	○	
	ACC3020B	意思決定のための管理会計	講義	2	2	○	○	○	
	ACC3021B	業績管理会計	講義	2	2	○	○	○	
	ACC2010B	財務会計論Ⅰ	講義	2	2	○	○	○	
	ACC2011B	財務会計論Ⅱ	講義	2	2	○	○	○	
	ACC3060B	税務会計Ⅰ	講義	2	2	○	○	○	
	ACC3061B	税務会計Ⅱ	講義	2	2	○	○	○	
	LAW3053B	自由な競争の法律（経済法Ⅰ）	講義	2	2	○	○	○	
	LAW3054B	公正な競争の法律（経済法Ⅱ）	講義	2	2	○	○	○	
	LAW3080B	ブランドと名称の法律（知的財産権法Ⅰ）	講義	2	2	○	○	○	
	LAW3081B	著作権ビジネスと法律（知的財産権法Ⅱ）	講義	2	2	○	○	○	
	LAW3040B	国際取引法	講義	2	2	○	○	○	
	LAW2020B	税法概説	講義	2	2	○	○	○	
	LAW2043B	登記と手続	講義	2	2	○	○	○	
	MTH1030B	基礎数学Ⅰ	講義	2	1	×	○	○	

(次のページに続く)

科目 区分	科目コード	授 業 科 目	授 業 方 法	単位数	履 年	修 次	他学群学 生の履修	自学群他 メジャー 生の履修	先修条件ほか
学 類 共 通 科 目	MTH2011B	基礎数学Ⅱ	講義	2	1	×	○		基礎数学Ⅰ
	ACC1240B	簿記Ⅰ	講義	2	1	○			
	ACC2240B	簿記Ⅱ	講義	2	1	○			
	ACC2241B	簿記Ⅲ	講義	2	2	○			
	ACC3240B	簿記Ⅳ	講義	2	2	○			
	ACC3241B	簿記Ⅴ	講義	2	2	○			
エ ア ラ イ ン ・ ビ ジ ネ ス 科 目 群	CMS2050B	貿易論	講義	2	2	○	○		
	CMS2051B	貿易実務	講義	2	2	○	○		
	CMS3030B	国際ロジスティクス	講義	2	2	○	○		
	CMS1030B	物流入門	講義	2	1	○	○		
	CMS1031B	流通入門	講義	2	1	○	○		
	ECO2041B	外国為替入門	講義	2	2	○	○		
	ECO3042B	金融リスク管理	講義	2	2	○	○		
	LAW2044B	消費者法	講義	2	2	○	○		
	MGM2060B	異文化経営論	講義	2	2	○	○		
	MGM2061B	グローバル経営入門	講義	2	2	○	○		
	CMS3020B	消費者行動論	講義	2	2	○	○		
	AER2010B	航空関連法規基礎	講義	2	2	○	○		
	AER2021B	エアラインにおける安全管理	講義	2	2	○	○		
	AER1010B	航空法入門Ⅰ	講義	2	1	○	○		
	AER1011B	航空法入門Ⅱ	講義	2	1	○	○		
	AER2023B	オペレーションコントロール概論	講義	2	2	○	○		
	AER2020B	航空貨物輸送論Ⅰ	講義	2	2	○	○		
	AER3021B	航空貨物輸送論Ⅱ	講義	2	2	○	○		航空貨物輸送論Ⅰ
	AER2022B	エアラインの整備事業Ⅰ	講義	2	2	○	○		
	AER3023B	エアラインの整備事業Ⅱ	講義	2	2	○	○		エアラインの整備事業Ⅰ
	AER2024B	航空実務概論	講義	2	2	○	○		
	AER2025B	乗員養成と乗員計画	講義	2	2	○	○		
	AER3024B	エアラインの営業戦略	講義	2	2	○	○		
	MGM2002B	航空と ICT	講義	2	2	○	○		
	AER3020B	航空輸送概論	講義	2	2	○	○		
	MGM3001B	交通経営論	講義	2	3	○	○		
	AER3000B	航空特論Ⅰ	講義	2	2	○	○		
	AER3001B	航空特論Ⅱ	講義	2	3	○	○		
	AER362*B	航空輸送産業実習	実習	2～4	2	×	△		アビエーションマネジメント学類の学生のみ履修可
エ ア ラ イ ン ・ ホ ス ピ タ リ テ ィ 科 目 群	MGM2013B	ホスピタリティ経営論	講義	2	2	○	○		
	SOC2000B	国際社会論	講義	2	1	○	○		
	SOC2001B	国際コミュニケーション論	講義	2	1	○	○		
	CMS2011B	サービスマーケティング論	講義	2	2	○	○		
	CMS2012B	Web マーケティング	講義	2	2	○	○		
	CMS2021B	顧客心理	講義	2	2	○	○		
	MGM3041B	サービスマネジメント	講義	2	2	○	○		
	ENG2464B	エアライン・コミュニケーションⅠ(英語)	演習	2	2	○	○		
	ENG3465B	エアライン・コミュニケーションⅡ(英語)	演習	2	3	○	○		
	SOC2002B	サービス・コミュニケーション	講義	2	2	○	○		
	MED2000B	救急救命法	講義	2	2	×	○		
	ENG3466B	ホスピタリティ・コミュニケーション A(英語)	演習	2	2	○	○		

「*」: 数字コードが複数存在する科目

(次のページに続く)

科目 区分	科目コード	授 業 科 目	授 業 方 法	単位数	履 年	修 次	他学群学 生の履修	自学群他 メジャー 生の履修	先修条件ほか
エ ア ラ イ ン ・ ホ ス ピ タ リ ティ 科 目 群	ENG3467B	ホスピタリティ・コミュニケーションB(英語)	演習	2	2	○	○		
	SOC2003B	グローバル教養論	講義	2	2	○	○		
	TOR3410B	観光情報戦略論Ⅰ	演習	2	2	×	○		観光情報戦略論Ⅱと同時に履修
	TOR3411B	観光情報戦略論Ⅱ	演習	2	2	×	○		観光情報戦略論Ⅰと同時に履修
	TOR3001B	国際ツーリズム論	講義	2	2	○	○		
	AER3025B	国際交通論	講義	2	3	○	○		
	TOR3026B	ホスピタリティマネジメント	講義	2	2	○	○		
	ECO3050B	交通経済論	講義	2	3	○	○		
	AER3022B	航空マーケティング	講義	2	2	○	○		
	MGM3064B	国際ビジネス戦略論	講義	2	3	○	○		
	TOR3020B	ホスピタリティ特論Ⅰ	講義	2	2	○	○		
	TOR3021B	ホスピタリティ特論Ⅱ	講義	2	3	○	○		
	MGM3014B	日本企業経営論(英語)	講義	2	2	○	○		
	TOR3027B	日本ホスピタリティ産業論(英語)	講義	2	2	○	○		
	TOR1001B	レジャー論	講義	2	1	○	○		
	TOR1002B	観光学概論	講義	2	1	○	○		
	LAW2000B	ホスピタリティと法律	講義	2	2	○	○		
	AER302*B	海外航空実務概論	講義	2~4	2	×	△		
フ ラ イ ト ・ オ ペ レ ー シ ョ ン 科 目 群	ENG1480B	ICAO 英語テストスキルⅠ	演習	1	1	×	×		
	ENG1481B	ICAO 英語テストスキルⅡ	演習	1	1	×	×		
	ENG2470B	海外研修英語 A	演習	1	2	×	×		
	ENG2471B	海外研修英語 B	演習	1	2	×	×		
	ENG2472B	海外研修英語 C	演習	1	2	×	×		
	ENG2473B	海外研修英語 D	演習	1	2	×	×		
	AER2434B	航空交通管制コミュニケーション(英語)	演習	1	2	×	×		
	AER4431B	航空運送事業操縦士概論(英語)	演習	1	4	×	×		
	AER1060B	飛行の基礎Ⅰ	講義	2	1	×	×		
	AER2061B	飛行の基礎Ⅱ	講義	2	1	×	×		飛行の基礎Ⅰ
	AER2032B	操縦の基礎	講義	2	2	×	×		
	AER1032B	航空無線電話と電波法	講義	1	1	×	×		
	AER2031B	航空施設	講義	1	1	×	×		
	AER1030B	航空交通管制の仕組みⅠ-1	講義	1	1	×	×		
	AER1031B	航空交通管制の仕組みⅠ-2	講義	1	1	×	×		
	AER2142B	航空交通管制の仕組みⅡ	講義	2	2	×	×		航空交通管制の仕組みⅠ-1、航空交通管制の仕組みⅠ-2
	AER3143B	航空交通管制の仕組みⅢ	講義	3	2	×	×		航空交通管制の仕組みⅡ
	AER1050B	空中航法Ⅰ-1	講義	1	1	×	×		
	AER1051B	空中航法Ⅰ-2	講義	2	1	×	×		
	AER2152B	空中航法Ⅱ	講義	1	2	×	×		空中航法Ⅰ-1、空中航法Ⅰ-2
	AER3153B	空中航法Ⅲ	講義	3	3	×	×		空中航法Ⅱ
	AER1070B	航空気象Ⅰ-1	講義	2	1	×	×		
	AER1071B	航空気象Ⅰ-2	講義	1	1	×	×		
	AER2172B	航空気象Ⅱ	講義	1	2	×	×		航空気象Ⅰ-1、航空気象Ⅰ-2
	AER3173B	航空気象Ⅲ	講義	3	2	×	×		航空気象Ⅱ
	AER4070B	応用航空気象	講義	2	4	×	×		
	AER2001B	健康管理と航空生理	講義	1	2	×	×		
	AER2062B	航空力学Ⅰ	講義	1	1	×	×		
	AER2063B	航空力学Ⅱ	講義	1	1	×	×		

「*」: 数字コードが複数存在する科目

(次のページに続く)

科目 区分	科目コード	授 業 科 目	授 業 方 法	単位数	履 年	修 次	他学群学 生の履修	自学群他 メジャー 生の履修	先修条件ほか
フ ラ イ ト ・ オ ペ レ ー シ ョ ン 科 目 群	AER2060B	航空機に搭載されるエンジン	講義	1	2	×	×		
	AER1064B	航空機の仕組みと構造 1	講義	1	1	×	×		
	AER2065B	航空機の仕組みと構造 2	講義	1	1	×	×		
	AER2066B	航空機の仕組みと構造 3	講義	1	1	×	×		
	AER3067B	航空機の仕組みと構造 4	講義	3	2	×	×		
	AER2030B	フライトオペレーション特論Ⅰ	講義	2	1	×	×		
	AER3031B	フライトオペレーション特論Ⅱ	講義	1	2	×	×		
	AER4032B	フライトオペレーション特論Ⅲ	講義	3	3	×	×		
	AER2040B	航空安全Ⅰ	講義	4	2	×	×		
	AER3041B	航空安全Ⅱ	講義	4	2	×	×		
	AER4042B	航空安全Ⅲ	講義	2	3	×	×		
	AER1012B	航空法Ⅰ	講義	1	1	×	×		
	AER2013B	航空法Ⅱ	講義	1	2	×	×		航空法Ⅰ
	AER4000B	ヒューマンファクター	講義	2	4	×	×		
	AER3032B	ジェット機の基礎	講義	2	4	×	×		
	AER4001B	航空安全とヒューマンファクター	講義	3	2	×	×		
	AER2050B	操縦法と知識Ⅰ	講義	3	2	×	×		
	AER2051B	操縦法と知識Ⅱ	講義	3	2	×	×		
	AER3052B	操縦法と知識Ⅲ	講義	3	2	×	×		
	AER3053B	操縦法と知識Ⅳ	講義	1	2	×	×		
	AER2750B	操縦実技Ⅰ	実技	2	2	×	×		
	AER3751B	操縦実技Ⅱ	実技	3	3	×	×		
	AER3752B	操縦実技Ⅲ	実技	1	3	×	×		
	AER3753B	操縦実技Ⅳ	実技	1	3	×	×		
	AER4754B	操縦実技Ⅴ	実技	2	3	×	×		

【注意】

新宿キャンパス移転以降は、「○」や「」の場合であっても年度や学期によって履修条件が付加されたり、履修不可となる場合があります。
詳細は別途掲示等でお知らせしますのでご確認ください。

5. 健康福祉学群

1. 健康福祉学群について

健康福祉学群は、本学の教育目標にある、「キリスト教主義に基づく教養豊かな識見の高い国際的人材の育成」を基本に据えています。その上で、乳幼児から高齢者、障害者まで、さまざまな人を対象とした「健康」と「福祉」について学ぶことを目的にしています。健康福祉学群には「社会福祉」「精神保健福祉」「健康科学」「保育」の4つの専修があり、各分野で活躍できる高い専門性を持ったスペシャリストを養成するプロフェッショナルアーツをめざしています。少子・高齢社会にある現代のわが国において、健康や福祉を学び、人々の生活の質を向上させる人材の育成に関する社会的ニーズは高いといえます。4つの専修のいずれの専門分野も、「ひと」とのつながりが重要な要素となる対人援助職が中核となっています。そのため、「人を活かす」カウンセリング・マインドをもった人材養成を重視しています。また、今日の日本では、専門性の高さはもちろんのこと、他分野と連携し総合的に活躍できる人材が望まれています。本学群は、隣接する4つの分野で構成されており、関連他分野についても学ぶことができます。他者の悩みや喜びに共感できる豊かな人間性と、専門知識に基づいて物事に冷静に対処する力を併せ持つ人材は、福祉、スポーツ、幼児教育といった幅広い現場で即戦力としての活躍が期待できます。

2. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学群は、キリスト教精神に基づいた教養豊かな識見の高い国際的人材を育成することを基本理念とし、健康福祉分野における専門的知識と技能を身につけ、グローバルな視野をもって人々の健康と福祉に貢献することを目的としています。

そのため、本学群では目的実現のため編成されたカリキュラムのもと、定められた在学期間に通算GPA1.5以上、⁸所定の卒業単位（「基礎教育科目」20単位以上、「専攻科目」54単位以上、その他「自由選択」、計124単位）を修得し、以下の知識、技能、能力を身につけた者に対し、卒業を認定し学士の学位を授与します。また、この「卒業認定・学位授与の方針」は、「教育課程編成・実施の方針」において具現化されており、本学群の学びは全て学園の行動指針である「^{がくじしじん}学而事人（学びて人に仕える）」に結びつくようになっています。

（1）健康と福祉及びその関連領域に関する知識・理解

グローバルな視点に立ち、多様なニーズをもつ人々の健康と福祉に寄与するための知識を身につけることができる。

（2）人々の健康と福祉に寄与できる技能

多様なニーズをもつ人々の健康と福祉に寄与するための技能を身につけ、活用することができる。

（3）問題発見・解決能力

課題に直面した際の対処に役立つ情報収集力、論理的・批判的思考能力を身につけ、活用することができる。

（4）コミュニケーション能力

他者の希望や苦悩を聴きとり、自分の気持ちや考えを的確に表現、伝達する力を身につけ、活用することができる。

（5）常識とモラル

社会人として活躍するために必要な倫理観、常識とモラルを身につけ、活用することができる。

（6）志向性・積極性

自己の可能性を最大限に活かすよう前向きに物事に臨むことができる。

（7）カウンセリング・マインド

人の気持ちを受けとめ、相手の立場に立って理解しようとする姿勢・態度を身につけることができる。

（8）チームワーク

課題を達成するために他者と協働する姿勢、態度を身につけることができる。また、共通の目標を達成するために、チーム全体の力が最大限に発揮されるように、自らの役割を果たすことができる。

3. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学群は、「社会福祉専修」「精神保健福祉専修」「健康科学専修」「保育専修」の4専修で構成されています。各領域に関連する資格取得に向けた実践的なカリキュラムを中心に据えています。また、それぞれの資格に係る学修のみでなく、人間の一生を「福祉、健康、メンタルサポート」の3点から総合的に学ぶことを目標として、「学群共通科

目」を設定しています。

(1) 教育課程の編成

- ①「基礎教育科目」は、本学学生として「卒業認定・学位授与の方針」に則った学修成果をあげるための基礎知識と技能を身につけるための科目で、「ガイダンス科目」及び「コア科目」によって編成しています。「コア科目」はキリスト教科目や、口語表現、文章表現、コンピュータ、英語、キャリアに関する科目などを中心に、学園の建学の精神、教育目標を具現化するための知識を修得します。「ガイダンス科目」は各専修の入門科目で、各専修の学修内容を理解する上で必要な基礎知識を習得します。
- ②「専攻科目」は「基礎教育科目」で得た知識・技能を踏まえ、各専修の専門分野についてさらに理解を深めるために設置する科目で、「学群共通科目」及び「専修科目」によって編成しています。「学群共通科目」は「福祉、健康、メンタルサポート」の幅広い視点を養うための科目で、所定の単位数を履修することを義務付けています。また、「専攻演習」や「卒業論文」、「卒業研究」といった、自己の関心を一層深め大学の学修の集大成を目指すための科目も設置しています。「専修科目」は専修別に設置される科目で、専門的理論や技能を身につけるための科目です。「専修科目」には、演習・実験・実習・実技科目があり、現場での経験も積むことができます。
- ③「自由選択」では、学生の多様な関心や目的を達成するために学生が自ら計画し、学内外の授業科目の中から自由に選択履修することができます。他専修、他学群、他大学等の科目を修得することで、自らの専門性をさらに深める、あるいは自身の知識の幅を広げることが可能になります。このように本学群のカリキュラムは総合大学ならではの視野の広いプロフェッショナルを育成することが可能な構成となっています。

(2) 学修方法・学修過程

教育課程の実施については、1年次にコア科目とともに各専修の「ガイダンス科目」（社会福祉専修は「社会福祉とマネジメント」、精神保健福祉専修は「精神保健学」、健康科学専修は「健康科学論」、保育専修は「保育学」）を履修し、専門とする分野の基礎を学びます。そして1年次又は2年次に、他専修の「ガイダンス科目」や「今日の健康と福祉」「心理学」「人間関係論」など、「学群共通科目」を履修し、「福祉、健康、メンタルサポート」の幅広い視点を養います。さらに、各専修の専門科目である「専修科目」を履修することにより、専門性を強化します。自己が関心を持つ領域に焦点をあてて、より深く学ぶために、3年次から「専攻演習」（ゼミ）があり、各自が関心を持つテーマでゼミ論文を作成します。ゼミ論文をさらに発展させ、大学での学びの集大成である「卒業論文」「卒業研究」に取り組むこともできます。また、「社会福祉」と「健康科学」には、マイナー制度があり、要件を満たすことによって、専門として学修したことが認められます。

(3) 学修成果の評価の在り方

- ①学修成果は「卒業認定・学位授与の方針」に定められた項目と、学修方法・学修過程（カリキュラム・マップ等）により示された、科目が目標とする学修の到達度が学生自身にとってどの程度であったかを示すものです。したがって学修成果は科目それぞれで設定され、シラバスに記載されています。
- ②学修成果がどのように評価されるのかは、シラバスにおいて具体的に評価方法を科目ごとに記載しており、授業の目標に対する学生の到達度を担当教員が厳格に評価します。

社会福祉専修の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本専修では、現代の福祉ニーズに対応できるよう、「環境」「経営」「ケア」「人権」の多様な視点から福祉を学ぶことができます。さらに、少人数でグループワークを行う演習やボランティアの機会も豊富に備えていますので、どのような職業についても求められるチームワークやコミュニケーション能力を高めることができます。また、新たな福祉ビジネスの提案などの科目を通して創造力や課題解決力を育むことができ、知性と対人援助能力、実践力を兼ね備えたバランスのとれた人材として社会で活躍することができます。

計画的な学修を進めていくことで、自治体の公務員、高等学校福祉科教諭、地域包括支援センターの職員、社会福祉協議会の職員、コミュニティ・ソーシャルワーカー、福祉施設の相談員・施設長、医療ソーシャルワーカー、ケアワーカー、福祉機器の販売員、大学・専門学校の教員をはじめとする社会福祉関連の職業への道が拓かれます。

社会福祉のプロフェッショナルを養成する専修として、社会福祉士、高等学校福祉科教諭、社会福祉主事、児童指導員、福祉住環境コーディネーターなどの資格取得に関わる科目が体系的に編成されています。

①教育課程の編成

- ア) 社会福祉士国家試験受験資格を得るために、厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する「指定科目」として、28科目を設置しています。

- イ) 社会福祉士国家試験受験資格、高等学校教諭1種免許状(福祉)、社会福祉主事任用資格、児童指導員任用資格、福祉住環境コーディネーター2級の資格取得に対応した構成となっています。
- ウ) 現代の福祉ニーズに応える科目として、【環境】の視点から福祉を考える「地域住環境論」「地域エンパワーメント方法論」、【経営】の視点から福祉を考える「社会福祉とマネジメント」「福祉事業経営論」「福祉施設経営論」、【ケア】の視点から福祉を考える「認知症ケア論」「介護概論」、【人権】の視点から福祉を考える「子ども法」「社会福祉法制論」等を設置しています。このように本専修独自の科目が豊富に用意されていますので、現代の福祉ニーズについて多角的に学ぶことができます。
- エ) 資格試験合格をめざした講座を用意しています。社会福祉士国家試験への受験対策として「福祉のための諸科学Ⅰ・Ⅱ」及び夏休みには特別講座を実施しています。また、福祉住環境コーディネーター2級については、「地域住環境論」の中で試験対策を行っています。このような科目を通し、在学中に合格できるよう力強くサポートします。
- オ) 他学群科目の計画的な履修により、日本体育協会公認スポーツ指導者、初級障がい者スポーツ指導員の資格申請も可能になります。

②学修方法・学修過程

- ア) 基礎から応用まで福祉に関する高度な知識や技能を習得できます。1年次には、社会福祉への関心を喚起できるよう、多様な領域で実務を行っている方々をお呼びする科目や、手話が実際に学べる科目等を用意しています。また、心理学、老年学といった周辺領域を学べる科目を用意し、広い視野から福祉を学びます。2年次以降は、専門科目を学ぶことで、福祉への理解を深め、広げていきます。3年次以降は、実習指導や演習を通して、実践的なスキルを磨いていきます。
- イ) 職業についた時に、チームの一員として働く力を高めるために、チーム力やコミュニケーション力を高める科目を段階的に用意しています。1年次では「実習のための社会福祉入門」で、学生同士の出会いを促し、関係性を深めるワークを行います。2年次以降の専門科目の中には、グループワークやワークショップを取り入れた授業が含まれます。3年次の「相談援助現場実習」「相談援助演習」では、グループワークを中心とした科目を履修することでチーム力を養うことができます。また、実習支援センターではボランティア情報を提供したり、学内にボランティア部があること、ボランティア体験学修を必修としている科目などを通し、ボランティア活動に参加しやすい環境を提供しています。ボランティアを豊富に体験することで、コミュニケーション力を高めることができます。
- ウ) 創造力や課題解決力を高めることができます。1年次以降の「社会福祉とマネジメント」においては、新たな福祉ビジネスを提案します。2年次以降の「地域エンパワーメント方法論」では、地域を元気にする方法を、実践をもとに提案します。3・4年次の相談援助現場実習指導Ⅱ・Ⅲで実習を通して実習での学びからの気づきをまとめ、課題や提案を発表していきます。このような科目を通して、創造力とプレゼンテーション力を高めていきます。
- エ) 本専修には、マイナー(副専攻)制度があり、他専修他学群生であっても要件を満たすことによって、「社会福祉」を専門として学修したことが認められます。

③学修成果の評価の在り方

- ア) 学修成果は卒業認定・学位授与の方針に定められた項目と、学修方法・学修過程(カリキュラム・マップ等)により示された、科目が目標とする学修の到達度が学生自身にとってどの程度であったかを示すものです。したがって学修成果は科目それぞれで設定されています。
- イ) 各科目の内容と到達目標、評価方法はシラバスに明示され、目標への達成度が教員により評価されます。

精神保健福祉専修の教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

精神保健福祉は、心の健康(メンタルヘルス)の増進とともに、精神障害のある人の生活と社会参加を支援する福祉の分野です。メンタルヘルスは、身近な課題であり、4人に1人は一生のうちになんらかの精神障害を患うと言われています。

本専修では、メンタルヘルスの分野で相談援助を担う人材の育成をめざし、国家資格である精神保健福祉士の養成教育をカリキュラムの中心に置いています。授業では、精神障害のある人に寄り添い、多角的な視点を持ち、支援するための知識や技術を学びます。学修は、社会福祉学を主軸とし、医療保健、心理的支援を加えた3本の柱で構成されています。まさに学群の学びのキーワード「福祉、健康、メンタルサポート」を総合的に学ぶ専修といえます。

①教育課程の編成

ア)「専修科目」は、「精神保健福祉士」の指定科目を中心に構成され、社会福祉の理念や制度、相談援助の技術などを学ぶ社会福祉科目と、「精神医学」や「精神科リハビリテーション学」などの精神医療に関する科目に大別されます。また、講義科目だけでなく、演習・実習・実習指導に多くの時間を割り当て、実践的な学修を積み重ねます。これら指定科目をすべて履修し、本専修を卒業することにより、精神保健福祉士の国家試験の受験資格を取得することができます。

イ)「福祉カウンセリング」、「臨床心理学」、「家族心理学」など、心理学科目も併せて学ぶことにより、多角的な視点を身につけ、支援の幅を広げます。

ウ)他学群科目を含む所定の科目の計画的な履修により、認定心理士・認定健康心理士の資格申請も可能になります。

②学修方法・学修過程

ア)1年次から計画的に科目を履修し、精神保健福祉士に必要な知識・技能・考え方が無理なく学修できるよう、科目履修の道筋をチャートで示し、履修指導を行っています。

イ)比較的少人数の参加型の授業が多く、話し合いや発表を通して、コミュニケーション力、問題解決能力、チームワーク等を養います。特に演習科目では、相談の実技練習、援助事例の検討、グループワークなどで実践力を高めます。

ウ)体験を通して自ら考え、問題解決を学ぶ過程として、実習教育を重視しています。「精神保健福祉実習指導」は2年次から4年次まで通年で配置しています。2年次の「精神保健福祉実習指導Ⅰ」では、精神保健福祉に関する各種の施設で見学や利用との交流を行い、体験をふり返って言語化し、現場実習への準備とします。現場実習は、3年次及び4年次に2回に分けて行い、事前・事後学修（「精神保健福祉実習指導Ⅱ・Ⅲ」）に十分な時間をかけ、学修の深化を図ります。

③学修成果の評価のありかた

ア)各科目の内容と到達目標、評価方法はシラバスに明示され、目標への達成度が教員により評価されます。この点は、学群全体に共通します。

イ)そのほか、「精神保健福祉現場実習Ⅰ・Ⅱ」では、施設の評価を基本としつつ、学生との面談や記録からの情報を勘案し、教員間で協議し、総合的に評価します。評価は、単なる結果の伝達にとどまらず、学生自身が成果を振り返り、今後の課題を明確にするための重要なステップとして位置づけています。

健康科学専修の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本専修では、子どもから高齢者まで幅広い年齢層の健康、スポーツの競技力向上及びスポーツビジネスに関して学べる科目群を提供しています。さらに、学校、スポーツおよび健康福祉の現場において、現代社会で重要視されている心身のケアに関する指導ができるよう、心理学（カウンセリング理論を含む）や障がい者スポーツなどに関する科目も設定しています。また、スポーツの競技力向上を実践する機会もあります。

計画的な学修を進めていくことで、保健体育科教員、スポーツインストラクター、スポーツ指導員（幼児体育指導員等）、スポーツビジネスやマネジメントをはじめとする健康・スポーツ関連の職業への道が拓かれていくものと考えます。プロフェッショナル養成の専門学群として、保健体育科教員、健康運動実践指導者、日本体育協会公認スポーツ指導者、初級障がい者スポーツ指導員、認定心理士、健康心理士などの資格取得に関わる科目が体系的に編成されています。

①教育課程の編成

ア)「専修科目」は“健康科学”や“スポーツ科学”の専門的知識や技能を身につけるための科目です。

イ)中学校1種免許状「保健体育」、高等学校1種免許状「保健体育」、健康運動実践指導者、日本体育協会公認スポーツ指導者、初級障がい者スポーツ指導員の資格取得に対応した構成となっています。また、講義科目だけでなく、実習・演習・実技科目も多く用意され、実践的な学修を積み重ねます。

ウ)「自由選択」のうち、所定の科目を計画的に履修することにより、認定心理士・認定健康心理士の資格申請も可能になります。

②学修方法・学修過程

ア)1年次にコア科目と共に本専修ガイダンス科目である「健康科学論」を履修し、専門とする分野の基礎を学びます。そして、1年次または2年次に、他専修のガイダンス科目や学群共通科目を履修し、「福祉、健康、メン

タルサポート」の幅広い視点を養います。さらに、専修科目を履修することにより、専門性を強化します。

イ) 計画的に科目を履修し、目標とする免許・資格に必要な知識・技能・考え方が無理なく学修できるよう、科目履修の道筋を履修モデルで示し、履修指導を行っています。

ウ) 講義科目では、「生理学」「運動学」「栄養学」などの基礎科目から「スポーツコーチ学」「スポーツ心理学」などの応用科目まで学修し、常識・モラルと共に高い専門的知識を養います。

エ) 実習・演習科目では、「体力測定評価実習」「専攻演習」など、少人数・参加型の授業を行い、話し合いや発表、共同作業を通して、問題解決能力、志向性・積極性を養います。

オ) スポーツ実技科目では、「ソフトボール」「陸上競技」「サッカー」など複数の種目について、技能を高めるだけでなく、コミュニケーション力、チームワークなどを養います。

カ) なお、本専修には、マイナー制度があり、他専修他学群生であっても要件を満たすことによって、「健康科学」を専門として学修したことが認められます。

③学修成果の評価の在り方

ア) 学修成果は卒業認定・学位授与の方針に定められた項目と、学修方法・学修過程（カリキュラム・マップなど）により示された、科目が目標とする学修の到達度が学生自身にとってどの程度であったかを示すものです。したがって、学修成果は科目それぞれで設定されています。

イ) 各科目の内容と到達目標、評価方法はシラバスに明示され、目標への達成度が教員により評価されます。この点は、学群全体に共通します。

ウ) 評価は、単なる結果の伝達にとどまらず、学生自身が成果を振り返り、今後の課題を明確にするための重要なステップとして位置づけています。

保育専修の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

グローバル化する現代社会では、保育に対するニーズは増加するだけでなく、多様化し、これまでの保育者のあり方も問われています。本専修では、4年間の少人数教育を中心とした学生一人ひとりへのきめ細かい指導を通じて、保育の本質や目的、保育の対象となる子ども、保育の内容・方法についての知識・技能を修得します。さらに海外での保育体験プログラムに参加すれば、保育のあり方一つではないことをより理解できます。また、学群共通科目・他専修科目等を履修することで、保育領域に限定されない幅広い専門性と、精神面・健康面から子ども・保護者をサポートできる視野の広さを獲得できます。これらを通じて、自らの保育実践を振り返り、社会の変化にも対応するよりよい実践を追求できる、「自ら考える保育者」の育成を目指します。

①教育課程の編成

ア) 「基礎教育科目」(20単位必修)は、本学学生として「卒業認定・学位授与の方針」に則った学修成果をあげるための基礎知識と技能を身につけるための「コア科目」(16単位)と、「保育学」(学群ガイダンス科目4単位)から成ります。「保育学」は、入学直後の1年次春学期に履修し、保育領域の基礎知識と保育者にとって必要なものの見方を学びます。

イ) 「専攻科目」(54単位)は、「学群共通科目」(16単位必修)と、「専修科目」(38単位必修)から成ります。「専修科目」では、保育の本質や目的、保育の対象となる子ども、保育の内容・方法についての知識・理解を深め、人々の健康と福祉に寄与できる技能や、論理的思考力を修得します。また、「学群共通科目」を学ぶことで、保育領域に限定されない幅広い専門性と、精神面・健康面から子ども・保護者をサポートできる視野の広さを獲得できます。

ウ) 本専修学生は、保育士および幼稚園教諭免許取得を目指して学びをすすめるため、「保育専修科目」群から「専修科目」としての38単位にとどまらない単位数(科目数)を修得します。38単位を超えた単位数については、「自由選択」の学修区分の単位数として換算されます。また、「自由選択」は、学生の多様な関心や目的を達成するために学生が自ら計画し、学内外の授業科目の中から自由に選択履修することも可能です。

エ) 正課外カリキュラムとして、保育専修導入基礎プログラムが1年次から2年次前半に設定され、必ず学生全員が参加します。本プログラムでは、自ら考え、行動できる保育者の養成を目指して、学生自らが季節行事や地域交流等を踏まえた企画・運営を行います。授業での知識・技能を実際に活用することで、知識・理解を深めるとともに、問題発見・解決能力を修得します。また、異学年の学生と交流することで、カウンセリング・マインドとチームワーク、自己管理能力を身につけます。

オ) さらに保育のあり方一つではないことをより理解できるよう、海外での保育体験プログラムに参加すること

で、グローバル化にも対応したコミュニケーション能力を修得します。

②学修方法・学修過程

ア) 本専修は、1 学年 50 人の少人数教育が特徴です。「保育専修科目」群では、各授業とも 50 人以下の履修者数が原則となっており、学生の主体的・能動的な学び（アクティブ・ラーニング）が促進されやすい学修環境を維持し、志向性・積極性を身につけます。少人数による対話的授業を通じて、学生自らが考える機会を尊重し、保育の知識・理解を深めるだけでなく、コミュニケーション能力、論理的思考力といった力を修得します。

イ) 保育士および幼稚園教諭免許（一種）の取得が可能であり、そのため、保育現場（フィールド）での学びの機会である「実習」（保育実習Ⅰ（保育所）、保育実習Ⅰ（施設）、保育実習Ⅱ、教育実習Ⅰ、教育実習Ⅱ）も 4 年間で 5 期間設定されています。これら実習教育では、問題発見・解決能力を修得するとともに、カウンセリング・マインドと常識とモラル、自己管理能力を身につけます。

③学修成果の評価の在りかた

「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力が、カリキュラム・マップに示されるように各教科に割り振られています。各科目のシラバスには、割り振られた資質・能力が学生自身にどの程度身についたかを評価するための具体的な方法を記載しています。

4. 卒業要件

※○数字は科目の単位数を表します。

		健 康 福 祉 学 群			
		社会福祉専修	精神保健福祉専修	健康科学専修	保 育 専 修
基礎教育科目 20単位 (最低必要単位)	コア科目 (注) 16単位必修	キリスト教入門② 口語表現Ⅰ② 文章表現Ⅰ② 英語コアⅠＡ② 英語コアⅠＢ② 英語コアⅡＡ② 英語コアⅡＢ② コンピュータリテラシーⅠ②			
	ガイダンス 科 目 4 単位必修	社会福祉と マネージメント④	精神保健学④	健康科学論④	保育学④
専攻科目 54単位 (最低必要単位)	学群共通 科 目 16単位必修	学群共通科目、ガイダンス科目から16単位 (「社会福祉とマネージメント」を除く)	学群共通科目、ガイダンス科目から16単位 (「精神保健学」を除く)	学群共通科目、ガイダンス科目から16単位 (「健康科学論」を除く)	学群共通科目、ガイダンス科目から16単位 (「保育学」を除く)
	専修科目 38単位必修	社会福祉専修科目より38単位	精神保健福祉専修科目より38単位	健康科学専修科目より38単位	保育専修科目より38単位
自由選択		・基礎教育科目、専攻科目で、最低必要単位を超えて修得した単位 ・自学群他専修科目 ・他学群専攻科目 ・基盤教育の科目（外国語科目を含む） ・他大学等（短期大学・海外留学の科目を含む）認定単位（P.196） ・各種技能審査による認定単位（P.197～199）			
卒業要件単位合計 基礎教育科目、専攻科目、 自由選択、あわせて 124単位		【その他の要件】 1. 入学時からの通算G P Aが1.5以上 2. 各自所属のコースをメジャーとして必ず修了すること			

(注) 一定以上の能力を有すると認められた者は、履修を免除される場合があります。免除された単位数は他の科目を修得することで卒業要件単位数を満たしてください。

外国人留学生等（日本語を母語としない者）は、「文章表現Ⅰ」「英語コアⅠＡ・ⅠＢ・ⅡＡ・ⅡＢ」に替えて「日本語専門基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」各2回合計10単位を必修しなければなりません。ただし、日本語の能力が一定以上であると認められた者は、履修を免除される場合があります。外国人留学生履修規定を参照し、規定のとおり修得してください。

5. 専攻コース案内

本学には、専攻科目を中心として、学生各自の目的や関心に応じて専門的に学ぶための専攻コースが置かれています。健康福祉学群の専攻科目で構成される専攻コースを登録すると、「学業成績単位修得証明書」に登録中のメジャーまたはマイナーの名称が記載されます。登録したメジャーまたはマイナーの修了要件を満たした上で卒業すると、卒業後の「学業成績単位修得証明書」にはメジャーまたはマイナーの名称が記載されます。

メジャー：メジャーを修了することは卒業の要件となっています。ただし、健康福祉学群以外の専攻プログラム・専攻コース等をメジャーとして登録することはできません。

マイナー：マイナーを修了することは卒業要件ではありませんが、健康福祉学群の専攻コースからだけでなく、他学群のものをマイナーとして登録することもできます。マイナーは、卒業を希望する学期の定期試験期間最終日まで変更することができます。

専攻コースの種類は、以下のとおりです。

健康福祉学群

専攻コース	メジャー	マイナー
社会福祉	○	○
精神保健福祉	○	
健康科学	○	○
保育	○	

ただし、他学群のマイナーを登録しようとする場合は、以下に注意してください。

1. マイナーの必修科目（または選択必修の全て）について、科目一覧ページの「他学群学生の履修」欄が「×」になっている専攻プログラム・専攻コース等の場合は、他学群生はそのマイナーを登録できません。
2. 他学群生は、専攻プログラム・専攻コース等の抽選科目の優先順位によっては、マイナーの必修科目（または選択必修の全て）を履修できず、マイナーを修了できない場合があります。
3. 他学群のマイナーの登録にあたっては、予め各キャンパス事務局教務担当に相談してください。

社会福祉コース

1. 教育目的

一人ひとりの人間が安心できる社会生活を送れるようにするために、ライフコースにわたって援助する事業が福祉です。人間が生まれてから死ぬまでの生活問題をテーマに多面的に探究するのが学問としての福祉です。児童期から政策といった包括的な視点から福祉を学修します。一人ひとりの人間はかけがえのない存在です。現代の福祉は、一人ひとりの個性を正しくとらえ、その人らしい生き方のできる援助を考えています。この専修は、福祉についての総合的な知識やスキルを習得し、正しい人間理解と援助を身につけることをねらいとしています。「福祉マインド」を有する人間性の向上と科学的思考方法を身につけることに力点を置いた教育を目的としています。そして、福祉のさまざまな課題に取り組むことができる人材の育成を目指しています。

2. カリキュラムの特徴

（1）オリジナルに富むカリキュラム

本コースでは社会福祉専修の特色をもつ科目を開講しています。地域を基盤にした新しい観点から「人—環境」を考える「地域住環境論」「地域エンパワーメント方法論」などがあります。聴覚の障害をもつ人をより身近に考えられる「聴覚障害者のコミュニケーション」もあります。また、現代社会には欠かせない「経営」の視点から福祉を考える「福祉事業経営論」「福祉施設経営論」などがあります。

（2）理論と実践とをつなぐ実習教育と演習科目

社会福祉士資格取得を目指す専門職養成に向けた24日間以上の「相談援助現場実習」と実習前後の学修をより効果的にするために「相談援助現場実習指導（Ⅰ～Ⅲ）」を設け、よりきめ細かい実習プログラムで一人一人の実習生に応じた指導を行っています。また、「相談援助演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」も開講し、理論と実践をつなぐ応用的な科目があります。

メジャー：「社会福祉とマネジメント」4単位、学群共通科目、ガイダンス科目から16単位（「社会福祉とマネジメント」を除く）、社会福祉専修科目より38単位、合計58単位以上修得してください。

マイナー：「社会福祉とマネジメント」4単位、社会福祉専修科目より20単位、合計24単位以上修得してください。

精神保健福祉コース

1. 教育目的

このコースでは、精神保健福祉士をめざす人の教育を主軸としています。精神保健福祉士は、精神科ソーシャルワーカー（PSW）の国家資格として1997年に誕生しました。PSW は精神障害のある人のさまざまな相談を受け、生活支援や社会復帰の援助を行う大切な職種です。

我が国の精神保健福祉のあり方については、精神障害者の長期入院やいわゆる社会的入院等の問題が指摘されています。精神保健福祉士は、医療機関におけるチームの一員として、また精神障害者の地域移行や地域生活の支援者として、ますます重要な役割を担っています。また近年、司法・教育・労働などの分野においても、多様な精神保健福祉の課題に取り組む役割が求められるようになりました。ストレス社会と言われる現代では心の病は特別なものではなく、誰もが危機と背中合わせに生きていますから、心の健康が損なわれたときに安心して治療を受け回復していけるようなシステムづくりも重要です。こうした時代の要請に応じて精神保健福祉を担う人材を育成することが本専修の目的です。

2. カリキュラムの特徴

精神保健福祉は社会福祉の一分野であると同時に、精神障害者の保健医療に関わる専門領域でもあります。福祉系科目（「精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）（専門）」「障害者福祉論」など）と、精神保健系科目（「精神保健学」「精神医学」など）の双方を学び、その上に「精神保健福祉援助技術各論」「精神保健福祉に関する制度とサービス」といった専門的な学修を積み重ねていきます。

相談援助の専門職として実践力を高めるため、カリキュラムで重視されるのは、演習・実習などでの主体的な学修です。本学では、2年次に精神科病院や福祉施設を訪問して現場についての理解を深め（見学実習）、3年からの配属実習に備えます。また、実習後のふり返りに十分な時間をかけるなど、実習教育には特に力を入れています。少人数であることを生かした発表・討議形式の授業や、コミュニケーションスキルの向上を図る演習など、頭だけではなく心と身体を働かせて学生同士がふれあう時間が多いのも特徴です。

また、相談援助に不可欠な心理的支援も重視し、関連科目を設置しています。所定の単位を修得し、学会への申請手続きを行うことで、認定心理士、認定健康心理士の資格取得も可能です。

メジャー：「精神保健学」4単位、学群共通科目、ガイダンス科目から16単位（「精神保健学」を除く）、精神保健福祉専修科目より38単位、合計58単位以上修得してください。

健康科学コース

1. 教育目的

健康科学コースでは、幼児から高齢者まで幅広い年齢層の「からだの健康」を探求し、よりよく生きるための“生活の質”（Quality of Life: QOL）を追究します。そして、総合的に、健康と運動・スポーツをはじめとする身体活動との関係を、「からだ」と「こころ」の両面から理論的に理解することを目的とします。さらに、体育・スポーツ現場や児童厚生施設、高齢者福祉施設、障がい者福祉施設をはじめとする福祉現場などにおいて応用できるスポーツ科学やスポーツ実技を学び、現場で実践するための技量を養います。また、社会福祉、精神保健福祉、保育などの関連分野と連携することで、障がい者・高齢者福祉、幼児・児童に関心をもつことによる「Sports for All」の実現と、心のケアもできる“カウンセリング・マインド”をもった保健体育科教員、健康運動実践指導者、初級障がい者スポーツ指導員、インストラクター、コーチ、トレーナーなどになることも期待されます。加えて、所定の単位を修得し、学会への申請手続きを行うことで認定心理士、健康心理士の資格取得も可能です。

2. カリキュラムの特徴

健康科学コースでは、「健康科学」や「スポーツ科学」について、体系的に学ぶためのカリキュラムを設定しています。まず、「健康科学論」を履修し、健康、体のしくみと働き、スポーツ傷害・救急処置法など健康科学に必要な基礎知識を学修します。そして、将来の目的や進路に応じ、基礎科目（「生理学」「運動学」「栄養学」各種スポーツ実技など）、専門科目（「スポーツ生理学」「スポーツコーチ学」「スポーツ栄養学」「スポーツ心理学」「体力測定評価実習」「スポーツ経営学」各種スポーツ指導法、スポーツS種目など）を履修します。また、健康の観点からは、「足の健康科学」「ストレスマネジメント」「ヘルスカウンセリング」などを学ぶことができます。さらに専攻科目を深く学ぶために、3年次から専攻演習（ゼミ）があります。ここでは、各自が関心を持つテーマでゼミ論を作成します。

また、これをさらに発展させ、卒業論文を作成することもできます。

メジャー：「健康科学論」4単位、学群共通科目、ガイダンス科目から16単位（「健康科学論」を除く）、健康科学専修科目より38単位、合計58単位以上修得してください。

マイナー：「健康科学論」4単位、健康科学専修科目より20単位、合計24単位以上修得してください。

保育コース

1. 教育目的

現代社会では、女性の社会進出、親子関係の変化、外国籍の子どもの増大など、子どもをとりまく状況が大きく変化し、このような社会の変化に柔軟に対応できる保育士の養成が求められています。

保育コースでは、一般的には2年間とされる保育士養成プログラムを4年と捉え、乳幼児の健康や発達の知識にとどまらず、社会福祉、精神保健福祉、健康科学といった隣接領域の学びを通じて、幅広い知識を身につけた質の高い保育士の養成をめざします。さらに子どもが置かれているさまざまな状況への理解を深めるために、カウンセリング能力、外国籍の子どもや保護者とのコミュニケーション能力を養います。また講義だけでなく、保育実習などの現場体験活動を通じて、児童福祉専門職としての基礎的な経験を積み重ねます。

こうした学びを通じて、精神と健康の両面から子どもをしっかりとサポートできる保育士の養成を目的とします。さらに、幼稚園教諭を目指す学生に対しては、幼稚園教諭1種免許状取得のための教職課程が用意されています。

2. カリキュラムの特徴

①保育士資格取得の科目

保育コースでは、保育士の資格を得るために、74科目を設置しています。本学授業科目より指定された単位数を修得し、なおかつ卒業要件を満たすことにより保育士資格が取得できます。

②保育の多様なニーズに応える科目

保育士として福祉を学ぶための基礎学修である「社会福祉とマネジメント」「健康科学論」「老年学」「社会学」「法学」「今日の健康と福祉」「人間関係論」「健康心理学概論」が選択必修として設定されています。また、子育て支援や国際化に応えるために、「家庭支援論」「教育相談」や「児童英語教育入門」「保育の英語」などの科目も設定されています。

③幅広い視点で健康や福祉などに関する知識、技能を身に付ける科目

福祉のエキスパートを養成するために、「介護概論」「福祉カウンセリング」「足の健康科学」など広範囲に科目が設定されています。また、自由選択において、全学の科目から学びたい科目を履修することで、深い教養と豊かな人間性を培います。

メジャー：「保育学」4単位、学群共通科目、ガイダンス科目から16単位（「保育学」を除く）、保育専修科目より38単位、合計58単位以上修得してください。

6. ガイダンス・専攻科目と諸注意

科目 区分	科目コード	授 業 科 目	授業 方法	単位 数	履修 年次	他学 群学 生の履修	自学 群内 他専 修学 生の履修	先修条件ほか
ガイ ダンス 科目	SWE1080H	社会福祉とマネジメント	講義	4	1	○	－	
	MED1340H	精神保健学	講義	4	1	○	－	
	HSS1000H	健康科学論	講義	4	1	○	－	
	CCR1000H	保育学	講義	4	1	○	－	
学 群 共 通 科 目	PSY1002H	心理学	講義	4	1	○	－	
	GTL1000H	老年学	講義	4	1	○	－	
	SWE2030H	児童福祉論	講義	4	2	○	－	
	MED1000H	医学一般	講義	4	1	○	－	
	SOC1000H	社会学	講義	4	1	○	－	
	LAW1000H	法学	講義	4	1	○	－	
	SWE1001H	今日の健康と福祉	講義	2	1	○	－	
	PSY2140H	人間関係論	講義	2	1	○	－	
	PSY1060H	健康心理学概論	講義	2	1	○	－	
	###39**H	専攻演習	演習	4	3	△	－	(注)
	###49**H	卒業論文	演習	6	4	△	－	専攻演習
	###49**H	卒業研究	演習	6	4	△	－	〃
社 会 福 祉 専 修 科 目	SWE2050H	老人福祉論	講義	4	2	○	○	
	SWE2040H	障害者福祉論	講義	4	1	○	○	
	SWE2060H	地域福祉論	講義	4	2	○	○	
	SWE2211H	社会福祉援助技術論Ⅰ	講義	2	2	○	○	
	SWE2212H	社会福祉援助技術論Ⅱ	講義	2	2	○	○	
	SWE3411H	相談援助演習Ⅰ	演習	4	3	×	×	相談援助の基盤と専門職、障害者福祉論、地域福祉論、老人福祉論、実習のための社会福祉入門、社会保障論、なお、相談援助現場実習指導Ⅰを同時履修すること
	SWE3412H	相談援助演習Ⅱ	演習	4	3	×	×	児童福祉論、医学一般、相談援助演習Ⅰ、社会福祉援助技術論Ⅰ
	SWE3413H	相談援助演習Ⅲ	演習	2	4	×	×	社会福祉援助技術論Ⅱ、相談援助演習Ⅱ
	SWE2610H	相談援助現場実習	実習	4	3	×	×	相談援助現場実習指導Ⅰ、なお、相談援助演習Ⅱ、相談援助現場実習指導Ⅱを同時履修すること
	SWE2411H	相談援助現場実習指導Ⅰ	演習	2	3	×	×	相談援助の基盤と専門職、障害者福祉論、地域福祉論、老人福祉論、社会保障論、実習のための社会福祉入門
	SWE2412H	相談援助現場実習指導Ⅱ	演習	2	3	×	×	児童福祉論、医学一般、社会福祉援助技術論Ⅰ、相談援助現場実習指導Ⅰ、なお、相談援助演習Ⅱ、相談援助現場実習を同時履修すること
	SWE3410H	相談援助現場実習指導Ⅲ	演習	2	4	×	×	相談援助現場実習、相談援助現場実習指導Ⅱ、社会福祉援助技術論Ⅱ、相談援助演習Ⅱ、なお、相談援助演習Ⅲを同時履修すること
	PSY1001H	心理学概論	講義	4	1	○	○	
	SOC1001H	社会学概論	講義	4	1	○	○	
	LAW1320H	憲法	講義	4	1	○	○	
	LAW3320H	行政法	講義	2	2	○	○	
	SWE2090H	介護概論	講義	2	2	○	○	
	SWE2360H	地域住環境論	講義	4	2	○	○	
	SWE2380H	福祉事業経営論	講義	4	2	○	○	
	SSC3310H	社会政策論	講義	4	2	○	○	
	SWE2381H	福祉施設経営論	講義	4	2	○	○	
	SWE3101H	福祉のための諸科学Ⅰ	講義	2	3	×	△	国家試験（社会福祉士、精神保健福祉士）受験者対象科目
	SWE3102H	福祉のための諸科学Ⅱ	講義	2	3	×	△	国家試験（社会福祉士、精神保健福祉士）受験者対象科目
	LAW3370H	社会福祉法制論	講義	2	2	○	○	
	LAW3371H	子ども法	講義	2	2	○	○	

「###」：3文字コードが複数存在する科目

「*」：数字コードが複数存在する科目

(次のページに続く)

科目 区分	科目コード	授 業 科 目	授業 方法	単位数	履修 年次	他学群学 生の履修	自学群内 他専修学 生の履修	先修条件ほか
社会 福祉 専 修 科 目	SWE2390H	医療ソーシャルワーク論	講義	4	2	○	○	
	SWE1340H	聴覚障害者のコミュニケーション	講義	2	1	○	○	
	SWE3260H	地域エンパワーメント方法論	講義	2	2	○	○	
	SWE1200H	実習のための社会福祉入門	講義	2	1	×	○	
	SWE3310H	社会調査の基礎	講義	2	3	○	○	
	SWE1010H	相談援助の基盤と専門職	講義	4	1	○	○	
	SWE3070H	福祉行財政と福祉計画	講義	2	3	○	○	
	SWE2080H	福祉サービスの組織と経営	講義	2	2	○	○	
	SWE3311H	相談援助活動と就労支援・更生保護	講義	2	2	○	○	
	SWE3370H	権利擁護と成年後見制度	講義	2	3	○	○	
	SWE1090H	加齢及び障害に関する理解	講義	2	1	○	○	
	SWE3401H	福祉マネジメント演習 A (対人援助サービス)	演習	2	2	×	△	
	SWE3402H	福祉マネジメント演習 B (ユニバーサルデザイン)	演習	2	3	×	△	
	SWE3403H	福祉マネジメント演習 C (経営・福祉ビジネス)	演習	2	2	×	△	
	SWE2350H	認知症ケア論	講義	2	2	○	○	
	SWE2000H	社会福祉原論	講義	4	2	△	○	
	SWE2070H	社会保障論	講義	4	2	○	○	
精 神 保 健 福 祉 専 修 科 目	MED2350H	精神医学	講義	4	1	○	○	
	MED2351H	精神科リハビリテーション学	講義	4	2	○	○	精神保健学
	SWE2070H	社会保障論	講義	4	2	○	○	
	SWE2370H	公的扶助論	講義	2	2	○	○	
	SWE2091H	保健医療サービス	講義	2	2	○	○	
	SWE1021H	精神保健福祉相談援助の基盤(基礎)	講義	2	1	○	○	
	SWE1022H	精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	講義	2	1	○	○	
	SWE2220H	精神保健福祉援助技術各論	講義	4	2	○	○	精神保健福祉相談援助の基盤(基礎)、精神保健福祉相談援助の基盤(専門)
	PSY2350H	福祉カウンセリング	講義	2	2	○	○	
	SWE3330H	学校ソーシャルワーク論	講義	2	3	○	○	
	SWE3310H	社会調査の基礎	講義	2	3	○	○	
	SWE2060H	地域福祉論	講義	4	2	○	○	
	SWE3070H	福祉行財政と福祉計画	講義	2	3	○	○	
	SWE3370H	権利擁護と成年後見制度	講義	2	3	○	○	
	SWE2040H	障害者福祉論	講義	4	1	○	○	
	SWE2000H	社会福祉原論	講義	4	2	△	○	
	SWE3371H	精神保健福祉に関する制度とサービス	講義	4	3	○	○	
	SWE3320H	精神障害者の生活支援システム	講義	2	3	○	○	
	SWE2420H	精神保健福祉援助演習Ⅰ	演習	2	2	×	×	精神保健福祉相談援助の基盤(基礎)、精神保健福祉相談援助の基盤(専門)
	SWE3420H	精神保健福祉援助演習Ⅱ	演習	4	3	×	×	精神保健福祉援助演習Ⅰ
	SWE2421H	精神保健福祉実習指導Ⅰ	演習	4	2	×	×	精神保健福祉相談援助の基盤(基礎)、精神保健福祉相談援助の基盤(専門)、または精神医学
	SWE3422H	精神保健福祉実習指導Ⅱ	演習	4	3	×	×	精神保健福祉実習指導Ⅰ、精神医学、精神保健福祉相談援助の基盤(基礎)、精神保健福祉相談援助の基盤(専門)
	SWE3423H	精神保健福祉実習指導Ⅲ	演習	4	4	×	×	精神保健福祉実習指導Ⅱ、精神科リハビリテーション学、精神保健福祉援助技術各論
	SWE3621H	精神保健福祉現場実習Ⅰ	実習	2	3	×	×	精神保健福祉実習指導Ⅰ
	SWE3622H	精神保健福祉現場実習Ⅱ	実習	2	4	×	×	精神保健福祉実習指導Ⅱ
	PSY2351H	グループ・アプローチ	講義	2	2	○	○	
	PSY2152H	臨床心理学	講義	4	2	○	○	
	PSY3142H	家族心理学	講義	4	2	○	○	
専 修 科 目	HSS1050H	運動学	講義	2	1	○	○	
	HSS1001H	健康とスポーツ	講義	2	1	○	○	
	HSS1051H	生理学	講義	2	1	○	○	

(次のページに続く)

科目区分	科目コード	授 業 科 目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	自学群内他専修学生の履修	先修条件ほか
健康福祉学専修科目	HSS1054H	スポーツ社会学	講義	2	1	○	○	
	HSS2150H	スポーツ経営学	講義	2	2	○	○	
	HSS1010H	栄養学	講義	2	1	○	○	
	MED1341H	学校保健学	講義	2	1	○	○	
	HSS1053H	障害学	講義	2	1	○	○	
	MED2340H	衛生学	講義	2	2	○	○	
	MED2341H	公衆衛生学	講義	2	2	○	○	
	HSS2310H	高齢者レクリエーション	講義	2	2	○	○	
	HSS2311H	障害者レクリエーション	講義	2	2	○	○	障害学
	HSS3310H	足の健康科学	講義	4	2	○	○	
	HSS3350H	スポーツコーチ学	講義	4	2	○	○	生理学または運動学
	HSS2351H	スポーツ栄養学	講義	4	2	○	○	栄養学
	HSS2152H	スポーツ心理学	講義	4	2	○	○	心理学または心理学概論
	HSS1052H	解剖学	講義	2	1	○	○	
	HSS1110H	発育発達学	講義	2	1	○	○	
	HSS1350H	スポーツ医学	講義	2	1	○	○	
	HSS2450H	救急処置法	演習	2	1	△	○	解剖学
	HSS2151H	スポーツ生理学	講義	2	2	○	○	生理学
	HSS3650H	体力測定評価実習	実習	1	2	△	○	〃
	HSS2130H	ストレスマネジメント	講義	2	1	○	○	心理学
	HSS2330H	健康行動科学	講義	2	2	○	○	
	HSS2131H	健康支援学	講義	2	2	○	○	
	HSS3230H	ヘルスカウンセリング	講義	4	2	○	○	
	HSS1351H	スポーツ・体育史	講義	2	1	○	○	
	HSS2350H	スポーツ倫理学	講義	2	1	○	○	
	PSY3163H	健康心理カウンセリング概論	講義	2	3	○	○	健康心理学（LA）
	PSY3157H	学校カウンセリング論	講義	2	3	△	○	LA・健福のみ
	PSY2121H	生涯発達心理学	講義	4	1	○	○	
	TOR2034H	スポーツ産業論	講義	2	2	○	○	
	HSS1055H	スポーツ組織論	講義	2	1	○	○	
	HSS3351H	スポーツマーケティング	講義	2	2	○	○	
	HSS1002H	特別講義	講義	2	1	○	○	
	*	スポーツ（ウィークリースポーツ）	実技	1	別記	○	○	スポーツ実技科目一覧参照
	*	スポーツ（シーズンスポーツ）	実技	1	別記	○	○	〃
保育専修科目	CCR1001H	保育原理	講義	2	1	○	○	
	CCR2301H	社会的養護Ⅰ	講義	2	2	○	○	
	EDU1000H	教育原理（保育）	講義	2	1	×	×	
	SWE1330H	子ども家庭福祉	講義	2	1	○	○	
	SWE1000H	社会福祉	講義	2	1	○	○	
	PSY2020H	発達心理学	講義	2	2	○	○	
	PSY2420H	教育心理学（保育）	演習	2	2	×	×	
	CCR2331H	子どもの保健Ⅰ	講義	4	2	×	○	子どもの保健Ⅱと同時に履修
	CCR2432H	子どもの保健Ⅱ	演習	2	2	×	○	子どもの保健Ⅰ（子どもの保健Ⅰと同時に履修可）
	CCR2430H	子どもの食と栄養	演習	2	2	×	○	
	CCR2010H	家庭支援論	講義	2	2	○	○	

「*」：数字コードが複数存在する科目

（次のページに続く）

科目 区分	科目コード	授 業 科 目	授業 方法	単位数	履修 年次	他学群学 生の履修	自学群内 他専修学 生の履修	先修条件ほか
保 育 専 修 科 目	CCR3400H	保育内容総論	演習	2	2	×	×	
	CCR3430H	保育内容（健康）	演習	2	3	×	×	
	CCR3440H	保育内容（人間関係）	演習	2	3	×	×	
	CCR3450H	保育内容（環境）	演習	2	3	×	×	
	CCR3460H	保育内容（言葉）	演習	2	3	×	×	
	CCR3470H	保育内容（表現）	演習	2	3	×	×	
	CCR2420H	乳児保育	演習	2	2	×	○	
	CCR2421H	障害児保育	演習	2	2	×	×	
	CCR2402H	社会的養護Ⅱ	演習	2	2	×	○	社会的養護Ⅰ
	CCR1470H	保育表現技術（音楽）	演習	2	1	×	×	
	CCR2471H	保育表現技術（造形）	演習	2	2	×	×	
	CCR2470H	保育表現技術（体育）	演習	2	2	×	×	
	CCR2411H	保育実習指導Ⅰ	演習	2	2	×	×	保育学、保育原理
	CCR2610H	保育実習Ⅰ（保育所）	実習	2	2	×	×	保育学、保育原理
	CCR2611H	保育実習Ⅰ（施設）	実習	2	3	×	×	保育学、保育原理
	EDU2420H	教育相談	演習	2	2	×	○	
	ELS2301H	保育の英語Ⅰ	講義	2	2	×	○	
	ELS2302H	保育の英語Ⅱ	講義	2	2	×	○	保育の英語Ⅰ
	ELS1300H	児童英語教育入門	講義	2	1	×	○	
	MUS1601H	音楽実技Ⅰ	実習	1	1	×	×	
	MUS2601H	音楽実技Ⅱ A	実習	1	2	×	×	音楽実技Ⅰ
	MUS2602H	音楽実技Ⅱ B	実習	1	2	×	×	音楽実技Ⅰ
	MUS2603H	音楽実技Ⅱ C	実習	1	2	×	×	音楽実技Ⅰ
	FNA1400H	造形基礎	演習	2	1	×	○	
	CCR3412H	保育実習指導Ⅱ	演習	2	3	×	×	保育実習指導Ⅰ、保育実習Ⅰ（保育所）、保育実習Ⅰ（施設）
	CCR3612H	保育実習Ⅱ	実習	2	3	×	×	保育実習指導Ⅰ、保育実習Ⅰ（保育所）、保育実習Ⅰ（施設）
	CCR3413H	保育実習指導Ⅲ	演習	2	3	×	×	保育実習指導Ⅰ、保育実習Ⅰ（保育所）、保育実習Ⅰ（施設）
	CCR3613H	保育実習Ⅲ	実習	2	3	×	×	保育実習指導Ⅰ、保育実習Ⅰ（保育所）、保育実習Ⅰ（施設）
	CCR2450H	児童文化	演習	2	2	×	○	
	CCR3410H	保育ソーシャルワーク	演習	2	3	×	○	
	EDU1030H	教職入門（保育）	講義	2	1	×	×	
	EDU2390H	教育制度論（保育）	講義	2	2	×	×	
	EDU2391H	教育関係法規（保育）	講義	2	2	×	×	
	EDU2020H	教育課程論（保育）	講義	2	2	×	×	
	EDU2220H	教育方法論（保育）	講義	2	2	×	×	
	CCR3451H	子どもとメディア	演習	2	3	×	○	
	CCR3420H	幼児理解の理論と方法	演習	2	2	×	○	
	CCR3461H	子どもとことば	演習	2	3	×	○	
	CCR3452H	あそびと生活	演習	2	3	×	○	
	MUS1400H	音楽表現法	演習	2	2	×	○	
	CCR3431H	子どものからだと健康	演習	2	3	×	○	保育学
	EDU3430H	教育実習事前・事後指導	演習	1	3	×	×	
	EDU3631H	教育実習Ⅰ	実習	2	3	×	×	教職入門（保育）、教育原理（保育）
	EDU3632H	教育実習Ⅱ	実習	2	4	×	×	教育実習Ⅰ
	EDU4430H	教職実践演習（保育）	演習	2	4	×	×	

諸注意

①スポーツ実技科目（ウィークリースポーツ、シーズンスポーツ）一覧

科目 区分	科目コード	種 目 名	授業 方法	単位数	履修 年次	他学群学 生の履修	先修条件ほか
ス ポ ー ツ （ ウ ィ ー ク リ ー ス ス ポ ー ツ ）	SPE1741H・SPE1742H	バスケットボールⅠ・Ⅱ	実技	1	1	○	
	SPE1743H・SPE1744H	バスケットボールⅢ・Ⅳ	実技	1	2	○	
	SPE2740H	バスケットボール S	実技	1	2	○	
	SPE1761H・SPE1762H	バレーボールⅠ・Ⅱ	実技	1	1	○	
	SPE1763H・SPE1764H	バレーボールⅢ・Ⅳ	実技	1	2	○	
	SPE2760H	バレーボール S	実技	1	2	○	
	SPE1751H・SPE1752H	サッカーⅠ・Ⅱ	実技	1	1	○	
	SPE1753H・SPE1754H	サッカーⅢ・Ⅳ	実技	1	2	○	
	SPE2741H	サッカー S	実技	1	2	○	
	SPE1781H・SPE1782H	ソフトボールⅠ・Ⅱ	実技	1	1	○	
	SPE1783H・SPE1784H	ソフトボールⅢ・Ⅳ	実技	1	2	○	
	SPE2780H	ソフトボール S	実技	1	2	○	
	SPE1746H・SPE1747H	ハンドボールⅠ・Ⅱ	実技	1	1	○	
	SPE1748H・SPE1749H	ハンドボールⅢ・Ⅳ	実技	1	2	○	
	SPE1786H・SPE1787H	軟式野球Ⅰ・Ⅱ	実技	1	1	○	
	SPE1788H・SPE1789H	軟式野球Ⅲ・Ⅳ	実技	1	2	○	
	SPE1771H・SPE1772H	テニスⅠ・Ⅱ	実技	1	1	○	
	SPE1773H・SPE1774H	テニスⅢ・Ⅳ	実技	1	2	○	
	SPE2761H	テニス S	実技	1	2	○	
	SPE1776H・SPE1777H	バドミントンⅠ・Ⅱ	実技	1	1	○	
	SPE1778H・SPE1779H	バドミントンⅢ・Ⅳ	実技	1	2	○	
	SPE2762H	バドミントン S	実技	1	2	○	
	SPE1791H・SPE1792H	ゴルフⅠ・Ⅱ	実技	1	1	○	
	SPE1793H・SPE1794H	ゴルフⅢ・Ⅳ	実技	1	2	○	
	SPE1871H・SPE1872H	エアロビクスⅠ・Ⅱ	実技	1	1	○	
	SPE1873H・SPE1874H	エアロビクスⅢ・Ⅳ	実技	1	2	○	
	SPE1836H・SPE1837H	リズムダンスⅠ・Ⅱ	実技	1	1	○	
	SPE1838H・SPE1839H	リズムダンスⅢ・Ⅳ	実技	1	2	○	
	SPE1881H・SPE1882H	レクリエーションⅠ・Ⅱ	実技	1	1	○	
	SPE1883H・SPE1884H	レクリエーションⅢ・Ⅳ	実技	1	2	○	
	SPE1876H・SPE1877H	フィットネスⅠ・Ⅱ	実技	1	1	○	
	SPE1878H・SPE1879H	フィットネスⅢ・Ⅳ	実技	1	2	○	
	SPE1886H・SPE1887H	トレーニングⅠ・Ⅱ	実技	1	1	○	
	SPE1888H・SPE1889H	トレーニングⅢ・Ⅳ	実技	1	2	○	
	SPE1811H・SPE1812H	柔道Ⅰ・Ⅱ	実技	1	1	○	
	SPE1813H・SPE1814H	柔道Ⅲ・Ⅳ	実技	1	2	○	
	SPE1816H・SPE1817H	剣道Ⅰ・Ⅱ	実技	1	1	○	
	SPE1818H・SPE1819H	剣道Ⅲ・Ⅳ	実技	1	2	○	
	SPE1711H・SPE1712H	器械体操Ⅰ・Ⅱ	実技	1	1	○	
	SPE1713H・SPE1714H	器械体操Ⅲ・Ⅳ	実技	1	2	○	
	SPE1721H・SPE1722H	陸上競技Ⅰ・Ⅱ	実技	1	1	○	
	SPE1723H・SPE1724H	陸上競技Ⅲ・Ⅳ	実技	1	2	○	
	SPE1831H・SPE1832H	創作ダンスⅠ・Ⅱ	実技	1	1	○	
	SPE1833H・SPE1834H	創作ダンスⅢ・Ⅳ	実技	1	2	○	

(次のページに続く)

科目 区分	科目コード	種 目 名	授業 方法	単位数	履修 年次	他学群学 生の履修	先修条件ほか
ス ポ ー ツ (ウ ィ ー ク リ ー ス ス ポ ー ツ)	SPE1701H・SPE1702H	体づくり運動Ⅰ・Ⅱ	実技	1	1	○	
	SPE1703H・SPE1704H	体づくり運動Ⅲ・Ⅳ	実技	1	2	○	
	SPE1756H・SPE1757H	ラグビーⅠ・Ⅱ	実技	1	1	○	
	SPE1758H・SPE1759H	ラグビーⅢ・Ⅳ	実技	1	2	○	
	SPE1766H・SPE1767H	卓球Ⅰ・Ⅱ	実技	1	1	○	
	SPE1768H・SPE1769H	卓球Ⅲ・Ⅳ	実技	1	2	○	
	SPE2810H	柔道指導法	実技	1	2	○	柔道Ⅰ
	SPE2811H	剣道指導法	実技	1	2	○	剣道Ⅰ
	SPE2710H	器械体操指導法	実技	1	2	○	器械体操Ⅰ
	SPE2720H	陸上競技指導法	実技	1	2	○	陸上競技Ⅰ
ス ポ ー ツ (シ ー ズ ン ス ポ ー ツ)	SPE1851H	キャンプⅠ	実技	1	1	○	
	SPE1852H	キャンプⅡ	実技	1	2	○	
	SPE1853H	キャンプⅢ	実技	1	3	○	
	SPE1854H	キャンプⅣ	実技	1	4	○	
	SPE1861H	スキーⅠ	実技	1	1	○	
	SPE1862H	スキーⅡ	実技	1	2	○	
	SPE1863H	スキーⅢ	実技	1	3	○	
	SPE1864H	スキーⅣ	実技	1	4	○	
	SPE1731H	水泳Ⅰ	実技	1	1	○	
	SPE1732H	水泳Ⅱ	実技	1	2	○	
	SPE1733H	水泳Ⅲ	実技	1	3	○	
	SPE1734H	水泳Ⅳ	実技	1	4	○	
	SPE2730H	水泳指導法	実技	1	2	○	水泳Ⅰ

スポーツ実技科目の履修制限

イ. 末尾に「Ⅰ～Ⅳ」の付いている種目は、Ⅰ→Ⅱ→Ⅲ→Ⅳの順で履修してください。

ロ. 「指導法」には、先修条件があるので注意してください。

ハ. 同一年度の同一学期に、同一種目を履修することはできません。ただし、「S種目」、「指導法」はこの限りではありません。

(例)「サッカーⅠ」と「サッカーS」は履修できます。

「柔道Ⅱ」と「柔道指導法」は履修できます。

ニ. ウィークリースポーツとシーズンスポーツを、同時に履修することができます。

②専修の変更

専修の変更は、定められた期間に願い出て、審査のうえ認められることがあります。

(注)「専攻演習」

イ. 3年次より、「専攻演習」を履修することができます。この「専攻演習」の登録は2年次の秋学期に事前登録をしてください。希望者が集中した場合には選抜が行われ、その際はそれまでに修得した科目及び成績が考慮されます。

ロ. 「専攻演習」を履修する場合には、原則として担当教員の指定する科目が修得済みでなければなりません(詳細は別冊の「専攻演習」履修案内を参照してください)。

6. グローバル・コミュニケーション学群

1. グローバル・コミュニケーション学群について

産業や経済が急速に高度化し、グローバル化が進む現代の社会では、豊かな語学力やコミュニケーション力を持ち、異文化を理解し、国や社会を越えて国際的に活躍できる「グローバル人材」の重要性が年々高まっています。これら「グローバル人材」は、世界展開をする日本企業や外資系企業をはじめとして、国際機関、政府機関や地方公共団体等で、中核的、専門的な働きを期待されています。

グローバル・コミュニケーション学群では、単に外国語能力を身につけた人物ではなく、「深い教養」を身につけ、「コミュニケーション能力」と「課題解決能力」の両方を持ち合わせた人物を育成することを目的としています。具体的には、多角的な視野と知識を基に分析を行い、実行可能な解決策を提示する力、複雑な事象を具体的かつ論理的に説明・説得するための高いコミュニケーション能力を有し、能動的に課題解決を行うリーダーシップを併せ持つ人物を育成することを目的として、カリキュラムを設定しています。

グローバル・コミュニケーションの学生は、1～2年次のときはまず目標言語を、実際の使用言語として徹底的に学び、4セメスターまたは5セメスター目には原則として全員が留学します(日本語特別専修の学生は希望者のみ)。留学においては、語学力の向上のみならず、グローバル社会で協働できる力をグループ・プロジェクト等を通して身につけ、留学終了後は、メジャーとする言語で行われるグローバル・スタディーズ科目等を履修して、広い知識とコミュニケーション能力、思考力、実行力を養います。

また、本学群では英語、中国語、日本語の「特別専修」という形で学修の体系化を図っています。さらに、母語以外の2言語を学修したいという学生の要望に応えることを可能とした「グローバル教養専修」も設けています。なお、英語特別専修においては、卒業要件となる科目を全て英語で修得した場合において、英語による学位を取得することも可能となっています。

2. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学群は、単に外国語能力を身につけた人物ではなく、「深い教養」を身につけ、「コミュニケーション能力」と「問題解決能力」の両方を持ち合わせた人物を育成することを目的としています。具体的には、多角的な視野と知識を基に分析を行い、実行可能な解決策を提示する力、複雑な事象を具体的かつ論理的に説明・説得するための高いコミュニケーション能力を有し、能動的に問題解決を行うリーダーシップを併せ持つ人物を育成することを目的としています。

そのため、本学群では目的実現のため編成されたカリキュラムのもと、定められた在学期間に通算GPA1.5以上、⁸⁰所定の卒業単位（「基礎教育科目」：「ガイダンス科目」10単位含め16単位、「専攻科目」：「語学技能科目」36単位、「グローバル・スタディーズ科目」36単位（原則として受講科目言語は学修対象言語に限る）、その他自由選択、計124単位）を修得し、以下の要件を満たす学生に対し、本学の教育の基本理念と「卒業認定・学位授与の方針」、「教育課程編成・実施の方針」に基づき、「学士（グローバル・コミュニケーション）」を授与します。

（1）自己管理能力・生涯学習力

国際社会における自分の役割を自覚し、自律的、積極的に学び続けることができる。

（2）コミュニケーション・スキル

高い実用レベルでの外国語能力とグローバル社会で通用するコミュニケーション能力を修得している。

（3）チームワーク・リーダーシップ・問題解決能力

国際社会における諸課題を発見し、自らの解決策を立案するとともに、協調性、主体性をもったリーダーシップを発揮し、創造性を合わせ持つことができる。

（4）多文化・異文化に関する知識の理解

異文化理解、経済、政治、ジェンダーなどのテーマを学ぶことで、多様な価値観に気づき、情報を鵜呑みにするのではなく客観的に選択し、幅広い視野で物事を考えることができる。

（5）市民としての社会的責任

キリスト教精神に基づいた教養豊かな識見の高い国際的人材として、「学而事人（学びて人に仕える）」を実践することができる。

3. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学群は、「卒業認定・学位授与の方針」に掲げた学修成果を得るために、その具体的取組みとしての教育課程を

「基礎教育科目」、「専攻科目」及び他学群や他大学、各種技能審査等を単位認定する「自由選択」という区分に分けて編成しています。授業は、講義、演習、実験、実習、実技のいずれかの方法、又はこれらの併用により行います。また、カリキュラムの体系化のために「ナンバリング（科目ごとの関連性や難易度を示す）」を行い、科目の構造を明示し体系的な学修に役立つようにしています。このような教育課程の編成と、学修方法・学修過程、学修成果の評価の在り方を以下のように定めています。

（１）教育課程の編成

- ①「基礎教育科目」は、「ガイダンス科目」及び「学群共通科目」により構成しています。「ガイダンス科目」として、コミュニケーションに必要な総合的理解力や外国語修得方法（「グローバル・コミュニケーション入門」「外国語修得法」）、世界情勢の全体動向の把握、リーダーシップやイノベーションマインドの養成、論理的思考力の養成、数学的能力の錬成等の各導入科目（「グローバル化と社会」「イノベーションとリーダーシップ」「論理的思考とコミュニケーション」「数的理解と統計」）を配置し、これらの科目を履修することで、専門分野を学ぶための知識を身につけていきます。また、「学群共通科目」として、言語の起源や第一・第二言語の修得方法等、言語に関する知識、心理と言語の関係、国内外の企業や団体等における就業体験、コミュニケーション研究の立場に基づくリーダーシップの理論と実践等に関わる幅広い科目（「応用言語学」「言語と心理」「インターナショナル」「フィールド・スタディ」等）を配置しています。

- ②「専攻科目」は、留学を前提とした徹底した語学教育により、外国での高等教育にも十分対応できる能力を身につける「語学技能科目」、及び英語と中国語による授業を展開する「グローバル・スタディーズ科目」（日本語特別専修の学生については日本語による授業）によって構成しています。

ア）「語学技能科目」は、「英語コミュニケーション科目群」「中国語コミュニケーション科目群」「日本語コミュニケーション科目群」の３つの科目群に分かれています。また、次の４点を重視して母語以外を選択して集中的に学びます。

１）スキル

４技能（聞く、話す、読む、書く）、デジタルリテラシー、テストスキル、アカデミックスキル

２）クリティカルシンキング

考える力（情報を取捨選択し、その背景を理解し、仮説を立て、情報を統合し、明確に伝える力）

３）学修者オートノミー

振り返り、学修目標設定、学修計画、将来目標設定、スタディスキル

４）異文化理解

時事問題、文化背景（歴史、宗教、習慣、伝統）、多様性の受容、新しい価値観の創造

イ）「グローバル・スタディーズ科目」を「日本文化系科目群」「グローバル社会系科目群」の二つに分け、学修対象の言語を使って日本の文化や歴史・思想、世界経済、国際政治、ジェンダー等について学ぶ科目を配置しています。

（２）学修方法・学修過程

- ①１～２年次は、「語学技能科目」として英語・中国語・日本語のいずれかの目標言語を、実際の使用言語として、徹底的に学びます。
- ②４セメスター又は５セメスター目は原則として全員が留学します（日本語特別専修の学生は希望者のみ）。
- ③帰国後は、留学等を通じて向上した語学力を用いて、学修対象の言語（英語・中国語・日本語）のみで開講される授業を受けることで、日本や世界の様々な問題や課題に関する理解を深めます。
- ④リーダーシップセミナーなどのグループプロジェクトを通じて「イノベーション」を生む能力や「リーダーシップ」を醸成するとともに、企業等の第一線で活躍している外部講師を招聘するなどして、組織の中心になって活躍できる人材を育てます。本学群で開講する授業の多くはグループプロジェクト形式であり、ディスカッションやプレゼンテーションを中心とした能動型の授業となります。これにより、テーマに対して複数の領域や視点から総合的にアプローチする力を養います。

（３）学修成果の評価の在り方

- ①学修成果は「卒業認定・学位授与の方針」に定められた項目と、学修方法・学修過程（カリキュラム・マップ等）により示された、科目が目標とする学修の到達度が学生自身にとってどの程度であったかを示すものです。したがって学修成果は科目それぞれで設定され、シラバスに記載されています。
- ②学修成果がどのように評価されるのかは、シラバスにおいて具体的に評価方法を科目ごとに記載しており、授業の目標に対する学生の到達度を担当教員が厳格に評価します。

グローバル・コミュニケーション学群の学生が卒業するために必要な単位数の内訳は次のとおりです。

(1) 英語特別専修

英語特別専修をメジャーとして卒業するために必要な単位数の内訳は次のとおりです。なお、英語を母語とする（または英語が母語に準ずる）学生は、本専修をメジャーとして卒業することはできません。

基礎教育科目：ガイダンス科目10単位以上、合計16単位以上

専攻科目：語学技能科目36単位（受講科目言語は英語に限る。「英語ⅠA」「英語ⅠB」「英語ⅡA」「英語ⅡB」4科目16単位を含む。留学先で修得した単位を含む）、グローバル・スタディーズ科目36単位（受講科目言語は英語に限る。留学先で修得した単位を含む）、合計72単位以上

基礎教育科目、専攻科目、自由選択、合計124単位以上

入学時からの通算 GPA が1.5以上

(2) 中国語特別専修

中国語特別専修をメジャーとして卒業するために必要な単位数の内訳は次のとおりです。なお、中国語を母語とする（または中国語が母語に準ずる）学生は、本専修をメジャーとして卒業することはできません。

基礎教育科目：ガイダンス科目10単位以上、合計16単位以上

専攻科目：語学技能科目36単位（受講科目言語は中国語に限る。「中国語ⅠA」「中国語ⅠB」「中国語ⅡA」「中国語ⅡB」の4科目16単位を含む。留学先で修得した単位を含む）、グローバル・スタディーズ科目36単位（受講科目言語は中国語に限る。留学先で修得した単位を含む）、合計72単位以上

基礎教育科目、専攻科目、自由選択、合計124単位以上

入学時からの通算 GPA が1.5以上

(3) 日本語特別専修

日本語特別専修をメジャーとして卒業するために必要な単位数の内訳は次のとおりです。なお、日本語を母語とする（または日本語が母語に準ずる）学生は、本専修をメジャーとして卒業することはできません。

基礎教育科目：ガイダンス科目10単位以上、合計16単位以上

専攻科目：語学技能科目36単位（受講科目言語は日本語に限る。「日本語ⅠA」「日本語ⅠB」「日本語ⅡA」「日本語ⅡB」の4科目16単位を含む）、グローバル・スタディーズ科目36単位（受講科目言語は日本語に限る）、合計72単位以上

基礎教育科目、専攻科目、自由選択、合計124単位以上

入学時からの通算 GPA が1.5以上

(4) グローバル教養専修

本専修は日本語を母語とする学生と日本語を母語としない学生では、メジャーとして卒業するための要件が異なります。日本語を母語としない学生については、どの言語が母語であるかによって履修方法が異なりますので、担当のアドバイザーと十分に相談した上で、「グローバル教養専修卒業要件表（日本語非母語話者）」を参照し、履修してください。なお、日本語を母語とする（または日本語が母語に準ずる）学生が、英語および中国語で履修の上、グローバル教養専修として卒業するために必要な単位は次のとおりです。

基礎教育科目：ガイダンス科目10単位以上、合計16単位以上

専攻科目：語学技能科目36単位（「英語ⅠA」「英語ⅠB」「英語ⅡA」「英語ⅡB」の4科目16単位を含む。留学先で修得した単位を含む）、グローバル・スタディーズ科目36単位（英語で12単位以上、中国語で12単位以上）、合計72単位以上

基礎教育科目、専攻科目、自由選択、合計124単位以上

入学時からの通算 GPA が1.5以上

4. 卒業要件

		グローバル・コミュニケーション学類			
		英語特別専修 (注1)	中国語特別専修 (注2)	日本語特別専修 (注3)	グローバル教養専修 (注4)
基礎教育科目 16単位 (最低必要単位)	ガイダンス科目 10単位以上必修	グローバル・コミュニケーション入門② 外国語修得法② 上記2科目 4単位必修			
		グローバルリゼーションと社会② 論理的思考とコミュニケーション② イノベーションとリーダーシップ② 数的理解と統計② 上記4科目のうち3科目 6単位選択必修			
	学群共通科目	応用言語学④ 言語と心理④ グローバル・リーダーシップ・ セミナーⅠ② グローバル・リーダーシップ・ セミナーⅡ②		インターンシップ④ フィールド・スタディ④ 自己実現とキャリアデザイン② キャリアデザインⅠ② キャリアデザインⅡ②	
専攻科目 72単位 (最低必要単位)	語学技能科目 36単位必修	英語ⅠA④ 英語ⅠB④ 英語ⅡA④ 英語ⅡB④	中国語ⅠA④ 中国語ⅠB④ 中国語ⅡA④ 中国語ⅡB④	日本語ⅠA④ 日本語ⅠB④ 日本語ⅡA④ 日本語ⅡB④	英語ⅠA④ 英語ⅠB④ 英語ⅡA④ 英語ⅡB④
		{(注6)} { (注6)} { (注6)} { (注6)}			
		上記4科目16単位 必修に加え、英語 コミュニケーション科目群から 選択20単位	上記4科目16単位 必修に加え、中国 語コミュニケーション科目群から 選択20単位	上記4科目16単位 必修に加え、日本 語コミュニケーション科目群から 選択20単位	上記4科目16単位 必修に加え、英語と中国 語コミュニケーション 科目群からあわせて 20単位以上選択
自由選択	グローバル・ スタディーズ科目 36単位必修	日本文化系科目群、グローバル社会系科目群から選択36単位			
		受講言語は「英語」 に限る	受講言語は「中国 語」に限る	受講言語は「日本 語」に限る	受講言語は英語・中国語に 限る。英語・中国語ともそれ ぞれ12単位以上選択(注4)
自由選択		・基礎教育科目、専攻科目で、最低必要単位を超えて履修した単位 ・メジャーとしない科目群の科目 ・他学群専攻科目 ・他大学等（短期大学、海外留学の科目を含む）認定単位（P.196） ・各種技能審査による認定単位（P.197～199）			
卒業要件単位合計 基礎教育科目、専攻科目 自由選択、あわせて 124単位		【その他の要件】 1. 入学時からの通算 GPA が1.5以上 2. メジャーとして卒業することを希望する専修の修了要件単位数を満たすこと。			

(注1) 英語特別専修をメジャーとして卒業を希望する者は、専攻科目を全て英語で履修し、単位を修得することが必要です。また、英語特別専修をメジャーとして卒業を希望し、かつ英語による学位取得を目指す者は、基礎教育科目、専攻科目の全てを英語で履修し、124単位を修得することが必要です。

ただし、英語を母語とする（または英語が母語に準ずる）学生は、本専修をメジャーとして卒業を希望することはできません。

(注2) 中国語特別専修をメジャーとして卒業を希望する者は、専攻科目を全て中国語で履修し、単位を修得することが必要です。

ただし、中国語を母語とする（または中国語が母語に準ずる）学生は、本専修をメジャーとして卒業を希望することはできません。

(注3) 日本語特別専修をメジャーとして卒業を希望する者は、専攻科目を全て日本語で履修し、単位を修得することが必要です。

ただし、日本語を母語とする（または日本語が母語に準ずる）学生は、本専修をメジャーとして卒業を希望することはできません。

(注4) グローバル教養専修をメジャーとして卒業を希望する、日本語を母語としない者は、グローバル・スタディーズ科目の受講言語の指定はありません（英語・中国語・日本語の組み合わせ自由で、36単位選択必修）。詳細は、入学後に配布される「グローバル教養専修卒業要件表（日本語非母語話者）」を確認してください。

- ただし、他学群のマイナーを登録しようとする場合は、以下に注意してください。
1. マイナーの必修科目（または選択必修の全て）について、科目一覧ページの「他学群学生の履修」欄が「×」になっている専攻プログラム・専攻コース等の場合は、他学群生はそのマイナーを登録できません。
 2. 他学群生は、専攻プログラム・専攻コース等の抽選科目の優先順位によっては、マイナーの必修科目（または選択必修の全て）を履修できず、マイナーを修了できない場合があります。
 3. 他学群のマイナーの登録にあたっては、予め各キャンパス事務室教務担当に相談してください。

（注5）グローバル・コミュニケーション学群生は、認定単位数6単位以上のスコアのみ認定可能です。詳細は、P.197～199を確認してください。

（注6）一定以上の能力を有すると認められた者は、履修を免除される場合があります。免除された単位数は他の科目を修得することで卒業要件単位数を満たしてください。

5. 専修等案内

専攻科目を中心として、学生各自の目的や関心に応じて専門的に学ぶための特別専修・専修が設けられています。グローバル・コミュニケーション学群の専攻科目で構成される専修を登録すると、「学業成績単位修得証明書」に登録中のメジャーまたはマイナーの名称が記載されます。登録したメジャーまたはマイナーの修了要件を満たした上で卒業すると、卒業後の「学業成績単位修得証明書」には修了したメジャーまたはマイナーの名称が記載されます。

メジャー：メジャーを修了することは卒業の要件となっています。ただし、グローバル・コミュニケーション学群以外の専攻プログラム・専攻コースをメジャーとして登録することはできません。

マイナー：マイナーを修了することは卒業の要件ではありませんが、グローバル・コミュニケーション学群以外の他学群のものをマイナーとして登録することができます。マイナーの登録は、4セメスター目より受け付けます。アドバイザーの承認を得て、所定の期間に手続きを行ってください。マイナーの変更は、その後、卒業を希望する学期の定期試験期間最終日までできます。

専修の種類は、以下のとおりです。

グローバル・コミュニケーション学群

専修等	メジャー	マイナー
英語	○	
中国語	○	
日本語	○	
グローバル教養	○	
グローバル研究 (E)		○※
グローバル研究 (C)		○※

※ 他学群生のみマイナー登録可

上記のうち、英語・中国語・日本語特別専修の語学教育では、次の4点を重視しています。

①スキル

4技能（聞く、話す、読む、書く）、デジタルリテラシー、テストスキル、アカデミックスキル

②クリティカルシンキング

考える力（情報を取捨選択し、その背景を理解し、仮説を立て、情報を統合し、明確に伝える力）

③学修者オートノミー

振り返り、学修目標設定、学修計画、将来目標設定、スタディスキル

④異文化理解

時事問題、文化背景（歴史、宗教、習慣、伝統）、多様性の受容、新しい価値観の創造

英語特別専修

(1) 教育目的

英語特別専修では、英語を修得する中で、言語の構造や機能および英語が話されている社会や文化を深く学び、日本と世界を比較対照することができる見識を培いながら、協働活動を通してグローバルリーダーシップの基本を身につけることを目的とした教育を行います。

具体的には、次の力を身につけることを目指します。

1) 英語を高い実用レベルで運用する力

2) 自国・世界の社会・文化等を理解・比較検証し、英語で発信する力

3) 多言語環境の学生生活を通して得る、グローバル社会・多文化共生の中で生きる力

4) イノベーションやリーダーシップのプロジェクトを通して得る高い協働力・問題解決能力

また、本専修の具体的な到達目標として、卒業時までに TOEFL iBT®67点以上、TOEIC®710点以上、IELTS™6.0以上、又は CEFR B2 以上の語学力の修得および英語圏の地域文化の理解を基に高度な内容でコミュニケーションができることを設定しています。

英語特別専修の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本専修では、本学の教育の基本理念と本学群の「教育課程編成・実施の方針」、本学群の教育目標を踏まえた上で、目的を達成するための教育課程を編成しています。

①教育課程の編成

ア) 語学技能科目では、英語を高い実用レベルで運用する力を身につけます。「入学時の語学力から卒業時の語学力までの上達度」「各種語学力試験のスコア等が保証する一定レベルの語学力」「言語に関する構造や機能、及び言語文化等に関する理解」の3つの柱を実現するため、「基礎」、「演習」、「特別演習」、「コミュニケーション」のカテゴリーで多面的かつ体系的に学びます。

イ) グローバル・スタディーズ科目では、「日本文化系科目群」「グローバル社会系科目群」からそれぞれ英語で受講することで、自国・世界の社会・文化等を理解・比較検証し、英語で発信する力を身につけます。またこれらの科目では、短期留学生と学びを共にすることで、日本の大学にいながらにして「生きたグローバル感覚」を醸成します。

ウ) 英語圏の大学への留学では、多言語環境の学生生活を通して、グローバル社会・多文化共生の中で生きる力を、イノベーションやリーダーシップのプロジェクトを通して、高い協働力・問題解決能力を身につけます。

②学修方法・学修過程

ア) 1セメスターから3セメスター

集中的な英語教育プログラムを展開し、徹底した語学トレーニングを行うことで、全ての学生を本専修で設定する語学レベルまで引き上げていきます。授業以外の語学学修の補強として、授業の内容とリンクしたオンライン学修コンテンツを活用します。語学学修の補強とは別に、各授業において予習・復習として与えられる多くの課題もあるため、毎日が英語漬けとなるような教育プログラムです。また留学に向けて、留学先の歴史や文化を学び、様々なグループプロジェクトの実践を通して、異文化理解について学ぶ事前学修を行います。

イ) 4セメスターまたは5セメスター

1学期間、原則として全員が海外の大学へ留学します。留学先では、語学力のさらなる向上のためのトレーニングに加え「サービスマーケティング」を通して、本学群の留学プログラムの特色である「グループプロジェクト」を行います。このグループプロジェクトでは、一つの課題をグループで考え、結論を導き出し、協働力やリーダーシップを身につけます。留学期間を通して様々な機会に各国から集まってきた留学生との交流を行い、文化や習慣の違いなどを学ぶこともできます。

ウ) 5セメスター以降*

本学群の日本語を母語としない学生や交換留学生等とともに、日本や世界の様々な問題や課題に関する授業を履修します。授業は全て英語で開講しますので、これらの科目を履修するには、TOEFL ITP®500点以上、またはそれに相当する英語能力があることを示す証明書を提示し、かつ英語特別専修の課すエッセイ試験にて、一定の基準をクリアすることが必要です。

*基準とするレベルに達している場合は3セメスター以降

③学修成果の評価の在り方

ア) 学修成果は「卒業認定・学位授与の方針」に定められた項目と、学修方法・学修過程（カリキュラム・マップ等）により示された、科目が目標とする学修の到達度が学生自身にとってどの程度であったかを示すものです。したがって学修成果は科目それぞれで設定されています。

イ) 学修成果の評価方法は、科目ごとのシラバスにおいて具体的に示します。また、ルーブリック評価など（成功の度合いを示すレベルや、それぞれのレベルに対応するパフォーマンス（プレゼンテーション、協働作業など）の特徴を示した評価規準からなる表）を取り入れることによって、成績評価を分かりやすく可視化し、厳格に評価します。

中国語特別専修

(1)教育目的

中国語特別専修では、中国語を修得する中で、言語の構造や機能および当該言語が話されている社会や文化を深く

学び、日本と世界を比較対照することができる見識を培いながら、協働活動を通してグローバル・リーダーシップを身につけることを目的とした教育を行います。

具体的には次のような力を身につけることを目指します。

- 1) 中国語を高い実用レベルで運用する力
- 2) 自国の社会・文化等を理解・比較検証し、中国語で発信する力
- 3) 多言語環境の学生生活を通して得る、グローバル社会・多文化共生の中で生きる力
- 4) イノベーションやリーダーシップのプロジェクトを通して得る高い協働力・問題解決能力

また、本専修の具体的な到達目標として、卒業時までにはHSK（漢語水平考試）5級以上または中国語検定2級以上の語学力の修得、および中国語圏の地域文化の理解を基に高度な内容でコミュニケーションができることを設定しています。

中国語特別専修の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本専修では、本学の教育の基本理念と本学群の「教育課程編成・実施の方針」、本学群の教育目標を踏まえた上で、目的を達成するための教育課程を編成しています。

①教育課程の編成

ア) 語学技能科目では、中国語を高い実用レベルで運用する力を身につけます。「入学時の語学力から卒業時の語学力までの上達度」「各種語学力試験のスコア等が保証する一定レベルの語学力」「言語に関する構造や機能、及び言語文化等に関する理解」の3つの柱を実現するため、「基礎」、「演習」、「特別演習」、「コミュニケーション」のカテゴリーで多面的かつ体系的に学びます。

イ) グローバル・スタディーズ科目では、「日本文化系科目群」「グローバル社会系科目群」からそれぞれ中国語で受講することで、自国・世界の社会・文化等を理解・比較検証し、中国語で発信する力を身につけます。またこれらの科目では、短期留学生と学びを共にすることで、日本の大学にいながらにして「生きたグローバル感覚」を醸成します。

ウ) 中国語圏の大学への留学では、多言語環境の学生生活を通して、グローバル社会・多文化共生の中で生きる力を、イノベーションやリーダーシップのプロジェクトを通して、高い協働力・問題解決能力を身につけます。

②学修方法・学修過程

ア) 1セメスターから3セメスター

中国語による中国語授業（直接法）の集中的な教育プログラムを展開し、徹底した語学トレーニングを行うことで、すべての学生を本専修で設定したレベルまで引き上げていきます。授業では中国本土でも権威のある教材を導入し、授業時間外ではコミュニケーション課題を中国語で完成するなど、毎日中国語漬けとなる教育プログラムで語学力のさらなる効果的な修得を目指します。また、留学に向けて留学先の歴史や文化を学び、様々なグループプロジェクトの実践を通して、異文化理解について学ぶ事前学修を行います。

イ) 4セメスター

原則として全員が海外の大学へ留学します。留学先においては、語学力のさらなる向上のためのトレーニングに加え、本学群の留学プログラムの特色である「グループプロジェクト」を行います。このグループプロジェクトでは、一つの課題をグループで考え、結論を導き出し、協働力やリーダーシップを身につけます。本学の学生だけでなく、各国から集まってきた留学生同士で行われるため、文化や習慣の違い等も尊重しながら進める必要があります。

ウ) 5セメスター以降*

本学群の日本語を母語としない学生や交換留学生等とともに、日本や世界の様々な問題や課題に関する授業を履修します。授業は全て中国語で開講しますので、これらの科目を履修するには、HSK4級以上またはそれに相当する中国語能力があることを示す証明書の提示等が必要です。

*基準とするレベルに達している場合は3セメスター以降

③学修成果の評価の在り方

ア) 学修成果は「卒業認定・学位授与の方針」に定められた項目と、学修方法・学修過程（カリキュラム・マップ等）により示された、科目が目標とする学修の到達度が学生自身にとってどの程度であったかを示すものです。したがって学修成果は科目それぞれで設定されています。

イ) 学修成果の評価方法は、科目ごとのシラバスにおいて具体的に示します。またルーブリック評価など（成功の度合いを示すレベルや、それぞれのレベルに対応するパフォーマンス（プレゼンテーション、協働作業など）の特徴を示した評価規準からなる表）を取り入れることによって、成績評価を分かりやすく可視化し、厳格に評価します。

日本語特別専修

(1)教育目的

日本語特別専修では、第二言語としての日本語を修得する中で、言語の構造や機能、および日本社会や日本文化を深く学び、日本と母国、そして世界を比較対照することができる見識を培いながら、協働活動を通してグローバル・リーダーシップの基本を身につけることを目的とした教育を行います。

具体的には、次のような力を身につけることを目指します。

- 1) 第二言語としての日本語を高い実用レベルで運用する力
- 2) 自国・世界の社会・文化等を理解・比較検証し、日本語で発信する力
- 3) 多言語環境の学生生活を通して得る、グローバル社会・多文化共生の中で生きる力
- 4) イノベーションやリーダーシップのプロジェクトを通して得る高い協働力・問題解決能力

また、学生が自律的に学修を管理できるよう学修の意識化を促し、各自の目標に合わせた努力ができるようになることを目指しています。本専修の具体的な到達目標として、卒業時までにはJF日本語教育スタンダードC1またはC2、日本語能力試験N1、CEFR C1またはC2相当、J.TEST実用日本語検定準A級、BJTビジネス日本語能力テストJ1レベルの修得および、日本文化の理解を基に高度な内容でコミュニケーションができることを設定しています。

日本語特別専修の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本専修では、本学の教育の基本理念と本学群の「教育課程編成・実施の方針」、本学群の教育目標を踏まえた上で、目的を達成するための教育課程を編成しています。

①教育課程の編成

ア) 語学技能科目では、第二言語としての日本語を高い実用レベルで運用する力を身につけます。「入学時の語学力から卒業時の語学力までの上達度」「各種語学力試験のスコア等が保証する一定レベルの語学力」「言語に関する構造や機能、及び言語文化等に関する理解」の3つの柱を実現するため、「基礎」、「演習」、「特別演習」、「コミュニケーション」のカテゴリーで多面的かつ体系的に学びます。

イ) グローバル・スタディーズ科目では、「日本文化系科目群」「グローバル社会系科目群」からそれぞれ日本語で受講することで、自国・世界の社会・文化等を理解・比較検証し、日本語で発信する力を身につけます。また、これらの科目では日本人学生と学びを共にすることで、「生きたグローバル感覚」を醸成します。

②学修方法・学修過程

ア) 1セメスターから4セメスター

集中的な日本語教育プログラムを展開し、徹底した日本語トレーニングを行うことで、すべての学生を本専修で設定したレベルまで引き上げていきます。また、各学生の日本語のレベルやニーズに応じて自律的に学べる個別学修システムを導入しており、学生一人ひとりにまで行き届いたきめ細かな日本語教育を行っていきます。

イ) 5セメスター以降*

様々な言語・文化背景の学生とともに、日本や世界の様々な問題や課題に関する授業を履修します。授業は全て日本語で開講しますので、これらの科目を履修するには日本語能力試験N2以上又は、それに相当する日本語能力があることを示す証明書の提示等が必要です。

*基準とするレベルに達している場合は3セメスター以降

③学修成果の評価の在り方

ア) 学修成果は「卒業認定・学位授与の方針」に定められた項目と、学修方法・学修過程（カリキュラム・マップ等）により示された、科目が目標とする学修の到達度が学生自身にとってどの程度であったかを示すものです。したがって学修成果は科目それぞれで設定されています。

イ) 学修成果の評価方法は、科目ごとのシラバスにおいて具体的に示します。また、ループリック評価など（成功の度合いを示すレベルや、それぞれのレベルに対応するパフォーマンス（プレゼンテーション、協働作業など）の特徴を示した評価規準からなる表）を取り入れることによって、成績評価を分かりやすく可視化し、厳格に評価します。

グローバル教養専修

(1)教育目的

グローバル教育専修は、母語以外の2言語の学修を目指す学生の要望等に応えることを可能とした、英語特別専修、中国語特別専修、日本語特別専修とは異なる専修です。

一つの言語の視点からでは得ることのできない俯瞰的な視点から、グローバル社会の全体像を見直し、独自の視点を持てるようになることが本専修の目的です。母語を含めた3言語を修得し、自国・世界の社会・経済・文化等を、それぞれの言語で学修することで、多様な価値観や世界観をより正確に比較・対照を行うことが可能となります。

グローバル教養専修の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本専修では、本学の教育の基本理念と本学群の「教育課程編成・実施の方針」、本学群の教育目標を踏まえた上で、目的を達成するための教育課程を編成しています。

①教育課程の編成

ア) 語学技能科目では、母語以外の2言語（英語・中国語・日本語）を学修します。「入学時の語学力から卒業時の語学力までの上達度」「各種語学力試験のスコア等が保証する一定レベルの語学力」「言語に関する構造や機能、及び言語文化等、言語学や文学に関する専門的な理解」の3つの柱を実現するため、「基礎」、「演習」、「特別演習」、「コミュニケーション」のカテゴリーで多面的かつ体系的に学びます。

イ) グローバル・スタディーズ科目では、「日本文化系科目群」「グローバル社会系科目群」から複数言語で受講することにより、異なる言語・文化から生まれる複数の解釈を学修し、広い視野を身につけます。具体的には日本を含む世界の文化・経済・ジェンダー・教育等の様々な科目を用意しています。またこれらの科目では、短期留学生と学びを共にすることで、日本国内の大学にいながらにして「生きたグローバル感覚」を醸成します。

②学修方法・学修過程

ア) 入学時に英語、中国語、日本語いずれかの言語（母語の学修は不可）の学びを深めます。

イ) 4セメスター以降、あるいはそれ以前の適切な時期より第二・第三言語でグローバル・スタディーズ科目を履修し、単位を修得することを可能としています。第二言語で履修した科目と同一の科目を、第三言語でも履修することにより、両外国語の語彙や文法上の差異、両外国語の習熟度を客観的に把握します。

※日本人学生と外国人留学生等によって卒業要件が異なります。

③学修成果の評価の在り方

ア) 学修成果は「卒業認定・学位授与の方針」に定められた項目と、学修方法・学修過程（カリキュラム・マップ等）により示された、科目が目標とする学修の到達度が学生自身にとってどの程度であったかを示すものです。したがって学修成果は科目それぞれで設定されています。

イ) 学修成果の評価方法は、科目ごとのシラバスにおいて具体的に示します。また、ループリック評価など（成功の度合いを示すレベルや、それぞれのレベルに対応するパフォーマンス（プレゼンテーション、協働作業など）の特徴を示した評価規準からなる表）を取り入れることによって、成績評価を分かりやすく可視化し、厳格に評価します。

グローバル研究（E）マイナープログラム

(1)教育目的

グローバル研究（E）マイナープログラムは、日本の文化等および英語が話されている国や地域の社会や文化を広く研究し、日本と世界を比較対照することができる見識を培うことを目的としています。

(2)カリキュラムの特徴

授業はすべて英語で開講し、日本の社会や文化およびグローバル社会等について学びます。

具体的な特徴として、日本の文化、芸術、歴史、思想、宗教等の概論を通して、広く日本について学ぶことによって視野を広げ、視点を確立します。同時に世界にも目を向け、異文化理解、経済、経営、政治、ジェンダー等、グローバル社会において重要視されているテーマについても理解を深めます。母語のみならず、英語でも議論ができるように、語学力やコミュニケーション能力も高めていながら、言語や文化の異なる学生とともに学修する仕組みとしています。

なお、本プログラムは、一定の英語力を必要とします。

マイナー：グローバル・スタディーズ科目（受講科目言語は英語に限る）から合計20単位以上を修得してください。

グローバル研究（C）マイナープログラム

(1)教育目的

グローバル研究（C）マイナープログラムは、日本の文化等および中国語が話されている地域の社会や文化を広く研究し、日本と中国、そして世界を比較対照することができる見識を培うことを目的としています。

(2) カリキュラムの特徴

授業はすべて中国語で開講し、日本の社会や文化およびグローバル社会等について学びます。

具体的な特徴として、日本の文化、芸術、歴史、思想、宗教等の概論を通して、広く日本について学ぶことによって視野を広げ、視点を確立します。同時に世界にも目を向け、異文化理解、経済、経営、政治、ジェンダー等、グローバル社会において重要視されているテーマについても理解を深めます。母語のみならず、中国語でも議論ができるように、語学力やコミュニケーション能力も高めていながら、言語や文化の異なる学生とともに学修する仕組みとしています。

なお、本プログラムは、一定の中国語力を必要とします。

マイナー：グローバル・スタディーズ科目(受講科目言語は中国語に限る)から合計20単位以上を修得してください。

6. 科目一覧と諸注意

①履修年次欄に1とある科目は1年生以上が履修可能です。2～4も同様です。

②他学群学生の履修欄が○の場合、他学群の学生も履修できます。△は担当教員の許可を得た上で履修できます。

×は他学群の学生は履修できません。

③開講言語とは、各授業科目がどの言語で開講されるかを示しています。Eは英語、Cは中国語、Jは日本語で開講することを意味します。

④先修条件とは、当該科目を履修するために先に修得しなければならない科目です。

科目区分		科目コード	授 業 科 目	授業方法	開講言語	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか
基礎 教育 科目	ガイ ダンス 科目	ACG100*X	グローバル・コミュニケーション入門	講義	E・C・J	2	1	×	※ 4
		LIN100*X	外国語修得法	講義	E・C・J	2	1	×	※ 4
		INT100*X	グローバル化と社会	講義	E・J	2	1	×	※ 4
		MGM100*X	イノベーションとリーダーシップ	講義	E・J	2	1	×	※ 4
		PHL103*X	論理的思考とコミュニケーション	講義	E・J	2	1	×	※ 4
		MTH1000X	数的理解と統計	講義	J	2	1	○	
	学 群 共 通 科 目	LIN3430X	応用言語学	演習	E	4	2	△	
		LIN3330X	言語と心理	講義	E	4	2	○	
		###39**X	グローバル・リーダーシップ・セミナーⅠ	演習	E・C・J	2	3	△	※ 4
		###49**X	グローバル・リーダーシップ・セミナーⅡ	演習	E・C・J	2	4	△	グローバル・リーダーシップ・セミナーⅠ ※ 4
		###36**X	インターンシップ	実習	E・C・J	4	3	△	※ 4
		###36**X	フィールド・スタディ	実習	E・C・J	4	3	△	※ 4
		ACG1002X	自己実現とキャリアデザイン	講義	J	2	1	×	
		ACG2000X	キャリアデザインⅠ	講義	J	2	3	×	
	ACG2001X	キャリアデザインⅡ	講義	J	2	3	×		
専 攻 科 目	語 学 技 能 科 目 ※ 1	ENG1400X	英語Ⅰ A	演習	E	4	1	×	
		ENG1401X	英語Ⅰ B	演習	E	4	1	×	
		ENG1402X	英語Ⅱ A	演習	E	4	1	×	英語Ⅰ A
		ENG1403X	英語Ⅱ B	演習	E	4	1	×	英語Ⅰ B
		ENG14**X	初級英語演習	演習	E	2	1	×	英語レベル1の者のみ履修可 ※ 4
		ENG24**X	中級英語演習	演習	E	2	1	×	英語レベル1と2の者のみ履修可 ※ 4
		ENG44**X	上級英語演習	演習	E	2	1	×	英語レベル2と3の者のみ履修可 ※ 4
		ENG44**X	英語特別演習Ⅰ	演習	E	4	1	×	担当教員の許可を得て履修可 ※ 4
		ENG44**X	英語特別演習Ⅱ	演習	E	4	1	×	英語特別演習Ⅰ 担当教員の許可を得て履修可 ※ 4
		ELS2410X	英語コミュニケーション AⅠ	演習	E	2	2	×	
		ELS3410X	英語コミュニケーション AⅡ	演習	E	4	3	×	英語コミュニケーション AⅠ
		ELS2420X	英語コミュニケーション BⅠ	演習	E	2	2	×	
		ELS3420X	英語コミュニケーション BⅡ	演習	E	4	3	×	英語コミュニケーション BⅠ
		ELS3470X	翻訳 A	演習	E	4	3	△	

「*」：数字コードが複数存在する科目

(次のページに続く)

「###」：3文字コードが複数存在する科目

科目区分	科目コード	授 業 科 目	授業方法	開講言語	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか
専攻科目	英語コミュニケーション科目群 ※1	ELS4470X 翻訳 B	演習	E	4	3	△	
		ELS3471X 英語通訳 I	演習	E	4	3	△	
		ELS4471X 英語通訳 II	演習	E	4	3	△	英語通訳 I
		ENG3470X 実践英語 A	演習	E	2	2	×	
		ENG3471X 実践英語 B	演習	E	2	2	×	
		ENG3472X 実践英語 C	演習	E	2	2	×	
		ENG3473X 実践英語 D	演習	E	2	2	×	
		ENG3474X 実践英語 E	演習	E	2	2	×	
		ENG3475X 実践英語 F	演習	E	2	2	×	
		ENG3476X 実践英語 G	演習	E	2	2	×	
		ENG3477X 実践英語 H	演習	E	2	2	×	
		ENG3478X 実践英語 I	演習	E	2	2	×	
		ENG3479X 実践英語 J	演習	E	2	2	×	
	中国語コミュニケーション科目群 ※2	CHN1400X 中国語 I A	演習	C	4	1	○	
		CHN1401X 中国語 I B	演習	C	4	1	○	
		CHN2400X 中国語 II A	演習	C	4	1	○	中国語 I A
		CHN2401X 中国語 II B	演習	C	4	1	○	中国語 I B
		CHN140*X 初級中国語演習	演習	C	2	1	○	※ 4
		###24**X 中級中国語演習	演習	C	2	1	○	※ 4
		CLS34**X 上級中国語演習	演習	C	2	1	○	※ 4
		CLS4450X 中国語特別演習 I	演習	C	4	1	○	担当教員の許可を得て履修可
		CLS4451X 中国語特別演習 II	演習	C	4	1	○	中国語特別演習 I 担当教員の許可を得て履修可
		CLS3450X 中国語コミュニケーション A I	演習	C	2	2	○	
		CLS4452X 中国語コミュニケーション A II	演習	C	4	3	○	中国語コミュニケーション A I
		CLS3451X 中国語コミュニケーション B I	演習	C	2	2	○	
		CLS4453X 中国語コミュニケーション B II	演習	C	4	3	○	中国語コミュニケーション B I
		CLS3420X 日中翻訳技法	演習	C	2	2	○	
		CLS3440X 日中通訳技法	演習	C	2	2	○	
		CHN3470X 実践中国語 A	演習	C	2	2	○	
		CHN3471X 実践中国語 B	演習	C	2	2	○	
		CHN3472X 実践中国語 C	演習	C	2	2	○	
		CHN3473X 実践中国語 D	演習	C	2	2	○	
		CHN3474X 実践中国語 E	演習	C	2	2	○	
		CHN3475X 実践中国語 F	演習	C	2	2	○	
		CHN3476X 実践中国語 G	演習	C	2	2	○	
		CHN3477X 実践中国語 H	演習	C	2	2	○	
		CHN3478X 実践中国語 I	演習	C	2	2	○	
		CHN3479X 実践中国語 J	演習	C	2	2	○	
	日本語コミュニケーション科目群 ※3	JPN1400X 日本語 I A	演習	J	4	1	×	
		JPN1401X 日本語 I B	演習	J	4	1	×	
		JPN1402X 日本語 II A	演習	J	4	1	×	日本語 I A
		JPN1403X 日本語 II B	演習	J	4	1	×	日本語 I B
		JPN14**X 初級日本語演習	演習	J	2	1	×	※ 4
		JPN24**X 中級日本語演習	演習	J	2	1	×	※ 4
		JPN34**X 上級日本語演習	演習	J	2	1	×	※ 4
		JPN3481X 日本語特別演習 I	演習	J	4	1	×	担当教員の許可を得て履修可
		JPN3482X 日本語特別演習 II	演習	J	4	1	×	日本語特別演習 I 担当教員の許可を得て履修可
		JPN3461X 日本語コミュニケーション A I	演習	J	2	2	×	
		JPN4460X 日本語コミュニケーション A II	演習	J	4	3	×	日本語コミュニケーション A I
		JPN3462X 日本語コミュニケーション B I	演習	J	2	2	×	
		JPN4461X 日本語コミュニケーション B II	演習	J	4	3	×	日本語コミュニケーション B I

「*」: 数字コードが複数存在する科目

(次のページに続く)

「###」: 3 文字コードが複数存在する科目

科目区分	科目コード	授 業 科 目	授 業 方 法	開講言語	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか
専攻科目	グローバル・スタディーズ科目 ※4 ※5	日本文化系科目群	JPF304*X 日本の文化	講義	E 4	2	○	
					C 4	2	○	
					J 4	2	△	
			JPF334*X 近代の日本文化論	講義	E 4	2	○	
					C 4	2	○	
					J 4	2	△	
			LIT308*X 比較文化論	講義	E 4	2	○	
					C 4	2	○	
					J 4	2	△	
			JPF307*X 日本文学概論	講義	E 4	2	○	
					C 4	2	○	
					J 4	2	△	
			JPF317*X 日本文学作品論	講義	E 4	2	○	
					C 4	2	○	
					J 4	2	△	
			LIT338*X 比較文学研究	講義	E 4	2	○	
					C 4	2	○	
					J 4	2	△	
			JPF306*X 日本の芸術	講義	E 4	2	○	
					C 4	2	○	
					J 4	2	△	
			JPF336*X 日本の映像芸術	講義	E 4	2	○	
					C 4	2	○	
					J 4	2	△	
			JPF303*X 日本の舞台芸術	講義	E 4	2	○	
					C 4	2	○	
					J 4	2	△	
			JPF303*X 日本の歴史	講義	E 4	2	○	
					C 4	2	○	
					J 4	2	△	
			JPF333*X 日本の近代史	講義	E 4	2	○	
					C 4	2	○	
					J 4	2	△	
			JPF338*X 日本の思想と宗教	講義	E 4	2	○	
					C 4	2	○	
					J 4	2	△	
			###3***X 比較人文学特論	講義	E 4	2	○	
					C 4	2	○	
					J 4	2	△	
グローバル・社会系科目群	グローバル・社会系科目群	ELS341*X 英米文化講読	演習	E 4	4	2	○	
				J 4	4	2	△	
		LIT317*X 英米文化研究	講義	E 4	4	2	○	
				J 4	4	2	△	
		HIS332*X 中国文化史	講義	C 4	4	2	○	
				J 4	4	2	△	
		ANS314*X 中国文化論	講義	C 4	4	2	○	
				J 4	4	2	△	
		COM334*X 異文化コミュニケーション論	講義	E 4	4	2	○	
				C 4	4	2	○	
		ECO334*X 金融と経済	講義	J 4	4	2	△	
				C 4	4	2	○	

「*」：数字コードが複数存在する科目

(次のページに続く)

「###」：3文字コードが複数存在する科目

科目区分	科目コード	授 業 科 目	授 業 方 法	開講言語	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか
専攻科目	グローバル・スタディーズ科目群 ※4 ※5	MGM301*X 日本型経営論	講義	E	4	2	○	
				C	4	2	○	
				J	4	2	△	
		ECO337*X 現代の産業と企業	講義	E	4	2	○	
				C	4	2	○	
				J	4	2	△	
		POL300*X 国際政治論	講義	E	4	2	○	
				C	4	2	○	
				J	4	2	△	
		INT334*X 国際関係論	講義	E	4	2	○	
				C	4	2	○	
				J	4	2	△	
		SOC335*X 日本人と国際社会	講義	E	4	2	○	
				C	4	2	○	
				J	4	2	△	
		ANT333*X グローバル社会とジェンダー	講義	E	4	2	○	
				C	4	2	○	
				J	4	2	△	
		SOC335*X 比較社会論	講義	E	4	2	○	
				C	4	2	○	
				J	4	2	△	
		EDU332*X 比較教育論	講義	E	4	2	○	
				C	4	2	○	
				J	4	2	△	
		###3***X グローバル社会特論	講義	E	4	2	○	
				C	4	2	○	
				J	4	2	△	
		COM344*X 国際教養研究 A	演習	E	2	2	○	
				C	2	2	○	
		COM347*X 国際教養研究 B	演習	E	2	2	○	
				C	2	2	○	
		COM347*X 国際教養研究 C	演習	E	2	2	○	
				C	2	2	○	
		COM343*X 国際教養研究 D	演習	E	2	2	○	
				C	2	2	○	

「*」：数字コードが複数存在する科目

「###」：3文字コードが複数存在する科目

※1 英語を母語とする（または英語が母語に準ずる）学生は、履修することができません。（翻訳A、翻訳B、通訳I、通訳IIを除く）

※2 中国語を母語とする（または中国語が母語に準ずる）学生は、履修することができません。（日中翻訳技法、日中通訳技法を除く）

※3 日本語を母語とする（または日本語が母語に準ずる）学生は、履修することができません。

※4 これらの授業科目の後に続く（ ）内のサブタイトルが異なれば、複数の科目を履修することが可能です。

※5 開講言語により、以下の履修条件があります。

英 語：TOEFL（ITP）500点以上またはそれに相当する英語能力があることを示す証明書を提出し、かつ英語特別専修の課すエッセイ試験にて、一定の基準をクリアすること。

中国語：HSK（漢語水平考試）4級以上またはそれに相当する中国語能力があることを示す証明書を提出すること。

日本語：日本語能力試験 N2 以上またはそれに相当する日本語能力があることを示す証明書を提出すること。

IV 他大学等における履修

1. 海外留学による修得単位の認定

1. 本学と単位互換の協定を結んでいる提携校への留学

- (1) 修得した単位が本学のどの分野の科目として認定されるかは、各学群教授会の認定によります。
- (2) 2年以内に限り、留学期間も本学における在学期間に算入されます。
- (3) 事前にアドバイザーに相談してください。

2. 提携校以外への留学

- (1) 教育上有益と認められる場合、修得した単位が本学卒業に必要な単位として認められることがあります。
- (2) 事前にアドバイザーに相談してください。

2. 特別聴講学習プログラム

1. 他大学等における履修（海外留学を除く）

他大学等において授業科目を履修し、単位を修得したとき、その単位を本学の卒業に必要な単位に算入することができます。

ただし、大学・短期大学で修得した単位であること、本学の教育上有益であると認められるものであることが条件となります。なお、履修に際してはアドバイザーの承認を必要とし、**履修単位は学期ごとの履修単位数の上限に含まれます。**

本学においては、以下のとおり他大学との単位互換協定に基づいた相互交流（特別聴講生としての派遣と受入れ）が可能となっています。各々の募集や追加項目については、掲示等でお知らせします。

＜単位互換協定校＞

- (1) 沖縄国際大学、名城大学、沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学
- (2) 放送大学
- (3) 首都圏西部大学単位互換協定会加盟校
- (4) 学術・文化・産業ネットワーク多摩加盟校

V 技能審査による単位認定

1. 英語

各種技能審査（実用英語技能検定、TOEFL[®]、TOEIC[®]、IELTS[™]）のスコアにもとづき、以下の要領で単位認定を行います。

名 称	級・得点	認定単位数
実用英語技能検定	1 級	8
	準 1 級	4
TOEFL [®] (IBT)	100～120	8
	92～99	6
	79～91	4
	61～78	2
TOEIC [®] Listening & Reading Test	875～990	8
	810～874	6
	730～809	4
	700～729	2
IELTS [™] (アカデミック・モジュール)	7 ～ 9	8
	6. 5	6
	6	4
	5. 5	2

申請内容確認のため面談を行う場合がありますので、あらかじめ各キャンパス事務室教務担当に

技能審査による単位認定
他大学等における履修

- 英語を母語または母語に準ずる言語とする者は、単位認定申請できません。該当する可能性のある者は、~~あらかじめ学術館3階コナーストーンセンター事務室で確認してください。~~
- 単位認定申請は、各学期定期試験期間終了日の2週間前より、定期試験期間終了日まで、~~学術館3階コナーストーンセンター事務室で受け付けます。~~複数の技能審査を申請する場合は、まとめて申請してください。入学以前に取得したものについては、入学直後のオリエンテーション期間に申請してください。ただし、入学日より遡って7ヶ月以内に取得したものに限りです。
- 申請時には、学生証、スコア等証明書の原本を提出する必要があります。詳細についてはe-Campus掲示で確認してください。
- 資格・~~得点~~については、申請受付開始日より遡って7ヶ月以内に取得したものが対象となります（受験日＝スコア取得日。ただし、英検およびIELTSは合格証書に記載された発行日）。単位は申請した学期の単位（自由選択）として認定しますが、履修登録単位数の上限には含まれません。
- 2回目以降の単位認定申請については以下のとおりです。下位の認定単位数との差分にあたる単位数が追加登録されます。
 - 同一技能審査の級・得点が上がったことによる認定単位数は、~~上位の認定単位数に置き換えられます。~~
 - 技能審査の種類ごとに単位を認定します。
- 単位認定は言語ごとに12単位（組み合わせ自由）を上限とし、卒業要件単位として認めます。なお、本学学則第45条に基づき、本学において修得したものとみなすことができる単位数の上限60単位に含まれます。
- TOEFL[®]-IPT、TOEIC[®]-IP、TOEIC[®]-Speaking & Writing Tests、IELTS[™] ジェネラル・トレーニング・モジュールのスコアは対象としません。
*ITP/IP=Institutional (Testing) Program…大学等での団体受験
- 郵送による申請、~~本人以外からの申請は受け付けません。~~
- 休学中の申請はできません。
- グローバル・コミュニケーション学群の学生は、「認定単位数」6単位以上の級・得点が対象です。

スコア

2. 中国語

各種技能審査（漢語水平考試 漢語 HSK および中国語検定試験）のスコアに基づき、以下の要領で単位認定を行います。

名 称	級	認定単位数
漢語水平考試 (HSK)	6 級 (180点以上)*	8
	5 級 (180点以上)*	4
	4 級	2
中国語検定試験	1 級	8
	準 1 級	6
	2 級	4
	3 級	2

※ただし、聞き取り、読解、作文の各分野で60点以上を取得していること。

- 1) 中国語を母語または母語に準ずる言語とする者は、単位認定申請できません。
- 2) 単位認定申請前に上記 1) の確認のための面談を受けて「単位認定申請資格証明書」を取得し、申請時に提出してください。
あらかじめ
- 3) 「単位認定申請資格証明書」が無い場合は、申請を受け付けません。ただし、2 回目以降の申請時には必要ありません。
- 4) 単位認定申請は、各学期定期試験期間終了日の 2 週間前より、定期試験期間終了日まで、~~学而館 3 階コーナー~~
~~トーンセンター 事務室~~ で受け付けます。複数の技能審査を申請する場合は、まとめて申請してください。入学以前に取得したものについては、入学直後のオリエンテーション期間に申請してください。ただし、入学日より遡って 7 ヶ月以内に取得したものに限りです。
- 5) 申請時には、学生証、スコア等証明書の原本、単位認定資格証明書を提出する必要があります。
詳細については e-Campus 掲示で確認してください。
- 6) 級については、申請受付開始日より遡って 7 ヶ月以内に取得したものが対象となります(受験日 = スコア取得日)。
単位は申請した学期の単位 (自由選択) として認定しますが、履修登録単位数の上限には含まれません。**ただし、中検は合格証書に記載された発行日**
- 7) 2 回目以降の単位認定申請については以下のとおりです。
a. 同一技能審査の級が上がったことによる認定単位数は、~~上位の認定単位数に置き換えられます。~~
b. 技能審査の種類ごとに単位を認定します。**下位の認定単位数との差分にあたる単位数が追加登録されます。**
- 8) 単位認定は言語ごとに 12 単位 (組み合わせ自由) を上限とし、卒業要件単位として認めます。なお、本学学則第 45 条に基づき、本学において修得したものとみなすことができる単位数の上限 60 単位に含まれます。
- 9) HSK 口試のスコアは対象としません。
- 10) ~~郵送による申請~~、本人以外からの申請は受け付けません。
- 11) 休学中の申請はできません。
- 12) グローバル・コミュニケーション学群の学生は、認定単位数 6 単位以上の級が対象です。

3. 簿記

日本商工会議所主催簿記検定試験の合格に基づき、以下の要領で単位認定を行います。

名 称	級	認定単位数
日本商工会議所主催 簿記検定試験	2 級	4
	3 級	2

- 1) ビジネスマネジメント学群ビジネスマネジメント学類所属の学生は「会計・財務科目群」の単位として認定され、ビジネスマネジメント学群アビエーションマネジメント学類所属の学生は「学類共通科目」の単位として認定されます。

ビジネスマネジメント学群以外に所属する学生は、「自由選択」として単位認定されます。なお、技能審査による単位認定は、履修登録単位数の上限には含まれません。

- 2) 単位認定申請は、各学期定期試験期間終了日の2週間前より、定期試験期間終了日まで、~~崇貞館2階教育支援課事務室~~で受け付けます。単位認定申請には、合格証明書の原本が必要です。**詳細についてはe-Campus掲示で確認してください。**

- 3) 申請受付開始日より遡って6ヶ月以内に取得したものが対象となります(取得日=合格証書に記載された発行日)。
※入学以前に取得したものについては、申請することができません。

- 4) 同一技能審査の級が上がったことによる認定単位数は、~~上位の認定単位数に置き換えられます。~~

- 5) 言語ごとの単位認定の上限12単位とは別に、最大で4単位認定されます。なお、本学学則第45条に基づき、本学において修得したものとみなすことができる単位数の上限60単位に含まれます。

- 6) ~~郵送による申請~~、本人以外からの申請は受け付けません。

- 7) 休学中の申請はできません。

下位の認定単位数との差分にあたる単位数が追加登録されます。

- 8) 入学前に取得した資格については、本単位認定の対象となりません。

VI 資格等

本学で取得できる資格等一覧

本学で取得できる資格は、以下の表のとおりです。詳細は、次ページ以降のそれぞれの資格の項目を参照してください。

	リベラル アーツ 学 群	芸術文化 学 群	ビ ジ ネ ス マ ネ ジ メ ン ト 学 群	健康福祉 学 群	グローバル・ コミュニケー ション学群	取扱い窓口	備 考
教育職員免許状 中学校教諭1種免許状 高等学校教諭1種免許状 (国家資格)	○ 学群によって取得できる免許状の種類・教科 は異なります。				他学群の教 職課程を履 修。登録時 に要相談	教職センター 事務室	課程修了後、大学が一括申請します。 卒業と同時に免許状が授与されます。 卒業時に必要単位が未修得の場合は、卒 業後に科目等履修により単位修得し、個人 申請することができます。
学校図書館司書教諭 (国家資格)	○ 教職課程の履修登録者のみ。 資格取得には教員免許状取得が条件。						所定の科目を修得し、卒業年度に資格申 請してください。 卒業後に修了証が交付されます。
博物館学芸員 (国家資格)	○						課程修了後、卒業年度に申請してくださ い。卒業と同時に資格が取得できます。
社会福祉士 (国家資格) ※受験資格のみ				○ 社会福祉 専修のみ		サ レ ン バ ー ガ ー 館 事 務 室 ／ 実 習 支 援 セ ン タ ー	所定の科目を修得してください。 卒業と同時に受験資格が得られます。
精神保健福祉士 (国家資格) ※受験資格のみ				○ 精神保健福祉 専修のみ			所定の科目を修得してください。 卒業と同時に受験資格が得られます。
認定心理士 (公財)日本心理学会認定)	○			○ 健康科学・ 精神保健福祉 専修のみ		教育支援課	所定の科目を修得し、卒業年度に資格申 請してください。 卒業と同時に資格が取得できます。
健康心理士 (日本健康心理学会認定)	○			○ 健康科学・ 精神保健福祉 専修のみ			所定の科目を修得し、卒業年度に資格申 請してください。 卒業と同時に資格が取得できます。
健康運動実践指導者 (公財)健康・体力づくり事 業団認定) ※認定試験合格が条件				○		サ レ ン バ ー ガ ー 館 事 務 室 ／ 実 習 支 援 セ ン タ ー	所定の科目を修得し、認定試験に合格後、 財団に登録してください。 卒業と同時に資格が取得できます。
スポーツ指導者養成講習会 (共通科目Ⅰ＋Ⅱ)免除適応コース (公財)日本体育協会公認)				○			所定の科目を修得すると、講習会・試験 の一部が免除となります。
初級障がい者スポーツ指導員 (公財)日本障がい者スポー ツ協会公認)	○					教育支援課	所定の科目を修得し、資格申請してくだ さい。 認定されると資格が取得できます。
保育士 (国家資格)				○ 保育専修のみ		サ レ ン バ ー ガ ー 館 事 務 室 ／ 実 習 支 援 セ ン タ ー	課程修了後、大学が一括申請します。 卒業と同時に資格が取得できます。
幼稚園教諭1種免許状 (国家資格)				○ 保育専修のみ		教職センター 事務室	課程修了後、大学が一括申請します。 卒業と同時に免許状が授与されます。
社会福祉主事任用資格	○					サ レ ン バ ー ガ ー 館 事 務 室	所定の科目を修得してください。 卒業と同時に任用資格が得られます。
児童指導員任用資格	○			○			卒業と同時に任用資格が得られます。
操縦士 (国家資格) ※国家試験合格が条件			○ アビエーション マネジメント学類 フライト・オペレ ーションコースのみ			フライトオペ レーション 事務室	養成課程を経て、国家試験に合格する必 要があります。
社会調査士 (一社)社会調査協会認定 資格)			○			教育支援課	所定の科目を履修し、資格申請してくだ さい。 認定されると資格が取得できます。
ECO-TOP プログラム (東京都認証)	○					教育支援課	所定の科目を修得すると、東京都に認証 され登録されます。
	リベラル アーツ 学 群	芸術文化 学 群	ビ ジ ネ ス マ ネ ジ メ ン ト 学 群	健康福祉 学 群	グローバル・ コミュニケー ション学群	取扱い窓 口	備 考
日本語教員養成課程	○	○	○	○	○	町田キャンパス 事務室教務担当	2種類の各コース修了後、卒業年度に申請し てください。 卒業と同時に資格が取得できます。

児童福祉司任用資格 ・リベラルアーツ学群（心理学専攻、社会学専攻、教育学専攻メジャー修了）
・健康福祉学群（社会福祉専修、精神保健福祉専修、保育専修）

児童心理司任用資格 ・リベラルアーツ学群（心理学専攻メジャー修了）

心理学専攻、社会学専攻、教育学専攻メジャー修了の学生のみ

1. 教育職員免許状（国家資格）

1. 教育職員免許状の取得について

教員になろうとする者は、国・公・私立学校を問わず、それぞれの学校の相当の教育職員免許状（以下、免許状という）を取得していることが必要です。

「教育職員免許法」に定められるとおり、基礎資格（学士の学位）を有し、文部科学省の認定を受けた大学の課程で所定の単位を修得し、当該免許状の授与権者である都道府県教育委員会に申請することで、免許状が授与されます。

したがって、教員になることを志望する学生は、免許状を取得するために本学教職課程における所定の単位を修得しなければなりません。

また、公立学校の教員になろうとする場合には、さらに都道府県教育委員会が行う「教員採用候補者選考試験」に合格しなければ採用されません。私立学校については各都道府県の私学団体が適性検査を実施している場合があります。中学校・高等学校一括方式の教員採用が増加しているため中学校教諭1種免許状及び高等学校教諭1種免許状の両方を取得することが望まれます。

2. 本学の教職課程

本学において、文部科学省の認定を受けている各学群の教職課程は以下に示すとおりです。

学 群	種 類	教 科
リベラルアーツ学群	中学校教諭1種免許状	国語
		社会
		数学
		理科 ※1
		外国語（英語）
		外国語（中国語）
	高等学校教諭1種免許状	国語
		地理歴史
		公民
		数学
		理科 ※1
		情報
		外国語（英語）
		外国語（中国語）
芸術文化学群	中学校教諭1種免許状	音楽 ※2
		美術 ※3
	高等学校教諭1種免許状	音楽 ※2
		美術 ※3
ビジネスマネジメント学群 ビジネスマネジメント学類	高等学校教諭1種免許状	商業
健康福祉学群	中学校教諭1種免許状	保健体育
	高等学校教諭1種免許状	保健体育
		福祉 ※4
	幼稚園教諭1種免許状 ※5	

※1 リベラルアーツ学群の学生のみ履修できます。

※2 芸術文化学群音楽専修の学生のみ履修できます。

※3 芸術文化学群造形デザイン専修の学生のみ履修できます。

※4 健康福祉学群社会福祉専修の学生のみ履修できます。

※5 健康福祉学群保育専修の学生のみ履修できます。履修については P.247を参照してください。

3. 教職課程履修上の注意事項

① 課程の登録について

教職課程の履修に際しては強い意志と早い段階から綿密な学修計画が必要となるため、教職の意義などについて深く学び、自己の適性について考えることが必要です。1年次秋学期オリエンテーション期間に教職課程ガイダンスを行いますので、履修希望者は必ず出席してください。正式には2年次春学期オリエンテーション期間の定められた期間に課程登録費の納入及び個人票、その他必要書類の提出により、課程の登録を行ってください。登録者には『教職課程履修のてびき』と『履修カルテ』をお渡しします。

課程登録後は、教職課程専任教員によるクラス担任制で指導を行います。個別な教職に関する相談や質問は各クラス担当教員へメールで連絡を行い、オフィスアワーに教員オフィスを訪問してください。

教職課程に係る事務手続きは教職センター事務室で行っています。留学・休学・教職課程の辞退を希望する場合、進行中の手続きを確実に停止させる必要があるため、必ず事前に教職センター事務室で教職課程に関する履修相談を受け、必要な手続きを行ってください。

② 『履修カルテ』について

『履修カルテ』とは、教職課程の学修や活動について各自が記録するものです。教職課程登録時より記入を開始し、4年次に「教職実践演習」を履修するための基礎データとして使用されます。この『履修カルテ』を作成しない者は「教職実践演習」を履修することができません。また、4年次まで使用するので、提出・返却については教職センター事務室からの連絡をよく確認し、各自で責任をもって大切に保管してください。

③ 教職課程の履修単位の取り扱いについて

教職課程の修得単位は、すべて卒業要件単位に含まれます。また、各学期の履修の上限単位数にも含まれます。抽選科目や教育実習関連の科目の履修については単位数や履修方法に注意して履修登録を行ってください。

④ 他学群聴講による免許状取得について

本学では所属学群以外の教職課程（※）の履修も可能ですが、修得した「教科に関する科目」が専攻科目ではないため、卒業要件を満たした上で、免許状を取得するには非常に多くの単位を修得する必要があります。また、それぞれの必修科目が時間割上、重なる場合があるため、入念な履修計画が必要となります。さらに、教科の専門知識が十分に得られない場合も考えられます。履修を始めるにあたっては、教職センター事務室に必ず相談してください。（※「理科」、「福祉」、「音楽」、「美術」を除く）

⑤ 各種説明会・掲示連絡・履修相談について

毎年春学期のオリエンテーション期間中に教職課程オリエンテーションを行います。学年ごとに事務手続き等の説明を行うので、毎年必ず出席してください。教育実習、介護等体験、教員免許状大学一括申請については別途説明会を開催します。

教職課程に関する連絡はe-Campus 掲示板【資格教職】で行います。見落とした場合、履修や実習、免許状取得に支障をきたすことがあります。連絡を受けたら迅速に対応してください。

履修や事務手続きについての相談は教職センター事務室まで十分な時間の余裕をもって問い合わせてください（原則電話による相談は受け付けていません）。

⑥ 教職指導室・教職演習教室の利用について

教職指導室は教職に関する図書の貸出しや資料の閲覧、自習などに利用できます。教育関係の就職情報や教員採用試験に関する情報も揃えています。教職演習教室では模擬授業や板書の練習を行うことができます。積極的に活用してください。図書の貸出しや教室使用の予約は教職センター事務室で受け付けます。

4. 教職課程の構成

法令に定められた教職課程の科目区分は【教職に関する科目】【教科に関する科目】【教科又は教職に関する科目】及び【教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目】で、それぞれの最低修得単位数は第1表に示すとおりです。

第1表 大学において修得することを必要とする最低単位数

(数字は単位数)

最低修得単位数 免許状の学校種	教職に 関する科目	教科に 関する科目	教科又は 教職に 関する科目	規則第66条 の6に 定める科目	合 計
中学校 1 種免許状	31	20	8	8	67
高等学校 1 種免許状	23	20	16	8	67

第2表 桜美林大学教職課程の最低修得単位数一覧

最低修得単位数 教科に関する科目が 開設されている学群		教職に 関する 科目	教科に 関する 科目	教科又は 教職に 関する 科目	規則第66 条の6に 定める 科目	合 計
リベラルアーツ学群	中 1 種 国語	34	24	1	8	67
	高 1 種 国語	29	22	8	8	67
	中 1 種 社会	36	26	0	8	70
	高 1 種 地理歴史	27	20	12	8	67
	高 1 種 公民	27	20	12	8	67
	中 1 種 数学	34	20	5	8	67
	高 1 種 数学	29	20	10	8	67
	中 1 種 理科	36	32	0	8	76
	高 1 種 理科	31	32	0	8	71
	高 1 種 情報	29	24	6	8	67
	中 1 種 外国語（英語）	34	40※	0	8	82※
	高 1 種 外国語（英語）	29	40※	0	8	77※
	中 1 種 外国語（中国語）	34	24	1	8	67
	高 1 種 外国語（中国語）	29	24	6	8	67
芸術文化学群	中 1 種 音楽	34	26	0	8	68
	高 1 種 音楽	29	26	4	8	67
	中 1 種 美術	34	24	1	8	67
	高 1 種 美術	29	22	8	8	67
ビジネスマネジメント学群 ビジネスマネジメント学類	高 1 種 商業	29	20	10	8	67
健康福祉学群	中 1 種 保健体育	34	29	0	8	71
	高 1 種 保健体育	29	29	1	8	67
	高 1 種 福祉	29	42	0	8	79

※その他修得を要する科目があるので、詳しくは P. 216 を参照してください。

5. 「教職に関する科目」の履修方法

本学における免許状取得に必要な「教職に関する科目」とその最低修得単位数は、第3表に示す通りです。必修科目を履修し、必要単位数を修得してください。

第3表 「教職に関する科目」開講科目一覧

単位欄の○付数字…必修科目

第1欄	教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	必要単位数	本学における授業科目	単位	履修年次	備考
第2欄	教職の意義等に関する科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む。) ・進路選択に資する各種の機会の提供等	2	教職入門	②	1	
第3欄	教育の基礎理論に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	6	教育原理(教職課程)	②	1	
		・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。)		教育心理学(教職課程)※	②	2	
		・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		教育制度論 教育関係法規Ⅰ※ 教育関係法規Ⅱ※	② 2 2	2 2 2	
第4欄	教育課程及び指導法に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法	中14 ～ 16	教育課程論	②	2	
		・各教科の指導法		中等教科教育法Ⅰ※ 中等教科教育法Ⅱ※ 中等教科教育法Ⅲ※ 中等教科教育法Ⅳ※	② ② (②) (②)	2 2・3 3 3・4	教科によって異なるため第4表を参照のこと
		・道徳の指導法	高10 ～ 14	道徳教育論	2	2	中1種必修
		・特別活動の指導法		特別活動論	②	2	
		・教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)		教育方法論	②	2	
	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	・生徒指導の理論及び方法 ・教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法 ・進路指導の理論及び方法	4	生徒指導論(生徒理解と教育相談) 進路指導論	② ②	2 2	
第5欄	教育実習		中5 高3	教育実習事前・事後指導A※ 教育実習事前・事後指導B※ 教育実習A※ 教育実習B※	1 ① 2 ②	3 3 4 4	中1種必修 中1種必修
第6欄	教職実践演習		2	教職実践演習(中・高)※	②	4	先修条件「教育実習B」

※教職課程登録者のみ履修可能です。

第4表 各教科の指導法の履修と必修科目

単位数欄の○付数字…必修科目

中・高1種「国語」		
授 業 科 目	単位数	先 修 条 件
中等国語科教育法Ⅰ	②	
中等国語科教育法Ⅱ	②	中等国語科教育法Ⅰ
中等国語科教育法Ⅲ	②	中等国語科教育法Ⅱ
中等国語科教育法Ⅳ	2	中等国語科教育法Ⅲ
中1種「社会」		
授 業 科 目	単位数	先 修 条 件
中等社会科・地理歴史科教育法Ⅰ	②	
中等社会科・地理歴史科教育法Ⅱ	②	中等社会科・地理歴史科教育法Ⅰ
中等社会科・公民科教育法Ⅰ	②	
中等社会科・公民科教育法Ⅱ	②	中等社会科・公民科教育法Ⅰ
高1種「地理歴史」		
授 業 科 目	単位数	先 修 条 件
中等社会科・地理歴史科教育法Ⅰ	②	
中等社会科・地理歴史科教育法Ⅱ	②	中等社会科・地理歴史科教育法Ⅰ
高1種「公民」		
授 業 科 目	単位数	先 修 条 件
中等社会科・公民科教育法Ⅰ	②	
中等社会科・公民科教育法Ⅱ	②	中等社会科・公民科教育法Ⅰ
中・高1種「数学」		
授 業 科 目	単位数	先 修 条 件
中等数学科教育法Ⅰ	②	
中等数学科教育法Ⅱ	②	中等数学科教育法Ⅰ
中等数学科教育法Ⅲ	②	中等数学科教育法Ⅱ
中等数学科教育法Ⅳ	2	中等数学科教育法Ⅲ
中・高1種「理科」		
授 業 科 目	単位数	先 修 条 件
中等理科教育法Ⅰ	②	
中等理科教育法Ⅱ	②	中等理科教育法Ⅰ
中等理科教育法Ⅲ	②	中等理科教育法Ⅱ
中等理科教育法Ⅳ	②	中等理科教育法Ⅲ
高1種「情報」		
授 業 科 目	単位数	先 修 条 件
中等情報科教育法Ⅰ	②	
中等情報科教育法Ⅱ	②	中等情報科教育法Ⅰ
中等情報科教育法Ⅲ	②	中等情報科教育法Ⅱ
中等情報科教育法Ⅳ	2	中等情報科教育法Ⅲ

中・高1種「外国語（英語）」		
授 業 科 目	単位数	先 修 条 件
中等英語科教育法Ⅰ	②	
中等英語科教育法Ⅱ	②	中等英語科教育法Ⅰ
中等英語科教育法Ⅲ	②	中等英語科教育法Ⅱ
中等英語科教育法Ⅳ	2	中等英語科教育法Ⅲ
中・高1種「外国語（中国語）」		
授 業 科 目	単位数	先 修 条 件
中等中国語科教育法Ⅰ	②	
中等中国語科教育法Ⅱ	②	中等中国語科教育法Ⅰ
中等中国語科教育法Ⅲ	②	中等中国語科教育法Ⅱ
中等中国語科教育法Ⅳ	2	中等中国語科教育法Ⅲ
中・高1種「音楽」		
授 業 科 目	単位数	先 修 条 件
中等音楽科教育法Ⅰ	②	
中等音楽科教育法Ⅱ	②	中等音楽科教育法Ⅰ
中等音楽科教育法Ⅲ	②	中等音楽科教育法Ⅱ
中等音楽科教育法Ⅳ	2	中等音楽科教育法Ⅲ
中・高1種「美術」		
授 業 科 目	単位数	先 修 条 件
中等美術科教育法Ⅰ	②	
中等美術科教育法Ⅱ	②	中等美術科教育法Ⅰ
中等美術科教育法Ⅲ	②	中等美術科教育法Ⅱ
中等美術科教育法Ⅳ	2	中等美術科教育法Ⅲ
高1種「商業」		
授 業 科 目	単位数	先 修 条 件
中等商業科教育法Ⅰ	②	
中等商業科教育法Ⅱ	②	中等商業科教育法Ⅰ
中等商業科教育法Ⅲ	②	中等商業科教育法Ⅱ
中等商業科教育法Ⅳ	2	中等商業科教育法Ⅲ
中・高1種「保健体育」		
授 業 科 目	単位数	先 修 条 件
中等保健体育科教育法Ⅰ	②	
中等保健体育科教育法Ⅱ	②	中等保健体育科教育法Ⅰ
中等保健体育科教育法Ⅲ	②	中等保健体育科教育法Ⅱ
中等保健体育科教育法Ⅳ	2	中等保健体育科教育法Ⅲ
高1種「福祉」		
授 業 科 目	単位数	先 修 条 件
中等福祉科教育法Ⅰ	②	
中等福祉科教育法Ⅱ	②	中等福祉科教育法Ⅰ
中等福祉科教育法Ⅲ	②	中等福祉科教育法Ⅱ
中等福祉科教育法Ⅳ	2	中等福祉科教育法Ⅲ

「教職に関する科目」と諸注意

科目コード	授 業 科 目	授業 方法	単位数	履修 年次	備 考
EDU1030Q	教職入門	講義	2	1	
EDU2300L	教育原理（教職課程）	講義	2	1	
PSY2220L	教育心理学（教職課程）	講義	2	2	教職課程登録者のみ履修可
EDU2390L	教育制度論	講義	2	2	
EDU3091Q	教育関係法規Ⅰ	講義	2	2	教職課程登録者のみ履修可
EDU3092Q	教育関係法規Ⅱ	講義	2	2	教職課程登録者のみ履修可
EDU2340L	教育課程論	講義	2	2	
EDU3340L	道德教育論	講義	2	2	
EDU3341L	特別活動論	講義	2	2	
EDU3320L	教育方法論 生徒	講義	2	2	
EDU3321L	教育 指導論（生徒理解と教育相談）	講義	2	2	
EDU3322L	進路指導論	講義	2	2	
EDU2631Q	教育実習事前・事後指導 A	実習	1	3	教職課程登録者のみ履修可
EDU3632Q	教育実習事前・事後指導 B	実習	1	3	教職課程登録者のみ履修可
EDU4631Q	教育実習 A	実習	2	4	教職課程登録者のみ履修可
EDU4632Q	教育実習 B	実習	2	4	教職課程登録者のみ履修可
EDU4430Q	教職実践演習（中・高）	演習	2	4	教職課程登録者のみ履修可
ECS2001Q	中等国語科教育法Ⅰ	講義	2	2	教職課程登録者のみ履修可
ECS2002Q	中等国語科教育法Ⅱ	講義	2	2	教職課程登録者のみ履修可
ECS3103Q	中等国語科教育法Ⅲ	講義	2	3	教職課程登録者のみ履修可
ECS3104Q	中等国語科教育法Ⅳ	講義	2	3	教職課程登録者のみ履修可
ECS2021Q	中等社会科・地理歴史科教育法Ⅰ	講義	2	2	教職課程登録者のみ履修可
ECS2022Q	中等社会科・地理歴史科教育法Ⅱ	講義	2	2	教職課程登録者のみ履修可
ECS2025Q	中等社会科・公民科教育法Ⅰ	講義	2	2	教職課程登録者のみ履修可
ECS2026Q	中等社会科・公民科教育法Ⅱ	講義	2	2	教職課程登録者のみ履修可
ECS2031Q	中等数学科教育法Ⅰ	講義	2	2	教職課程登録者のみ履修可
ECS2032Q	中等数学科教育法Ⅱ	講義	2	2	教職課程登録者のみ履修可
ECS3133Q	中等数学科教育法Ⅲ	講義	2	3	教職課程登録者のみ履修可
ECS3134Q	中等数学科教育法Ⅳ	講義	2	3	教職課程登録者のみ履修可
ECS2041Q	中等理科教育法Ⅰ	講義	2	2	リベラルアーツ学群の教職課程登録者のみ履修可
ECS3042Q	中等理科教育法Ⅱ	講義	2	3	リベラルアーツ学群の教職課程登録者のみ履修可
ECS3143Q	中等理科教育法Ⅲ	講義	2	3	リベラルアーツ学群の教職課程登録者のみ履修可
ECS4144Q	中等理科教育法Ⅳ	講義	2	4	リベラルアーツ学群の教職課程登録者のみ履修可
EOS2041Q	中等情報科教育法Ⅰ	講義	2	2	教職課程登録者のみ履修可
EOS2042Q	中等情報科教育法Ⅱ	講義	2	2	教職課程登録者のみ履修可
EOS3143Q	中等情報科教育法Ⅲ	講義	2	3	教職課程登録者のみ履修可
EOS3144Q	中等情報科教育法Ⅳ	講義	2	3	教職課程登録者のみ履修可
ECS2051Q	中等英語科教育法Ⅰ	講義	2	2	教職課程登録者のみ履修可
ECS2052Q	中等英語科教育法Ⅱ	講義	2	2	教職課程登録者のみ履修可
ECS3153Q	中等英語科教育法Ⅲ	講義	2	3	教職課程登録者のみ履修可
ECS3154Q	中等英語科教育法Ⅳ	講義	2	3	教職課程登録者のみ履修可
ECS2081Q	中等中国語科教育法Ⅰ	講義	2	2	教職課程登録者のみ履修可
ECS2082Q	中等中国語科教育法Ⅱ	講義	2	2	教職課程登録者のみ履修可
ECS3183Q	中等中国語科教育法Ⅲ	講義	2	3	教職課程登録者のみ履修可
ECS3184Q	中等中国語科教育法Ⅳ	講義	2	3	教職課程登録者のみ履修可

（次のページに続く）

科目コード	授 業 科 目	授業 方法	単位数	履修 年次	備 考
EOS2011Q	中等音楽科教育法Ⅰ	講義	2	2	芸術文化学群音楽専修の教職課程登録者のみ履修可
EOS2012Q	中等音楽科教育法Ⅱ	講義	2	3	芸術文化学群音楽専修の教職課程登録者のみ履修可
EOS3111Q	中等音楽科教育法Ⅲ	講義	2	3	芸術文化学群音楽専修の教職課程登録者のみ履修可
EOS3112Q	中等音楽科教育法Ⅳ	講義	2	4	芸術文化学群音楽専修の教職課程登録者のみ履修可
EOS2015Q	中等美術科教育法Ⅰ	講義	2	2	芸術文化学群造形デザイン専修の教職課程登録者のみ履修可
EOS2016Q	中等美術科教育法Ⅱ	講義	2	3	芸術文化学群造形デザイン専修の教職課程登録者のみ履修可
EOS3115Q	中等美術科教育法Ⅲ	講義	2	3	芸術文化学群造形デザイン専修の教職課程登録者のみ履修可
EOS3116Q	中等美術科教育法Ⅳ	講義	2	4	芸術文化学群造形デザイン専修の教職課程登録者のみ履修可
EOS2061Q	中等商業科教育法Ⅰ	講義	2	2	教職課程登録者のみ履修可
EOS2062Q	中等商業科教育法Ⅱ	講義	2	2	教職課程登録者のみ履修可
EOS3163Q	中等商業科教育法Ⅲ	講義	2	3	教職課程登録者のみ履修可
EOS3164Q	中等商業科教育法Ⅳ	講義	2	3	教職課程登録者のみ履修可
EOS2021Q	中等保健体育科教育法Ⅰ	講義	2	2	教職課程登録者のみ履修可
EOS2022Q	中等保健体育科教育法Ⅱ	講義	2	2	教職課程登録者のみ履修可
EOS3123Q	中等保健体育科教育法Ⅲ	講義	2	3	教職課程登録者のみ履修可
EOS3124Q	中等保健体育科教育法Ⅳ	講義	2	3	教職課程登録者のみ履修可
EOS2071Q	中等福祉科教育法Ⅰ	講義	2	2	健康福祉学群社会福祉専修の教職課程登録者のみ履修可
EOS2072Q	中等福祉科教育法Ⅱ	講義	2	2	健康福祉学群社会福祉専修の教職課程登録者のみ履修可
EOS3173Q	中等福祉科教育法Ⅲ	講義	2	3	健康福祉学群社会福祉専修の教職課程登録者のみ履修可
EOS3174Q	中等福祉科教育法Ⅳ	講義	2	3	健康福祉学群社会福祉専修の教職課程登録者のみ履修可

6. 「教科に関する科目」の履修方法

「教科に関する科目」とは、取得しようとする免許状の教科の内容に関連した科目をいい、本学認定課程における各教科の最低修得単位数は次に示す通りです。具体的な履修の方法は、科目が開設されている該当学群によって異なるので、それぞれの履修方法を理解した上で、履修科目を決定してください。

【1】「国語」の教科に関する科目（リベラルアーツ学群の課程）

中1種免許状「国語」は、科目区分『国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）』『国文学（国文学史を含む。）』『漢文学』『書道（書写を中心とする。）』より、必修科目、選択必修科目を含め、24単位以上を修得する。

高1種免許状「国語」は、科目区分『国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）』『国文学（国文学史を含む。）』『漢文学』より、必修科目及び選択必修科目を含め、22単位以上を修得する。

免許法の科目区分	本学における授業科目	単位	履修方法（○は必修）
国語学 （音声言語及び文章表現に関するものを含む。）	日本語学概論	2	○
	日本語の文字・表記	2	1科目以上必修
	日本語の表現	4	
	日本語の語彙・意味	4	
	日本語の音声	2	
	日本語の文法	4	
	日本語史	2	1科目以上必修
	言語表現A	2	
国文学 （国文学史を含む。）	言語表現B	2	1科目以上必修
	日本文学史A	4	
	日本文学史B	4	1科目以上必修
	古代文学講読	2	
	平安文学講読	2	1科目以上必修
	中世文学講読	2	
	江戸文学講読	2	
	近代文学講読	2	
	平安文学の世界	4	1科目以上必修
	中世文学の世界	4	
	江戸文学の世界	4	
	近代文学の世界	4	
	現代文学の世界	4	
	児童文学研究	2	
漢文学	中国文言文講読	2	○
	中国古典文学研究	4	1科目以上必修
	中国古代思想研究	4	
	中国思想史	4	
書道※ （書写を中心とする。）	書写	2	○
	書道研究Ⅰ	2	
	書道研究Ⅱ	2	

※中1種のみ

【2】「社会」の教科に関する科目（リベラルアーツ学群の課程）

中1種免許状「社会」は、科目区分『日本史及び外国史』『地理学（地誌を含む。）』『法律学、政治学』『社会学、経済学』『哲学、倫理学、宗教学』より、必修科目及び選択必修科目を含め、26単位以上を修得する。

免許法の科目区分	本学における授業科目	単位	履修方法（○は必修）	備考※
日本史及び外国史	日本史概論	4	○	地歴
	日本の歴史Ⅰ	4		地歴
	日本の歴史Ⅱ	4		地歴
	世界史における日本	4		地歴
	世界史概論	4	○	地歴
	国際関係史Ⅰ	4		地歴
	国際関係史Ⅱ	4		地歴
	アメリカの歴史	4		地歴
	アメリカ社会史	4		地歴
	アジアの歴史Ⅰ	4		地歴
	アジアの歴史Ⅱ	4		地歴
	経済史	4		
	日本経済史	4		
	社会思想史	4		
地理学（地誌を含む。）	地理学概論	4	○	地歴
	文化地理学	4		地歴
	自然地理学概論	4		地歴
	文化人類学	4		地歴
	発展途上国論	4		地歴
	地球規模環境論Ⅰ	2		地歴
	地球規模環境論Ⅱ	2		地歴
	地誌学概論	2	○	地歴
	アジア研究概論	4		地歴
	東アジア研究	4		地歴
	東南アジア研究	4		地歴
	南アジア研究	4		地歴
	アメリカ研究概論	4		地歴
	オセアニアの政治と経済	4		地歴
	日本研究概論	4		地歴
「法律学、政治学」	政治学概論	4	} 1科目以上必修	公民
	法律学概論（国際法を含む）	4		公民
	国際法	4		公民
	国際協力法	4		公民
	国際政治論	4		公民
	政治過程論	4		公民
	比較政治学	4		公民
	国際機構論	4		公民
	平和論	4		公民
	アメリカの政治	4		公民
	日本の政治	4		公民
	アジアの政治	4		公民

（次のページに続く）

免許法の科目区分	本学における授業科目	単位	履修方法（○は必修）	備考※
「社会学、経済学」	経済学概論	4	} 1科目以上必修	公民
	社会学概論	4		公民
	比較社会学	4		公民
	国際経済論	4		公民
	国際金融論	4		公民
	国際貿易論	4		公民
	多国籍企業論	4		公民
	アメリカの経済	4		公民
	アジアの経済	4		公民
	社会政策	4		公民
	ミクロ経済学	4		公民
	マクロ経済学	4		公民
	経済開発論	4		公民
	経済統計論	4		公民
	財政学	4		公民
	金融論	4		公民
	経済政策	4		公民
「哲学、倫理学、宗教学」	哲学概論	4	} 1科目以上必修	公民
	倫理学概論	4		公民
	宗教学概論	4		公民
	日本の宗教	4		公民
	アジアの思想と宗教	4		公民
	キリスト教文化論	4		公民
	仏教文化論	4		公民
	儒教文化論	4		公民
	イスラーム文化論	4		公民
	日本文化論	4		公民

※備考欄 地歴：高1種「地理歴史」の教科に関する科目 公民：高1種「公民」の教科に関する科目

【3】「地理歴史」の教科に関する科目（リベラルアーツ学群の課程）

高1種免許状「地理歴史」は、科目区分『日本史』『外国史』『人文地理学及び自然地理学』『地誌』より、必修科目及び選択必修科目を含め、20単位以上を修得する。

免許法の科目区分	本学における授業科目	単位	履修方法（○は必修）	備考※
日本史	日本史概論	4	○	社会
	日本の歴史Ⅰ	4		社会
	日本の歴史Ⅱ	4		社会
	世界史における日本	4		社会
外国史	世界史概論	4	○	社会
	国際関係史Ⅰ	4		社会
	国際関係史Ⅱ	4		社会
	アメリカの歴史	4		社会
	アメリカ社会史	4		社会
	アジアの歴史Ⅰ	4		社会
	アジアの歴史Ⅱ	4		社会
人文地理学及び自然地理学	地理学概論	4	○	社会
	文化地理学	4		社会
	自然地理学概論	4		社会
	文化人類学	4		社会
	発展途上国論	4		社会
	地球規模環境論Ⅰ	2		社会
	地球規模環境論Ⅱ	2		社会
地誌	地誌学概論	2	○	社会
	アジア研究概論	4		社会
	東アジア研究	4		社会
	東南アジア研究	4		社会
	南アジア研究	4		社会
	アメリカ研究概論	4		社会
	オセアニアの政治と経済	4		社会
	日本研究概論	4		社会

※備考欄 社会：中1種「社会」の教科に関する科目

【4】「公民」の教科に関する科目（リベラルアーツ学群の課程）

高1種免許状「公民」は、科目区分『「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）』』『「社会学、経済学（国際経済を含む。）』』『「哲学、倫理学、宗教学、心理学』より、必修科目及び選択必修科目を含め、20単位以上を修得する。

免許法の科目区分	本学における授業科目	単位	履修方法（○は必修）	備考※
「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」	政治学概論	4	○	社会
	法律学概論（国際法を含む）	4		社会
	国際法	4		社会
	国際協力法	4		社会
	国際政治論	4		社会
	政治過程論	4		社会
	比較政治学	4		社会
	国際機構論	4		社会
	平和論	4		社会
	アメリカの政治	4		社会
	日本の政治	4		社会
	アジアの政治	4		社会
「社会学、経済学（国際経済を含む。）」	経済学概論	4	○	社会
	社会学概論	4		社会
	比較社会学	4		社会
	国際経済論	4		社会
	国際金融論	4		社会
	国際貿易論	4		社会
	多国籍企業論	4		社会
	アメリカの経済	4		社会
	アジアの経済	4		社会
	社会政策	4		社会
	ミクロ経済学	4		社会
	マクロ経済学	4		社会
	経済開発論	4		社会
	経済統計論	4		社会
	財政学	4		社会
	金融論	4		社会
	経済政策	4		社会
「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	哲学概論	4	1科目以上必修	社会
	倫理学概論	4		社会
	宗教学概論	4		社会
	心理学概論	4		
	日本の宗教	4		社会
	アジアの思想と宗教	4		社会
	キリスト教文化論	4		社会
	仏教文化論	4		社会
	儒教文化論	4		社会
	イスラーム文化論	4		社会
	日本文化論	4		社会

※備考欄 社会：中1種「社会」の教科に関する科目

【5】「理科」の教科に関する科目（リベラルアーツ学群の課程 リベラルアーツ学群の学生のみ履修可）

中1種免許状「理科」は、科目区分『物理学』『物理学実験（コンピュータ活用を含む。）』『化学』『化学実験（コンピュータ活用を含む。）』『生物学』『生物学実験（コンピュータ活用を含む。）』『地学』『地学実験（コンピュータ活用を含む。）』より、必修科目及び選択必修科目を含め、32単位以上を修得する。

免許法の科目区分	本学における授業科目	単位	履修方法（○は必修）
物理学	物理学概論	2	○
	力学Ⅰ	2	○
	力学Ⅱ	2	
	電磁気学Ⅰ	2	○
	電磁気学Ⅱ	2	
	統計力学	2	
	熱力学	2	
	量子力学Ⅰ	2	
	量子力学Ⅱ	2	
	物理学特論Ⅰ	2	
	物理学特論Ⅱ	2	
物理学実験 （コンピュータ活用を含む。）	物理学実験Ⅰ	2	○
	物理学実験Ⅱ	2	
化学	化学概論	2	○
	基礎有機化学	2	○
	有機合成化学	2	
	化学熱力学・反応速度	2	
	量子化学	2	
	基礎分析化学	2	
	機器分析化学	2	
	無機化学Ⅰ	2	○
	無機化学Ⅱ	2	
	化学特論	2	
	エネルギー化学	2	
化学実験 （コンピュータ活用を含む。）	化学実験Ⅰ	2	○
	化学実験Ⅱ	2	
生物学	生物学概論	2	○
	植物学Ⅰ	2	○
	植物学Ⅱ	2	
	動物学Ⅰ	2	○
	動物学Ⅱ	2	
	生態学Ⅰ	2	
	生態学Ⅱ	2	
	生理学Ⅰ	2	
	生理学Ⅱ	2	
	遺伝と進化	2	
	生化学	2	
	生物学特論（注）	各2	
生物学実験 （コンピュータ活用を含む。）	生物学実験Ⅰ	2	○
	生物学実験Ⅱ	2	
地学	地学概論	2	○
	地球物理学Ⅰ	2	
	地球物理学Ⅱ	2	①「地球物理学Ⅰ」又は「地質学Ⅰ」から1科目以上必修
	気象学Ⅰ	2	
	気象学Ⅱ	2	
	天文学Ⅰ	2	
	天文学Ⅱ	2	
	地質学Ⅰ	2	②「気象学Ⅰ」又は「天文学Ⅰ」から1科目以上必修
	地質学Ⅱ	2	
	古生物学	2	
	地球科学特論（注）	各2	
	地学実験Ⅰ	2	
	地学実験Ⅱ	2	
地学実験 （コンピュータ活用を含む。）	地学実験Ⅰ	2	○
	地学実験Ⅱ	2	

（注）重複履修可の科目

高1種免許状「理科」は、科目区分『物理学』『化学』『生物学』『地学』『物理学実験（コンピュータ活用を含む。）、化学実験（コンピュータ活用を含む。）、生物学実験（コンピュータ活用を含む。）、地学実験（コンピュータ活用を含む。）』より、必修科目及び選択必修科目を含め、32単位以上を修得する。

免許法の科目区分	本学における授業科目	単位	履修方法（○は必修）
物理学	物理学概論	2	○
	力学Ⅰ	2	○
	力学Ⅱ	2	
	電磁気学Ⅰ	2	○
	電磁気学Ⅱ	2	
	統計力学	2	
	熱力学	2	
	量子力学Ⅰ	2	
	量子力学Ⅱ	2	
	物理学特論Ⅰ	2	
	物理学特論Ⅱ	2	
化学	化学概論	2	○
	基礎有機化学	2	○
	有機合成化学	2	
	化学熱力学・反応速度	2	
	量子化学	2	
	基礎分析化学	2	
	機器分析化学	2	
	無機化学Ⅰ	2	○
	無機化学Ⅱ	2	
	化学特論	2	
	エネルギー化学	2	
生物学	生物学概論	2	○
	植物学Ⅰ	2	○
	植物学Ⅱ	2	
	動物学Ⅰ	2	○
	動物学Ⅱ	2	
	生態学Ⅰ	2	
	生態学Ⅱ	2	
	生理学Ⅰ	2	
	生理学Ⅱ	2	
	遺伝と進化	2	
	生化学	2	
	生物学特論（注）	各2	
地学	地学概論	2	○
	地球物理学Ⅰ	2	①「地球物理学Ⅰ」又は「地質学Ⅰ」から1科目以上必修
	地球物理学Ⅱ	2	
	気象学Ⅰ	2	
	気象学Ⅱ	2	
	天文学Ⅰ	2	
	天文学Ⅱ	2	②「気象学Ⅰ」又は「天文学Ⅰ」から1科目以上必修
	地質学Ⅰ	2	
	地質学Ⅱ	2	
	古生物学	2	
	地球科学特論（注）	各2	
物理学実験 （コンピュータ活用を含む。）、 化学実験 （コンピュータ活用を含む。）、 生物学実験 （コンピュータ活用を含む。）、 地学実験 （コンピュータ活用を含む。）	物理学実験Ⅰ	2	○
	物理学実験Ⅱ	2	
	化学実験Ⅰ	2	○
	化学実験Ⅱ	2	
	生物学実験Ⅰ	2	○
	生物学実験Ⅱ	2	
	地学実験Ⅰ	2	○
	地学実験Ⅱ	2	

（注）重複履修可の科目

【6】「数学」の教科に関する科目（リベラルアーツ学群の課程）

中1種免許状「数学」、高1種免許状「数学」は、科目区分『代数学』『幾何学』『解析学』『「確率論、統計学」』『コンピュータ』より、必修科目及び選択必修科目を含め、20単位以上を修得する。

免許法の科目区分	本学における授業科目	単位	履修方法（○は必修）
代数学	線形代数学	4	○
	代数学	4	
	数学概論	2	
幾何学	幾何学	4	○
	離散数学	4	
解析学	微分積分学	4	○
	数学演習	2	} 1科目以上必修
	解析学	4	
「確率論、統計学」	確率論と統計学	4	○
コンピュータ	コンピュータとデータ解析	2	○

【7】「外国語（英語）」の教科に関する科目（リベラルアーツ学群の課程）

中1種免許状「外国語（英語）」、高1種免許状「外国語（英語）」は、科目区分『英語学』『英米文学』『英語コミュニケーション』『異文化理解』より、必修科目及び選択必修科目を含め、24単位以上を修得したうえで、さらに下記のとおり20単位を修得する。

- ① 「英語エレクトیفⅡ－中級」「英語エレクトیفⅢ－上級」「英語エレクトیفⅣ－特設」「英語エレクトیفⅤ－特設」から合計4単位以上修得する。ただし、そのうち1単位以上を「英語エレクトیفⅢ－上級」以上のレベルから修得すること。（この4単位は、リベラルアーツ学群のGOプログラム参加による「外国語」8単位免除によって替えることはできない。）
- ② 「英語学」科目区分から12単位以上、「英米文学」科目区分から4単位以上、計16単位以上を修得する。

免許法の科目区分	本学における授業科目	単位	履修方法（○は必修）
英語学	英語学入門	4	○
	英語の音声	4	○
	英語の歴史	4	
	英語の構造	4	
	英語の意味	4	
	応用言語学	4	
	英文法Ⅰ	2	
	英文法Ⅱ	2	
	第二言語習得法	4	
	英語学講読	4	
英米文学	英米文学入門	4	○
	英米小説（注）	各4	
	英米演劇	4	
	英米詩	4	
	英米児童文学	4	
	テーマで読む英米文学（注）	各4	
英語コミュニケーション	Speech Communication Skills	4	○
	Written Communication Skills	4	○
	翻訳（英→日）	4	
	翻訳（日→英）	4	
	通訳	4	
異文化理解	アメリカの文化	4	} 1科目以上必修
	イギリスの文化	4	
	英米文化講読	4	

（注）重複履修可の科目

【8】「外国語（中国語）」の教科に関する科目（リベラルアーツ学群の課程）

中1種免許状「外国語（中国語）」、高1種免許状「外国語（中国語）」は、科目区分『中国語学』『中国文学』『中国語コミュニケーション』『異文化理解』より、必修科目及び選択必修科目を含め、24単位以上を修得する。

免許法の科目区分	本学における授業科目	単位	履修方法（○は必修）
中国語学	中国語学概論	2	○
	中国語音声学	4	○
	中国語文法研究	4	○
	日中対照言語研究	4	
中国文学	中国文学概論	4	○
	中国古典文学史	4	
	中国近現代文学史	4	
中国語コミュニケーション	中国語リスニング	2	} 1科目以上必修
	中国語基礎トレーニングⅠ	2	
	中国語基礎トレーニングⅡ	2	
	中国語応用トレーニングⅠ	2	} 1科目以上必修
	中国語応用トレーニングⅡ	2	
	中国語講読	2	} 1科目以上必修
	中国語作文	2	
	時事中国語	2	
	日中翻訳技法	2	
	日中通訳技法	2	
異文化理解	中国文化論	4	} 1科目以上必修
	中国芸術研究	4	
	日中比較文化	4	
	中国文化概論	4	

【9】「情報」の教科に関する科目（リベラルアーツ学群の課程）

高1種免許状「情報」は、科目区分『情報社会及び情報倫理』『コンピュータ及び情報処理（実習を含む。）』『情報システム（実習を含む。）』『情報通信ネットワーク（実習を含む。）』『マルチメディア表現及び技術（実習を含む。）』『情報と職業』より、必修科目を含め、24単位以上を修得する。

免許法の科目区分	本学における授業科目	単位	履修方法（○は必修）
情報社会及び情報倫理	情報と社会	2	○
	情報と倫理	2	○
コンピュータ及び情報処理 （実習を含む。）	ソフトウェア概論	4	○
	情報デザイン論	2	
	プログラミングⅠ	2	○
	プログラミングⅡ	2	
	Web ページプログラミング	2	
	知識表現とプログラミング	2	
情報システム （実習を含む。）	情報システム論	4	○
	応用表計算	2	○
	システム設計論	4	
	ヒューマンコンピュータインターフェイス	4	
	情報分析論	4	
	データベースⅠ	4	
	データベースⅡ	4	
情報通信ネットワーク （実習を含む。）	情報ネットワーク	2	○
	情報セキュリティ論	2	
	情報ネットワーク演習	2	
マルチメディア表現及び技術 （実習を含む。）	マルチメディア表現Ⅰ	4	○
	マルチメディア表現Ⅱ	4	
情報と職業	情報と職業	2	○

【10】「音楽」の教科に関する科目（芸術文化学群の課程 芸術文化学群音楽専修の学生のみ履修可）

中1種免許状「音楽」、高1種免許状「音楽」は科目区分『ソルフェージュ』『声楽（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）』『器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）』『指揮法』『音楽理論、作曲法（編曲法を含む。）及び音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）』より、必修科目及び選択必修科目を含め26単位以上を修得する。

免許法の科目区分	本学における授業科目	単位	履修方法（○は必修）
ソルフェージュ	ソルフェージュⅠ	1	○
	ソルフェージュⅡ	1	○
声 楽 (合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。)	声楽AⅠ～Ⅷ	各2	} 2単位以上必修
	声楽BⅠ～Ⅷ	各1	
	合唱A（注）	各1	} 2単位以上必修
	合唱B（注）	各1	
器 楽 (合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。)	器楽概論	2	○
	管弦楽概論	2	
	器楽実技AⅠ～Ⅷ	各2	
	器楽実技BⅠ～Ⅷ	各1	
	ピアノAⅠ～Ⅷ	各2	} 4単位以上必修
	ピアノBⅠ～Ⅷ	各1	
	管楽合奏Ⅰ～Ⅷ	各1	
	弦楽合奏Ⅰ～Ⅷ	各1	
	管弦楽合奏Ⅰ～Ⅷ	各2	
	伴奏法Ⅰ	2	
	伴奏法Ⅱ	2	
指揮法	指揮法	2	○
音楽理論、作曲法（編曲法を含む。） 及び音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）	音楽入門	2	○
	音楽学	4	
	音楽制作演習	2	○
	西洋音楽史	4	○
	東洋音楽史	2	○
	民族音楽研究	2	○
	ヨーロッパの大衆音楽	4	
	宗教音楽史	4	
	和声学	4	
	対位法	4	
	キーボードハーモニー演習	2	

（注）重複履修可の科目

【11】「美術」の教科に関する科目（芸術文化学群の課程 芸術文化学群造形デザイン専修の学生のみ履修可）

中1種免許状「美術」は、科目区分『絵画（映像メディア表現を含む。）』『彫刻』『デザイン（映像メディア表現を含む。）』『美術理論及び美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）』『工芸』より、必修科目及び選択必修科目を含め24単位以上を修得する。

高1種免許状「美術」は、科目区分『絵画（映像メディア表現を含む。）』『彫刻』『デザイン（映像メディア表現を含む。）』『美術理論及び美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）』より、必修科目及び選択必修科目を含め22単位以上を修得する。

免許法の科目区分	本学における授業科目	単位	履修方法（○は必修）
絵画 (映像メディア表現を含む。)	美術演習 A（注）	各 2	} 1 科目以上必修
	美術演習 B（注）	各 2	
	造形実技入門 B（注）	各 2	
	コンピュータ造形 I（注）	各 4	○
	コンピュータ造形 II（注）	各 4	
	フォトアート演習（注）	各 2	
彫刻	美術演習 D（注）	各 2	○
デザイン (映像メディア表現を含む。)	デザイン論 (注)	各 4	○
	造形実技入門 A（注）	各 2	
	造形実技入門 C（注）	各 2	
	デザイン演習 A（注）	各 4	
	デザイン演習 B（注）	各 4	
	デザイン演習 C（注）	各 4	
	デザイン演習 D（注）	各 4	
	デザイン演習 E（注）	各 4	
	デザイン演習 G（注）	各 4	
工芸※	工芸概論	2	○
	美術演習 C（注）	各 2	
	テキスタイル演習 A（注）	各 2	
	テキスタイル演習 B（注）	各 2	
美術理論及び美術史 (鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。)	造形芸術入門	2	} 1 科目以上必修
	美学 A	2	
	美学 B	2	
	現代美術論 A	2	
	現代美術論 B	2	
	色彩構成演習（注）	各 1	
	西洋美術史概論 A	2	
	西洋美術史概論 B	2	
	西洋美術文化史 A	2	
	西洋美術文化史 B	2	
	日本美術史	4	○
	東洋美術史	4	○

（注）重複履修可の科目

※中1種のみ

【12】「商業」の教科に関する科目（ビジネスマネジメント学群ビジネスマネジメント学類の課程）

高1種免許状「商業」は、科目区分『商業の関係科目』『職業指導』より、必修科目を含め20単位以上を修得する。

免許法の科目区分	本学における授業科目	単位	履修方法（○は必修）
商業の関係科目	現代法入門	2	○
	現代経営入門	2	○
	現代会計入門	2	○
	経営史	2	
	経営管理論Ⅰ	2	
	経営管理論Ⅱ	2	
	パソコン利用のグラフ意思決定	2	
	パソコン利用の管理シミュレーション	2	
	マーケティング論Ⅰ	2	
	マーケティング論Ⅱ	2	
	流通入門	2	
	組織と心理	2	
	組織と集団	2	
	財務管理論Ⅰ	2	
	財務管理論Ⅱ	2	
	金融論	2	
	小売店舗経営論	2	
	ビジネス倫理	2	
	財務会計論Ⅰ	2	
	財務会計論Ⅱ	2	
	中小企業経営論	2	
	ベンチャービジネス	2	
	外国為替入門	2	
	金融リスク管理	2	
	グローバル経営入門	2	
	国際会計Ⅰ	2	
	国際会計Ⅱ	2	
	グローバル・コーポレートファイナンスⅠ	2	
	グローバル・コーポレートファイナンスⅡ	2	
	異文化経営論	2	
	グローバル企業戦略論Ⅰ	2	
	グローバル企業戦略論Ⅱ	2	
	アジア企業経営論	2	
	中国企業経営論	2	
	民法Ⅰ	2	
	民法Ⅱ	2	
	簿記Ⅰ	2	} 1科目以上必修
	簿記Ⅱ	2	
	簿記Ⅲ	2	
	簿記Ⅳ	2	
	簿記Ⅴ	2	
職業指導	職業指導Ⅰ	2	○
	職業指導Ⅱ	2	○

【13】「福祉」の教科に関する科目（健康福祉学群の課程 社会福祉専修の学生のみ履修可）

高1種免許状「福祉」は、科目区分『社会福祉学（職業指導を含む。）』『高齢者福祉、児童福祉及び障害者福祉』『社会福祉援助技術』『介護理論及び介護技術』『社会福祉総合実習（社会福祉援助実習及び社会福祉施設等における介護実習を含む。）』『人体構造及び日常生活行動に関する理解』『加齢及び障害に関する理解』より、必修科目を含め42単位以上を修得する。

免許法の科目区分	本学における授業科目	単位	履修方法（○は必修）
社会福祉学 （職業指導を含む。）	社会福祉原論	4	○
	地域福祉論	4	
	社会福祉とマネジメント	4	
高齢者福祉、児童福祉及び障害者福祉	老人福祉論	4	○
	児童福祉論	4	○
	障害者福祉論	4	○
社会福祉援助技術	社会福祉援助技術論Ⅰ	2	○
	社会福祉援助技術論Ⅱ	2	
介護理論及び介護技術	介護概論	2	○
社会福祉総合実習 （社会福祉援助実習及び社会福祉施設等における介護実習を含む。）	相談援助演習Ⅰ	4	○
	相談援助演習Ⅱ	4	○
	相談援助現場実習	4	○
	相談援助現場実習指導Ⅰ	2	○
	相談援助現場実習指導Ⅱ	2	○
人体構造及び日常生活行動に関する理解	医学一般	4	○
加齢及び障害に関する理解	加齢及び障害に関する理解	2	○

【14】「保健体育」の教科に関する科目（健康福祉学群の課程）

中1種免許状「保健体育」、高1種免許状「保健体育」は、科目区分『体育実技』『体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史』及び運動学（運動方法等を含む。）、『生理学（運動生理学を含む。）』『衛生学及び公衆衛生学』『学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）』より、必修科目を含め、29単位以上を修得する。

免許法の科目区分	本学における授業科目	単位	履修方法（○は必修）
体育実技	スポーツ（ウィークリースポーツ）	各1	（注）
	スポーツ（シーズンスポーツ）	各1	（注）
「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」及び運動学（運動方法学を含む。）	スポーツ心理学	4	
	スポーツ社会学	2	
	スポーツ経営学	2	
	運動学	2	○
	スポーツコーチ学	4	
	スポーツ・体育史	2	○
	スポーツ倫理学	2	
	健康心理学	4	リベラルアーツ学群専攻科目
生理学 （運動生理学を含む。）	生理学	2	○
	栄養学	2	
	スポーツ栄養学	4	
	足の健康科学	4	
	解剖学	2	
	発育発達学	2	
	スポーツ生理学	2	
	体力測定評価実習	1	
衛生学及び公衆衛生学	衛生学	2	○
	公衆衛生学	2	○
学校保健 （小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）	学校保健学	2	○
	精神保健学	4	
	精神医学	4	
	健康心理カウンセリング概論	2	
	学校カウンセリング論	2	
	救急処置法	2	
	ストレスマネジメント	2	
	ヘルスカウンセリング	4	

(注) スポーツ（ウィークリースポーツ、シーズンスポーツ）は以下のとおり合計17単位以上修得すること。

種 目	履修方法（○は必修）
体づくり運動Ⅰ～Ⅳ	○（1単位必修）
器械体操Ⅰ～Ⅳ	} 2種目2単位選択必修
陸上競技Ⅰ～Ⅳ	
水泳Ⅰ～Ⅳ	
バスケットボールⅠ～Ⅳ	
ハンドボールⅠ～Ⅳ	○（1単位必修）
サッカーⅠ～Ⅳ	○（1単位必修）
ラグビーⅠ～Ⅳ	
バレーボールⅠ～Ⅳ	
テニスⅠ～Ⅳ	○（1単位必修）
卓球Ⅰ～Ⅳ	
バドミントンⅠ～Ⅳ	○（1単位必修）
ソフトボールⅠ～Ⅳ	○（1単位必修）
軟式野球Ⅰ～Ⅳ	
ゴルフⅠ～Ⅳ	
柔道Ⅰ～Ⅳ	} 1種目1単位選択必修
剣道Ⅰ～Ⅳ	
創作ダンスⅠ～Ⅳ	} 1種目1単位選択必修
リズムダンスⅠ～Ⅳ	
エアロビクスⅠ～Ⅳ	
フィットネスⅠ～Ⅳ	
トレーニングⅠ～Ⅳ	
レクリエーションⅠ～Ⅳ	
器械体操指導法	} 2種目選択必修
陸上競技指導法	
水泳指導法	
柔道指導法	} 1種目選択必修
剣道指導法	
バスケットボールS	○
バレーボールS	○
サッカーS	} 1種目選択必修
テニスS	
バドミントンS	
ソフトボールS	
キャンプⅠ～Ⅳ	} 1種目1単位選択必修
スキーⅠ～Ⅳ	

7. 「教科又は教職に関する科目」の履修方法

「教科又は教職に関する科目」の単位の修得方法は、「教科に関する科目」又は、「教職に関する科目」についての規定の最低修得単位を超えて修得した単位数をもってこれに充てることができます。第5表－1に示すとおり、修得しなければなりません。

さらに、本学は、「大学が加えるこれに準ずる科目」として、第5表－2にあげた科目が認定を受けており、この科目を修得することで「教科又は教職に関する科目」の単位に充てることができます。

第5表－1

教科又は教職に関する科目の 最低修得単位数	中1種 8単位 高1種 16単位
--------------------------	---------------------

第5表－2

授 業 科 目	単 位	備 考
学 校 経 営 と 学 校 図 書 館	2	学校図書館司書教諭講習の開講科目 ※P. 212 の(2)を参照 230
学校図書館メディアの構成	2	
学習指導と学校図書館	2	
読書と豊かな人間性	2	
情報メディアの活用	2	

8. 「教育職員免許法施行規則66条の6に定める科目」の履修方法

「日本国憲法」「体育」「外国語コミュニケーション」「情報機器の操作」からそれぞれ2単位以上を修得します。できる限り1年次に修得することが望ましい。

第6表

科 目	単位数	授 業 科 目	単 位	履 修 方 法	
日 本 国 憲 法	2	日本国憲法	2	2単位必修	リベラルアーツ学群 専攻科目
体 育	2	健康とスポーツ	2	2単位必修	健康福祉学群 専攻科目
		スポーツ（ウィークリースポーツ）	各1		
		スポーツ（シーズンスポーツ）	各1		
外国語コミュニケーション	2	英語コアⅠA	2	2単位必修	コア科目
		英語コアⅠB	2		
		英語コアⅡA	2		
		英語コアⅡB	2		
		英語エレクトィブⅠ－初級	各1		外国語科目
		英語エレクトィブⅡ－中級	各1		
		英語エレクトィブⅢ－上級	各1		
		英語エレクトィブⅣ－特設	各1		
情報機器の 操 作	2	コンピュータリテラシーⅠ	2	2単位必修	コア科目
		コンピュータリテラシーⅡ	2		基盤教育科目

9. 「介護等体験」「教育実習」について

◎ 「教育実習事前・事後指導A」の履修と介護等体験について

「小学校及び中学校の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」の制定に伴い、中学校教諭の免許状を取得する場合に、社会福祉施設等における介護等体験が義務づけられました。

本学における介護等体験の流れ

(1) 「教育実習事前・事後指導A」の履修

中学校1種免許状の取得を希望する学生は、3年次春学期に「教育実習事前・事後指導A」（通年授業・指定クラス）の履修登録を行ってください。履修単位（1単位）は秋学期に加算されます。通常の授業の形式と異なるため、日程は掲示にてお知らせします。

(2) 介護等体験の受け入れ先と体験日数

原則として、社会福祉施設等5日間、特別支援学校2日間、計7日間実施します。

(3) 介護等体験の申し込み手続きと介護等体験

3年次春学期のオリエンテーション期間に説明会を行います。各自、必要書類を期限までに必ず提出してください。大学が一括して申し込み手続きを行いますので、個人での申し込みはできません。

体験先の施設・学校と体験日は5月以降に決定し次第、掲示でお知らせします。体験先の資料等を教職センター事務室で受け取ってください。なお、施設・体験日は原則として変更することはできません。体験先により必要書類（細菌検査等）が異なり、事前に準備が必要です。また、体験当日の遅刻や無断欠席の場合は体験が中止となることもあります。

(4) 介護等体験証明書

介護等体験の終了後、施設長及び学校長より「介護等体験証明書」に施設名・住所、体験内容、施設長名等の記載と証明印を頂き、教職センター事務室に提出してください。中学校教諭1種免許状申請の際に必要な書類となります。

◎ 「教育実習事前・事後指導B」「教育実習A」「教育実習B」の履修と教育実習について

教育実習は「教職に関する科目」のひとつとして履修するものであり、学外の実習校において、実地に授業その他の教育活動に参加して行われるものです。本学が責任を持ち、受け入れ側の実習校との緊密な連絡のもとに実施するものですから、必ず所定の手続きを踏み、指導事項を遵守しなければなりません。教育実習中の就職活動や部活動は一切行いません。

本学における教育実習の流れ

(1) 教育実習校の内諾について

教育実習前年度の12月までに、教育実習予定校（原則として出身校）から教育実習の内諾を得てください。学校によっては面接を行う場合や先着順で受付を締切ってしまう場合もあります。各自責任を持って、実習予定校と連絡を取ってください。実習校を訪問する際には服装や言動に充分注意してください。内諾が得られなければ、教育実習はできません。

また、実習校によっては教育委員会の手続きが必要となる場合もあります。すみやかに教職センター事務室まで連絡を取ってください。

(2) 「教育実習事前・事後指導B」の履修

教育実習を予定する年度の前年度秋学期に「教育実習事前・事後指導B」（通年授業・指定クラス）の履修登録を行います。履修単位数（1単位）は春学期に加算されます。通常の授業の形式と異なる為日程は掲示にてお知らせします。

(3) 教育実習派遣の決定

「教育実習事前・事後指導B」の履修者は教育実習派遣審査の対象となります。派遣審査は実習校種・教科の観点で行われます。教育実習前年度までの単位修得状況が下記審査基準を満たしているかどうかを審査し、さらにGPA等の成績から総合的に判断して派遣の可否を決定します。3年次終了段階で通算GPAが3.0未満の学生は派遣審査において保留となり、派遣できない場合もあります。審査の結果が不合格の場合は教育実習を行うことはできません。派遣決定者は3月末に掲示にて発表します。

《審査基準》

本学からの教育実習派遣は、以下のすべての条件を教育実習予定の前年度までに満たしていることを基準とする。

- ① 『教職に関する科目』の「教育実習事前・事後指導A」「教育実習事前・事後指導B」「教育実習A」「教育実習B」「教職実践演習（中・高）」以外の必修科目すべてを修得済みであること。
- ② 『教科に関する科目』は、必修科目を含んだ20単位以上を単位修得済みであること。ただし、各免許教科で特に必要とされる科目についての細則は、別途定めることとする。
- ③ 必修科目である『施行規則66条の6に定める科目』（「日本国憲法」「体育」「外国語コミュニケーション」「情報機器の操作」各2単位）を、すべて単位修得済みであること。
- ④ 教育実習予定科目にかかわる必修科目である「各教科の指導法」を、すべて単位修得済みであること。
- ⑤ 卒業に必要な単位の修得が100単位以上であること。

細則「理科」

- (1) ②に関わる「理科」の細則については、以下の通りとする。

講義科目に関して概論科目に加え、免許状取得のための必修科目を4科目区分から8単位以上を単位修得済みであること。実験科目に関してIを付した科目から6単位以上を単位修得済みであること。また、4領域のうち概論科目と実験科目とを含め、少なくとも一つの領域で8単位以上を単位修得済みであること。

上記が満たされていない場合、「教科に関する科目」での修得単位数が必修科目を含んだ24単位以上を単位修得済みであっても、教育実習派遣条件を満たしていないと判断する。

(4) 「教育実習A」「教育実習B」の履修方法

取得希望免許状に応じて下記の科目を4年次春学期に履修します。授業は指定クラスとなるので、「時間割表」で確認し、該当するクラスで履修登録を行ってください。

免許状種類	科目名称	単位数	実習期間
中1種のみ	「教育実習A」	2	3週間以上
	「教育実習B」	2	
中1種及び高1種	「教育実習A」	2	3週間以上
	「教育実習B」	2	
高1種のみ	「教育実習B」	2	2週間以上

教育実習の辞退について

教育実習予定校より内諾をいただいた後に教育実習を行うことが不可能となった場合は、すみやかに教職センター事務室に連絡をし、その後の指示を受けてください。教育実習の直前に辞退することは、事前に受け入れ準備を行なっていた実習校へ多大な迷惑をかけることになり、大学の責任を問われる結果となります。4月以降に実習辞退を行うことがないよう、健康管理を十分に行い、将来の進路についても方針を定めておくことが必要です。

10. 教職課程の履修と事務手続きの日程

※内容及び時期は都合により変更になる場合があります。

学期	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
春 学 期		4月 教職課程オリエンテーション 課程登録費の納入 個人票の提出（課程登録） 教育実習校の事前調査 各教科の指導法の履修開始 （音楽・美術・理科を除く） 「履修カルテ」提出	4月 教職課程オリエンテーション 個人票の提出（履修継続の 意志確認） 教育実習内諾関係書類の配 布 「履修カルテ」提出 教育実習予定校へ内諾申請 （4月～12月） 介護等体験事務説明会 「教育実習事前・事後指導A」 春秋通年の履修 介護等体験（6月～3月）	4月 教職課程オリエンテーション 個人票の提出（履修継続の 意志確認） 「履修カルテ」提出 教育実習直前事務説明会 「教育実習A」・「教育実習B」 の履修 教育実習（5月～12月）
秋 学 期	9月 教職課程ガイダンス	9月 各教科の指導法の履修開始 （音楽・美術・理科）	9月 「教育実習事前・事後指導B」 春秋通年の履修 12月 教育実習校の決定 「教育実習事前・事後指導A」 （事後指導）授業 3月 教育実習派遣審査 教育実習派遣者の決定	9月 履修説明会（教職課程の単位 修得状況の確認） 「教職実践演習（中・高）」の履修 12月 大学一括申請 宣誓書捺印 「学校図書館司書教諭講習修了 書交付」申請 3月 免許状授与
教 職 課 程 履 修 の め や す	◎「教職に関する科目」から 下記の科目を履修する。 * 教職入門 ◎基盤教育科目に加えて下記 の科目を履修する。 * 日本国憲法 健康とスポーツ スポーツ （ウィークリースポーツ） （シーズンスポーツ）	◎「教職に関する科目」から 下記の科目のうち5～7科 目を履修する。 * 中等教科教育法Ⅰ * 中等教科教育法Ⅱ * 教育原理 * 教育心理学 * 教育制度論 * 教育課程論 * 道徳教育論 * 特別活動論 * 教育方法論 * 生徒指導論 * 進路指導論 ◎各教科の「教科に関する科 目」の必修、選択必修科目 を中心に履修する。	◎「教職に関する科目」から 下記の科目の履修を完了す る。 * 中等教科教育法Ⅱ * 中等教科教育法Ⅲ * 中等教科教育法Ⅳ 教育実習事前・事後指導A * 教育実習事前・事後指導B * 教育原理 * 教育心理学 * 教育制度論 * 教育課程論 * 道徳教育論 * 特別活動論 * 教育方法論 * 生徒指導論 * 進路指導論 ◎各教科の「教科に関する科 目」の必修、選択必修科目 を中心に派遣審査の基準を 満たすように履修する。	◎「教職に関する科目」から 下記の科目を履修する。 中等教科教育法Ⅳ 教育実習A * 教育実習B * 教職実践演習（中・高） ◎「教職に関する科目」「教科 に関する科目」「教科又は教 職に関する科目」の必要単 位数をすべて満たすように 履修する。

*は教職課程の必修科目
下線の科目は当該年次に必修科目

11. 教育職員免許状の申請

免許状は、教育職員免許法第5条第7項により、各都道府県教育委員会が授与します。卒業年度の9月以降に申請手続きについての学内説明会を行いますので申請希望者（課程修了見込みの学生）は申し込み書を提出してください。大学が一括して東京都教育委員会へ免許状授与の申請を行います（大学一括申請）。日程等の詳細は掲示にてお知らせします。

なお、一括申請に該当しない場合は個人での申請となります（個人申請）。個人申請は住所地の教育委員会への申請となりますので、各教育委員会へ必要書類等を確認してください。その際、必要となる本学教職課程における修得期間、修得単位に関する証明書（「学力に関する証明書」）を発行いたしますので、教職センター事務室で申請してください。詳細については教職センター事務室まで問い合わせてください。

12. 各種証明書

教職センター事務室で、発行する証明書は以下の通りです。（有料）

- ・教育職員免許状取得見込証明書（1通200円）
- ・「学力に関する証明書」（1通300円）

※発行には日数を要するので、必要と思われる場合には早めに申し込んでください。

《参考資料》授与される免許状の種類と法令上の必要最低単位数

教育職員免許法施行規則に定められている免許状取得に必要な各区分の最低単位数は、次に示す通りです。

（教育職員免許法第5条関係 別表第1より）

第1欄	免許状の種類 所要資格		中学校教諭			高等学校教諭	
			専修免許状	1種免許状	2種免許状	専修免許状	1種免許状
第2欄	基礎資格		修士の学位を有すること	学士の学位を有すること	短期大学士の学位を有すること	修士の学位を有すること	学士の学位を有すること
第3欄	大学において修得することを必要とする科目の最低単位数	教科に関する科目	20	20	10	20	20
		教職に関する科目	31	31	21	23	23
		教科又は教職に関する科目	32	8	4	40	16

（教育職員免許法施行規則第66条の6）

第1欄	免許状の種類 66条の6の科目	中学校教諭			高等学校教諭	
		専修免許状	1種免許状	2種免許状	専修免許状	1種免許状
	日本国憲法	2	2	2	2	2
	体育	2	2	2	2	2
	外国語コミュニケーション	2	2	2	2	2
	情報機器の操作	2	2	2	2	2

2. 学校図書館司書教諭（国家資格）

学校図書館司書教諭は、学校図書館の専門的職務にたずさわることを目的とし、「学校図書館法」によって定められたもので、文部科学省令で規定している講習を受けてはじめて与えられる資格です。

(1) 学校図書館司書教諭の資格取得

学校図書館司書教諭講習の受講生は教職課程を必ず履修登録していなければなりません。

また、「学校図書館司書教諭講習規定（文部科学省令）」の定めによって、相当する単位（5科目10単位）を大学で修得しなければなりません。

※教育職員免許状を取得していないと申請できません。

(2) 学校図書館司書教諭の資格を取得するための必修単位

所定の単位は、学校図書館司書教諭講習規程第3条第1項に示されていますが、関連する本学における開講科目は次表の通りです。

《学校図書館司書教諭講習の開講授業科目》

科目コード	本学の授業科目名	授業方法	単 位	履修年次	先修条件ほか
EDU3290L	学校経営と学校図書館	講義	2	3	教職課程登録者のみ履修可
EDU3220L	学校図書館メディアの構成	講義	2	3	
EDU3221L	学習指導と学校図書館	講義	2	3	教職課程登録者のみ履修可
LIS3200L	読書と豊かな人間性	講義	2	3	
LIS3270L	情報メディアの活用	講義	2	3	

(3) 学校図書館司書教諭の修了書交付申請について

本学の学校図書館司書教諭講習での所定の単位を修得した学生は、講習規定第6条の規定により、教育職員免許状を交付された後（卒業後）に所定の手続きに沿って学校図書館司書教諭講習修了証（以下、「修了証」という）の交付申請を行います。

この修了証の交付を申請する学生は、卒業年度12月に教職センター事務室で申請手続きをしてください（詳細については掲示します）。なお、申請者には卒業後約1年後に、修了証を本学より郵送します。

3. 博物館学芸員（国家資格）

1. 開設の趣旨

博物館は、近代社会が生んだ最高の文化装置のひとつと言われています。日本はもちろん世界各国において、社会の近代化と国民文化・教育の振興のために、博物館は重要な貢献をしてきました。

博物館はまた、現代社会の中で、市民に開かれた自由な学習の場として、時には非日常的な啓示的体験の場として、いつまでも心に残る魅力的な娯楽の場として、さらには強力な情報メディアとして、多様な姿を現しつつあります。ゆとりある精神的に充実した未来社会の現実には、博物館なしでは考えられないでしょう。

そのような博物館で、調査研究活動や教育活動の中心となって働くのが学芸員です。本学の博物館学芸員課程では、激しく変化しつつある現代社会における博物館の地位と役割をしっかりと見据え、その中でリーダーシップを発揮して新しい博物館活動を推進していけるような、積極的で創造的な学芸員資質の教育を目指しています。

2. 履修方法

博物館学芸員に関する科目としては、「博物館法施行規則（文部科学省令）」により定められた必修科目を19単位以上修得することが定められていますが、本学の課程では、次の通りの単位修得が必要です。

(1) 必修科目 9科目19単位

(2) 選択科目 本学独自に指定する5分野の科目から2分野以上にわたり8単位以上

(1) 必修科目（リベラルアーツ学群専攻科目）

本学開設授業科目	単位	履修年次	先修条件ほか
生涯学習概論	2	1	
博物館概論	2	1	
博物館教育論	2	1	
博物館経営論	2	2	博物館概論
博物館資料論	2	2	博物館概論
博物館資料保存論	2	2	博物館概論
博物館展示論	2	2	博物館概論
博物館情報・メディア論	2	2	博物館概論
博物館実習	3	3	他の全ての必修科目

◎「博物館実習」（3単位）の履修方法

「博物館実習」を履修するには、博物館学芸員課程の他のすべての必修科目の単位を修得し、課程登録をすることが必要です。課程登録は、実習を希望する前年度の秋学期中に行われる2回のガイダンスに出席して仮登録を行います。その上で、実習年度4月に課程登録費（3万円）を納入し、「博物館実習」の履修登録を行い本登録となります。なお、「博物館実習」（通年授業）の履修単位（3単位）は秋学期に加算されます。

また、本学の「博物館実習」は、学内実習プログラム（A、B群）及び館務実習（C群）を組み合わせたポイント制で履修します。下記A、B、C群から各1ポイント以上、合計~~6~~⁷ポイント以上の取得をもって3単位の修得とします。

	実習プログラム	ポイント	履修方法
A群	I 博物館実習入門	1	春学期オリエンテーション期間中に2回の集中講義（必修）
	II 博物館見学実習	各0.5	学内実習プログラムより選択
B群	III 視聴覚教育技術実習	各1	学内実習プログラムより選択
	IV 調査研究実習	各1	学内実習プログラムより選択
	V 博物館資料収集・整理実習	各1	学内実習プログラムより選択
	VI 博物館教育普及活動実習	各1	学内実習プログラムより選択
	VII 展示実習	各1	学内実習プログラムより選択
	VIII バリアフリー実習	各1	学内実習プログラムより選択
C群	IX 博物館館務実習	1～3	博物館園での委託館務実習（日数によりポイントは異なる）

(2) 選択科目

本学の独自のカリキュラムとして、次のⅠ～Ⅴの5分野のうちから2分野以上にわたり、それぞれの分野から4単位以上、計8単位以上の修得が必要です。充実した専門知識は博物館学芸員として不可欠のものであるため、各分野ともできるだけ多く修得することが望まれます。

分 野		授業科目名	単位	履修年次	科目の開講学群	先修条件
Ⅰ	民俗／ 民族学分野	文化地理学	4	1	リベラルアーツ学群	
		日本民俗学	2	3	リベラルアーツ学群	
		文化人類学	4	1	リベラルアーツ学群	
		宗教人類学	4	2	リベラルアーツ学群	
		日本の民俗	2	1	リベラルアーツ学群	
Ⅱ	歴史／ 文化史分野	中国文化概論	4	2 1	リベラルアーツ学群	
		日本考古学	2	3	リベラルアーツ学群	
		韓国文化論	4	2	リベラルアーツ学群	
		中国文化論	4	2	リベラルアーツ学群	
		日本の歴史Ⅰ	4	2	リベラルアーツ学群	
		日本の歴史Ⅱ	4	2	リベラルアーツ学群	
		日本文化論	4	2	リベラルアーツ学群	
		日本文化論	4	2	芸術文化学群	
Ⅲ	美術／ 美術史分野	アートマネージメント論	2	3	芸術文化学群	
		西洋美術史概論A	2	1	芸術文化学群	
		西洋美術史概論B	2	1	芸術文化学群	
		西洋美術文化史A	2	1	芸術文化学群	
		西洋美術文化史B	2	1	芸術文化学群	
		日本美術史	4	1	芸術文化学群	
		東洋美術史	4	1	芸術文化学群	
		現代美術論A	2	3	芸術文化学群	
		現代美術論B	2	3	芸術文化学群	
Ⅳ	生物分野	植物学Ⅰ	2	2	リベラルアーツ学群	
		植物学Ⅱ	2	2	リベラルアーツ学群	植物学Ⅰ
		動物学Ⅰ	2	2	リベラルアーツ学群	
		動物学Ⅱ	2	2	リベラルアーツ学群	動物学Ⅰ
		生態学Ⅰ	2	2	リベラルアーツ学群	
		生態学Ⅱ	2	2	リベラルアーツ学群	生態学Ⅰ
		生理学Ⅰ	2	3	リベラルアーツ学群	
		生理学Ⅱ	2	3	リベラルアーツ学群	生理学Ⅰ
		生化学	2	3	リベラルアーツ学群	
		遺伝と進化	2	3	リベラルアーツ学群	
Ⅴ	地学分野	地球物理学Ⅰ	2	3	リベラルアーツ学群	物理学概論
		地球物理学Ⅱ	2	3	リベラルアーツ学群	地球物理学Ⅰ
		気象学Ⅰ	2	2	リベラルアーツ学群	物理学概論
		気象学Ⅱ	2	2	リベラルアーツ学群	気象学Ⅰ
		天文学Ⅰ	2	3	リベラルアーツ学群	物理学概論
		天文学Ⅱ	2	3	リベラルアーツ学群	天文学Ⅰ
		地質学Ⅰ	2	2	リベラルアーツ学群	
		地質学Ⅱ	2	2	リベラルアーツ学群	地質学Ⅰ
		古生物学	2	3	リベラルアーツ学群	
		海洋学	2	3	リベラルアーツ学群	

3. 資格証明書の発行

「博物館法施行規則」に基づいた所要資格を充たすために必要な本学の博物館学芸員課程の科目を修得し、学士の学位を得た学生には「学芸員資格証明書」を卒業時に発行します。博物館学芸員資格取得見込みがあり、卒業を希望する場合は必ず所定の期限内に「学芸員資格証明書発行申請書」を教職センター事務室まで提出してください。

4. 博物館学芸員課程の流れ（資格取得まで）

実施時期	博物館学芸員課程	備 考
春学期 オリエンテーション期間	博物館学芸員課程説明会	対象：1年生～3年生で博物館学芸員資格に興味・関心のある者 博物館課程の概要及び資格取得の流れについて説明
春・秋開講	★以下の必修8科目を履修 ＊「博物館概論」 （博物館経営論、博物館資料論、博物館資料保存論、博物館展示論、博物館情報・メディア論の先修条件） ＊「生涯学習概論」 ＊「博物館教育論」 ＊「博物館経営論」 ＊「博物館資料論」 ＊「博物館資料保存論」 ＊「博物館展示論」 ＊「博物館情報・メディア論」	修得には2セメスター以上を要す （ただし、1年次から履修の場合は、2年間を要す。）
春・秋開講	★選択科目 2分野8単位以上を履修	P.232を参照 （館務実習までに履修しておくことが望ましい。）
「博物館実習」履修前年 秋学期	第1回博物館実習仮登録ガイダンス（11月上旬） 第2回博物館実習仮登録ガイダンス（12月上旬） <u>仮登録票の提出</u> ↓	対象：必修8科目を修得見込みで次年度に「博物館実習」の履修を希望する者 仮登録に関する説明（館務実習先博物館の選定や手続きについて） 両日とも必ず出席すること。
春学期 オリエンテーション期間	博物館実習本登録ガイダンス ※1 <u>本登録票の提出</u>	対象：仮登録を行った者全員 本登録に関する説明（館務実習先博物館の決定とその他の手続きについて） 課程登録費納入
春→秋通年	★「博物館実習」（3単位）の履修 ・必修プログラム（博物館実習入門①②）※2 ・学内実習プログラム（申し込み先着順 ※3） ・館務実習 ↓ 必修科目、選択科目の修得及び学位取得の確認 ↓	※2 集中授業 ポイント制（6ポイント）の取得 詳細は P.231 7 ※1、※2、※3とも春学期オリエンテーション時期に実施される。 無断欠席・遅刻の場合ポイントはFとなる。
卒業時	「学芸員資格証明書」発行	

説明会及び各種ガイダンスの日程、教室等についてはオリエンテーション日程表、e-Campus 掲示でお知らせします。

4. 社会福祉士（国家資格）

「社会福祉士」になるためには、大学等において厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する「指定科目」を修めて卒業することにより受験資格を取得して、毎年1回行われる国家試験に合格し、登録しなければなりません。

この資格の課程を履修できるのは、健康福祉学群社会福祉専修の学生に限られます。

1. 社会福祉士の資格制度の目的

我が国の人口構造の高齢化は、平均寿命の延びや出生率の低下により一層急速なテンポで進展してきています。それとともに、高齢者や障害者等福祉に関する相談や介護を必要とする人が急激に増大することが確実になっており、それらの人々が信頼し、安心して相談や助言・指導を受けることができる専門家が求められています。

このような社会的要請にこたえて、我が国の社会福祉分野における初めての国家資格制度として、昭和62年5月26日、「社会福祉士及び介護福祉士法（昭和62年法律第30号）」が制定され、「社会福祉士」が誕生しました。この資格制度は名称独占制度ですが、「社会福祉士」でない者はその仕事をしてはならないという規定はありません。したがって業務独占ではありません。

2. 社会福祉士の業務内容

「社会福祉士」は、専門的知識及び技術をもって、身体上若しくは精神上の障害があること又は環境上の理由により日常生活を営むのに支障がある者の福祉に関する相談に応じ、助言、指導、福祉サービスを提供する者又は医師その他の保健医療サービスを提供する者その他の関係者との連携及び調整その他の援助を行うことを業とする者をいいます。多くの人が、「社会福祉士」の資格を得て、福祉の専門家として地域や機関・施設で中心的役割を果たすことが期待されています。

3. 社会福祉士の国家試験の受験資格を取得するための要件

本学健康福祉学群社会福祉専修では、国家試験の受験資格を得るために、「社会福祉士及び介護福祉士法」第7条1号の規定に基づいて、次頁の表の通り28科目を設置しています。国家試験受験資格取得のためには、本学授業科目より23科目以上を修得しなければなりません。

4. 履修上の注意

履修にあたっては、科目の履修年次や先修条件等を確認の上、履修してください。

(1) 相談援助演習の履修方法

3年次に社会福祉士国家試験受験資格取得希望学生が履修することができる。ただし、2年次までの成績や社会福祉士国家試験受験資格に必要な履修状況等を鑑みて履修制限を行うため、選考を実施する。

(2) 相談援助現場実習指導及び相談援助現場実習の履修方法

3年次に社会福祉士国家試験受験資格取得希望学生が履修することができる。ただし、先修条件を満たす者のうち、2年次までの成績や社会福祉士国家試験受験資格に必要な履修状況等を鑑みて、履修制限を行うため、選考を実施する。

(3) 相談援助現場実習の時間数

相談援助現場実習を行う学生は、配属実習先において合計180時間以上の実習を行うものとする。

「社会福祉士」指定科目及び本学科目対照表

領域	指 定 科 目	本 学 授 業 科 目	単位	履修年次	備 考
知識領域	現代社会と福祉	社 会 福 祉 原 論	4	2	必修
	地域福祉の理論と方法	地 域 福 祉 論	4	2	〃
	福祉行財政と福祉計画	福 祉 行 財 政 と 福 祉 計 画	2	3	〃
	福祉サービスの組織と経営	福祉サービスの組織と経営	2	2	〃
	社会保障	社 会 保 障 論	4	2	〃
	高齢者に対する支援と介護保険制度	老 人 福 祉 論	4	2	〃
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	障 害 者 福 祉 論	4	1	〃
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	児 童 福 祉 論	4	2	〃
	低所得者に対する支援と生活保護制度	公 的 扶 助 論	2	2	〃
	保健医療サービス	保 健 医 療 サ ー ビ ス	2	2	〃
	就労支援サービス	相談援助活動と就労支援・更生保護	2	2	1科目 選択必修
	更生保護制度				
	権利擁護と成年後見制度	権 利 擁 護 と 成 年 後 見 制 度	2	3	
技術領域	社会調査の基礎	社 会 調 査 の 基 礎	2	3	必修
	相談援助の基盤と専門職	相 談 援 助 の 基 盤 と 専 門 職	4	1	〃
	相談援助の理論と方法	社 会 福 祉 援 助 技 術 論 I	2	2	〃
		社 会 福 祉 援 助 技 術 論 II	2	2	〃
	相談援助演習	相 談 援 助 演 習 I	4	3	〃
		相 談 援 助 演 習 II	4	3	〃
		相 談 援 助 演 習 III	2	4	〃
	相談援助実習指導	相 談 援 助 現 場 実 習 指 導 I	2	3	〃
		相 談 援 助 現 場 実 習 指 導 II	2	3	〃
		相 談 援 助 現 場 実 習 指 導 III	2	4	〃
	相談援助実習	相 談 援 助 現 場 実 習	4	3	〃
関連知識領域	人体の構造と機能及び疾病	医 学 一 般	4	1	1科目 選択必修
	心理学理論と心理的支援	心 理 学	4	1	
		心 理 学 概 論	4	1	
	社会理論と社会システム	社 会 学	4	1	
		社 会 学 概 論	4	1	

5. 精神保健福祉士（国家資格）

「精神保健福祉士」になるためには、受験資格を取得して、毎年1回行われる国家試験に合格しなければなりません。

この資格の課程を履修できるのは、健康福祉学群精神保健福祉専修の学生に限られます。

1. 精神保健福祉士の資格制度の目的

我が国の精神保健福祉の現状については、精神障害者の長期入院やいわゆる社会的入院の問題等が指摘されており、精神障害者の社会復帰を促進し、地域生活を支援することが緊急の課題となっています。

このため、精神障害者が社会復帰を果たす上で障害となっている諸問題の解決を図る必要があり、相談援助にたずさわる人材の養成・確保を図るため精神保健福祉士の資格制度が創設されました。

2. 精神保健福祉士の業務内容

「精神保健福祉士」は、精神障害者の保健及び福祉に関する専門知識や技能をもって、精神科病院その他の医療機関、障害福祉サービス事業所、福祉行政機関等において、精神障害者の社会復帰のための支援を行う専門職です。その主な業務には①精神障害者の社会復帰のための相談、②退院後の住居や就労の場についての助言や指導、③日常生活への適応のために必要な訓練などがあります。また、近年、司法・教育・産業などの幅広い分野において、精神保健福祉の課題に取り組む役割も期待されています。

3. 精神保健福祉士の国家試験の受験資格を取得するための要件

本学の健康福祉学群では、国家試験の受験資格を得るために、「精神保健福祉士法」第7条第1号の規定に基づいて、次頁の表の通り指定科目26科目を設置しています。受験資格取得のための最少必要科目は24科目ですが、実際の国家試験は全科目から出題されますので、すべてを修得しておくことが望まれます。

4. 履修上の注意

履修にあたっては、履修年次や先修条件に特に注意してください。精神保健福祉士の国家資格を取得する場合、1年次には「精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）」、「精神保健福祉相談援助の基盤（専門）」の両方、または「精神医学」の履修が必要です。また、「精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）」、「精神保健福祉相談援助の基盤（専門）」と「精神医学」のすべてを2年次終了までに修得しておかなければ、3年次の「精神保健福祉実習指導Ⅱ」の履修ができません。

2年次に「精神保健福祉実習指導Ⅰ」を終えた後、3年次で「精神保健福祉実習指導Ⅱ」に進み、1回目の施設での配属実習を行います。この科目は、「精神保健福祉現場実習Ⅰ」として登録します。2度目の配属実習は「精神保健福祉現場実習Ⅱ」として、4年次の「精神保健福祉実習指導Ⅲ」と同時に履修登録を行うことになります。このように精神科医療機関や障害福祉サービス事業所などでの実習が資格取得には必須なので、「精神保健福祉士」になるという目的意識を明確に持ち、学修を計画的に進めていくことが望まれます。こうした履修上の重要事項については、入学時や各学期始めのオリエンテーションで説明するので、情報収集に留意し、不明な点は教員に確認してください。

「精神保健福祉士」指定科目及び本学科目対照表

	指 定 科 目	本 学 授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
社会福祉士との共通科目	人体の構造と機能及び疾病	医 学 一 般	4	1	1科目 選択必修
	心理学理論と心理的支援	心 理 学	4	1	
	社会理論と社会システム	社 会 学	4	1	
	現代社会と福祉	社 会 福 祉 原 論	4	2	必修
	地域福祉の理論と方法	地 域 福 祉 論	4	2	〃
	社会保障	社 会 保 障 論	4	2	〃
	低所得者に対する支援と生活保護制度	公 的 扶 助 論	2	2	〃
	福祉行財政と福祉計画	福 祉 行 財 政 と 福 祉 計 画	2	3	〃
	保健医療サービス	保 健 医 療 サ ー ビ ス	2	2	〃
	権利擁護と成年後見制度	権 利 擁 護 と 成 年 後 見 制 度	2	3	〃
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	障 害 者 福 祉 論	4	1	〃
精神保健福祉士専門科目	精神疾患とその治療	精 神 医 学	4	1	〃
	精神保健の課題と支援	精 神 保 健 学	4	1	〃
	精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）	精神保健福祉相談援助の基盤(基礎)	2	1	〃
	精神保健福祉相談援助の基盤（専門）	精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	2	1	〃
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開	精神保健福祉援助技術各論	4	2	〃
		精神科リハビリテーション学	4	2	〃
	精神保健福祉に関する制度とサービス	精神保健福祉に関する制度とサービス	4	3	〃
	精神障害者の生活支援システム	精神障害者の生活支援システム	2	3	〃
	精神保健福祉援助演習（基礎）	精 神 保 健 福 祉 援 助 演 習 I	2	2	〃
	精神保健福祉援助演習（専門）	精 神 保 健 福 祉 援 助 演 習 II	4	3	〃
	精神保健福祉援助実習指導	精 神 保 健 福 祉 実 習 指 導 I	4	2	〃
		精 神 保 健 福 祉 実 習 指 導 II	4	3	〃
		精 神 保 健 福 祉 実 習 指 導 III	4	4	〃
	精神保健福祉援助実習	精 神 保 健 福 祉 現 場 実 習 I	2	3	〃
		精 神 保 健 福 祉 現 場 実 習 II	2	4	〃

6. 認定心理士（公益社団法人日本心理学会認定資格）

この資格の課程を履修することができるのは、リベラルアーツ学群及び健康福祉学群健康科学専修・精神保健福祉専修の学生に限られます。

1. 認定心理士の資格とは

この資格は、心理学専攻者としてのアイデンティティを持ち、専門性の向上に資するために設けられました。4年制大学における心理学科、またはそれに準ずる課程を修了した人（ないしは、それと同等の学力を有すると認められた人）を対象に、心理学の専門家としての職務を遂行するのに必要な最小限の標準的、基礎的学力と技能を習得していると日本心理学会が認定した人に対して与えられる資格です。この資格認定は、わが国の各職場で活躍している心理学専攻者の利益の擁護とともに、その資質の向上、すなわち新しい知識・技術の学習の促進のために設置されました。

2. 認定心理士の資格を取得するためには

卒業見込みの学年度において以下の条件を満たしている者は、申請することができます。

- (1) 16歳以降、通算2年以上日本国に滞在した経験を有する者。
- (2) 学校教育法により定められた大学、または大学院における心理学専攻、教育心理学専攻、または心理学関連専攻の学科において、別表に掲げる科目を履修し、必要単位を修得し、卒業または修了した者、及びそれと同等以上の学力を有すると認められた者。

	領 域		本学授業科目名	履修 年次	単位	備 考
基礎科目	a 心理学概論	基本主題	心理学	1	4	a、c 領域は各4単位以上、 b、c 領域の合計が8単位以上
	b 心理学研究法	基本主題	心理学研究法（注1）	2	2	
		基本主題	心理統計法（注1）	2	2	
		基本主題	心理測定法	1	2	
		基本主題	心理統計法演習（注1）	3	2	
	c 心理学実験実習	基本主題	心理学基礎実験（注1）	2	2	
		基本主題	心理学実験実習（注1）	3	2	
選択必修 科目	d 知覚心理学 ・学習心理学	基本主題	学習心理学	2	4	d～hの5領域のうち3領域以上 で、各4単位以上（必ず基本主題を 含むこと）、合計で16単位以上
		基本主題	認知心理学	3	4	
	e 比較心理学 ・生理心理学	基本主題	生理心理学	2	2	
	f 教育心理学 ・発達心理学	基本主題	教育心理学	2	4	
		基本主題	生涯発達心理学	1	4	

（次のページに続く）

	領 域		本学授業科目名	履修 年次	単位	備 考
選択必修 科目	g 人格心理学 ・臨床心理学	基本主題	人格心理学	2	4	
		基本主題	臨床心理学	2	4	
		基本主題	心理療法概論	2	4	
		基本主題	健康心理学	2	4	
		基本主題	健康心理カウンセリング概論(注1)	3	2	
		基本主題	健康心理アセスメント概論(注1)	3	2	
		基本主題	学校カウンセリング論(注1)	3	2	
		基本主題	健康心理学基礎実習(注1)	3	2	
		基本主題	人間性心理学	2	2	
		副次主題	精神保健学	1・2(注2)	4	
		副次主題	精神医学	1・2(注2)	4	
	h 社会心理学 ・産業心理学	基本主題	社会心理学	2	4	
		基本主題	家族心理学	2	4	
		基本主題	産業・組織心理学	2	4	
		基本主題	人間関係論(注3)	2	4	
		基本主題	社会心理学調査実習(注1)	2	2	
その他の 科目	i 心理学関連の科目・卒業論文		宗教心理学	2	2	卒業論文は最大4単位までを認める
			スポーツ心理学(注1)	2	4	
			専攻演習(心理学)(注1)	3	4	
			卒業論文(注1)	4	6	
			卒業研究(注1)	4	6	

※上記の科目は、リベラルアーツ学群専攻科目、健康福祉学群専攻科目に置かれています。各自確認のうえ、履修してください。

(注1) 各科目の先修条件を確認の上、履修してください。

(注2) 健康福祉学群生は1年次より履修可能、リベラルアーツ学群は2年次より履修可能です。

(注3) リベラルアーツ学群専攻科目を履修してください。

3. 履修上の注意

「認定心理士」の資格認定を受けるためには、別表に記載されている科目の中から合計36単位以上を修得しなければなりません。その内訳は「基礎科目」 a は4単位以上、b、c は計8単位以上かつ最低4単位はcの単位、合計12単位以上、「選択必修科目」 d～h の5領域のうち3領域以上で各4単位以上（必ず基本主題を含む）で計16単位以上、残りの8単位は a～hの任意の科目または「その他の科目」 i で充当します。

各領域の副次主題に該当する本学授業科目の修得単位は申請時の認定単位が1/2になるので注意してください。

4. 認定心理士の資格申請

上記の条件を満たした人は、公益社団法人日本心理学会認定心理士認定委員会の定める申請書類一式を整え、審査料を払い込んで資格申請を行います。申請書類等については公益社団法人日本心理学会認定心理士認定委員会発行の、「日本心理学会認定心理士資格申請の手引き」、又は日本心理学会のホームページを参照してください。

【注】資格認定に関する規則が変更されることがあれば、掲示等でお知らせします。

7. 健康心理士（日本健康心理学会認定資格）

この資格の課程を履修することができるのは、リベラルアーツ学群及び健康福祉学群健康科学専修・精神保健福祉専修の学生に限られます。

1. 「健康心理士」とは

健康の維持・増進、疾病の予防、健康的な生活習慣の形成をめざして、その実践に必要な知識と技術を備え、健康心理学を中心とした学際的視野から真の健康生活に貢献するために、専門的な立場から助言・勧告、及び援助活動を行います。

2. 「健康心理士」の資格を取得するためには

卒業見込みの学年度において以下の条件を満たしている者は、申請することができます。

- (1) 健康心理学基礎科目（A・B領域は必修とし、C、D、E領域から2領域を選び、各1科目合計8単位以上を取得すること）
 - A領域：心理学（4）、心理学概論（4）
 - B領域：心理学研究法（2）
 - C領域：生涯発達心理学（4）、教育心理学（4）、学習心理学（4）
 - D領域：臨床心理学（4）、人格心理学（4）
 - E領域：社会心理学（4）、産業・組織心理学（4）
- (2) 健康心理学専門必修科目（F～Jの5領域にわたり各領域1科目以上、合計10単位以上必要）
 - F領域：健康心理学（4）
 - G領域：健康教育概論（2）
 - H領域：健康心理カウンセリング概論（2）
 - I領域：健康心理アセスメント概論（2）
 - J領域：健康心理学基礎実習（2）
- (3) 健康心理学関連選択科目（1科目以上、2単位以上必要）
 - 科目名：医学一般（4）、精神医学（4）、精神保健学（4）、公衆衛生学（2）、社会福祉原論（4）、社会保障論（4）

※上記の科目は、リベラルアーツ学群専攻科目、健康福祉学群専攻科目に置かれています。各自確認のうえ、履修してください。

3. 資格認定の申請方法

資格認定を希望する人は、認定委員会の定める申請書類一式を整え、審査料を添えて認定委員会に提出します。

【注】資格認定に関する規則が変更されることがあれば、掲示等でお知らせします。

8. 健康運動実践指導者（公益財団法人健康・体力づくり事業団認定資格）

健康運動実践指導者になるためには、受験資格を取得し、財団の定める認定試験に合格しなければなりません。この資格の課程を履修することができるのは、健康福祉学群の学生に限られます。

1. 健康運動実践指導者の資格とは

この資格は、医学的基礎知識、運動生理学の知識、健康づくりのための運動指導の知識・技術等を持ち、健康づくりを目的として作成された運動プログラムに基づき、ジョギング、エアロビックスダンス、水泳及び水中運動等のエアロビックスエクササイズ、ストレッチング、筋力、筋持久力トレーニング等の補強運動の実践指導を行うことが出来ると認められた者に対して与えられる資格です。

2. 健康運動実践指導者の資格を取得するためには

本学健康福祉学群健康科学専修の所定の科目（下記表「本学授業科目一覧」）をすべて修得し、受験資格を取得した後、財団の定める認定試験に合格しなければなりません。受験する場合は、当該年度の春学期までに以下所定の科目の単位を修得する必要があります。認定試験は、筆記試験と指導実技試験からなります。

3. 履修上の注意

先修条件がついている科目があるので、その条件を確認の上、履修登録を行ってください。また、「フィットネス」は、水泳の実習が含まれるため、各種泳法を泳げる人が履修することが望まれます。さらに、資格関係以外の健康科学専修の科目の履修が望まれます。

【注】4月に行われる説明会に出席し、必ず希望調査票を提出すること。なお、希望調査票未提出者は、受験しないものとする。

4. 資格認定の申請及び登録について

認定試験を希望する人は、所定の書類等を整え、受験料を添えて財団に申請します。また、合格した人は、登録の申請料を添えて財団に登録します。登録は、5年間有効で、所定の講習会を受講して登録の更新をした人は、更に5年間登録が更新されます。

本 学 授 業 科 目 一 覧

	科 目 名	単位数	履修年次
1	健康科学論	4	1
2	運動学	2	1
3	生理学	2	1
4	栄養学	2	1
5	公衆衛生学	2	2
6	スポーツ心理学	4	2
7	解剖学	2	1
8	発育発達学	2	1
9	救急処置法	2	1
10	スポーツ生理学	2	2
11	体力測定評価実習	1	2
12	エアロビクスⅠ	1	1
13	フィットネスⅠ	1	1
14	トレーニングⅠ	1	1
15	陸上競技Ⅰ	1	1
16	体づくり運動Ⅰ	1	1

9. 公益財団法人日本体育協会公認スポーツ指導者養成講習会（共通科目Ⅰ＋Ⅱ）免除適応コース

この資格の課程を履修することができるのは健康福祉学群の学生に限られます。

1. 公益財団法人日本体育協会公認スポーツ指導者とは

公益財団法人日本体育協会及び加盟競技団体等が、資格認定する指導者で、スポーツ医・科学の知識を生かし、「スポーツを安全に、正しく、楽しく」指導し、「スポーツの本質的な楽しさ、素晴らしさ」を伝える事が出来る指導者です。

2. 公認スポーツ指導者養成講習会（共通科目Ⅰ＋Ⅱ）免除適応コースとは

公益財団法人日本体育協会が実施しているスポーツ指導者養成講習会と同じカリキュラム（共通科目Ⅰ＋Ⅱ）を本学健康福祉学群で履修することができ、講習会・試験の一部が免除されるシステムです。本学においては、指定の科目を履修し単位修得することで、「共通科目Ⅰ＋Ⅱコース」が免除されます。

卒業年度に修了証明書を申請することにより、「共通科目Ⅰ＋Ⅱ修了証明書」と併せて「スポーツリーダー」（地域におけるスポーツグループやサークルなどのリーダーとして、基礎的なスポーツ指導や運営にあたる者）として認定され「スポーツリーダー認定証」が発行されます。修了証明書発行にあたっては所定の費用が必要となります。卒業後の修了証明書の発行は行いません。

詳細は公益財団法人日本体育協会ホームページ <http://www.japan-sports.or.jp/coach/index.html> を参照するか、または実習支援センターまでお問い合わせください。

「共通科目Ⅰ＋Ⅱ」免除適応コースは、以下の科目を履修してください。

「公認スポーツ指導者養成講習会 共通科目Ⅰ＋Ⅱ 免除適応コース」

本学授業科目一覧

	科 目 名	単位数	履修年次
1	スポーツ社会学	2	1
2	障害者レクリエーション	2	2
3	スポーツコーチ学	4	2
4	発育発達学	2	1
5	スポーツ栄養学	4	2
6	スポーツ医学	2	1
7	救急処置法	2	1
8	スポーツ心理学	4	2
9	スポーツ経営学	2	2

10. 初級障がい者スポーツ指導員（公益財団法人日本障がい者スポーツ協会資格）

この資格の課程は、全ての学群の学生が履修できます。

1. 初級障がい者スポーツ指導員とは

この資格は、障害者の適性に応じたスポーツ・レクリエーションを通じて、障害者の健康・体力の維持・増進と競技力の向上に寄与することを責務とするものです。

なお、詳細は公益財団法人日本障がい者スポーツ協会のホームページ <http://www.jsad.or.jp/>を参照してください。

2. 初級障がい者スポーツ指導員の資格を取得するためには

本学は、同協会の資格認定校であり、所定の科目を修得した後、協会に申請することにより、初級障がい者スポーツ指導員の資格が取得できます。資格申請・登録には、所定用紙とともに諸費用を添える必要があります。

必修科目：「障害学」「障害者レクリエーション」の2科目

11. 保育士（国家資格）

保育士になるためには、厚生労働大臣の指定する保育士を養成する学校その他の施設（指定保育士養成施設）を卒業するか、都道府県が実施する保育士試験に合格し、都道府県の備える保育士登録簿に氏名・生年月日その他厚生労働省令で定める事項の登録を行わなければなりません。

平成18年度より、本学健康福祉学群保育専修は厚生労働大臣指定の「指定保育士養成施設」として設置認可され、この資格の養成課程を履修できるのは健康福祉学群保育専修の学生に限ります。

1. 保育士の資格制度の目的

近年、少子化社会の時代にあっても、働く女性が増えるなどの社会背景の中で、保育士のニーズは増えてきています。社会の多様化が進む中で、保育士に求められる資質も変化してきており、精神的援助が行え、健康的側面からの支援ができ、国際的な視野と語学力を備えた保育士が求められています。

このような現状から、平成13年11月30日に児童福祉法の一部を改正する法律が公布され、保育士の資格が法定化されました。この資格制度は名称独占制度であるので、保育士でない者が、保育士又はこれに紛らわしい名称を使用することは児童福祉法により禁止されています。

2. 保育士の業務内容

保育士は、保育士の名称を用いて専門知識及び技術をもって児童の保育及び児童の保護者に対する保育に関する指導を行うことを業とする者をいい、保育所や児童福祉施設が主な活躍の場となります。社会環境や福祉の知識、精神保健の知識、カウンセリング経験、外国籍の子どもや保護者ともコミュニケーションができる力などを身につけた人材が求められています。

3. 保育士の資格を取得するためには

本学健康福祉学群保育専修では、保育士の資格を得るために、児童福祉法施行規則第6条の2第1項第3号に基づいて、次頁表の通り74科目を設置しています。保育士の資格取得のためには、表中の「教養科目」「必修科目」「選択必修科目」のそれぞれの分野から、指定された単位数を修得し、なおかつ卒業要件を満たすことが必要です。

4. 履修上の注意

履修にあたっては、科目の履修年次や先修条件等を確認の上、履修してください。

「保育士」指定科目及び本学科目対照表

教科目の種別	告示による教科目		本学の科目名	単位数	履修年次	備考
(10単位以上設置) 教養科目	外国語、体育以外の科目		キリスト教入門	2	1	必修
			口語表現Ⅰ	2	1	4単位以上を選択必修
			文章表現Ⅰ	2	1	
			文章表現Ⅱ	2	1	
			コンピュータリテラシーⅠ	2	1	
			コンピュータリテラシーⅡ	2	1	
			キャリアデザイン A	2	1	
	外国語		英語コアⅠ A	2	1	必修
			英語コアⅠ B	2	1	
			英語コアⅡ A	2	1	
			英語コアⅡ B	2	1	
	体育		健康とスポーツ	2	1	必修
			スポーツ（ウィークリースポーツ）	1	1	1科目 選択必修
			スポーツ（シーズンスポーツ）	1	1	
告示別表第一による教科目 必修（51単位以上設置）	目的に関する科目 保育の本質・	保育原理	保育原理	2	1	必修
		教育原理	教育原理（保育）	2	1	〃
		児童家庭福祉	子ども家庭福祉	2	1	〃
		社会福祉	社会福祉	2	1	〃
		相談援助	保育ソーシャルワーク	2	3	〃
		社会的養護	社会的養護Ⅰ	2	2	〃
		保育者論	教職入門（保育）	2	1	〃
	理解に関する科目 保育の対象の	保育の心理学Ⅰ	発達心理学	2	2	〃
		保育の心理学Ⅱ	教育心理学（保育）	2	2	〃
		子どもの保健Ⅰ	子どもの保健Ⅰ	4	2	〃
		子どもの保健Ⅱ	子どもの保健Ⅱ	2	2	〃
		子どもの食と栄養	子どもの食と栄養	2	2	〃
		家庭支援論	家庭支援論	2	2	〃
	方法に関する科目 保育の内容・	保育課程論	教育課程論（保育）	2	2	〃
		保育内容総論	保育内容総論	2	2	〃
		保育内容演習	保育内容（健康）	2	3	〃
			保育内容（人間関係）	2	3	〃
			保育内容（環境）	2	3	〃
			保育内容（言葉）	2	3	〃
			保育内容（表現）	2	3	〃
		乳児保育	乳児保育	2	2	〃
		障害児保育	障害児保育	2	2	〃
		社会的養護内容	社会的養護Ⅱ	2	2	〃
		保育相談支援	教育相談	2	2	〃
	保育の表現技術	保育の表現技術	保育表現技術（音楽）	2	1	〃
			保育表現技術（造形）	2	2	〃
			保育表現技術（体育）	2	2	〃
	保育実習	保育実習Ⅰ	保育実習Ⅰ（保育所）	2	2	〃
			保育実習Ⅰ（施設）	2	3	〃
		保育実習指導Ⅰ	保育実習指導Ⅰ	2	2	〃
	総合演習	保育実践演習	教職実践演習（保育）	2	4	〃

次のページに続く

教科目の種別	告示による教科目		本 学 の 科 目 名	単位数	履修年次	備 考
告示別表第二による教科目 選択必修（18単位以上設置）	保育の本質・目的に関する科目		地域福祉論	4	2	8単位以上を選択必修
			児童福祉論	4	2	
	保育の対象の理解に関する科目		発育発達学	2	1	
			救急処置法	2	1	
			心理学	4	1	
			医学一般	4	1	
			精神保健学	4	1	
	保育の内容・方法に関する科目		児童英語教育入門	2	1	
			保育の英語Ⅰ	2	2	
			保育の英語Ⅱ	2	2	
			児童文化	2	2	
	保育の表現技術		運動学	2	1	
			音楽実技Ⅰ	1	1	
			音楽実技ⅡA	1	2	
			音楽実技ⅡB	1	2	
			音楽実技ⅡC	1	2	
			造形基礎	2	1	
	保育実習	保育実習Ⅱ	保育実習Ⅱ	2	3	※
		保育実習指導Ⅱ	保育実習指導Ⅱ	2	3	
		保育実習Ⅲ	保育実習Ⅲ	2	3	
		保育実習指導Ⅲ	保育実習指導Ⅲ	2	3	
保育士資格取得科目ではないが、 学校独自の科目として設定されて いる教科目			社会福祉とマネージメント	4	1	選択必修
			健康科学論	4	1	
			老年学	4	1	
			社会学	4	1	
			法学	4	1	
			今日の健康と福祉	2	1	
			人間関係論	2	1	
			健康心理学概論	2	1	

※保育実習Ⅱと保育実習指導Ⅱまたは保育実習Ⅲと保育実習指導Ⅲのうち、いずれかを選択必修

12. 幼稚園教諭 1 種免許状（国家資格）

この資格の課程を履修することができるのは、健康福祉学群保育専修の学生に限られます。

1. 幼稚園教諭免許状の取得について

幼稚園教諭になるためには、国・公・私立幼稚園を問わず、幼稚園の教育職員免許状（以下、免許状）を取得している必要があります。また、認定こども園の保育教諭になるためにも、保育士資格に加えて幼稚園教諭免許状が必要となります。

免許状は「教育職員免許法」に基づき文部科学省の認定を受けた課程で所定の単位を修得することにより、取得することができます。つまり、本学を卒業し、免許状の授与を受けるために必要な単位を修得し、免許状の授与権者である都道府県教育委員会に申請することで、免許状が授与されます。

2. 幼稚園教諭 1 種免許状を取得するための手続き

(1) 幼稚園教職課程登録

幼稚園教諭 1 種免許状の取得を希望する学生は、2 年次春に幼稚園教職課程の登録を行なう必要があります。

(2) 免許状取得のための条件

- ① 卒業に必要な科目及び単位を修得すること
- ② 免許状取得に必要な科目及び単位を修得すること

(3) 免許申請の手続き

幼稚園教職課程登録をした学生のうち、秋学期卒業の学生については、免許状取得のための東京都教育委員会への申請を本学が一括して手続きを行います（大学一括申請）。なお、一括申請に該当しない場合は個人での申請になります。

幼稚園教諭の免許状の授与を希望する学生は、4 年次の一括申請手続説明会に必ず出席し、所定の手続きを行ってください。

(4) 幼稚園教職課程登録を取り下げる場合は、速やかに実習支援センターに相談し、所定の手続きを行ってください。

3. 幼稚園教諭1種免許状取得に必要な科目及び単位数

<教科に関する科目> 6単位以上

免許法施行規則に定める科目及び単位数		本学開設授業科目	単位数	履修年次	備考
教 科 目					
国語		子どもとことば	2	3	
生活		あそびと生活	2	3	
音楽		保育表現技術（音楽）	2	1	必修
		音楽実技Ⅰ	1	1	
		音楽実技Ⅱ A	1	2	
		音楽実技Ⅱ B	1	2	
		音楽実技Ⅱ C	1	2	
		音楽表現法	2	2	
		図画工作		保育表現技術（造形）	2
造形基礎	2			1	
体育		保育表現技術（体育）	2	2	必修
		子どものからだと健康	2	3	
その他準ずる科目		児童文化	2	2	

<教職に関する科目> 35単位以上

免許法施行規則に定める科目及び単位数			本学開設授業科目	単位数	履修年次	備考
科 目	各科目に含めることが 必要な事項	単位数				
教職の意義 等に関する 科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、服 務及び身分保障等を含む。） ・進路選択に資する各種の機会 の提供等	2	教職入門（保育）	2	1	必修
教育の基礎 理論に関す る科目	・教育の理念並びに教育に関す る歴史及び思想	6	教育原理（保育）	2	1	必修
	・幼児、児童及び生徒の心身の 発達及び学習の過程（障害の ある幼児、児童及び生徒の心 身の発達及び学習の過程を含 む。）		教育心理学（保育）	2	2	必修
			発達心理学	2	2	
	・教育に関する社会的、制度的 又は経営的事項		教育制度論（保育）	2	2	必修
教育課程及 び指導法に 関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法	18	教育関係法規（保育）	2	2	
	・保育内容の指導法		教育課程論（保育）	2	2	必修
			保育内容総論	2	2	必修
			保育内容（健康）	2	3	必修
			保育内容（人間関係）	2	3	必修
			保育内容（環境）	2	3	必修
			保育内容（言葉）	2	3	必修
			保育内容（表現）	2	3	必修
			障害児保育	2	2	必修
	・教育の方法及び技術（情報機 器及び教材の活用を含む。）		教育方法論（保育）	2	2	必修
子どもとメディア	2	3				
生徒指導、 教育相談及 び進路指導 等に関する 科目	・幼児理解の理論及び方法 ・教育相談（カウンセリングに 関する基礎的な知識を含む。） の理論及び方法	2	幼児理解の理論と方法	2	2	
			教育相談	2	2	必修
教育実習		5	教育実習事前・事後指導	1	3	必修
			教育実習Ⅰ	2	3	必修
			教育実習Ⅱ	2	4	必修
教職実践演 習		2	教職実践演習（保育）	2	4	必修

＜教科又は教職に関する科目＞ 10単位以上

教育職員免許法第5条別表第1により、「教科又は教職に関する科目」として10単位以上を修得しなければなりません。

「教科又は教職に関する科目」の単位の修得方法は、「教科に関する科目」又は「教職に関する科目」についての規程の最低修得単位を超えて修得した単位数をもってこれに充てることができます。

＜免許法施行規則第66条の6に定める科目＞ 8単位以上

科目	単位数	本学開設授業科目	単位数	履修年次	備考
日本国憲法	2	日本国憲法	2	1	必修
体育	2	健康とスポーツ	2	1	} 1単位以上必修
		スポーツ（ウィークリースポーツ）	各1	1	
		スポーツ（シーズンスポーツ）	各1	1	
外国語コミュニケーション	2	英語コアⅠA	2	1	} 2単位以上必修
		英語コアⅠB	2	1	
		英語コアⅡA	2	1	
		英語コアⅡB	2	1	
		英語エレクトィブⅠ－初級	各1	1	
		英語エレクトィブⅡ－中級	各1	1	
		英語エレクトィブⅢ－上級	各1	1	
		英語エレクトィブⅣ－特設	各1	1	
情報機器の操作	2	英語エレクトィブⅤ－特設	各2	1	} 2単位以上必修
		コンピュータリテラシーⅠ	2	1	
		コンピュータリテラシーⅡ	2	1	

4. 教育実習

教育実習は教職に関する科目のひとつとして履修するものです。学外の実習園において、実地に保育に参加して行われるものです。しかし、それは本学が責任を持ち、受け入れ側実習園との緊密な連絡のもとに実施するものですから、必ず所定の手続きを踏み、指導事項を守らなければなりません。予定された教育実習が不可能となった場合や問題が生じた場合は、速やかに実習支援センターに連絡をして、その後の指示を受けてください。

(1) 実習時期と実習期間

幼稚園教諭1種免許状の取得に必要な教育実習期間は4週間です。

教育実習Ⅰ（観察実習、参加実習、部分実習） 2週間 3年次秋学期

教育実習Ⅱ（部分実習、責任実習） 2週間 4年次春学期

(2) 教育実習の履修資格

教育実習を行うにあたっては、以下の科目を修得済であることが条件となります。

「教職入門（保育）」「教育原理（保育）」

(3) 教育実習園の決定

本学では、原則、教育実習Ⅰと教育実習Ⅱの実習園は同一園とします。但し実習園の都合等により同一園にならない場合もあります。また、実習先は、幼稚園教職課程登録時に提出する希望調査票に基づいて配属を決定し、大学から幼稚園へ依頼し内諾を得ます。

(4) 「教育実習事前・事後指導」の履修

教育実習を行うにあたっては「教育実習事前・事後指導」の授業を同時に履修していることが条件となります。また、授業とは別に教育実習に関する書類の配布、申込方法の説明などの事前指導等を行いますので、必ず出席してください。

13. 社会福祉主事任用資格

社会福祉主事任用資格は本来、各地方自治体の福祉事務所などに従事する公務員（ケースワーカーなど）として任用される者に要求される資格ですが、社会福祉施設の職員等の資格にも準用されています。

なお、任用資格とは、所定の要件を満たし、該当する職種に就いて初めて通用するものです。

本学では、厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する科目（以下「指定科目」という）から3科目以上を修得して卒業した者に対し、申請により証明書の発行を行っています。

また、指定科目の読替の範囲としてあげられている科目名と同じ名称の科目を修得していれば、指定科目を修得したこととなります。

詳細は、厚生労働省ホームページを参照してください。

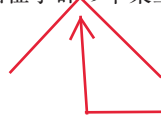
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/seikatsuhogo/shakai-kaigo-fukushi8.html>

社会福祉概論、社会保障論、社会福祉行政論、公的扶助論、身体障害者福祉論、老人福祉論、児童福祉論、家庭福祉論、知的障害者福祉論、精神障害者保健福祉論、社会学、心理学、社会福祉施設経営論、社会福祉援助技術論、社会福祉事業史、地域福祉論、保育理論、社会福祉調査論、医学一般、看護学、公衆衛生学、栄養学、家政学、倫理学、教育学、経済学、経済政策、社会政策、法学、民法、行政法、医療社会事業論、リハビリテーション論、介護概論

14. 児童指導員任用資格

児童指導員は、家庭の事情や障害などのため、児童福祉施設で生活する児童を援助、育成、指導する職種であり、児童指導員任用資格は、児童福祉施設が児童指導員を採用する際の基準として定められた資格です。

本学における資格取得対象となり得る学生は、健康福祉学群の卒業生であり、申請により証明書の発行を行っています。



およびリベラルアーツ学群（心理学専攻、社会学専攻、教育学専攻専攻メジャー修了）

15. 操縦士（国家資格）

操縦士の資格を取得するためには、国土交通省航空局（アメリカ合衆国の資格はアメリカ連邦航空局）の定める国家試験に合格しなければなりません。

この資格の養成課程を履修できるのはビジネスマネジメント学群アビエーションマネジメント学類フライト・オペレーションコースの学生に限ります。

1. 操縦士の業務範囲

操縦士は、航空機に乗り組んで操縦を行うことを業務とします。資格によって行うことができる業務は異なり、報酬を受けて操縦士としての業務を行う場合は「事業用操縦士技能証明」の資格が必要となります。

2. 国家試験について

操縦士になるためには、一定の年齢及び飛行経歴を充足し、資格別、航空機の種類別に行われる国家試験を受け、合格する必要があります。国家試験には、学科試験と実地試験があり、学科試験に合格しなければ実地試験を受験することはできません。また、操縦士は常に健康の保持に留意しなければならず、国が指定した機関及び指定した航空身体検査医による身体検査を受験し、第1種航空身体検査証明の交付を受ける必要があります。さらに、電波法に基づく航空無線通信士（国家資格）の取得と ICAO 航空英語検定 Level 4 が要求されています。

3. 本学の養成課程で取得を目指す資格

国土交通省航空局：「事業用操縦士技能証明（多発）」、「計器飛行証明」、ICAO 航空英語検定 Level 4

アメリカ連邦航空局：「自家用操縦士技能証明」、「事業用操縦士技能証明（単発・多発）」、「計器飛行証明」

総務省：「航空無線通信士」

4. 資格取得までのスケジュール

1 年次春学期から 2 年次春学期までに、国土交通省航空局「事業用操縦士技能証明」・「計器飛行証明」の学科試験合格及び総務省「航空無線通信士」の資格取得を目指します。

2 年次秋学期から 4 年次春学期までは、渡航先で、概そ 2 年間海外で行われる飛行訓練課程で操縦技倆を修得し、アメリカ連邦航空局「自家用操縦士技能証明」、「事業用操縦士技能証明」、「計器飛行証明」の取得及び国土交通省航空局「事業用操縦士技能証明」、「計器飛行証明」実地試験合格を目指します。ICAO 航空英語検定 Level 4 については、飛行訓練開始前にアメリカ合衆国で資格を取得します。引き続き帰国後国土交通省航空局のものに書き換えます。

5. 履修上の注意

2 年次秋学期から始まる渡航先での操縦実技科目を履修するためには、以下の①～④の要件を全て満たす必要があります。

- ① 国土交通省航空局「事業用操縦士技能証明」及び「計器飛行証明」の学科試験合格
- ② 総務省「航空無線通信士」の資格取得
- ③ TOEIC®650点以上
- ④ GPA2.5以上（渡航前まで）

学修内容及び操縦適性において、操縦実技科目の履修または履修の継続に支障があると認められた者に対しては、資格取得を中止（渡航中の場合は帰国）させることがあります。

16. 社会調査士（一般社団法人 社会調査協会認定資格）

この資格の課程を履修することができるのは、ビジネスマネジメント学群の学生に限られます。

1. 「社会調査士」とは

社会調査の基礎能力を有する専門家です。調査企画から報告書作成までの社会調査の全過程を学習することにより、基本的な調査方法や分析手法の妥当性、またその問題点を指摘することができます。

2. 「社会調査士」の資格を取得するためには

卒業見込みの学年度において以下の条件を満たしている者は、申請することができます。

A～EおよびGの各領域において、指定科目の単位をすべて修得していること。

【A領域】社会調査の基本的事項に関する科目：データ処理の理論と手法（2）

【B領域】調査設計と実施方法に関する科目：市場調査入門（2）

【C領域】基本的な資料とデータの分析に関する科目：ビジネス数字の読み方（2）

【D領域】社会調査に必要な統計学に関する科目：ビジネス統計（2）

【E領域】量的データ解析の方法に関する科目：パソコン利用のグラフ意思決定（2）

【G領域】社会調査の実習を中心とする科目：経営情報システム演習Ⅰ（2）、経営情報システム演習Ⅱ（2）

※（ ）内は単位数です。

3. 資格認定の申請方法

資格認定を希望する学生は、所定の申請書類一式を整え、審査・認定手数料を添えて社会調査協会に提出します。

【注】資格認定に関する規則が変更されることがあれば、掲示等でお知らせします。

17. ECO-TOP プログラム（東京都認証）

1. ECO-TOP プログラムとは

「ECO-TOP プログラム」とは、今後の持続可能な社会の構築に向けて、自然環境分野で幅広い知識と専門性を備えアクティブに行動できる人材を育成し、人材の能力を認証するための、東京都の人材育成プログラムです。（「ECO-TOP」とは、「自然環境保全のための人材育成プログラム」の英語訳である、Ecological Conservation-Training of Personnel Program の頭文字を取った略称です。）

「ECO-TOP プログラム」の修了者は、東京都に登録され、自然環境分野に関する情報を定期的に得られたり、企業・NPO・行政から構成されるネットワークに入ることができるといった、フォローアップが受けられます。

詳細は、東京都の ECO-TOP プログラム ホームページを参照してください。

<http://www.eco-top.jp/index.php>

2. ECO-TOP プログラムの修了に必要な科目と単位数

授業概要に定める科目区分		単位数	科目名	単位数	備 考
必修科目	カリキュラムの導入科目	4単位必修	環境と文明	4	
	カリキュラムの最終科目	2単位必修	環境科学総合演習	2	卒業論文に条件を課すもの
	安全管理 救急救命 に関する科目	1単位必修	野外安全管理 救急救命演習	1 +	
選択科目	カリキュラムの導入科目	2単位 選択必修	自然理解（ヒトの生物学）	2	
			自然理解（生物の一様性と多様性）	2	「生物学概論」との重複履修不可
			生物学概論	2	「自然理解（生物の一様性と多様性）」との重複履修不可
			自然理解（物質の世界）	2	「化学概論」との重複履修不可 「自然理解（実感する化学）」でも可
			化学概論	2	「自然理解（物質の世界）」との重複履修不可
			地学概論	2	
		2単位 選択必修	自然理解（環境問題入門）	2	
			社会理解（環境の科学）	2	
	自然環境に関する自然科学分野の科目	4単位 選択必修	動物学Ⅰ	2	
			動物学Ⅱ	2	
			植物学Ⅰ	2	
			植物学Ⅱ	2	
			生態学Ⅰ	2	
			生態学Ⅱ	2	
			生物学実験Ⅰ	2	
			生物学実験Ⅱ	2	
		2単位 選択必修	人と自然	2	
			環境生物学	2	
			自然環境調査法	2	
			生体物質化学	2	
			エネルギーと環境	2	
			地球規模環境論Ⅰ	2	
		4単位選択 必修（注）	地球規模環境論Ⅱ	2	
			海洋学	2	
			感覚公害論	2	
			専攻演習Ⅰ	2	（注）専攻演習Ⅰ及び専攻演習Ⅱをいずれも必修（合計4単位）とし、自然科学分野又は社会科学分野から選択
			専攻演習Ⅱ	2	
		選択科目	無機化学Ⅰ	2	
			無機化学Ⅱ	2	
			基礎有機化学	2	
			有機合成化学	2	
			気象学Ⅰ	2	
			気象学Ⅱ	2	
			地質学Ⅰ	2	
			地質学Ⅱ	2	
			自然理解（人は天を見上げて考える）	2	
			環境化学	2	

（次のページに続く）

授業概要に定める 科目区分		単位数	科 目 名	単位数	備 考
選 択 科 目	自然環境に関する社会科学分野の科目	4単位 選択必修	環境法学 環境経済論	4 4	
		2単位 選択必修	文系のための環境科学 環境マネジメント論 環境ビジネス論 企業と環境 企業とエネルギー 観光リゾート開発論 地域振興論 国際環境交渉論	2 2 2 2 2 2 2 2	
		4単位選択 必修（注）	専攻演習Ⅰ 専攻演習Ⅱ	2 2	（注）専攻演習Ⅰ及び専攻演習Ⅱをいずれも必修（合計4単位）とし、自然科学分野又は社会科学分野から選択
		選択科目	都市環境政策Ⅰ 都市環境政策Ⅱ 環境と地域 環境とまちづくり 環境社会学 持続可能な開発 食品安全論 化学と人間社会 国際関係論 国際協力論 環境 NPO・NGO 社会環境調査法 エコロジー・デザイン特殊講義 社会理解（環境問題と環境法） エコビジネス	2 2 2 2 4 4 2 2 4 4 2 2 2 2 2	
		2単位 選択必修	環境倫理学 人間環境学 環境・生命・人権の哲学 江戸から学ぶ環境 地理学概論	2 4 2 2 4	
		2単位 選択必修	オーラルコミュニケーション（話す） オーラルコミュニケーション（きく） 集団コミュニケーション 環境教育論	2 2 2 2	
	インターンシップ	6単位必修	ECO-TOP インターンシップ事前研修 ECO-TOP インターンシップⅠ ECO-TOP インターンシップⅡ ECO-TOP インターンシップ事後研修	1 2 2 1	
		必修科目	13単位	7単位（導入科目、最終科目、安全管理）＋6単位（インターン）	
		選択必修科目	24単位	開設100単位のうち24単位を選択必修	
		選択科目	（0単位）	開設58単位から自由選択	
	修了判定基準		必修条件をクリアし、合計98単位以上		

参 考 資 料

以下は、2016年度の大学学則です。2017年度の大学学則は、本学ウェブサイトを参照してください。

1. 桜美林大学学則

第1章 総 則

第1節 目的及び達成の評価

(目的)

第1条 桜美林大学（以下「本学」という。）は、教育基本法及び学校教育法の定めるところに従い、豊かな人間性を涵養するため幅広い知識を授けるとともに、専門学芸の研究と教育を行い、キリスト教精神に基づいた教養豊かな識見の高い国際的人材を育成することを目的とする。

(目的達成の点検と評価)

第2条 本学は、前条の目的を達成するため、教育研究活動の状況を点検し評価を行い、その結果を公表する。

2 前項の点検、評価及び結果の公表の方法並びに組織については、別に定める。

第2節 組 織

(学群、学系及び学類)

第3条 本学に、学校教育法第85条但し書きに定める組織として、学群及び学系を置く。

2 前項の学群は、教育上の目的及び機能に応じて組織するものとし、その種類及び定員は次のとおりとする。

学 群 ・ 学 類		入学定員	3年次編入学定員	収容定員	備 考
リベラルアーツ学群		950人	—	3800人	
芸術文化学群		250人	—	1000人	
ビジネスマネジメント学群	ビジネスマネジメント学類	400人	—	1600人	
	アビエーションマネジメント学類	80人	—	320人	
健康福祉学群		200人	—	800人	入学定員に保育専修50人を含む
グローバル・コミュニケーション学群	グローバル・コミュニケーション学類	250人	—	1000人	

3 第1項の学群において、教育上の目的及び機能に応じて、学類を設けることができる。

4 第2項の学群において、学年定員に欠員が生じた場合等、特別な事情がある場合、編入学等により学生を受け入れることがある。

5 第1項の学系は、研究上の目的に応じ、かつ、教育上の必要性を考慮して組織するものとし、その種類、その他必要な事項は、別に定める。

(養成する人材等)

第3条の2 前条の学群、学類の人材養成等に関する目的は、次のとおりとする。

- (1) リベラルアーツ学群は、広範な知識と深い専門性に裏付けられた思考力、分析力、柔軟な発想力を身につけた人間性豊かな人材の養成等を目的として、総合的教養及び専門的基礎学術に係る教育等を行う。
- (2) 芸術文化学群は、演劇、音楽、造形デザイン、映画等の分野を幅広く追求し、アートの専門家として社会に通用するスキルを身につけた人材の養成等を目的として、総合的文化教育（芸術系分野）に係る教育等を行う。
- (3) ビジネスマネジメント学群ビジネスマネジメント学類は、国際社会で必要なビジネス感覚を養い、広範な知識から発想し、意思決定の行える、新しい経営マインドを備えた人材の養成等を目的として、幅広い職業人養成に係る教育等を行う。

- (4) ビジネスマネジメント学群アビエーションマネジメント学類は、確かな知識・技倆を身につけ、新しい経営マインドを備えた航空業界で活躍する人材の養成等を目的として、専門的な職業人養成に係る教育等を行う。
- (5) 健康福祉学群は、専門領域における確かな知識・技術を身につけ、人々の願い、悩み、喜びに共感できる、感性豊かな人間性をそなえた健康と福祉のエキスパートの養成等を目的として、専門的な職業人養成に係る教育等を行う。

(教育基本組織以外の教育組織)

第4条 本学に、第3条の教育基本組織に共通する教育を一括して行うため、教育基本組織以外の教育組織を置くことができる。

2 教育基本組織以外の教育組織に関する規程は、別に定める。

(大学院)

第5条 本学に、大学院を置く。

2 大学院に関する学則は、別に定める。

(別科)

第5条の2 本学に、別科の課程として留学生別科及び中国語特別課程を置く。

2 留学生別科及び中国語特別課程に関する規程は、別に定める。

(附置研究組織)

第6条 本学に、専門学術研究の振興を目的とし、附置研究組織を置くことができる。

2 附置研究組織に関する規程は、別に定める。

(附属図書館)

第7条 本学に、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料を教職員及び学生の閲覧に供するため、図書館を置く。

2 図書館に関する規程は、別に定める。

第3節 教職員(省略)

第4節 大学運営会議及び教授会(省略)

第5節 学年、学期及び休業日

(学年)

第22条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第23条 学年を、次の2学期に分ける。

春学期 4月1日から9月15日まで

秋学期 9月16日から翌年3月31日まで

(休業日)

第24条 大学における授業を行わない日(以下「休業日」という。)は、次のとおりとする。

- (1) 日曜日及び国民の祝日に関する法律で定められた休日
- (2) 創立記念日(5月29日)
- (3) 春季休業 3月20日から4月5日まで
- (4) 夏季休業 8月1日から9月15日まで

(5) 冬季休業 12月25日から翌年1月7日まで

2 学長は、臨時に前項の休業日を変更し、又は休業日に授業を行わせ、もしくは臨時休業日を定めることができる。

(授業期間)

第25条 授業を行う期間は、試験等の期間を含め、年間35週にわたることを原則とする。

第2章 学群通則

第1節 修業年限及び在学年限

(修業年限及び在学年限)

第26条 学士課程の標準修業年限は、4年とする。なお、編入学者の標準修業年限は、第2年次に入学した者については3年、第3年次に入学した者については2年とする。

2 在学年数は、標準修業年限の2倍の年数を超えることはできない。

3 大学の学生以外の者として本学において一定の単位を修得した者が本学に入学する場合において、当該単位の修得により本学の教育課程の一部を履修したと認められるときは、修得した単位数その他の事項を勘案し、2年を上限として第1項の修業年限に通算することができる。

第26条の2 本学は、別に定めるところにより、本学の学群に3年以上在学した学生が、卒業の要件として本学の定める単位を優秀な成績で修得したと認める場合には、第26条第1項の規定にかかわらず、その卒業を認めることができる。

(科目等履修生の在学年限)

第27条 第26条の規定にかかわらず、科目等履修生の在学年限については、学長が別に定める。

第2節 入 学

(入学の時期)

第28条 入学の時期は、毎学年の始めとする。但し、第29条の各号に該当する者で、教育上支障がないときは、9月に入学を許可することがある。

(入学資格)

第29条 本学に入学できる者は、次の各号の一に該当する者とする。

(1) 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者

(2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。）

(3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの

(4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

(5) 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

(6) 文部科学大臣の指定した者

(7) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。）

(8) 学校教育法第90条第2項の規定により大学に入学した者であって、本学において、大学における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの

(9) 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達したもの

(入学の出願)

第30条 本学への入学を志願する者は、所定の入学願書その他の必要書類を入学検定料とともに、本学の指定する期日までに提出しなければならない。

(入学者の選考)

第31条 前条の入学志願者の選考については、別に定める。

(入学の手続き)

第32条 前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに本人と保証人連署の誓約保証書のほか、定められた書類を提出するとともに、定められた期日までに所定の納入金を納付しなければならない。

(入学の許可)

第33条 学長は、前条の入学手続きを完了した者に入学を許可する。

(入学前の既修得単位等の認定)

第34条 本学は、教育上有益と認めるときは、新たに本学の第1年次に入学した学生の、次の各号の一に該当する既修得単位等を、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

- (1) 大学又は短期大学（外国の大学・短期大学を含む。）において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生により修得した単位を含む。）
- (2) 短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修の本学の認定による単位
- 2 本学において修得したとみなすことができる単位数は、編入学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第44条及び第45条により認定された単位数と合わせて60単位を限度とし、認定は当該学群の教授会の議を経て学長が決定する。

(編入学等)

第35条 第3条第4項の場合において、次の各号の一に該当する者で、本学への編入学等を志願する者があるときは、選考のうえ第2年次もしくは、第3年次に入学を許可する。

- (1) 大学を卒業した者又は大学に2年以上在籍し中途退学した者
- (2) 短期大学又は高等専門学校を卒業した者
- (3) 学校教育法施行規則附則第7条の規定により大学に編入学することができる者
- (4) 専修学校の専門課程（修業年限が2年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。）を修了した者（但し、学校教育法第90条第1項に規定する者に限る。）
- (5) 高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。）の専攻科の課程（修業年限が2年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。）を修了した者（但し、学校教育法第90条第1項に規定する者に限る。）
- 2 前項の規定により入学を許可された者の既に修得した授業科目、及び単位数の取扱いについては、卒業要件単位の2分の1を上限として、当該学群の教授会の議を経て学長が決定する。

第3節 教育課程及び履修方法等

(授業科目及び単位)

第36条 本学における授業科目及びその単位数は、別表Ⅰのとおりとする。

(授業科目の区分)

第37条 授業科目はこれを分けて、必修科目、選択科目及び自由科目とする。

(授業の方法)

第37条の2 授業は、講義、演習、実験、実習もしくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2 前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることがある。

3 前項の授業の方法により修得する単位数は60単位を超えないものとする。

(教育内容等の改善のための組織的な研修等)

第37条の3 本学は、本学の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

(単位の計算方法)

第38条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、次の各号の基準によって計算する。

(1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で定められた時間の授業をもって1単位とする。

(2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で定められた時間の授業をもって1単位とする。

但し、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、相応の時間の授業をもって1単位とする。

(3) 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち2以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、前二号に規定する基準を考慮して定められた時間の授業をもって1単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作、校外学習・個別課題学習等の授業科目及び公の技能審査等による認定を受けた者については、これらの学修の成果を評価して、適切な単位を授与することができる。

(単位の授与)

第39条 単位の授与は、原則として試験によるものとする。

2 一の授業科目を履修した者に対しては、試験のうえ単位を与えるものとする。

第40条 削除

(受験資格)

第41条 一の授業科目について欠席時間数が授業時間数の3分の1を超えた者は、その科目の試験を受けることができない。

2 授業料その他の学納金未納の者は、試験を受けることができない。

第42条 削除

(成績)

第43条 履修した授業科目の成績は、A、B、C、D、Fをもって表わし、A、B、C、Dを合格とする。但し、学長が必要と認めるときはこれら以外の表記で成績を表すことができる。

(他大学等における授業科目の履修等)

第44条 本学は、教育上有益と認めるときは、学生が他の大学又は短期大学（外国の大学又は短期大学を含む。）の授業科目を履修することを認める。

2 本学において修得したものとみなすことができる単位数は、第34条及び第45条により認定された単位数と合わせて60単位を限度とし、認定は当該学群の教授会の議を経て学長が決定する。

(大学以外の教育施設等における学修)

第45条 本学は、教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修を、本学における授業科目の履修と認める。

2 本学において修得したものとみなすことができる単位数は、第34条及び第44条により認定された単位数と合わせて60単位を限度とし、認定は当該学群の教授会の議を経て学長が決定する。

(履修届及び履修科目の登録の上限)

第46条 学生は各学期初めに履修する科目を選定し、学長に届け出るものとする。

- 2 学生が1学期に履修できる単位数は、卒業の要件とはならない科目を除き、20単位を上限とする。
- 3 前項の規定にかかわらず、所定の単位を優れた成績をもって修得したと認められる学生等については、別に定めるところにより、上限を超えた履修科目の登録を認めることがある。

(取得できる資格)

第47条 本学で取得できる資格は、次の各項のとおりとする。

- 2 本学において取得できる教育職員免許状の種類及び教科名は、次のとおりとする。

学 群 ・ 学 類		免許状の種類	教 科 名
リベラルアーツ学群		中学校教諭1種免許状	国 語
		高等学校教諭1種免許状	国 語
		中学校教諭1種免許状	社 会
		高等学校教諭1種免許状	地 理 歴 史
		高等学校教諭1種免許状	公 民
		中学校教諭1種免許状	数 学
		高等学校教諭1種免許状	数 学
		中学校教諭1種免許状	理 科
		高等学校教諭1種免許状	理 科
		高等学校教諭1種免許状	情 報
		中学校教諭1種免許状	外国語（英語）
		高等学校教諭1種免許状	外国語（英語）
		中学校教諭1種免許状	外国語（中国語）
		高等学校教諭1種免許状	外国語（中国語）
芸 術 文 化 学 群		中学校教諭1種免許状	音 楽
		高等学校教諭1種免許状	音 楽
		中学校教諭1種免許状	美 術
		高等学校教諭1種免許状	美 術
ビジネスマネジメント学群	ビジネスマネジメント学類	高等学校教諭1種免許状	商 業
健 康 福 祉 学 群		中学校教諭1種免許状	保 健 体 育
		高等学校教諭1種免許状	保 健 体 育
		高等学校教諭1種免許状	福 祉
		幼稚園教諭1種免許状	

- 3 前項に示した教育職員免許状を得ようとする者は、学士の学位の取得に加え、教育職員免許法及び同法施行規則に定める単位を修得しなければならない。
- 4 博物館法（昭和26年法律第285号）に基づく学芸員の資格を得ようとする者は、それぞれに規定する教科目及び単位数を修得しなければならない。
- 5 学校図書館法（昭和28年法律第185号）に基づく司書教諭の資格を得ようとする者は、それぞれに規定する教科目及び単位数を修得しなければならない。
- 6 児童福祉法施行規則（昭和23年厚生省令第11号）に基づく保育士資格を得ようとする者は、別に定める教科目及び単位数を修得しなければならない。

第4節 休学・転学・留学・転群転類・退学・除籍及び再入学

(休学)

第48条 病気又はその他やむを得ない事由により就学することができないときは、事由を付して保証人連署のうえ休

学願を提出しなければならない。なお、必要な場合は、医師の診断書を添えなければならない。

2 前項の願い出があったときは、学長は当該学群の教授会の議を経てこれを許可する。

第49条 休学の期間が1年を超えるときは、改めて休学願を提出しなければならない。

第50条 休学の期間は、引続き2年を超えることはできない。

2 休学の期間は、在学中を通じて3年を超えることはできない。

3 前2項の期間は、在学年数に算入しない。

第51条 休学の事由が終わったときは、願い出により復学することができる。

2 復学の時期は、各学期の初めとする。

(転学)

第52条 本学から他の大学に転学を志望する者があるときは、学長は当該学群の教授会の議を経てこれを許可する。

(留学)

第53条 外国の大学への留学を志望する者は、学長に願い出てその許可を得て留学することができる。

2 許可を受けて留学した者の外国の大学での在学期間は、2年を限度として、本学における在学期間に算入することができる。

3 この規定に定める留学に関し必要な事項は、学長が定める。

(転群転類)

第54条 本学在学者で本学の他学群・他学類等への転群、転類等を志望する者があるときは、学長は当該両学群の教授会の議を経てこれを認めることがある。

2 前項の転群転類者の在学年数については、元の学群、学類等の在学年数の全部又は一部を算入することができる。

(退学)

第55条 本学を退学しようとする者は、事由を付して保証人連署のうえ退学願を提出しなければならない。

2 前項の願い出があったときは、学長は当該学群の教授会の議を経てこれを許可する。

第56条 削除

(除籍)

第57条 次の各号の一に該当する者は、当該学群の教授会の議を経て学長が除籍する。

(1) 第26条第2項に定める在学年限を超えた者

(2) 第50条第1項並びに第2項に定める休学期間を超えてなお就学できない者

(3) 学納金納付期限を超えて、所定の学納金の納付を怠り、督促してもなお納付しない者

(再入学)

第57条の2 退学者及び第57条第1項第3号により除籍された者が再入学を願い出たときは、学長は当該学群の教授会の議を経てこれを許可することがある。その場合、所定の期日までに所定の学納金を納付しなければならない。

2 再入学の時期は、各学期の初めとする。

3 懲戒処分により退学した者には、原則として再入学を許可しない。

第5節 卒業及び学位

(卒業要件)

第58条 卒業要件は、大学に4年以上在学し（第26条の2が適用される場合を除く。）、本学において定められた教育

課程を履修して、別に定める基準を満たしたうえで124単位以上を修得することとする。

(学位)

第59条 本学を卒業した者には、次の学士の学位を授与する。

学 群 ・ 学 類		課 程	学位（専門分野の名称）
リベラルアーツ学群		学士課程	学 士（学 術）
芸 術 文 化 学 群		学士課程	学 士（総 合 文 化 学）
			学 士（芸 術）
ビジネスマネジメント学群	ビジネスマネジメント学類	学士課程	学 士（経 営 政 策 学）
	アビエーションマネジメント学類	学士課程	学 士（アビエーションマネジメント）
健 康 福 祉 学 群		学士課程	学 士（社 会 福 祉 学）
			学 士（精 神 保 健 福 祉 学）
			学 士（健 康 科 学）
			学 士（保 育 学）
			学 士（健 康 福 祉 学）
グローバル・コミュニケーション学群	グローバル・コミュニケーション学類	学士課程	学 士（グローバル・コミュニケーション）

2 この学則に定めるもののほか、学位及びその授与に関し必要な事項は、本学学位規則に定める。

第6節 賞 罰

(表彰)

第60条 本学の教育目的に添い、成績優秀で他の模範となる行為のあった者は、学長がこれを表彰する。

(懲戒)

第61条 学則又は学内の規則に反し、その他学生としてふさわしくない行為のあった者には、学長は当該学群の教授会の議を経て懲戒を行うことがある。

第62条 懲戒は、退学、停学及び訓告とする。

2 退学は、次の各号の一に該当する者に対して行うことができる。

- (1) 性行不良で改善の見込がないと認められる者
- (2) 学力劣等で成業の見込がないと認められる者
- (3) 正当な事由がないにもかかわらず出席が常でない者
- (4) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

3 懲戒処分の基準及びその他の手続きについては、別に定める。

第7節 学生指導

(学生指導委員会)

第63条 本学に、学長の諮問に応じ、学生の指導・厚生に関する重要な事項を審議する学生指導委員会を置く。

2 学生指導委員会に関する規程は、別に定める。

第8節 厚生施設及び寄宿舍

(厚生施設)

第64条 教職員及び学生は、別に定める規則に従って、次の施設を利用することができる。

- (1) 医療保健施設及び医務室
- (2) セミナー施設
- (3) その他の施設

(寄宿舎)

第65条 本学に、寄宿舎を置くことができる。

2 寄宿舎に関する規程は、別に定める。

第9節 科目等履修生、聴講生、外国人留学生、特別聴講学生及び研究生

(科目等履修生)

第66条 本学所定の授業科目のうち1科目又は複数科目の履修を志願する者があるときは、本学学生の教育に支障のない範囲において、学長は当該学群等の教授会の選考を経て科目等履修生として履習を許可することがある。

2 科目等履修生に対する単位の授与については、第39条の規定を準用する。

3 科目等履修生として入学を志願する者は、所定の願書、その他の必要書類を選考料とともに指定の期日までに提出しなければならない。

(聴講生)

第67条 本学所定の授業科目のうち1科目又は複数科目の聴講を志願する者があるときは、本学学生の教育に支障のない範囲において、学長は当該学群等の教授会の選考を経て聴講生として聴講を許可することがある。

2 聴講生として入学を志願する者は、所定の願書、その他の必要書類を選考料とともに指定の期日までに提出しなければならない。

3 聴講生には試験を行わない。

(外国人留学生)

第68条 外国人で、大学において教育を受けることを目的として入国し、本学に入学を志願する者があるときは、学長は選考のうえ当該学群の教授会の議を経て外国人留学生として入学を許可することがある。

2 前項の外国人留学生に対しては第36条に係る別表のほか、日本語科目及び日本事情に関する科目を置くことができる。

(特別聴講学生)

第69条 他の大学等(外国の大学を含む。)の学生で、本学において授業科目を履修することを志望する者があるときは、当該他大学等との協議に基づき、学長は特別聴講学生として入学を許可することがある。

(研究生)

第70条 本学において、特定の専門事項について研究することを志望する者があるときは、本学学生の教育に支障のない範囲において、学長は当該学群の教授会の選考を経て研究生として入学を許可することがある。

2 研究生を志願することのできる者は、大学を卒業した者又はこれと同等以上の学力があると認められた者とする。

3 研究期間は、1年又は1学期とする。但し、特別の理由がある場合は、その期間を更新することができる。

(科目等履修生、聴講生、外国人留学生、特別聴講学生及び研究生に関する規程)

第71条 科目等履修生、聴講生、外国人留学生、特別聴講学生及び研究生に関する規程は、別に定める。

第10節 学納金

(学納金)

第72条 本学の入学検定料、入学金、施設設備費、授業料、教育充実費、実験実習費の納入額は、別表Ⅱのとおりとする。

第73条 入学検定料、入学金、施設設備費、授業料、教育充実費、実験実習費、その他臨時に定める学納金は、本学の指定する期日までに納付しなければならない。

第74条 やむを得ない事由のため学納金の納付が困難となった者については、願い出により納付期限を延長し、又は分納を許可することがある。

第75条 1学期を通じて休学する者は、別表Ⅲに定めた額を納付するものとする。

第75条の2 他の大学（外国の大学を含む。）との共同学位プログラムを学修する者の当該他大学で学修する期間の学納金は、当該他大学が定めた額を当該他大学に直接納付するものとし、本学へは別表Ⅳに定めた額を納付するものとする。

第76条 学期の途中で退学、転学、又は休学した者については、その期の学納金は徴収する。

第77条 科目等履修生、聴講生、外国人留学生、特別聴講学生及び研究生の学納金については、別に定める。

第78条 既に納付した学納金は、原則としてこれを返還しない。

第11節 公開講座

（公開講座）

第79条 本学に、随時、公開講座を開設し、学生及び地域の文化的向上に資する。

第12節 学則の改廃

（学則の改廃）

第80条 本学則の改廃は、教育研究評議会及び常務理事会の議を経て理事会が行う。

附 則（一部省略）

附 則

1. 本学則は平成28年4月1日から施行する。
2. 第3条第2項の規定にかかわらず、グローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類の収容定員漸増は以下のとおりとする。

学 群 ・ 学 類	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度
グローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類	250 人	500 人	750 人	1000 人

2. 桜美林大学卒業規則

(趣旨)

第 1 条 この規程は、桜美林大学学則（以下「学則」という。）第26条の2及び第58条に基づき、桜美林大学（以下「本学」という。）の学生の卒業に関する事項を定めるものとする。

(卒業の認定)

第 2 条 卒業の認定は、教授会の議を経て学長が行う。

2 卒業の認定は、学生が次の各号に掲げるすべての要件を満たした場合に行うことができる。

- (1) 本学に4年以上在学していること。ただし、第2年次に編入学した者は3年以上、第3年次に編入学した者は2年以上在学していること。
- (2) 本学において定められた教育課程を履修し、124単位以上を修得していること。
- (3) 在学期間における成績平均値（以下「GPA」とする。）が1.5以上であること。

~~(4) 当該学生が卒業を希望していること。~~

(4) 所定の納付金がすべて納付済みであること。
(5) 当該学生が卒業を希望していること。

3 前項の規定にかかわらず、前項第3号の要件のみを満たしていない者で、特別の事由があると認める場合には、学長は教授会の議を経て卒業を認定することができる。

(早期卒業)

第 3 条 前条の規定にかかわらず、学生が次の各号に掲げるすべての要件を満たした場合には、学長は教授会の議を経て卒業の認定を行うことができる。ただし、学則第26条第3項に該当し、修業年限を通算した者を除く。

- (1) 本学に3年以上在学していること。
- (2) 本学において定められた教育課程を履修し、124単位以上を修得していること。
- (3) 在学期間における GPA が3.6以上であること。
- (4) 当該学生が卒業を希望していること。
- (5) その他教授会が必要と認め、学長が承認した要件を満たしていること。

(卒業希望届)

第 4 条 卒業を希望する者は、卒業を予定する学期の定められた期日までに、学長に願い出なければならない。

~~(卒業願出の要件)~~

~~第 5 条 前条の願出は、所定の納付金をすべて納付済みのものでなければ、これを行うことができない。~~

(雑則)

第 6-5条 この規則に定めるもののほか、卒業に関する必要な事項は、学長が定める。

2 この規則の改廃は、教育研究評議会の議を経て常務理事会が行う。

附 則

- 1 この規則は、平成15年4月1日から施行し、平成13年度入学者から適用する。
- 2 第2条のうち、第3号の要件のみを満たしていない者で特別の事情があると認める場合には、教授会の議を経て、卒業を認めることがある。
- 3 第3条の規定は、平成13年3月31日以前から引き続き大学に在学する者（同日前に大学に在学し、同日以降に再び大学に在学することとなった者を含む。）については、適用しない。

附 則

この規則は、平成23年4月1日より施行する。

附 則

この規則は、平成24年4月1日から施行し、平成24年度以降に入学した者に適用する。

附 則

この規則は、平成25年11月7日から施行する。

附 則

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和5年2月2日から施行し、平成26年度以降に入学した者に適用する。

3. 科目コード

【表 4】十の位：学問分野・領域の細分

3文字コード	学問分野名称(日本語)	十の位	学問分野・領域の細分	3文字コード	学問分野名称(日本語)	十の位	学問分野・領域の細分
CHR	キリスト教学	0	総論／総合／概論／一般／原論	NSC	自然理解	4	－
		1	聖書神学			5	－
		2	歴史神学			6	－
		3	教義学			7	－
		4	実践神学			8	－
		5	－			9	－
		6	－	ENG	英語（外国語）	0	総論／総合／概論／一般／原論
		7	－			1	Listening & Speaking リスニング・スピーキング
		8	－			2	Reading & Writing リーディング・ライティング
		9	－			3	Academic Skills アカデミック・スキルズ
ACG	アカデミック・ キャリアガイダンス	0	総論／総合／概論／一般／原論			4	Skills Focus スキル
		1	人文科学			5	Contents Focus コンテンツ
		2	人文科学			6	Communication コミュニケーション
		3	社会科学			7	Study Abroad 留学・異文化理解
		4	社会科学			8	Test Preparation テスト対策
		5	自然科学			9	Test Preparation テスト対策
		6	自然科学	JPN	日本語（外国語）	0	総論／総合／概論／一般／原論
		7	学際・統合科学			1	口頭表現・聴解
		8	学際・統合科学			2	文章表現・読解
HUM	人間理解	9	－			3	文化・文学・メディア
		0	総論／総合／概論／一般／原論			4	社会・地理・歴史
		1	総論／総合／概論／一般／原論			5	文法・文字
		2	総論／総合／概論／一般／原論			6	コミュニケーション
		3	総論／総合／概論／一般／原論			7	総論／総合／概論／一般／原論
		4	－			8	アカデミック・スキル
		5	－			9	体験活動
		6	－	CHN	中国語（外国語）	0	総論／総合／概論／一般／原論
		7	－			1	－
		8	－			2	－
SSC	社会理解	9	－			3	－
		0	総論／総合／概論／一般／原論			4	－
		1	総論／総合／概論／一般／原論			5	－
		2	総論／総合／概論／一般／原論			6	－
		3	総論／総合／概論／一般／原論			7	留学・異文化理解
		4	－			8	テスト対策
		5	－			9	－
		6	－	ARA	アラビア語 (外国語)	0	総論／総合／概論／一般／原論
		7	－			1	－
NSC	自然理解	8	－			2	－
		9	－			3	－
		0	総論／総合／概論／一般／原論			4	－
		1	総論／総合／概論／一般／原論			5	－
		2	総論／総合／概論／一般／原論			6	－
		3	総論／総合／概論／一般／原論			7	留学・異文化理解

(次のページに続く)

3文字コード	学問分野名称(日本語)	十の位	学問分野・領域の細分
ARA	アラビア語 (外国語)	8	テスト対策
		9	－
BUR	ビルマ語(外国語)	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	－
		2	－
		3	－
		4	－
		5	－
		6	－
		7	留学・異文化理解
		8	テスト対策
		9	－
CAM	カンボジア語 (外国語)	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	－
		2	－
		3	－
		4	－
		5	－
		6	－
		7	留学・異文化理解
		8	テスト対策
		9	－
FRE	フランス語 (外国語)	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	－
		2	－
		3	－
		4	－
		5	－
		6	－
		7	留学・異文化理解
		8	テスト対策
		9	－
GER	ドイツ語 (外国語)	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	－
		2	－
		3	－
		4	－
		5	－
		6	－
		7	留学・異文化理解
		8	テスト対策
		9	－
IND	インドネシア語 (外国語)	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	－
		2	－
		3	－

IND	インドネシア語 (外国語)	4	－
		5	－
		6	－
		7	留学・異文化理解
		8	テスト対策
		9	－
ITA	イタリア語 (外国語)	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	－
		2	－
		3	－
		4	－
		5	－
		6	－
		7	留学・異文化理解
		8	テスト対策
		9	－
KOR	コリア語(外国語)	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	－
		2	－
		3	－
		4	－
		5	－
		6	－
		7	留学・異文化理解
		8	テスト対策
		9	－
LAT	ラテン語 (外国語)	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	－
		2	－
		3	－
		4	－
		5	－
		6	－
		7	留学・異文化理解
		8	テスト対策
		9	－
PRG	ボルトガル語 (外国語)	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	－
		2	－
		3	－
		4	－
		5	－
		6	－
		7	留学・異文化理解
		8	テスト対策
		9	－

(次のページに続く)

3文字コード	学問分野名称(日本語)	上の位	学問分野・領域の細分
RUS	ロシア語 (外国語)	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	－
		2	－
		3	－
		4	－
		5	－
		6	－
		7	留学・異文化理解
		8	テスト対策
		9	－
SPA	スペイン語 (外国語)	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	－
		2	－
		3	－
		4	－
		5	－
		6	－
		7	留学・異文化理解
		8	テスト対策
		9	－
THA	タイ語 (外国語)	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	－
		2	－
		3	－
		4	－
		5	－
		6	－
		7	留学・異文化理解
		8	テスト対策
		9	－
VIE	ベトナム語 (外国語)	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	－
		2	－
		3	－
		4	－
		5	－
		6	－
		7	留学・異文化理解
		8	テスト対策
		9	－
MON	モンゴル語 (外国語)	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	－
		2	－
		3	－
		4	－
		5	－

3文字コード	学問分野名称(日本語)	上の位	学問分野・領域の細分
MON	モンゴル語 (外国語)	6	－
		7	留学・異文化理解
		8	テスト対策
		9	－
PHL	哲学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	形而上学
		2	認識論
		3	論理哲学
		4	宗教哲学
		5	西洋思想
		6	東洋思想
		7	－
		8	－
		9	－
ETH	倫理学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	学説史
		2	思想史
		3	メタ倫理
		4	現代倫理
		5	社会倫理
		6	公共性
		7	人権学
		8	－
		9	－
REL	宗教学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	歴史
		2	哲学・思想
		3	諸宗教
		4	諸地域
		5	－
		6	－
		7	－
		8	－
		9	－
ART	芸術学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	総論／総合／概論／一般／原論
		2	総論／総合／概論／一般／原論
		3	総論／総合／概論／一般／原論
		4	－
		5	－
		6	－
		7	－
		8	－
		9	－
THE	演劇学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	戯曲

(次のページに続く)

3文字コード	学問分野名称(日本語)	十の位	学問分野・領域の細分
THE	演劇学	2	演出
		3	演技
		4	演技
		5	演技
		6	演技
		7	舞台技術
		8	舞台技術
		9	制作
DNC	舞踊学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	クラシック
		2	クラシック
		3	コンテンポラリー
		4	コンテンポラリー
		5	－
		6	－
		7	－
		8	－
		9	－
MUS	音楽 (作曲・指揮・音楽学)	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	作曲
		2	指揮
		3	音楽学
		4	－
		5	－
		6	－
		7	－
		8	－
		9	－
VOM	音楽（声楽）	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	声楽
		2	声楽
		3	声楽
		4	声楽
		5	声楽
		6	声楽
		7	声楽
		8	声楽
		9	声楽
INM	音楽（器楽）	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	器楽
		2	器楽
		3	器楽
		4	器楽
		5	器楽
		6	器楽
		7	器楽

INM	音楽（器楽）	8	器楽
		9	器楽
FNA	美術	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	洋画（技法）
		2	洋画（油彩）
		3	洋画（コンテンポラリー）
		4	日本画
		5	陶芸
		6	彫塑
		7	－
		8	－
		9	－
DES	デザイン	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	グラフィック
		2	グラフィック
		3	ドローイング
		4	イラストレーション
		5	フォトアート
		6	テキスタイル
		7	テキスタイル
		8	建築
		9	CG
CIN	映画	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	総論／総合／概論／一般／原論
		2	製作
		3	演出・演技
		4	脚本
		5	撮影・照明
		6	美術
		7	録音・整音
		8	編集
		9	制作
LIT	文学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	日本
		2	韓国
		3	中国
		4	ロシア
		5	ドイツ
		6	フランス
		7	英語圏
		8	その他
		9	－
LIN	言語学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	理論言語学
		2	歴史言語学
		3	応用言語学

(次のページに続く)

3文字コード	学問分野名称(日本語)	十の位	学問分野・領域の細分
LIN	言語学	4	個別言語学
		5	言語学史
		6	対照言語学
		7	コーパス言語学
		8	－
		9	－
JLS	日本語	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	読む
		2	書く
		3	聴く
		4	話す
		5	日本語学
		6	書道
		7	表現創作
		8	公的試験・留学対策
		9	－
ELS	英語	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	Reading
		2	Writing
		3	Listening
		4	Speaking
		5	英語学
		6	英語教育
		7	異文化理解
		8	公的試験・留学対策
		9	－
CLS	中国語	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	読む
		2	書く
		3	聴く
		4	話す
		5	中国語学
		6	中国語教育
		7	異文化理解
		8	資格
		9	－
JPE	日本語教育	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	言語知識
		2	言語知識
		3	教育・習得
		4	教育・習得
		5	スキル
		6	スキル
		7	文化・共生
		8	文化・共生
		9	－

3文字コード	学問分野名称(日本語)	十の位	学問分野・領域の細分
HIS	歴史学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	日本
		2	アジア
		3	アメリカ
		4	ヨーロッパ
		5	その他の地域
		6	－
		7	－
		8	－
		9	－
ANT	人類学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	宗教
		2	現代社会
		3	ジェンダー
		4	生業
		5	－
		6	－
		7	－
		8	－
		9	－
LAW	法学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	基礎法
		2	公法
		3	国際法
		4	民事法
		5	企業法・経済法
		6	刑事法
		7	社会法
		8	新領域法
		9	－
POL	政治学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	政治思想史
		2	政治史
		3	比較政治・地域研究
		4	国際政治理論
		5	日本研究
		6	行政学・行政理論
		7	政治学・政治理論
		8	政治制度論・過程論
		9	政治文化論
INT	国際関係論	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	国際関係理論
		2	歴史
		3	トランスナショナル・イシュー(国際交流論)
		4	グローバル・イシュー(地球規模課題)
		5	グローバル・イシュー(地球規模課題)

(次のページに続く)

3文字コード	学問分野名称(日本語)	十の位	学問分野・領域の細分
INT	国際関係論	6	－
		7	－
		8	－
		9	－
ECO	経済学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	経済理論
		2	経済事情
		3	国際経済学
		4	財政・金融
		5	公共経済学
		6	労働経済学
		7	産業経済学
		8	経済史
		9	環境経済学
MGM	経営学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	企業経営
		2	経営組織
		3	経営情報
		4	経営管理
		5	経営戦略
		6	国際経営
		7	人的資源管理
		8	技術経営
		9	経営事情
CMS	商学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	マーケティング
		2	消費者行動
		3	流通
		4	保険
		5	商業
		6	－
		7	－
		8	－
		9	－
ACC	会計学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	財務会計
		2	管理会計
		3	会計監査
		4	簿記
		5	国際会計
		6	税務会計
		7	公会計
		8	環境会計
		9	－
SOC	社会学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	社会学史

SOC	社会学	2	社会調査法
		3	社会・文化システム論
		4	社会集団と組織
		5	社会問題
		6	－
		7	－
		8	－
		9	－
COM	コミュニケーション学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	方法・調査
		2	対人・関係性
		3	集団・組織
		4	文化・共生
		5	言語・レトリック
		6	非言語
		7	社会・メディア
		8	心理
		9	－
MJS	メディア (ジャーナリズム) 研究	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	新聞・言論
		2	テレビ・映像
		3	出版・電子書籍
		4	インターネット・ニューメディア
		5	広告・広報論
		6	スポーツ・芸能報道論
		7	メディア文化論
		8	国際報道論
		9	マスコミ実践論
SWE	社会福祉学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	社会福祉援助技術
		2	精神保健福祉援助技術
		3	児童
		4	障害者
		5	高齢者
		6	地域・環境
		7	制度・計画
		8	経営・運営
		9	保健医療介護
PSY	心理学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	方法論・実験
		2	教育・発達
		3	生理・認知・学習
		4	対人・社会
		5	人格・臨床
		6	健康
		7	－

(次のページに続く)

3文字コード	学問分野名称(日本語)	十の位	学問分野・領域の細分
PSY	心理学	8	－
		9	－
EDU	教育学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	教育史・教育思想・教育哲学
		2	教育方法・教育技術
		3	教師教育・教育実践
		4	教科教育学
		5	教育心理学
		6	発達教育学・生涯教育学
		7	社会教育
		8	家庭教育
		9	教育社会学・教育行財政学・教育法
ECS	教科教育学 (コア教科)	0	－
		1	国語科
		2	社会科・地理歴史科・公民科
		3	数学科
		4	理科
		5	英語科
		6	フランス語科
		7	ドイツ語科
		8	中国語科
		9	朝鮮語科
EOS	教科教育学 (その他科目)	0	－
		1	芸術科・音楽科・美術科・工芸科・書道科
		2	保健体育科
		3	技術・家庭科
		4	情報科
		5	農業・工業・水産
		6	商業科
		7	福祉科（＋看護）
		8	商船
		9	宗教科
CCR	保育学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	援助技術
		2	幼児理解
		3	健康
		4	人間関係
		5	環境
		6	言葉
		7	表現
		8	－
		9	－
MTH	数学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	代数学
		2	数論
		3	解析学

3文字コード	学問分野名称(日本語)	十の位	学問分野・領域の細分
MTH	数学	4	幾何学
		5	位相数学
		6	離散数学
		7	確率・統計学
		8	計算法
		9	中国（等）算法
PHY	物理学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	力学
		2	力学
		3	電磁気学
		4	熱力学・統計力学
		5	熱力学・統計力学
		6	量子力学
		7	量子力学
		8	相対論
		9	－
ESC	地球科学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	地質学
		2	地質学
		3	古生物学
		4	自然地理学
		5	地震・火山・地球内部構造
		6	地震・火山・地球内部構造
		7	海洋学
		8	気象学
		9	惑星・天文学
CHM	化学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	無機化学
		2	有機化学
		3	物理化学
		4	分析化学
		5	生体化学
		6	環境化学
		7	応用化学
		8	－
		9	－
BIO	生物学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	植物学
		2	動物学
		3	生理学
		4	生態学
		5	生化学
		6	遺伝学
		7	生物科学
		8	生物科学
		9	生物科学

(次のページに続く)

3文字コード	学問分野名称(日本語)	十の位	学問分野・領域の細分
MED	医歯薬学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	薬学
		2	基礎医学
		3	境界医学
		4	社会医学
		5	内科系臨床医学
		6	外科系臨床医学
		7	歯学
		8	看護学
		9	－
IST	情報学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	情報学基礎
		2	情報社会関連
		3	情報システム
		4	ネットワーク関連
		5	ソフトウェア・認知科学
		6	データ活用・データベース
		7	マルチメディア・コンテンツ
		8	経営情報
		9	ビジネス
LIS	図書館学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	図書館学
		2	書誌学
		3	情報工学
		4	－
		5	通信工学
		6	－
		7	メディア学
		8	－
		9	－
MSO	博物館学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	資料収集
		2	整理・保管
		3	調査・研究
		4	教育・普及
		5	管理・運営
		6	博物館実務
		7	館種各論
		8	－
		9	－
GEG	地理学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	地誌学（地域地理学）
		2	自然地理学
		3	人文地理学
		4	－
		5	－

GEG	地理学	6	－
		7	－
		8	－
		9	－
ENV	環境学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	環境思想・哲学・倫理学
		2	環境教育・環境情報
		3	環境法・経済・社会
		4	環境影響評価・環境政策
		5	自然環境・環境動態
		6	放射線・化学物質影響科学
		7	環境技術・環境材料
		8	廃棄物・リサイクル
		9	－
SSS	社会安全システム	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	－
		2	－
		3	－
		4	－
		5	－
		6	－
		7	－
		8	－
		9	－
JPS	日本地域研究	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	政治
		2	経済
		3	歴史
		4	文化
		5	社会
		6	芸術
		7	文学
		8	学際
		9	－
ANS	アジア地域研究	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	政治
		2	経済
		3	歴史
		4	文化
		5	社会
		6	芸術
		7	文学
		8	学際
		9	－
AMS	アメリカ地域研究	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	政治

(次のページに続く)

3文字コード	学問分野名称(日本語)	十の位	学問分野・領域の細分
AMS	アメリカ地域研究	2	経済
		3	歴史
		4	文化
		5	社会
		6	芸術
		7	文学
		8	学際
		9	－
JPF	日本学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	政治
		2	経済
		3	歴史
		4	文化
		5	社会
		6	芸術
		7	文学
		8	学際
		9	－
HSS	健康・スポーツ科学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	体の健康
		2	体の健康
		3	心の健康
		4	心の健康
		5	スポーツ科学
		6	スポーツ科学
		7	－
		8	－
		9	－
SPE	スポーツ&エクササイズ (A群)	0	体づくり運動
		1	器械運動
		2	陸上競技
		3	水泳
		4	球技（ゴール型1）
		5	球技（ゴール型2）
		6	球技（ネット型1）
		7	球技（ネット型2）
		8	球技（ベースボール型）
		9	球技（ターゲット型）
SPE	スポーツ&エクササイズ (B群)	0	－
		1	武道
		2	－
		3	ダンス
		4	－
		5	野外活動（自然体験型）
		6	野外活動（競技型）
		7	エクササイズ1

3文字コード	学問分野名称(日本語)	十の位	学問分野・領域の細分
SPE	スポーツ&エクササイズ (B群)	8	エクササイズ2
		9	－
GTL	老年学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	老年医学
		2	老年精神医学
		3	老年ヘルスプロモーション
		4	老年心理学
		5	老年社会学
		6	老年福祉学
		7	－
		8	－
		9	－
TOR	観光学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	観光経営論
		2	ホスピタリティ経営論
		3	エンターテインメント経営論
		4	－
		5	－
		6	－
		7	－
		8	－
		9	－
AER	航空学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	航空法
		2	航空経営学
		3	航空操縦学
		4	航空工学
		5	航空気象学
		6	－
		7	－
		8	－
		9	－

18. 日本語教員養成課程

1. 日本語教員養成課程とは

「日本語教員養成課程」は、多文化共生社会の担い手となる日本語教育人材(日本語教師、地域の日本語支援者等)を養成するための課程です。本学の「日本語教員養成課程」は、2016年に策定された法務省「日本語教育機関の告示基準」および文科省の「日本語教育機関の告示基準解釈指針」(以下、「新基準」)に基づいて設置され、日本語教育人材の養成において必要とされる5つの区分(「社会・文化・地域」「言語と社会」「言語と心理」「言語と教育」「言語」)の教育内容から成ります。

「45単位コース」と「26単位コース」の二種類がありますが、どちらのコースにおいても、上記5区分の教育内容を幅広く学び、所定の修了要件を満たすことで各コースの「修了証明書」が発行されます。日本語教育人材の活動分野は、生活者としての外国人のための日本語教育をはじめ、留学生、日本語指導を必要とする児童生徒、技能実習生等の日本語教育等、多種多様です。指定された5区分の教育内容を幅広く学びつつ、選択必修科目については、それぞれの活動分野で必要とされる内容を把握した上で、履修を進めていくことをお勧めします。

2. 日本語教員養成課程における2種類のコースと各コース修了に必要な科目と単位数

【45単位コース】

- 「社会・文化・地域」から2単位
- 「言語と社会」から2単位
- 「言語と心理」から2単位
- 「言語と教育」から10単位 (「日本語教育実習」4単位は必修)
- 「言語」から6単位

(注) 45単位を満たすために必要な上記単位数以外の23単位分は、「5区分」および「5区分関連スキル・方法論」のどの区分から履修してもよい。

【26単位コース】

- 「社会・文化・地域」から2単位
- 「言語と社会」から2単位
- 「言語と心理」から2単位
- 「言語と教育」から10単位 (「日本語教育実習」4単位は必修)
- 「言語」から2単位

(注) 26単位を満たすために必要な上記単位数以外の8単位分は、「5区分」および「5区分関連スキル・方法論」のどの区分から履修してもよい。

3. 日本語教員養成課程「修了証明書」の申請方法

日本語教員に関する「新基準」に基づいた教育内容に必要な本学の「日本語教員養成課程」を修了し、学士の学位を得た学生には、「日本語教員養成課程」の修了証明書を卒業時に発行します。「日本語教員養成課程」の各コース修了要件を満たす見込みがあり、卒業を希望する場合は必ず所定の期限内に「日本語教員養成課程修了証明書発行申請書」を提出してください。詳細は掲示等でお知らせします。

【注意事項】 45単位コースの修了証明書の申請を行った場合でも、修了要件が満たされていない場合は、26単位コースの修了証明書の発行となる場合があります。

日本語教員養成課程 履修科目リスト

5区分	授業科目	単位	履修 年次	リベラルアーツ学群 日本語教育 専攻プログラム科目	45 単位 コース	26 単位 コース
社会 ・ 文化 ・ 地域	日本語教育学A	2	1	○(必修)	2 単位 選択必修	2 単位 選択必修
	年少者日本語教育	2	3	○		
	文化人類学	4	1	○		
	日本文化論	4	2			
	日本研究概論	4	2			
	韓国文化論	4	2	○		
	社会学概論	4	1			
	世界史における日本	4	2			
	難民・移民の人権	4	2			
	国際人権法	4	2			
	国際交流論	4	2			
	国際関係論	4	1			
	平和構築論	4	2			
	現代日本の政治	4	2			
	宗教と教育	2	2			
	日本の宗教	4	2			
	イスラーム文化論	4	2			
	キリスト教文化論	4	2			
	仏教文化論	4	2			
	家族社会学	4	2			
言語 と 社会	家庭と教育	2	1			
	日本文学史A	4	1			
	日本文学史B	4	1			
	言語と文化	4	2	○	2 単位 選択必修	2 単位 選択必修
	多言語交流演習	2	1	○		
	言語政策論	4	2			
言語 と 心理	社会言語学	4	2			
	言語とジェンダー	4	2			
	情報と社会	2	1			
	言語習得法	2	1	○	2 単位 選択必修	2 単位 選択必修
	第二言語習得法	4	3			
	学習心理学	4	2			
	現代コミュニケーション理論	4	1			
	対人コミュニケーション	4	2	○		
	異文化コミュニケーション	4	2			
	国際コミュニケーション	4	2			
	異文化理解教育	4	3			
	教育心理学(教職課程)	2	2			
	社会心理学	4	2			

5区分	授業科目	単位	履修 年次	リベラルアーツ学群 日本語教育 専攻プログラム科目	45 単位 コース	26 単位 コース
言語 と 教育	日本語教育学B	2	1	○(必修)	6 単位 選択必修	6 単位 選択必修
	日本語教育文法	2	2	○		
	日本語教授法	4	2	○(必修)		
	日本語教材開発	2	3	○		
	マルチメディア日本語教育	2	3	○		
	日本語の評価法	2	2	○		
	カリキュラムデザイン	2	3	○		
	海外教育実習	2～4	3	○		
	日本語教育実習	4	3	○(メンターのみ必修)	必修	必修
言語	日本語学概論	2	1		6 単位 選択必修	2 単位 選択必修
	日本語の音声	2	1	○		
	日本語の語彙・意味	4	1	○		
	日本語の文字・表記	2	1	○		
	日本語の表現	4	1	○		
	日本語の文法	4	2	○		
	ことばの比較	2	1	○		
	日中対照言語学	2	3	○		
	日本語史	2	3	○		
	プラグマティックス	4	3	○		
	談話分析	4	2	○		
	応用言語学	4	2			
5 区分関連 スキル・ 方法論	言語データ分析	2	2	○		
	社会統計学	2	2			
	コンピュータリテラシーII	2	1			
	プレゼンテーション演習	2	2			
					合計 45 単位	合計 26 単位

【注】科目によっては、先修条件等の履修の条件が付されているものがあります。履修の際は、各科目の先修条件等を確認してください。

19.児童福祉司任用資格

児童福祉司は、児童相談所において、18 歳未満の子どもや保護者等から子どもの福祉に関する相談や専門的技術に基づいて必要な援助を判断するための調査を行い、子ども、保護者、関係者等に必要な支援や指導、および関係調整などを行います。

本学における資格取得対象者は、以下のとおりです。

- (1)健康福祉学群(社会福祉専修または精神保健福祉専修)で所定の科目を修得後、受験資格を得て国家試験に合格し、社会福祉士、精神保健福祉士資格を取得した者
- (2)健康福祉学群(社会福祉専修、精神保健福祉専修、保育専修)の卒業生であり、かつ卒業後に厚生労働省の指定施設で1年以上相談援助業務に従事した者
- (3)リベラルアーツ学群(心理学専攻、教育学専攻もしくは社会学専攻メジャー修了)の卒業生であり、かつ卒業後に厚生労働省の指定施設で1年以上相談援助業務に従事した者

※申請により、本学で修了したメジャーが記載された「学業成績単位修得証明書」の発行を行っています。

※当該資格は任用資格です。したがって、任用資格を満たした上で、各種採用試験に合格し、児童相談所等に配属されなければ効力を発揮しません。

20.児童心理司任用資格

児童心理司は、児童相談所において、心理に関する専門的な知識及び技術を必要とする指導をつかさどる所員を指し、18 歳未満の子どもや保護者の心理状況を把握するための面談や心理検査による心理診断および、その診断内容に応じた心理療法やカウンセリングを行います。

本学における資格対象者は、以下の通りです。

（1）リベラルアーツ学群（心理学専攻メジャー修了）の卒業生

※申請により、本学で修了したメジャーが記載された「学業成績単位修得証明書」の発行を行っています。

※当該資格は任用資格です。したがって、任用資格を満たした上で、各種採用試験に合格し、児童相談所等に配属されなければ効力を発揮しません。

桜美林大学履修規程

2024 年 7 月 25 日 制定

(趣旨)

第1条 この規程は、桜美林大学学則（以下「学則」という。）に定めるもののほか、桜美林大学（以下「本学」という。）の学生の授業科目、単位数、履修方法及び成績評価、卒業の認定等について、必要な事項を定めるものとする。

(用語の定義)

第2条 用語の定義は、次の各号に定めるものとする。

- (1) 「履修」とは、単位を修得する意思をともなう授業科目又は課程の学修をいう。
- (2) 「履修登録」とは、定められた手続きに基づき履修する授業科目を登録することをいう。
- (3) 「履修者」とは、授業科目を履修している学生をいう。
- (4) 「G P A」とは、Grade Point Average の頭文字をとったものであり、成績平均値のことをいう。
- (5) 「履修条件」とは、授業科目を履修するためにあらかじめ定められた条件をいう。
- (6) 「履修年次」とは、授業科目ごとに定められる履修開始が可能となる年次のことをいう。なお、年次は休学期間を除く在学期間を数えるものとする。
- (7) 「休講」とは、休校を除く授業担当教員の都合で授業が行われないことをいう。
- (8) 「補講」とは、授業が休講になった場合等による不足分を調整するために行われる授業をいう。
- (9) 「クラス」とは、複数開講される同一授業科目のうち、特定の 방법으로命名される一つの授業科目をいう。
- (10) 「アドバイザー」とは、学生ごとに定められた、教学指導及び学生指導を行う教員をいう。
- (11) 「アドバイザー」とは、アドバイザーが教学指導及び学生指導を行う学生をいう。

(授業期間)

第3条 授業を行う期間は、学則第25条に規定する期間のうちオリエンテーション、試験、補講期間を除き、原則として春学期及び秋学期に各14週とする。

- 2 前項に基づき、学則第23条第2項に定める学期を分ける場合、授業を行う期間は原則として前半及び後半に各7週とする。

(履修の方法)

第4条 履修する授業科目の選択は、学生が自らの学修計画に基づいて、卒業及び資格取得等に必要な授業科目並びに単位数を確認し、各授業科目、クラスの授業内容(シラバス)、レベル、履修条件、開講時限、施設間移動時間等を十分に考慮して行うものとする。

- 2 前項の規定に関わらず、一部の教育課程、又は一部の授業科目については、履修登録に先立ち履修する授業科目またはクラスが指定される。学生は、当該授業科目（「自動登録科目」という。）を履修するものとする。

第5条 履修する授業科目の登録は、履修を希望する各学生が定められた期間に、その学期に履修する授業科目を所定の手続きにより、学務を主管する部署に届け出ることによって行うものとする。

2 前項にかかわらず、履修の手続きが定められた授業科目については別に定める手続きにより学務を主管する部署が行うものとする。

第6条 アドバイザーは、担当するアドバイザーの履修登録及び成績を確認し、必要に応じて指導や助言を行うものとする。

2 アドバイザーは、定められた期間内にそのアドバイザーの行った履修登録について所定の手続きにより確認を行うものとする。

(他大学等における授業科目の履修)

第7条 学則第44条に定める外国の大学における履修について、本学と単位互換の協定を結ぶ外国の提携校への長期留学時に修得した単位は、対応する本学の分野の科目として、本学において修得したとみなすことができる。

2 前項の規定による履修は、協定校との覚書等に履修条件の記載がある場合を除き当該大学が定める履修条件に従うものとする。

3 本学と単位互換の協定を結ぶ外国の提携校への長期留学期間は、2年以内に限り本学における在学期間に算入される。

第8条 学則第44条に定める外国の大学における履修について、本学と単位互換の協定を結んでいない、外国の大学への留学時に修得した単位は、教育上有益と認められる場合に限り、本学卒業に必要な単位として認められる。

第9条 学則第44条に定める他大学における履修について、本学と個別に単位互換協定を締結した機関において修得した単位は、対応する本学の分野の科目として、本学において修得したとみなすことができる。

2 前項の規定による履修は、協定校との単位互換協定書等に履修条件の記載がある場合を除き、授業科目を開講する大学が定める履修条件に従うものとする。

3 第1項の規定による履修単位数は、学期ごとの履修単位数の上限に含まれる。

(技能審査による単位認定)

第10条 学則第45条及び平成3年文部省告示第68号に基づき、以下の各号に定める技能審査の結果に応じて単位を授与する。

- (1) 実用英語技能検定
- (2) TOEFL iBT
- (3) TOEIC Listening & Reading Test
- (4) IELTS (アカデミック・モジュール)
- (5) 漢語水平考試 (HSK)
- (6) 中国語検定試験
- (7) 日本商工会議所主催 簿記検定試験

2 前項に定める認定の詳細については履修ガイドに定める。

(単位数の上限)

- 第 11 条 1 学期に履修登録できる単位数は、専ら授業期間外において実施するものとして設置している授業科目を除き、原則として 20 単位（第 9 条第 1 項により履修する授業科目を含む。）を上限とする。ただし、第 29 条に基づき算出された前学期の G P A が 3.00 以上の者は 24 単位を、2.00 未満の者は 16 単位を上限とする。
- 2 2 学期にわたって授業が継続する授業科目の単位数の計算にあたっては、原則として定められた単位数に 2 分の 1 を乗じて得た数を、当該各学期における履修登録単位数とみなすものとする。
- 3 G P A を算出できない学期の翌学期に履修登録できる単位数は、その期間の直前の学期の G P A により算出する。
- 4 前項の規定は、復学をした学生に準用する。
- 5 再入学をした学生の初学期は、第 3 項を準用せず第 1 項の規定に準じて算出する。
- 6 第 1 項の規定によらず、航空・マネジメント学群航空・マネジメント学類及び教育探究科学群教育探究科学類における各学期に履修登録できる単位数については、学群において別に定める。

(履修制限)

- 第 12 条 同一の時限に複数の授業科目を履修することはできない。ただし、授業日が重複しない場合はこの限りでない。
- 第 13 条 異なるキャンパス間の同日開講される授業科目において所定の移動時間を含めて重複する授業科目を履修することができない。ただし、遠隔で行われる授業は、キャンパス間の移動時間の考慮はないものとする。
- 第 14 条 すでに単位を修得した授業科目及び成績評価が保留されている授業科目は、再度履修することができない。
- 2 前項の規定は、履修ガイドにおいて複数履修することができるものと定められている授業科目を除く。ただし、再履修においては履修ガイドに定められた条件の下で再度履修可とする。
- 第 15 条 履修年次が定められた授業科目については、履修開始時においてその年次に達していない学生は、履修することができない。
- 第 16 条 履修条件が定められた授業科目については、履修開始時においてその条件を満たしていない学生は、履修することができない。
- 2 教育上支障がないと認めるときは、その学群が管理する授業科目について、個別に能力を審査のうえ、前項に該当する学生に履修を許可することができる。
- 3 前項の規定は、特定の学群もしくは学類に所属する学生又は特定の課程を履修する学生のみに履修が認められている授業科目について準用する。
- 第 17 条 同一学期に開講される同一の授業科目は履修登録することができない。
- 第 18 条 履修希望者があらかじめ定められた人数より多い場合には、抽選によって履修者を決定することがある。
- 2 前項に定める抽選によって履修者に選ばれなかった学生の履修登録は抹消される。
- 第 19 条 休学中に授業科目を履修することはできない。

(再履修)

第 20 条 第 14 条の規定にかかわらず、学則第 43 条に定める成績評価が F または U の授業科目は翌学期以降に別途履修ガイドに定める科目を除き再履修することができる。

- 2 成績評価が F の授業科目を再履修して A、B、C、D いずれかの評価を受けた場合、在学期間における G P A（以下、通算 G P A）は再履修後の成績評価で算出されるものとする。

(履修登録の抹消)

第 21 条 履修登録者数が 5 人に満たないクラスについては、原則として閉講とする。

- 2 閉講となったクラスの履修登録は抹消される。

(履修登録の変更)

第 22 条 第 5 条により行った履修登録の一部又は全部を取り消し又は新たに授業科目を履修登録することを希望する学生は、各学期の授業開始日以降の履修登録変更期間（Drop&Add 期間）として定める期間内に、履修内容の変更登録をしなければならない。ただし、第 18 条第 1 項の規定により履修が認められた科目（抽選科目）は対象外とする。

- 2 前項の規定に関わらず、教育探究科学群教育探究科学類における登録内容の変更手続きについては、学群において別に定める。

(履修登録の修正)

第 23 条 学生は、履修登録が定められた履修方法に反し又はその学生の意思と異なる状態にある場合には、履修登録の修正を申請することができる。

第 24 条 履修登録の修正を受けようとする者は、その事由を示し所定の手続きにより、学務を主管する部署の長に申請しなければならない。

- 2 学務を主管する部署の長は、前条に定める条件を満たす学生から修正の請求を受けた場合において、次の各号のいずれかに該当すると認めたときはその履修登録を修正し、次の各号のいずれにも該当しないと認めたときは履修登録の修正を拒否しなければならない。

- (1) 履修条件に不適合な履修による削除及びこれに伴う削除単位数分の追加
- (2) 教育組織の都合による授業時限変更により登録変更が必要となった場合の削除及びこれに伴う削除単位数分の追加
- (3) クラス増設による履修クラスの変更

- 3 前項第 2 号及び第 3 号の事由に該当する場合、学務を主管する部署の長は、学生からの申し出によらず、当該学生に通知の上、履修登録の修正を行うことができる。

(履修の放棄)

第 25 条 第 5 条により行った履修登録の一部又は全部を抹消することを希望する学生は、履修登録変更期間後の定められた期間に、所定の手続きを行うことで履修登録の抹消（履修放棄）を行うことができる。

- 2 前項に定める履修放棄の期限は、学期の授業期間内（定期試験期間を含む）において正当な事由が確認できる場合に限り延長することができる。

（欠席の取り扱い）

第 26 条 授業への欠席回数が授業回数の 3 分の 1 を超えた場合、原則としてその学生の成績は不合格とする。

（休講・補講）

第 27 条 学則第 41 条第 2 号に規定する成績評価資格を保護する観点から、授業を休講した場合、授業科目担当教員は原則として休講回数と同等の補講を実施する。

2 授業科目担当教員が不在等の事由により、授業開始時刻より 15 分以上経過しても授業が開始されない場合、休講として扱う。

（GPA の計算方法）

第 28 条 本学における学生の GPA は、別表 1 に定める A、B、C、D、F の 5 段階の成績評価に、 $A=4.00$ 、 $B=3.00$ 、 $C=2.00$ 、 $D=1.00$ 、 $F=0$ とグレードポイント (Grade Point) を付し、修得した授業の単位数にグレードポイントを乗じ、その合計を履修単位数の合計で除して、小数点第 3 位以下を切り捨てた数値とする。

$$GPA = (A \text{ の単位数} \times 4.00 + B \text{ の単位数} \times 3.00 + C \text{ の単位数} \times 2.00 + D \text{ の単位数} \times 1.00) \div \text{履修単位数の合計 (不合格 F を含む)}$$

（成績の表記等）

第 29 条 学則第 43 条に基づき、成績の表記は別表 1 に定める。なお、S、U、TC、I、H、W は GPA 計算の適用外とする。

2 可否のみで評価する場合、S、U をもって表し、S を合格とする。

3 次の各号に定める事情により評価を受けることが難しい場合、学生は成績評価の保留を申し出ることができる。授業担当教員が保留を認めた場合、成績評価が行われるまでの間、I をもって表す。なお、成績評価が行われた時点で GPA の再計算を行う。

- (1) 天災地変
- (2) 近親者の死亡
- (3) 事故による怪我や疾病
- (4) その他 1 号から 3 号に準じる事情

4 学外実習の実施期間等の理由により、学期内に授業が完了できないと授業科目担当教員が判断した場合、成績評価を保留し、H をもって表す。授業科目担当教員は成績評価が可能となった時点で速やかに成績評価を確定する。なお、成績評価が行われた時点で GPA の再計算を行う。

（成績の基準及び評価）

第 30 条 授業科目担当教員はディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、当該授業科目の目標、目標に到達するために必要な学修計画・学修内容、目標に到達したかを測る適切な評価方法及び成績評価の基準を定め、あらかじめ学生に周知する。

2 授業科目の成績評価は、授業期間終了後に前項に定める基準に従って適切に行うものとする。

3 第 1 項の内容に変更が生じた場合は速やかに履修者に明示する。

- 4 学生は、成績評価について疑義がある場合は、所定の期間に授業科目担当教員に質問することができる。

(コア教育領域指定)

第 31 条 本学の基礎・教養教育を構築することを目的とし、学群に「コア教育領域指定（通称「コア 7」）」プログラムを置き、学生に履修させるものとする。

- 2 学群は別表 2 に定める領域に対応する科目を第 34 条第 2 項第 2 号に規定されるレベル 100～200 の科目から指定する。
- 3 その他、学群のコア教育領域指定に関する事項は、履修ガイドに定める。

(メジャー・マイナー)

第 32 条 学群は専攻科目で構成される専攻プログラム又は専攻コース等を設定し、専門性の高い体系的な学びを提供する。

- 2 学生は前項に規定する専攻プログラム等を定められた時期にメジャー又はマイナーとして登録する。
- 3 その他、メジャー・マイナーに関する事項は、履修ガイドに定める。

(サービ斯拉ーニング)

第 33 条 学群は、本学の学而事人の理念を実践するための教育プログラムとしてサービ斯拉ーニング科目を置くことができる。

- 2 サービ斯拉ーニングに関する事項は学群とサービ斯拉ーニングセンターが協議のうえ定める。

(科目ナンバリングコード)

第 34 条 体系的な教育課程の編制及び学生の主体的な履修を支援するため、各授業科目に科目ナンバリングコードを割り振る。

- 2 科目ナンバリングコードは次の各号からなる。
- (1) 別表 3 に規定する学問分野を示す 3 文字
- (2) 別表 4 に規定するレベルを示す数字
- (3) 別表 5 に規定する授業の方法を示す数字

(卒業の認定)

第 35 条 卒業の認定は、教授会の議を経て学長が行う。

- 2 卒業の認定は、学生が次の各号に掲げるすべての要件を満たした場合に卒業の希望があるものとみなして卒業の認定を行う。
- (1) 本学に 4 年以上在学していること。ただし、第 2 年次に編入学した者は 3 年以上、第 3 年次に編入学した者は 2 年以上在学していること。
- (2) 本学において定められた教育課程を履修して、履修ガイドに定める基準を満たしたうえで 124 単位以上を修得していること。
- (3) 通算 GPA が 1.50 以上であること。
- (4) 所定の納付金をすべて納付済みであること。

3 前項の規定にかかわらず、前項第3号の要件のみを満たしていない者で、特別の事由があると認める場合には、学長は教授会の議を経て卒業を認定することがある。

(早期卒業)

第36条 前条の規定にかかわらず、学生が次の各号に掲げるすべての要件を満たした場合には、学長は教授会の議を経て卒業の認定を行うことができる。ただし、学則第26条第3項に該当し、修業年限を通算した者を除く。

- (1) 本学に3年以上在学していること。
- (2) 本学において定められた教育課程を履修して、履修ガイドに定める基準を満たしたうえで124単位以上を修得していること。
- (3) 通算GPAが3.60以上であること。
- (4) 当該学生が卒業を希望していること。
- (5) その他教授会が必要と認め、学長が承認した要件を満たしていること。

2 前条に定めるものの他、早期卒業に関し、必要な事項は別に定める。

(卒業延期届)

第37条 第35条第2項の要件を満たしながら、卒業の延期を希望する者は、卒業の認定をする学期の定められた期日までに、届け出なければならない。

(履修ガイド)

第38条 この規程に定める事項及び卒業要件を含む教育課程の具体的な内容を定め、具体の手続きや時期、期間、用語の解説等を学生にわかりやすく提示するため、学務を主管する部署は履修ガイドを発行、改訂及び管理する。

- 2 履修ガイドは年度ごとに発行し、当該年度のカリキュラムに対応した内容とする。
- 3 過年度に発行した履修ガイドの改訂及び修正については原則、現在年度より最大8年度まで遡って行う。
- 4 履修ガイドに定める履修手続き等の制定、変更については、教学会議の議を経て学務を主管する部署の長が行う。
- 5 前項の規定にかかわらず、字句の整備、誤字等の軽微な表現変更及びその他改正内容が形式的と認められる事項は、教学会議の議を経ることなく修正できるものとする。

(雑則)

第39条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は学長が定める。

(規程の改廃)

第40条 この規程の改廃は、常務理事会の議を経て行う。

附 則

この規程は、2024年9月16日より施行する。

別表 1 <成績評価等の評語と意味> (第 29 条関係)

評語	評語の意味	グレードポイント
A	Excellent : 特に優秀な成績	4.00
B	Good : すぐれた成績	3.00
C	Fair : 一応その科目の要求を満たす成績	2.00
D	Minimal Pass : 合格と認められる最低の成績	1.00
F	Failure : 不合格	0.00
S	Satisfactory : 合格 (合否のみで成績を評価する場合に用いる)	-
U	Unsatisfactory : 不合格 (合否のみで成績を評価する場合に用いる)	-
T C	Transferred Credit : 他大学等で修得した単位等の認定	-
I	Incomplete : 学生の申し出による履修未完了または成績評価の一時保留	-
H	Hold : 授業科目担当教員の判断による成績評価の一時保留	-
W	Withdraw : 履修放棄	-

別表 2 <コア教育領域指定> (第 31 条関係)

最低指定単位数	コア教育領域
4 単位	外国語
4 単位	論理とコミュニケーション
2 単位	情報リテラシー
2 単位	キリスト教理解
2 単位	人間・社会
2 単位	芸術・文化
2 単位	生命・自然

別表3 <科目ナンバリングコード：分野名称>（第34条関係）

3文字 コード	分野名称 ＜日本語＞	分野名称＜英語＞	3文字 コード	分野名称＜日本語＞	分野名称＜英語＞
THO	思想	Thought	STS	科学社会学	Science, Technology, and Society
ART	芸術	Art	MJS	メディア学	Media Journalism Studies
PHI	哲学	Philosophy	AVI	航空学	Aviation
RES	宗教学	Religious Studies	HUI	人文探究	Humanistic Inquiry
CHR	キリスト教学	Christianity	SOI	社会探究	Social Inquiry
LIT	文学	Literature	NAI	自然探究	Natural Inquiry
LIN	言語学	Linguistics	IDS	学際領域	Interdisciplinary Studies
COM	コミュニケーション学	Communication	CAD	キャリアデザイン科目	Career Design
HIS	歴史学	History	SEL	サービスラーニング科 目	Service Learning
ARC	考古学	Archaeology	ARA	アラビア語(外国語)	Arabic
MUS	博物館学	Museology	BUR	ビルマ語(外国語)	Burmese
GEO	地理学	Geography	CAM	カンボジア語(外国語)	Cambodian
CUL	文化学	Culture	CHN	中国語(外国語)	Chinese
CUA	文化人類学	Cultural Anthropology	ENG	英語(外国語)	English
FOL	民俗学	Folklore	FRE	フランス語(外国語)	French
JUR	法学	Jurisprudence	GER	ドイツ語(外国語)	German
POL	政治学	Politics	IND	インドネシア語(外国 語)	Indonesian
INT	国際学	International Studies	ITA	イタリア語(外国語)	Italian
ECO	経済学	Economics	JPN	日本語(外国語)	Japanese
MGT	経営学	Management	KOR	コリア語(外国語)	Korean
TOS	観光学	Tourism Studies	LAT	ラテン語(外国語)	Latin
SOC	社会学	Sociology	MON	モンゴル語(外国語)	Mongolian
EDU	教育学	Education	PRG	ポルトガル語(外国 語)	Portuguese

3 文字 コード	分野名称 ＜日本語＞	分野名称＜英語＞	3 文字 コード	分野名称＜日本語＞	分野名称＜英語＞
EIQ	教育探究	Educational Inquiry	RUS	ロシア語(外国語)	Russian
PSY	心理学	Psychology	SPA	スペイン語(外国語)	Spanish
ALG	代数学	Algebra	THA	タイ語(外国語)	Thai
MET	幾何学	Geometry	VIE	ベトナム語(外国語)	Vietnamese
MAT	数学	Mathematics	SEM	専攻演習	Seminar
ANA	解析学	Analysis	GRT	卒業論文	Graduation Thesis
APM	応用数学	Applied Mathematics	GRP	卒業制作	Graduation Project
PHY	物理学	Physics	GRR	卒業研究	Graduation Research
CMP	物性物理学	Condensed Matter Physics			
CHE	化学	Chemistry			
BIO	生物学	Biology			
ARC	建築学	Architecture			
MES	社会医学	Medical Science			
NUS	看護学	Nursing Science			
EMM	救急医学	Emergency Medicine			
INM	内科学	Internal Medicine			
SPS	スポーツ科学	Sports Science			
PHE	体育	Physical Education			
HES	健康科学	Health Science			
BIE	人間医工学	Biomedical Engineering			
INS	情報科学	Information Science			
API	応用情報学	Applied Informatics			
ENV	環境学	Environmental Studies			

別表4 <科目ナンバリングコード：レベル>（第34条関係）

科目 レベル	摘要
100	学士入門 基礎・入門・導入的な内容の科目
200	学士初級 発展・応用的な内容の科目
300	学士中級 実践・専門的な内容の科目（高度な内容科目）
400	学士上級 実践・専門的な内容の科目（高度な内容科目）・卒業論文・卒業制作

別表5 <科目ナンバリングコード：授業の方法>（第34条関係）

コード	科目
A	講義
B	演習
C	実技
D	実験
E	実習
F	卒業論文・卒業制作・修士論文・博士論文